

**安城市地域福祉計画策定のための
市民アンケート調査
報告書**

平成30年3月

安城市 社会福祉課

目 次

序 調査の概要	1
（１）調査の目的	1
（２）調査対象及び調査方法	1
（３）調査票の回収状況	1
（４）グラフの見方	1
1 回答者の属性	2
（１）性別（問１）	2
（２）年齢（問２）	3
（３）職業（問３）	5
（４）結婚の有無（問４）	7
（５）同居の人数（問５（１））	9
（６）子どもや高齢者などの同居人の有無（問５（２））	10
（７）世帯のタイプ（問５（３））	11
（８）世帯の収入（問６）	13
（９）住まいについて（問７）	16
（１０）居住年数（問８）	18
（１１）居住地区（中学校区）（問９）	21
2 福祉に関する意識について	22
（１）福祉との関わり（問１０）	22
（２）福祉に関する情報入手の程度（問１２）	23
（３）知りたい福祉に関する情報内容（問１１）	26
（４）福祉に関する情報の入手先（問１３）	28
（５）充実してほしい情報発信手段（問１４）	31
3 日常生活、将来の暮らしについて	33
（１）近所づきあいの程度（問１５）	33
（２）地域での付き合いの満足度（問１６）	36
（３）望ましい地域での付き合いの程度（問１７）	40
（４）近所からの頼みごとの有無（問１８）	44
（５）具体的な手伝いの内容（問１８-１）	47
（６）今後における近所づきあいの程度（問１９）	50
（７）毎日の暮らしにおける悩みや不安・１０年後の悩みや不安（問２０、問２１）	53
（８）家族、親族以外の相談相手（問２２）	58
（９）困っている世帯にできること（問２３）	61
（１０）地域の人たちに支援してほしい事項（問２４）	65
（１１）困ったときに頼りになる知人・友人の有無（問２５）	70
4 地域活動、ボランティア活動について	77
（１）地域行事等への参加（問２６）	77
（２）参加している活動団体の行事（問２６-１）	80
（３）地域福祉活動等への関わり（問２７）	81
（４）地域福祉活動等への参加意向（問２７-１）	84
（５）今後、充実すべき地域福祉活動（問２８）	86
（６）福祉活動をする上でほしい対価（問２９）	88
（７）福祉活動を依頼する上で支払う対価（問３０）	90
（８）高齢期の過ごし方（問３１）	93

5 町内福祉委員会について	95
（1）町内福祉委員会の認知度（問 32）.....	95
（2）町内福祉委員会への関わり（問 32-1）.....	98
（3）町内福祉委員会活動への参加意向（問 33）.....	99
（4）参加したくない理由（問 33-1）.....	101
6 社会福祉協議会、地区社会福祉協議会（地区社協）について	102
（1）社会福祉協議会の認知度（問 34）.....	102
（2）地区社会福祉協議会の認知度（問 35）.....	105
（3）地域包括支援センターの認知度（問 36）.....	108
7 今後の行政等による地域福祉施策について	110
（1）今後、優先すべき地域福祉関連施策（問 37）.....	110
8 自由回答の結果	113
調査票	119

序 調査の概要

(1) 調査の目的

平成25年度に策定した「第3次安城市地域福祉計画」の改定にあたっての基礎資料として活用するため、市民の福祉に関する意識、現在や将来の暮らしの課題、地域福祉活動等の取組実態や意向等を明らかにすることを目的に実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象

- ・住民基本台帳から無作為に選んだ18歳以上の市民3,000人

②調査方法

- ・郵送による配布・回収

③調査実施時期

- ・平成29年11月21日（火）～12月6日（水）
- ・なお、締切日以降に返送されてきた調査票についても可能な限り集計に加えています。

(3) 調査票の回収状況

- ・回収状況は以下のとおりです。

表-1 回収状況

A : 配布数	B : 有効回収数	C : 有効回収率 (%) $C = B / A \times 100$
3,000	1,244	41.5%

(4) グラフの見方

- ・グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用いて表現しています。基数となる実数（各設問の回答者数）はnとして掲載し、各グラフの構成比（%）はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比（%）は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー（選択肢）などの表現は、一部省略してある場合があります。

1 回答者の属性

(1) 性別 (問1)

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

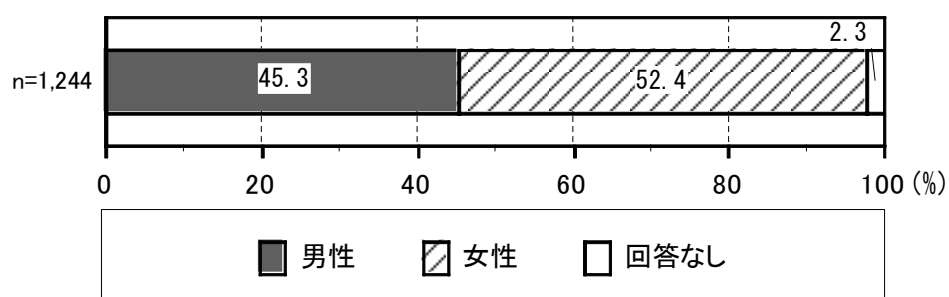
要点

女性からの回答が男性からの回答を7.1ポイント上回っています。

全体

○「女性」が52.4%、「男性」が45.3%で、女性からの回答が男性のそれを7.1ポイント上回っています(図1-1)。

図1-1 「性別」



(2) 年齢 (問2)

問2 あなたの年齢についてお答えください。(平成29年10月1日現在の満年齢)

(○は1つだけ)

要点

「40歳代」が17.8%と最も多いものの、65歳以上の高齢者が36.4%を占めています。男性の方が、やや年齢層の高い方の割合が多くなっています。

全体

○「40歳代」が17.8%と最も多く、次いで、「50歳代」(15.1%)が多くなっています。

○65歳以上の高齢者が36.4%を占め、実際の人口構成割合よりも多くなっています(図1-2-1)。

性別

○65歳以上の高齢者の占める割合は、男性が38.7%であるのに対して、女性が33.9%と、男性の方が多くなっています(図1-2-2)。

図1-2-1 「年齢」

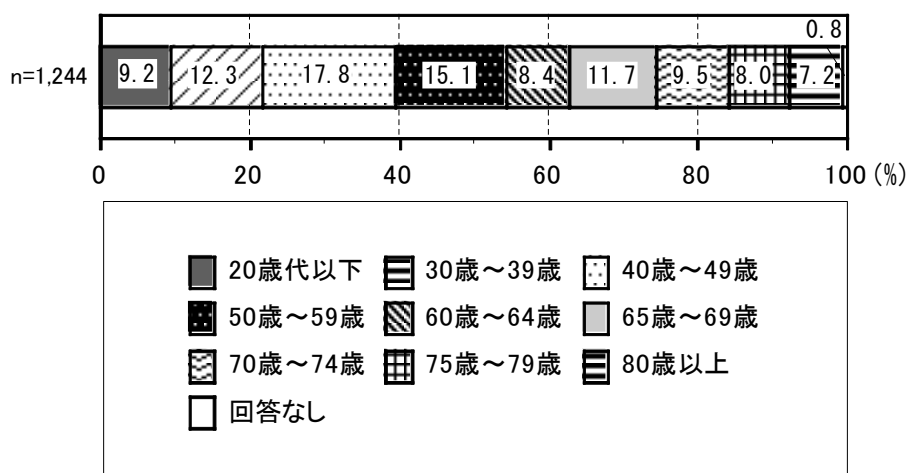
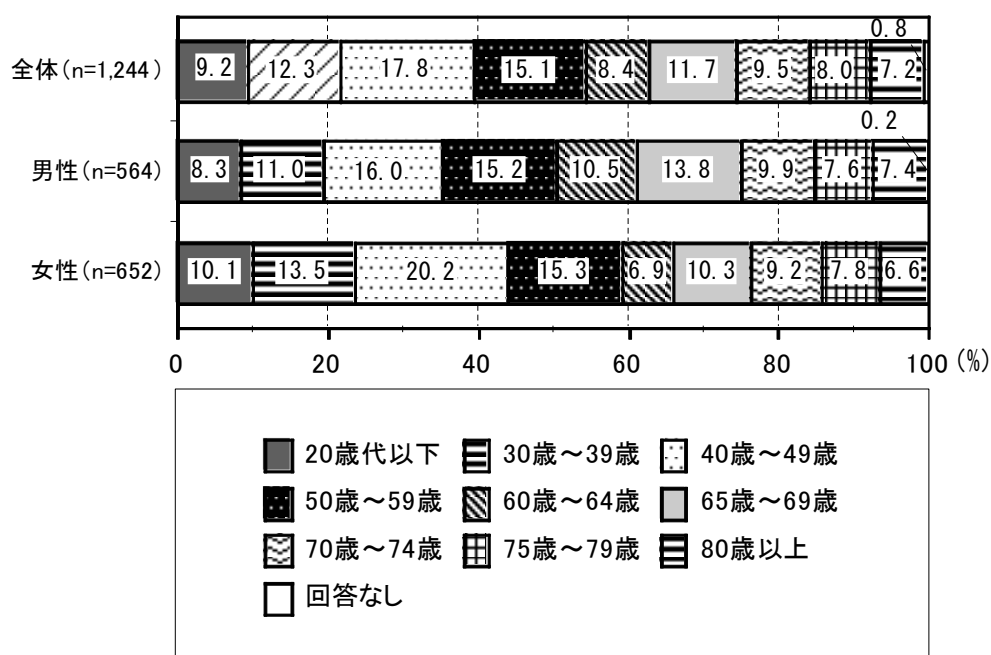
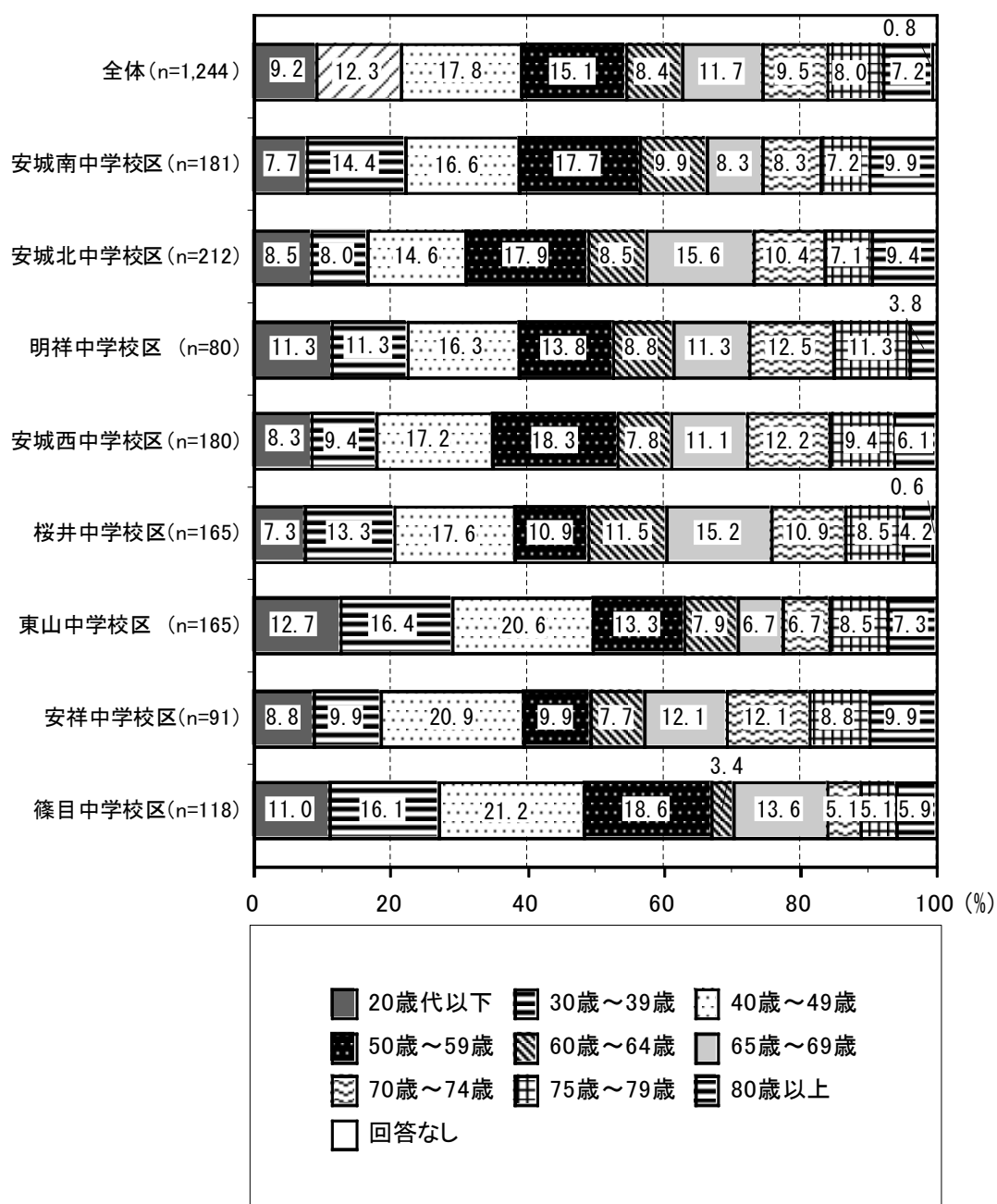


図1-2-2 性別「年齢」



○65 歳以上の高齢者の占める割合は、安祥中学校区（42.9%）と安城北中学校区（42.5%）とで多い一方で、東山中学校区（29.2%）と篠目中学校区（29.7%）で少なくなっています（図 1-2-3）。

図 1-2-3 中学校区別「年齢」



(3) 職業 (問3)

問3 あなたのお仕事についてお答えください。(○は1つだけ)

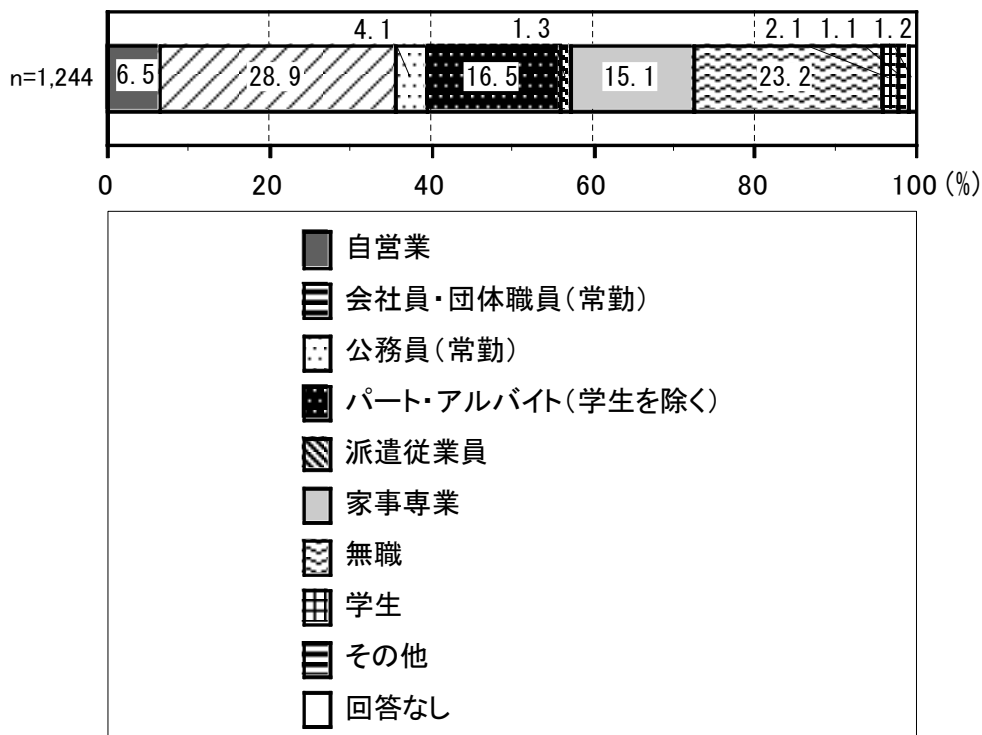
要点

「勤め人」が半数以上 (50.8%) を占める一方で、無職も2割以上 (23.2%) を占めており、少なくありません。働き盛りの30～50歳代では勤め人が7割以上を占めています。

全体

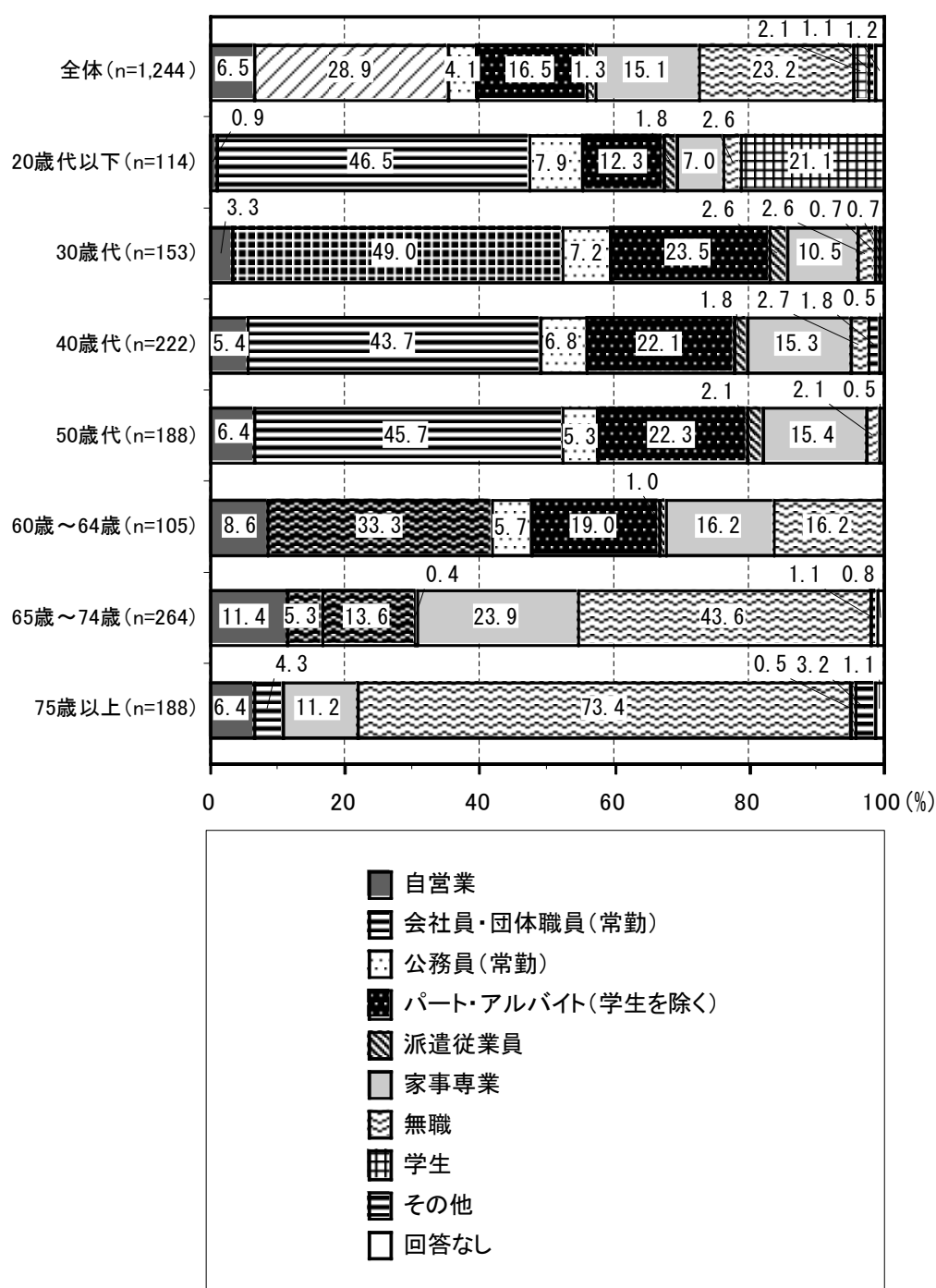
- 「会社員・団体職員(常勤)」が28.9%で最も多く、「パート・アルバイト(学生を除く)」(16.5%)と「公務員(常勤)」(4.1%)を加えると50.8%を占めており、過半数が勤め人となっています。
- 「自営業」は6.5%、「専業主婦・専業主夫」は15.1%、「無職」は23.2%、「学生」は2.1%となっています(図1-3-1)。

図1-3-1 「職業」



- 20 歳代以下では、「会社員・団体職員（常勤）」が最も多いものの、「学生」が 21.1%と他の年齢層に比べて多くを占めていることが特徴としてみられます。
- 30 歳代、40 歳代、50 歳代では、「勤め人」（「会社員・団体職員（常勤）」＋「公務員（常勤）」＋「パート・アルバイト（学生を除く）」＋「派遣従業員」）が、それぞれ 82.3%、74.4%、75.4% となっており、いずれも 7 割以上を占めています。
- 65 歳～74 歳では、「無職」が 43.6%、「家事専業」が 23.9%を占め多く、さらに 75 歳以上（後期高齢者）になると、「無職」が 73.4%を占めています（図 1-3-2）。

図 1-3-2 年齢別「職業」



(4) 結婚の有無 (問4)

問4 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

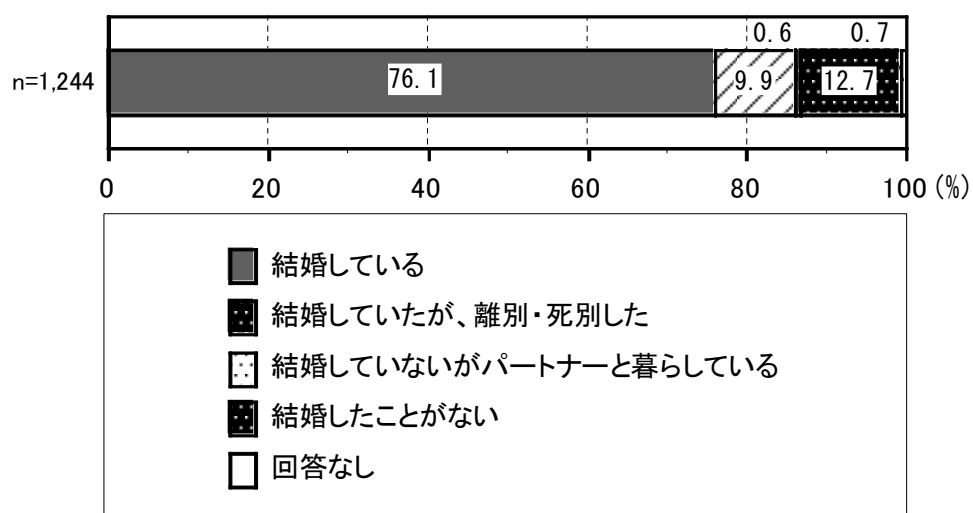
要点

「結婚している」が7割以上(76.1%)を占めています。「結婚したことがない」(結婚未経験者)は特に20歳代以下で7割近くを占め多いものの、40歳代や50歳代、60歳～64歳においても7～9%程度みられます。

全体

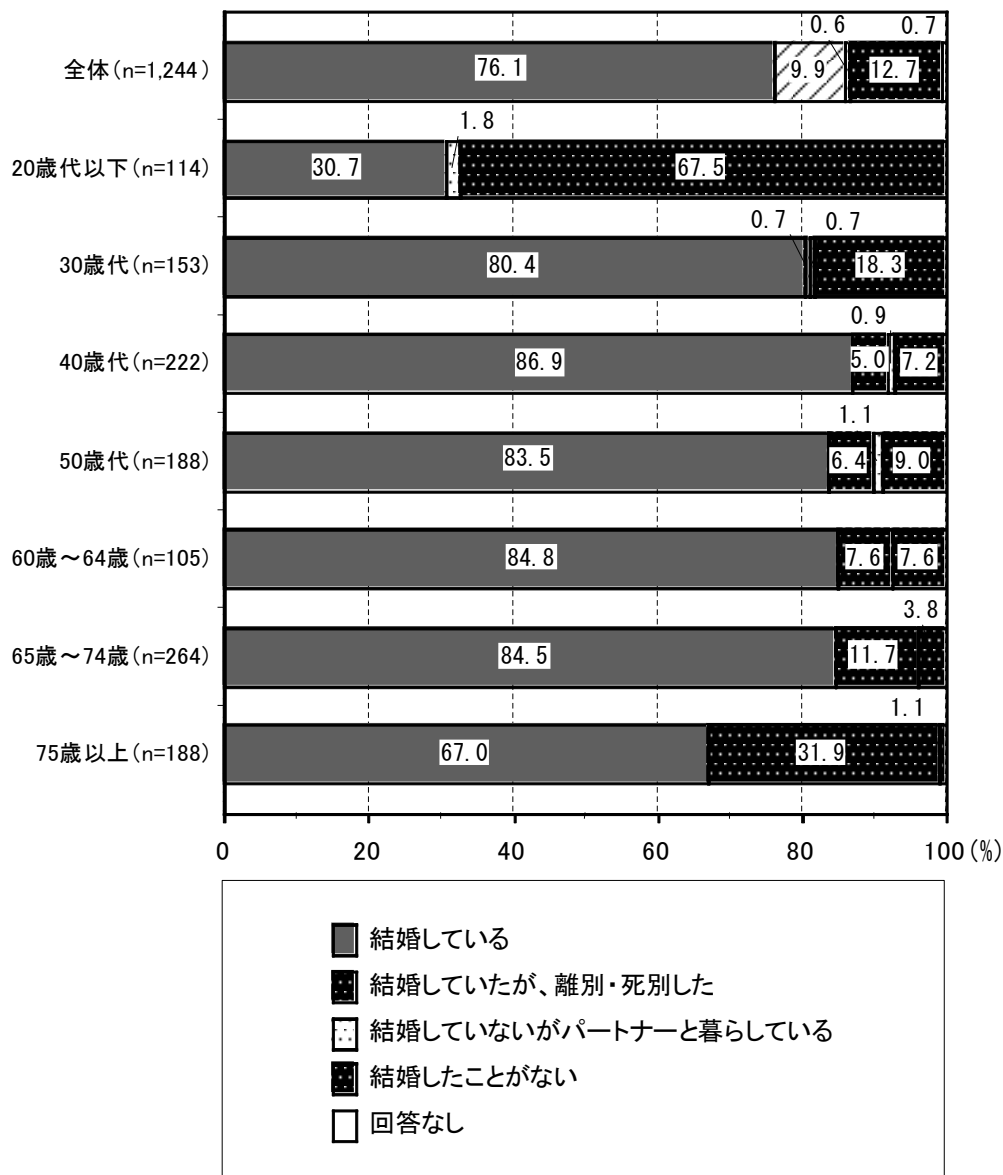
○「結婚している」が76.1%を占め、最も多くなっています。次いで多いのは、「結婚したことがない」(12.7%)となっています(図1-4-1)。

図1-4-1 「結婚の有無」



- 「結婚したことがない」（結婚未経験者）は、20歳代以下で67.5%を占め多いですが、40歳代、50歳代、60歳～64歳においても、それぞれ7.2%、9.0%、7.6%みられます。
- 75歳以上になると、「結婚していたが、離別・死別した」（31.9%）の割合が多くなっています（図1-4-2）。

図1-4-2 年齢別 「結婚の有無」



(5) 同居の人数 (問5 (1))

問5 (1) あなたと同居している人は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ)

要点

「2人」が26.2%と最も多くなっています。40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「単身」や「2人」の割合が多くなる傾向がみられます。

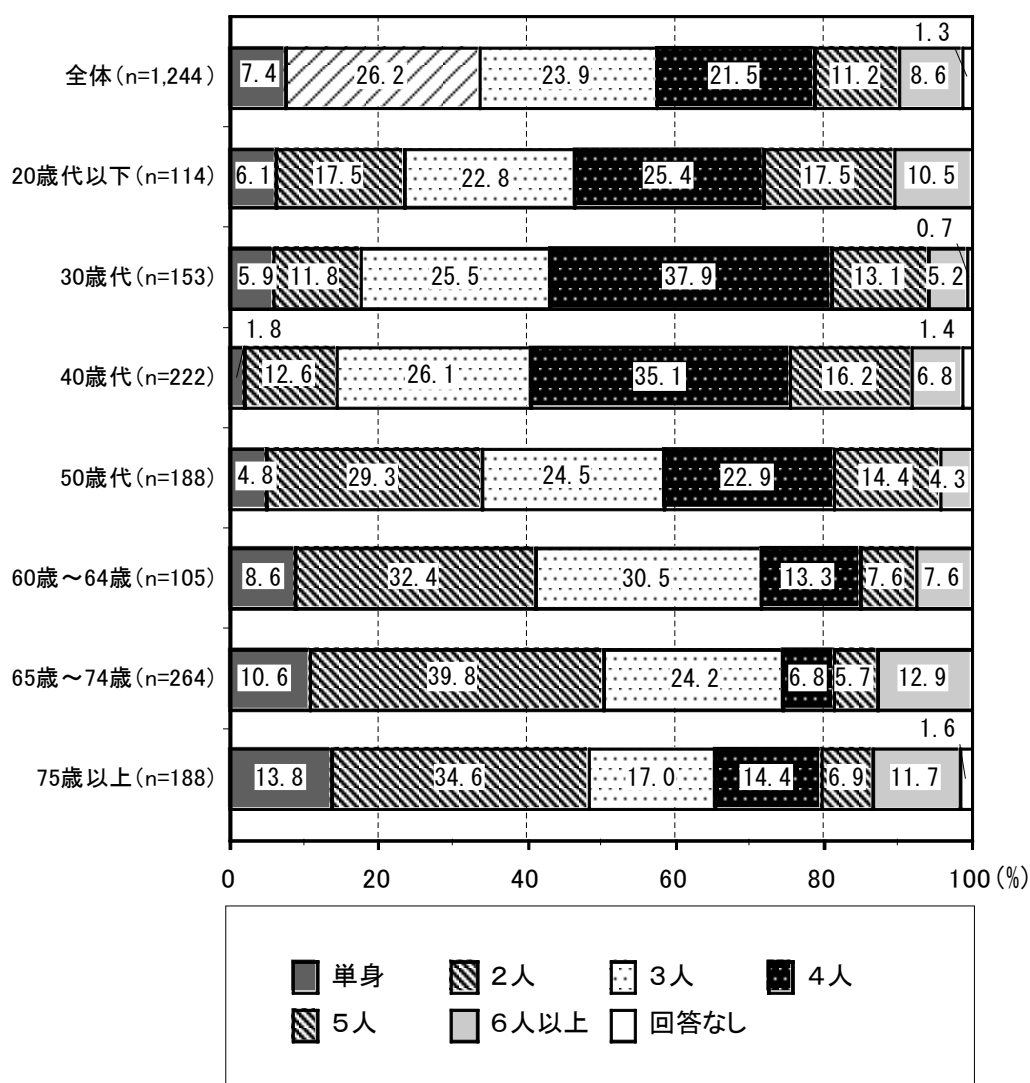
全体

○「2人」が26.2%と最も多くなっており、次いで、「3人」(23.9%)、「4人」(21.5%)、「5人」(11.2%)、「6人」(8.6%)、「単身」(7.4%)という順で多くなっています。

年齢別

○40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「単身」が増加し、75歳以上の後期高齢者では、13.8%と最も多くの割合を占めています。また、「2人」も概ね同様の傾向がみられます(図1-5-1)。

図1-5-1 年齢別「同居の人数」



(6) 子どもや高齢者などの同居人の有無（問5（2））

問5（2） あなたの世帯では、どのような方が同居されていますか。（あてはまるものすべてに○）

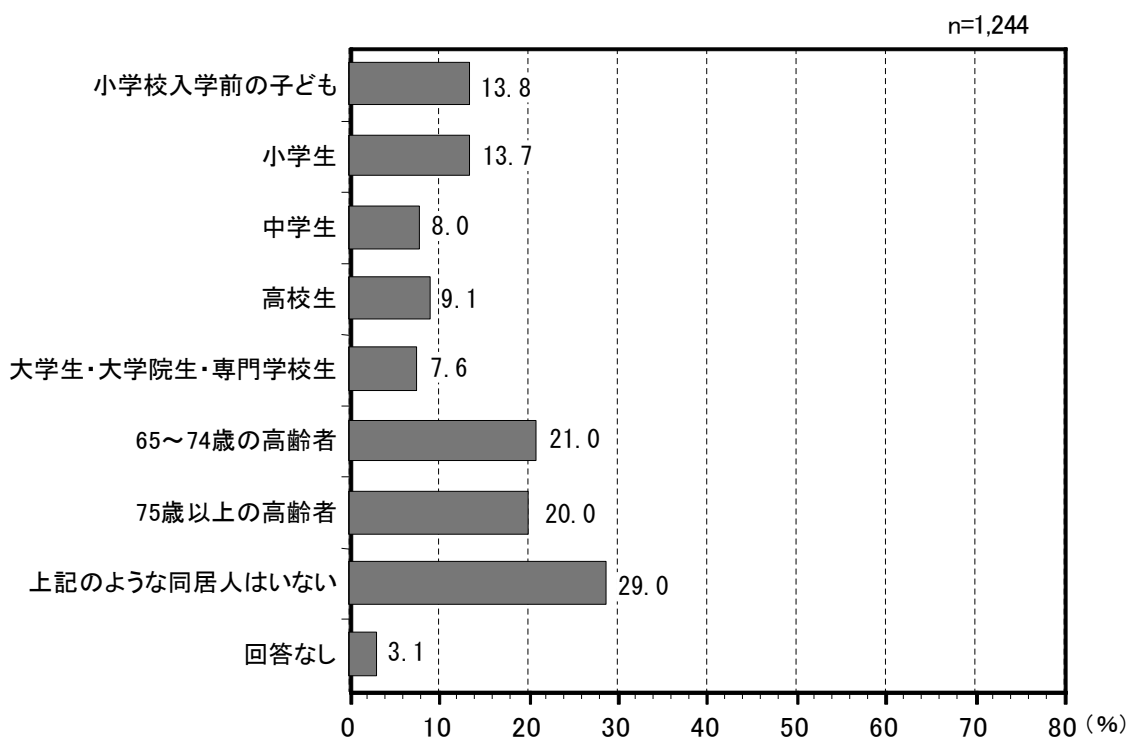
要点

自分も含めて、「65～74 歳の高齢者」がいる世帯は 21.0%、「75 歳以上の高齢者」（後期高齢者）がいる世帯は 20.0%となっています。

全体

○自分も含めて、子ども（大学生・大学院生・専門学校生も含む）や高齢者が「いない」という世帯は、29.0%を占めています。これと「回答なし」（3.1%）を除く、残りの 67.9%の世帯では、子ども（大学生・大学院生・専門学校生も含む）や高齢者のいずれかの同居人がいます。
○具体的には、「65～74 歳の高齢者」（前期高齢者）がいる世帯が 21.0%、「75 歳以上の高齢者」（後期高齢者）がいる世帯が 20.0%となっています（図 1-6）。

図 1-6 「同居人について」



(7) 世帯のタイプ (問5 (3))

問5 (3) あなたの世帯のタイプは次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

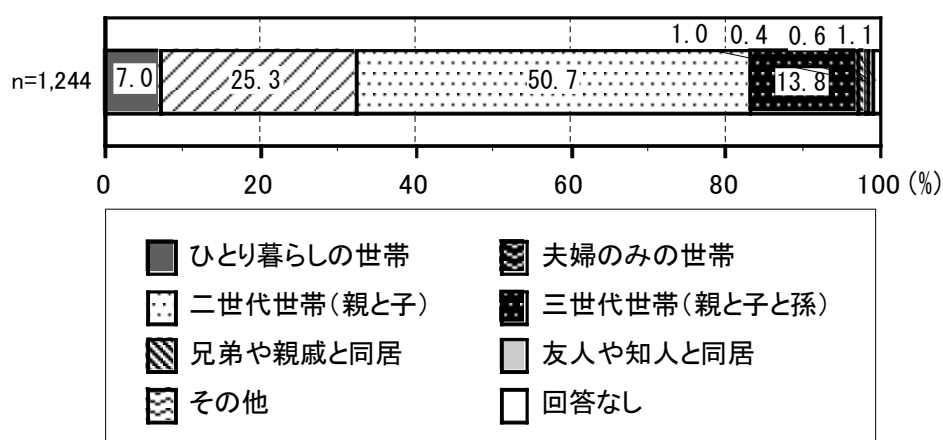
要点

「二世世代世帯（親と子）」が5割を占め、最も多くなっています。40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「ひとり暮らし世帯」や「夫婦のみの世帯」の割合が概ね増加する傾向がみられます。

全体

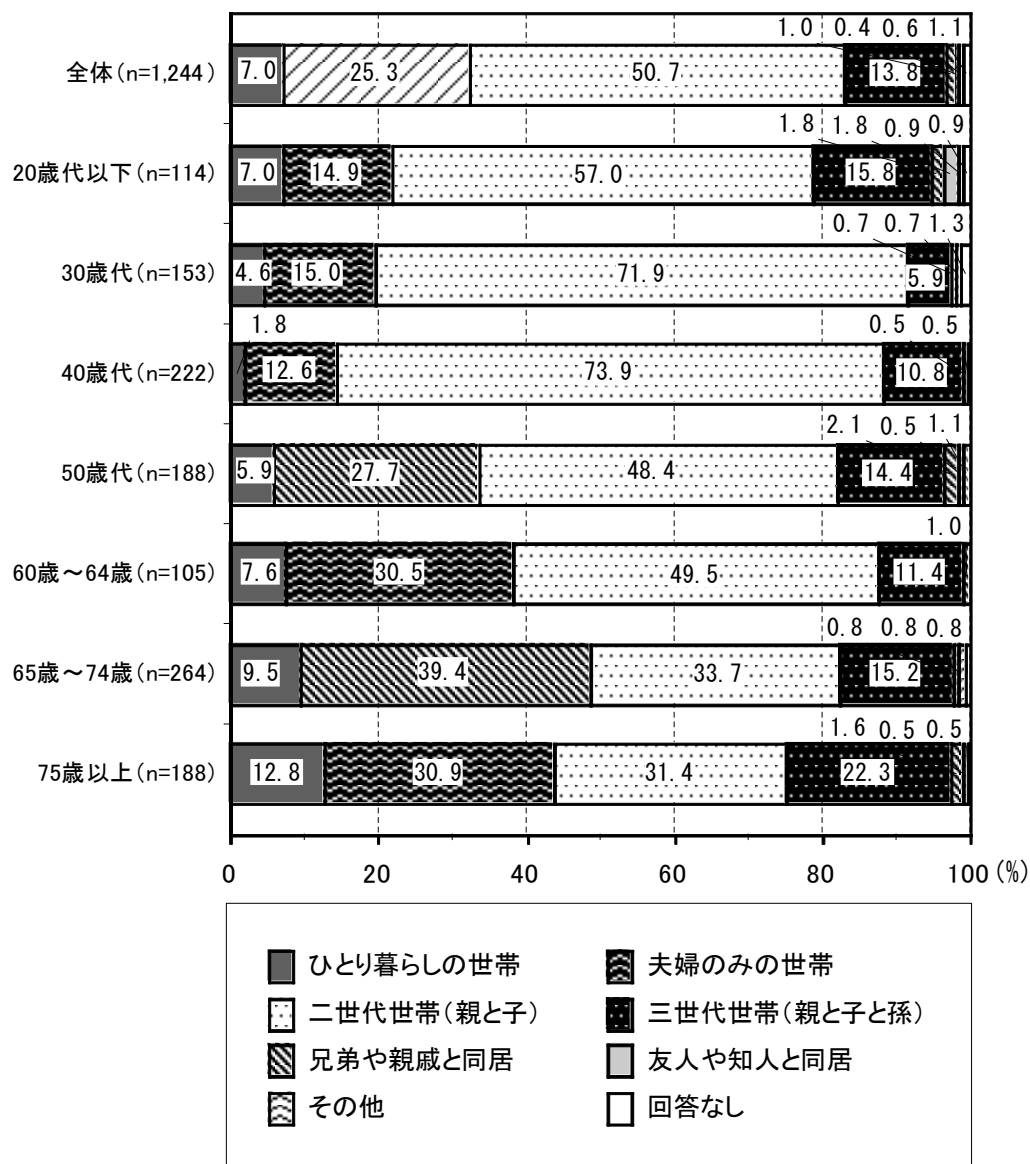
○核家族である「二世世代世帯（親と子）」が50.7%を占め、最も多くなっています。次いで、「夫婦のみの世帯」（25.3%）、「三世世代世帯（親と子と孫）」（13.8%）が多くなっています。
○「ひとり暮らし世帯」も7.0%みられます（図1-7-1）。

図1-7-1 「世帯のタイプ」



○40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「ひとり暮らし世帯」の割合が増加する傾向がみられます。「夫婦のみの世帯」の世帯も概ね同様の傾向がみられます。同時に、60歳～64歳以降、年齢が高くなるにしたがって「三世代世帯（親と子と孫）」も増加する傾向がみられます。（図1-7-2）。

図1-7-2 年齢別「世帯のタイプ」



（８）世帯の収入（問６）

問６ あなたの世帯全体の年収（年金を含む。税金や社保税金などを引く前の総支給額。）はどのくらいですか。（現在お住まいの世帯でお答えください。）（○は１つだけ）

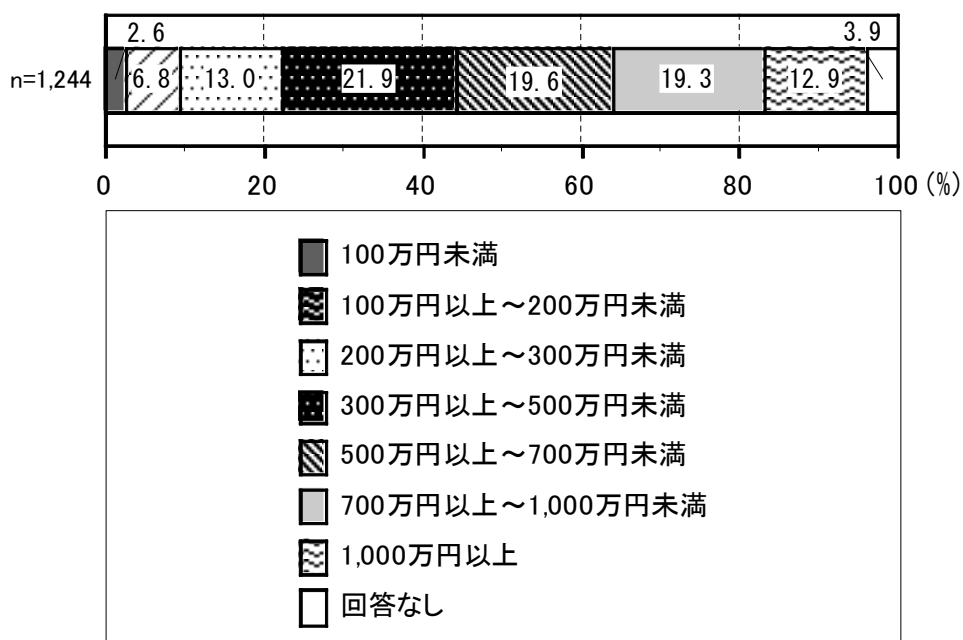
要点

低所得世帯にあたる世帯年収が 300 万円未満の世帯は、22.4%みられます。75 歳以上では４割以上（42.6%）を占めています。また、子どものいる世帯年収が 300 万円未満の世帯（子どもの低所得世帯）が合わせて 7.8%みられます。

全体

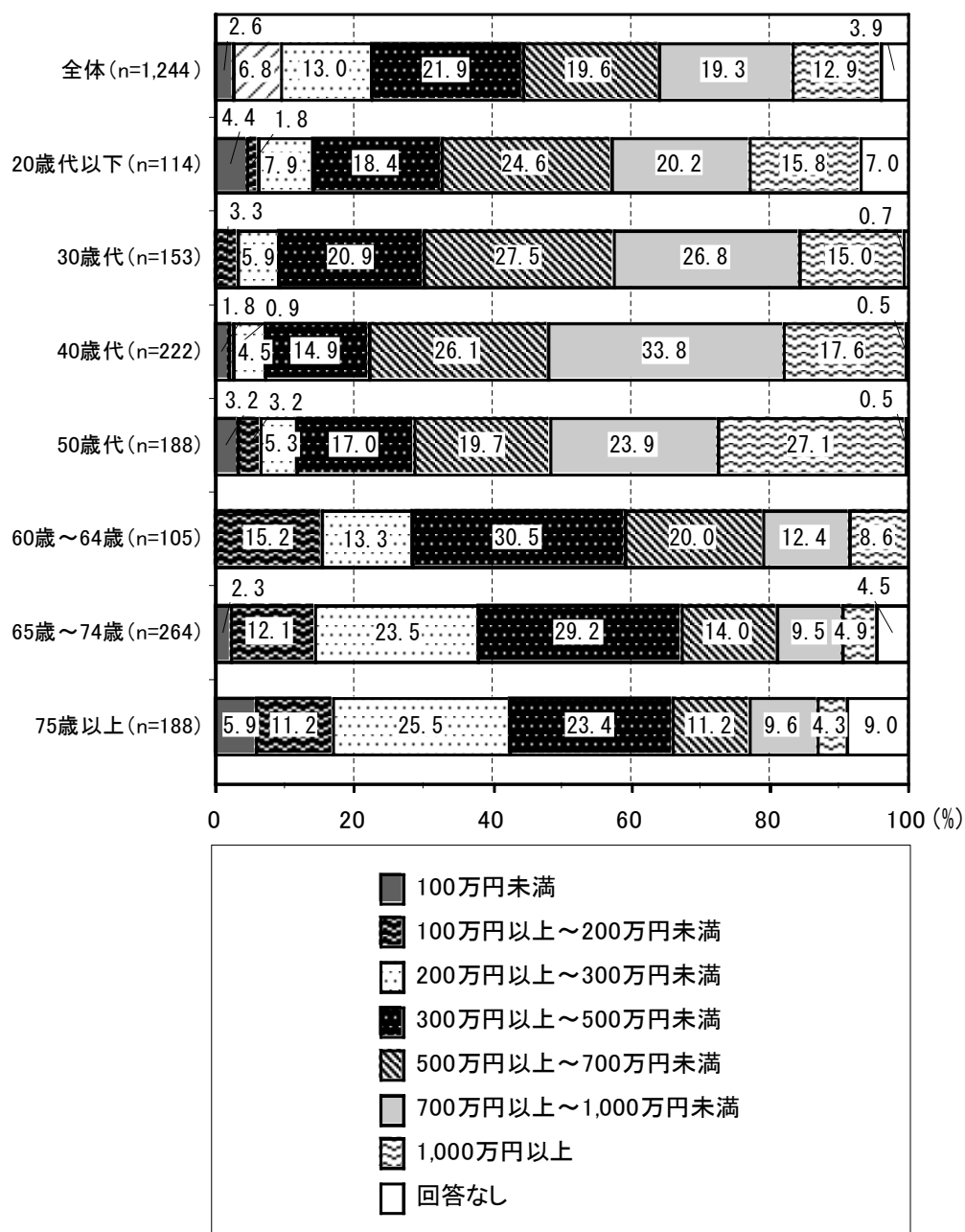
- 「300 万円以上～500 万円未満」が 21.9%と最も多く、「500 万円～700 万円未満」（19.6%）と「700 万円～1,000 万円未満」（19.3%）が続いて多くなっています。
- 低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯は、22.4%（2.6%+6.8%+13.0%）を占め、少なくありません。（図 1-8-1）。

図 1-8-1 「世帯の収入」



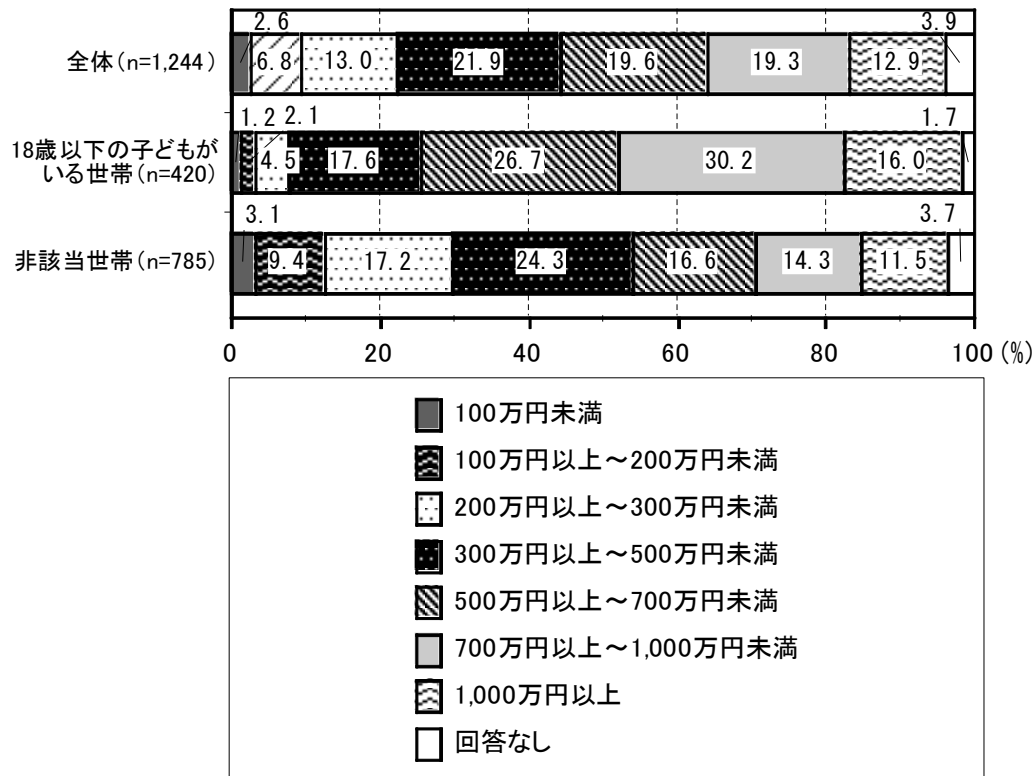
○低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯は、40 歳代以降、年齢が高くなるにしたがって多くなる傾向がみられ、75 歳以上では 4 割以上（42.6%）の割合になっています（図 1-8-2）。

図 1-8-2 年齢別「世帯の収入」



○18歳以下の子どもがいる世帯の方は、そうでない世帯（非該当世帯）よりも全般的に世帯の収入が高い割合が多くなっていますが、子どものいる低所得世帯に当たる世帯年収が300万円未満の世帯が合わせて7.8%みられます（図1-8-3）。

図1-8-3 18歳以下の子どもがいる世帯別「世帯の収入」



(9) 住まいについて (問7)

問7 あなたの住まいについてお答えください。(○は1つだけ)

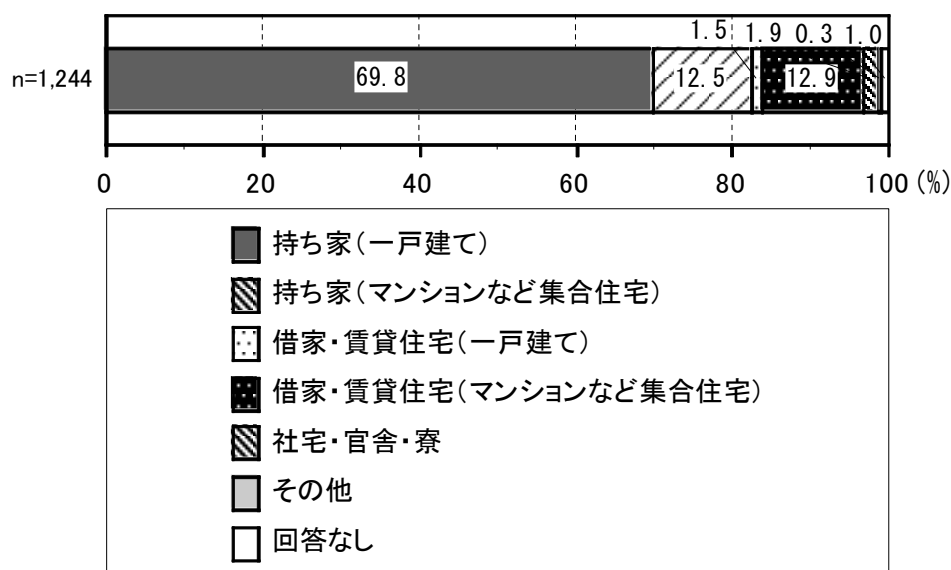
要点

82.3%が持ち家となっています。世帯年収が300万円未満の世帯でも持ち家が73.7%を占めています。

全体

○「持ち家（一戸建て）」が69.8%を占め最も多く、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」(12.5%) と合わせると、82.3%が持ち家となっています。(図1-9-1)。

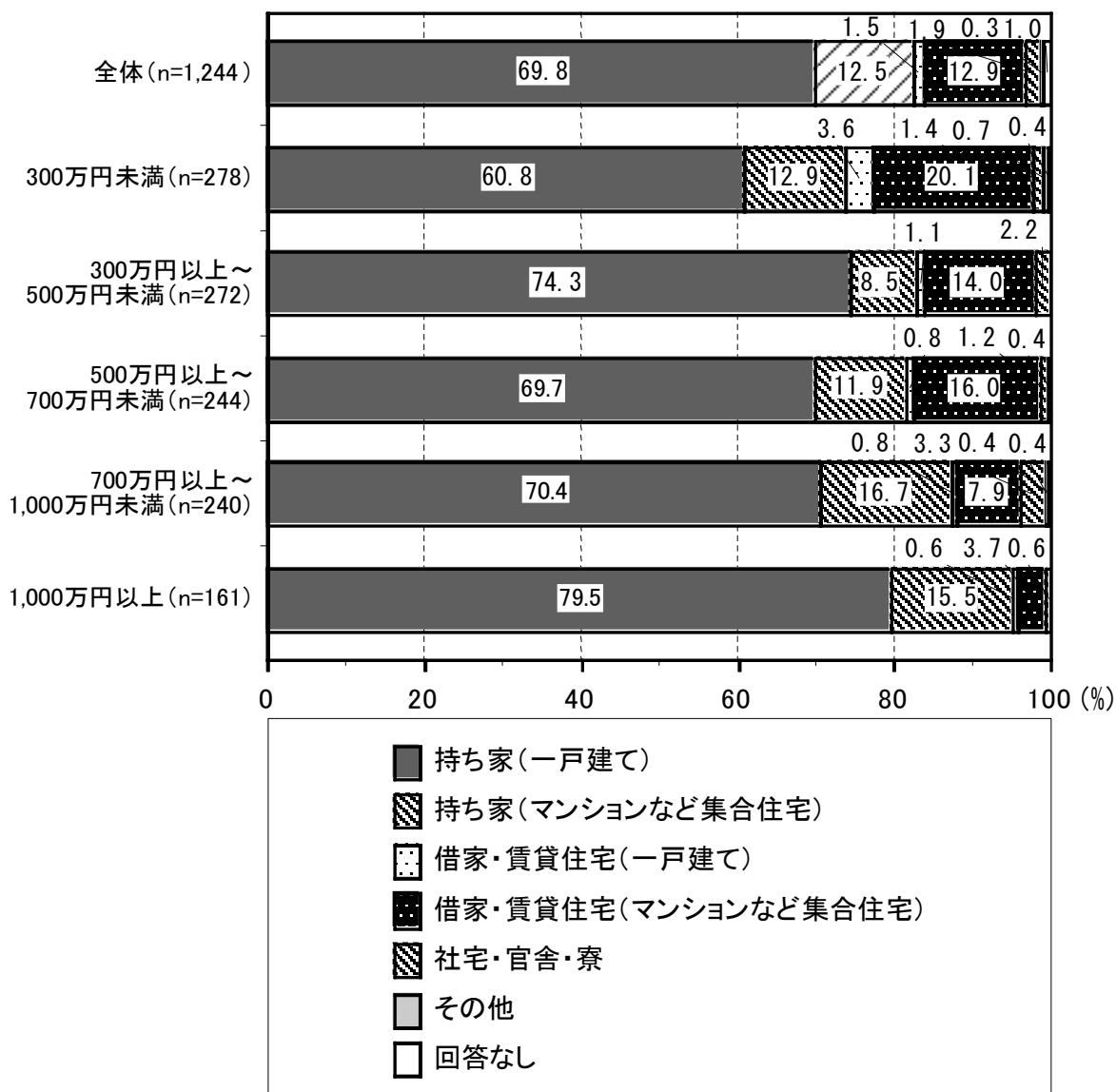
図1-9-1 「住まいについて」



○世帯年収が300万円未満の世帯でも、「持ち家（一戸建て）」が6割を占めており、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（12.9%）と合わせると、73.7%が持ち家となっています（図1-9-2）。

○これらの世帯は、生活保護費の受給の対象外の世帯であり、家族の健康状況等の変化によって家計の状況がさらに悪化しても生活保護を受けることが制度上難しいというリスクを背負っている世帯として捉えることもできます。

図1-9-2 世帯の収入別「住まいについて」



(10) 居住年数（問8）

問8 あなたは安城市にどのくらいお住まいですか。（○は1つだけ）

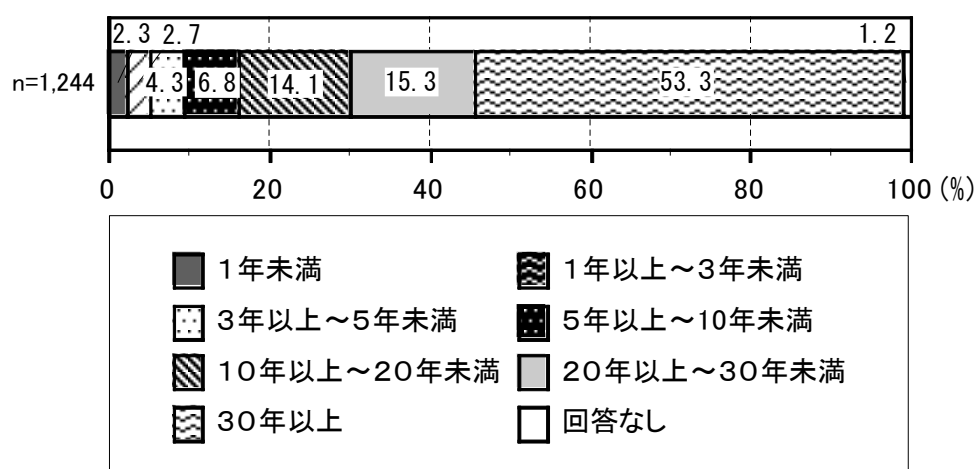
要点

居住年数「30 年以上」が最も多く 53.3%を占めています。30 歳代では、居住年数 10 年未満といった居住年数が比較的短い人の割合が半数以上（51.6%）を占めているのが特徴です。

全体

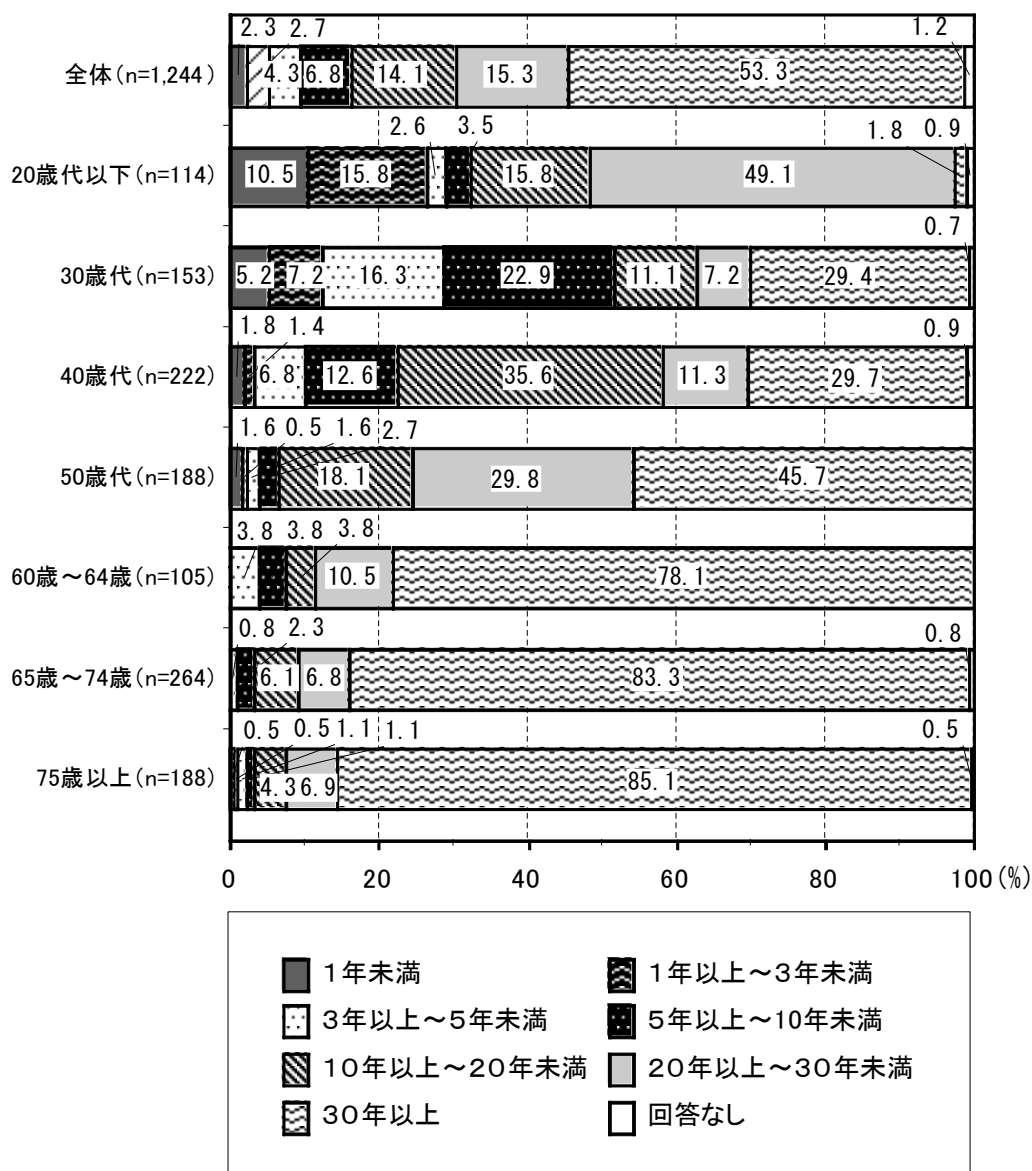
○「30 年以上」が最も多く 53.3%と半数以上を占めています。
○次いで、「20 年以上～30 年未満」が 15.3%、「10 年以上～20 年未満」が 14.1%が多くなっています（図 1-10-1）。

図 1-10-1 「居住年数」



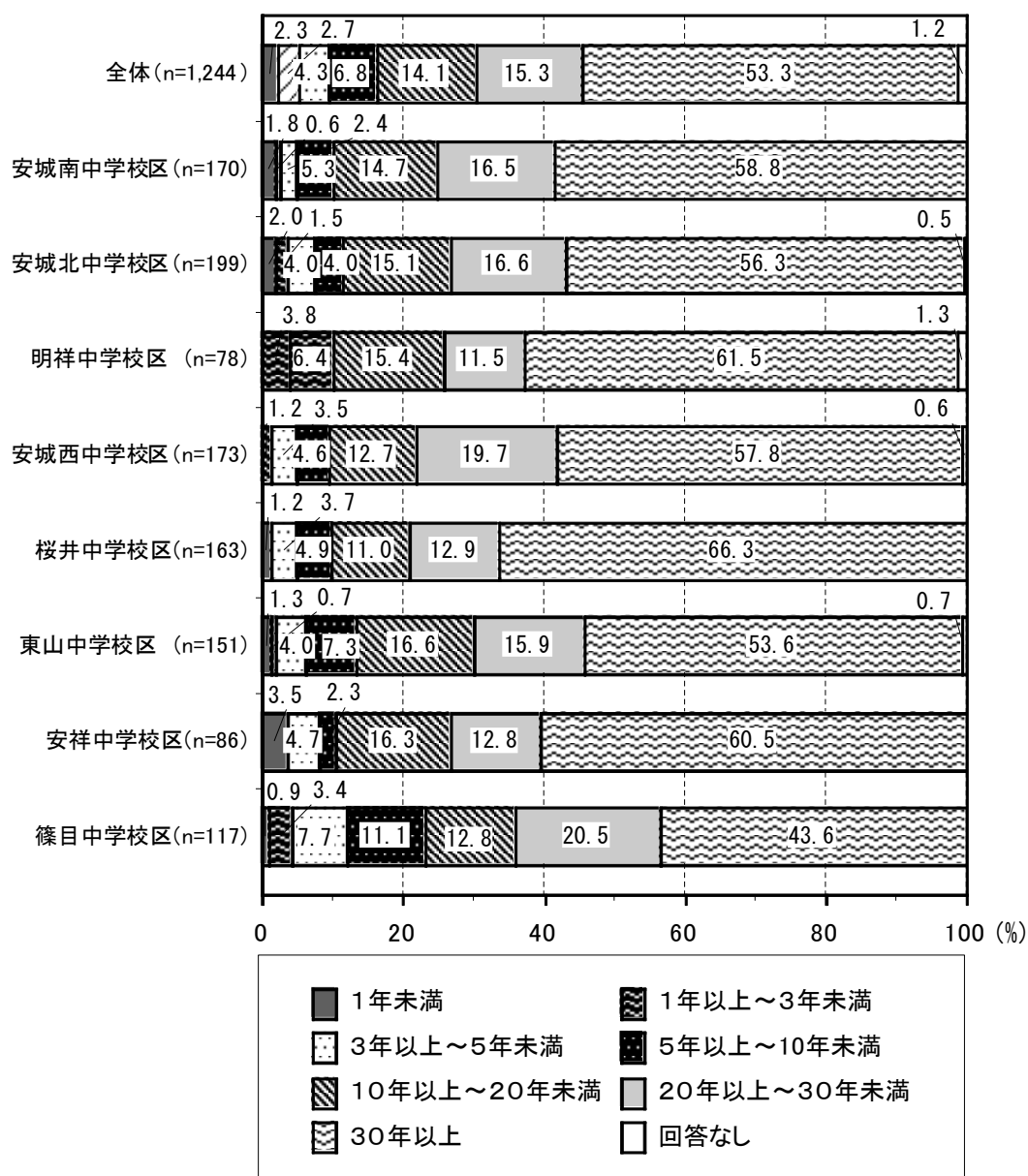
- 30歳代を着目すると、「30年以上」（ほぼ生まれてからずっと居住に相当）が29.4%と約3割を占め最も多くなっていますが、「1年未満」が5.2%、「1年以上～3年未満」が7.2%、「3年以上～5年未満」が16.3%、「5年以上10年未満」が22.9%となっており、居住年数10年未満が半数以上（51.6%）を占めているのが特徴としてみられます。
- 同様に、40歳代では居住年数20年未満が6割近く（58.2%）を占めています。
- 逆に、50歳代では、「30年以上」が5割近く（45.7%）を占め、60歳～64歳、65歳～74歳まで、75歳以上の年齢層では、「30年以上」が、それぞれ78.1%、83.3%、85.1%を占めています（図1-10-2）。

図1-10-2 年齢別「居住年数」



○篠目中学校区では、他の中学校区に比べて、居住年数 10 年未満の割合が 23.1%と多く、その分「30 年以上」が 43.6%と少なくなっています（図 1-10-3）。

図 1-10-3 中学校区別「居住年数」



(11) 居住地区（中学校区）（問9）

問9 あなたの住まいの中学校区をお答えください。（○は1つだけ）

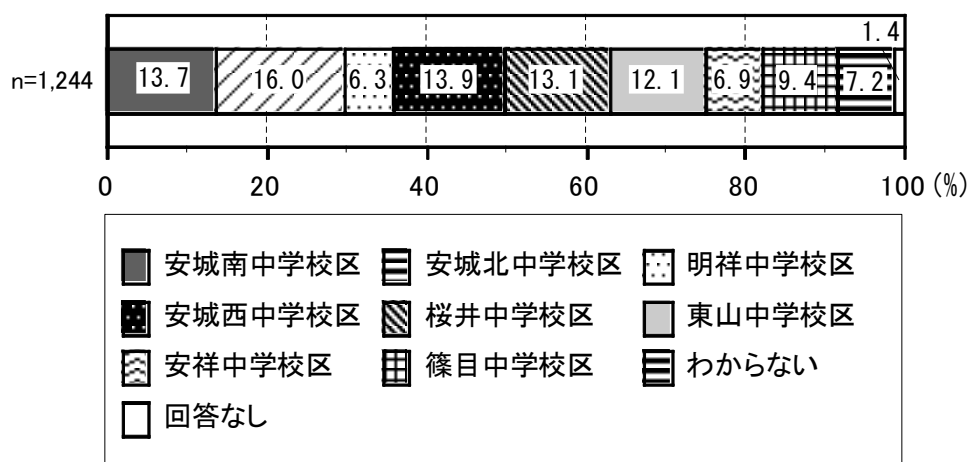
要点

回答者の居住地区（中学校区）は、安城北中学校区が16.0%を占め最も多くなっています。

全体

○回答の居住地区を中学校区でみると、「安城北中学校区」が16.0%を占め最も多く、次いで、「安城西中学校区」が13.9%、「安城南中学校区」が13.7%、「桜井中学校区」が13.1%、「東山中学校区」が12.1%となっています（図1-11-1）。

図1-11-1 「居住地区（中学校区）」



2 福祉に関する意識について

(1) 福祉との関わり (問 10)

問 10 現在のあなたと福祉との主な関わりは次のどれですか。(○は1つだけ)

要点

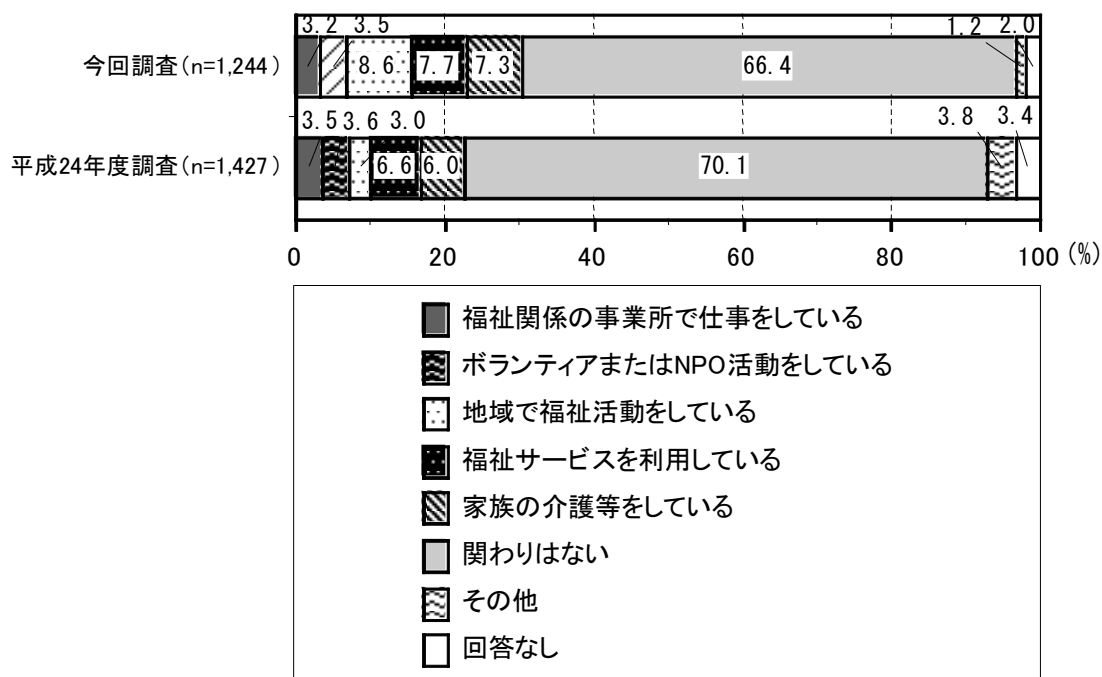
福祉とは「関わりはない」が 66.4%を占めています。前回調査と比べて「地域で福祉活動をしている」の割合が 5.6 ポイントアップしています。

全体

○「関わりはない」の割合が 66.4%と最も多く、次いで「地域で福祉活動をしている」が 8.6%、「福祉サービスを利用している」の割合が 7.7%、「家族の介護等をしている」の割合が 7.3%となっています。

○前回調査（平成 24 年度調査）と比較すると、「地域で福祉活動をしている」の割合が 5.6 ポイント上昇しており、その分「関わりはない」の割合が 3.7 ポイント低下しています。（図 2-1）。

図 2-1 「福祉との関わり」（前回調査比較）



（２）福祉に関する情報入手の程度（問 12）

問 12 あなたは、現在、福祉に関する情報（問 11 の選択肢参照）がどの程度入ってきているとお考えですか。（○は1つだけ）

要点

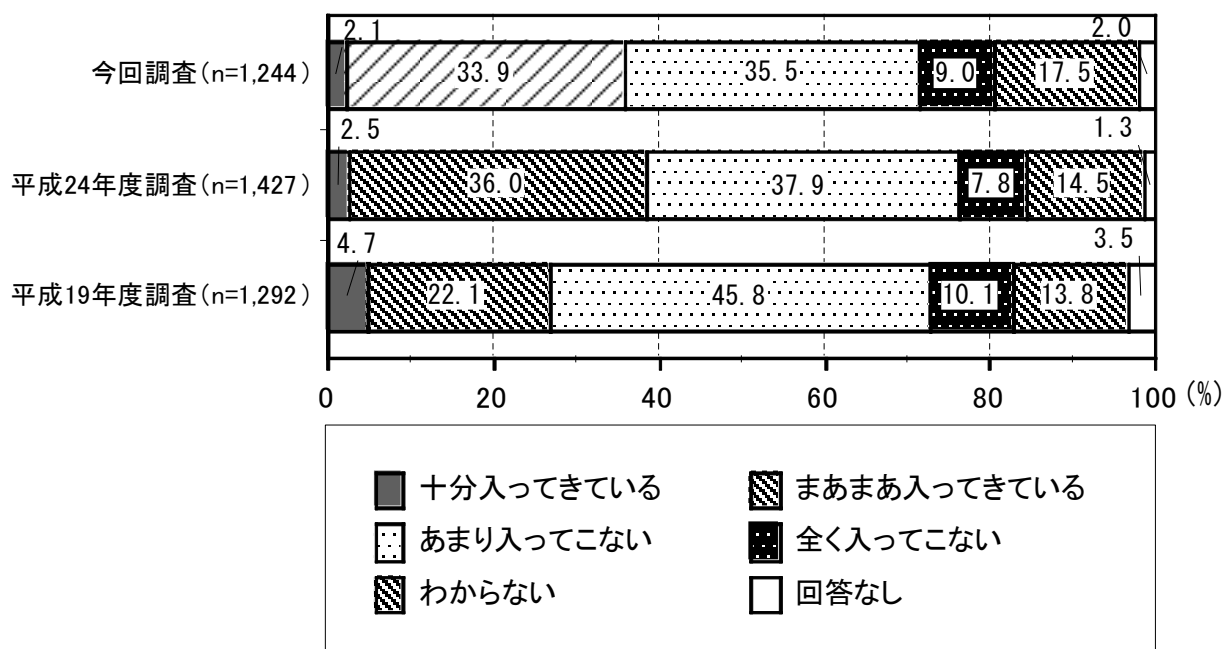
“情報が入ってきていると感じている人”が36.0%であるのに対して、“情報が入ってこないと感じている人”は44.5%となっています。

全体

○「十分入ってきている」と「まあまあ入ってきている」を合わせた“情報が入ってきていると感じている人”が36.0%を占めています。一方、「あまり入ってこない」と「全く入ってこない」を合わせた“情報が入ってこないと感じている人”は44.5%を占め、“情報が入ってきていると感じている人”の割合を8.5ポイント上回っています。

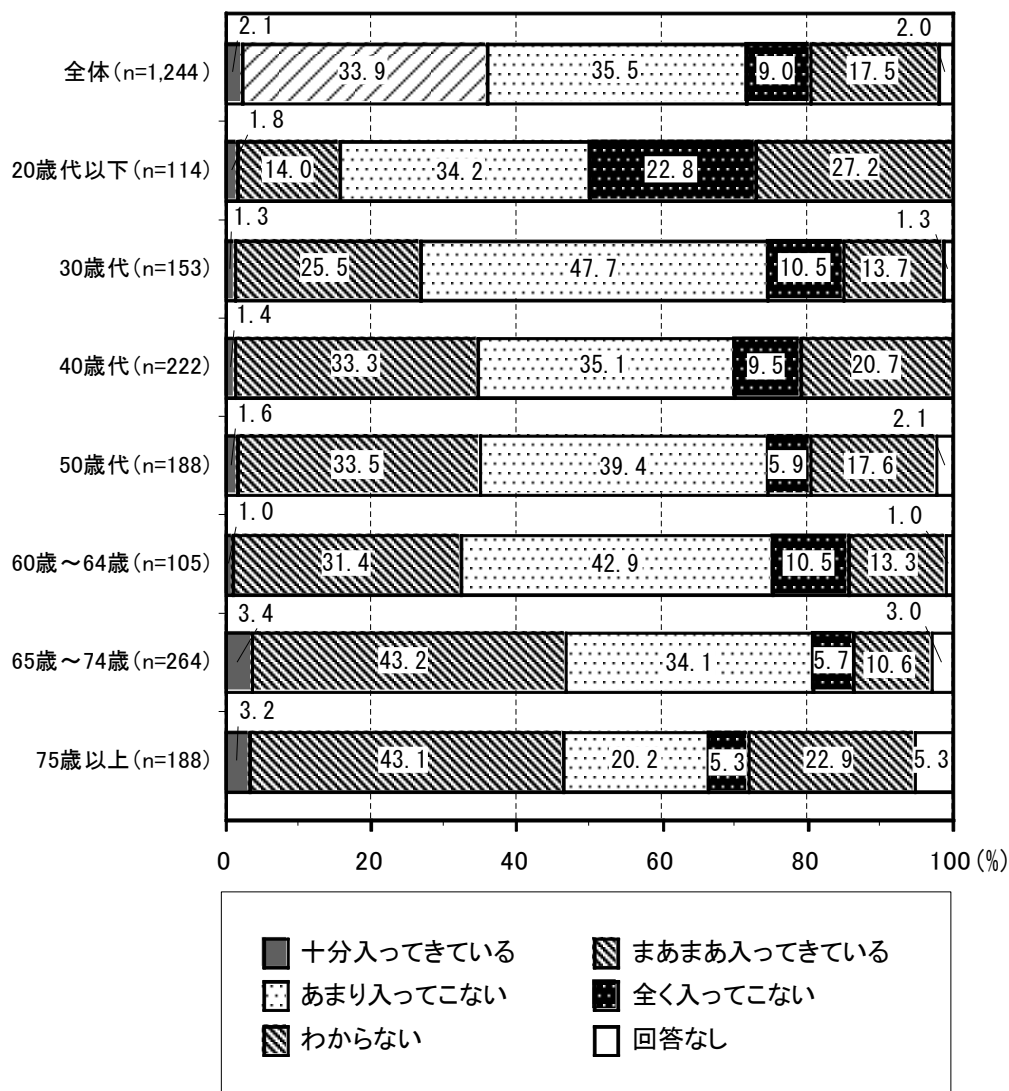
○前回調査（平成24年度調査）の結果とほぼ同様の結果になっています（図2-2-1）。

図2-2-1 「福祉に関する情報入手の程度」（前回・前々回比較）



○65 歳以上になると、“情報が入ってきていると感じている人”の割合が多くなる傾向がみられます。一方、20 歳代以下や30 歳代といった若い年齢層では、“情報が入ってこないと感じている人”の割合が共に6割近くを占めています（図2-2-2）。

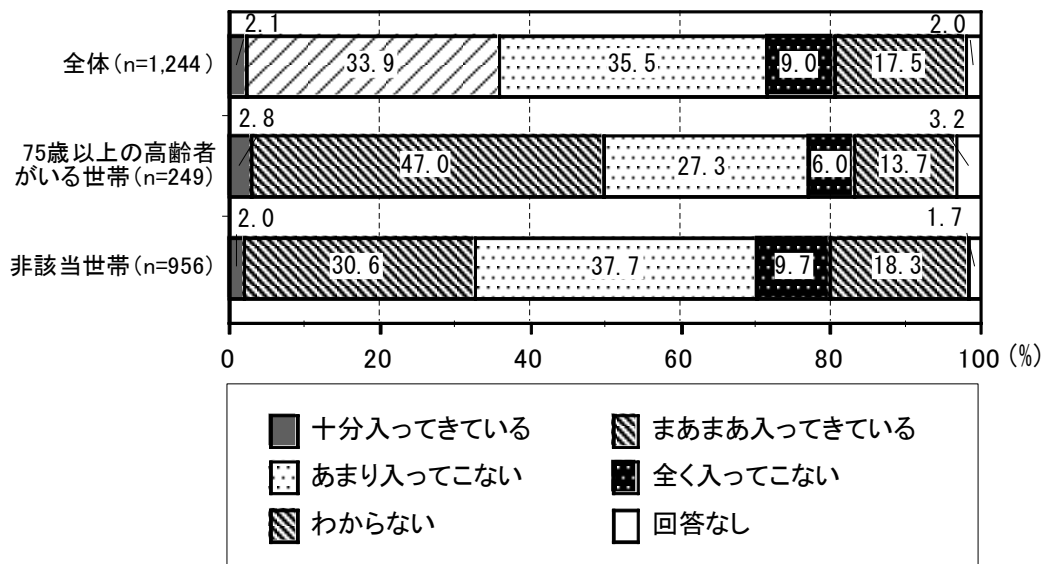
図2-2-2 年齢別「福祉に関する情報入手の程度」



75歳以上の高齢者がいる世帯別

○75歳以上の高齢者がいる世帯の方が非該当世帯（そうでない世帯）よりも“情報が入ってきていると感じている人”の割合（49.8%）が多くなっていますが、“情報が入ってこないと感じている人”も33.3%を占め決して少なくありません（図2-2-3）。

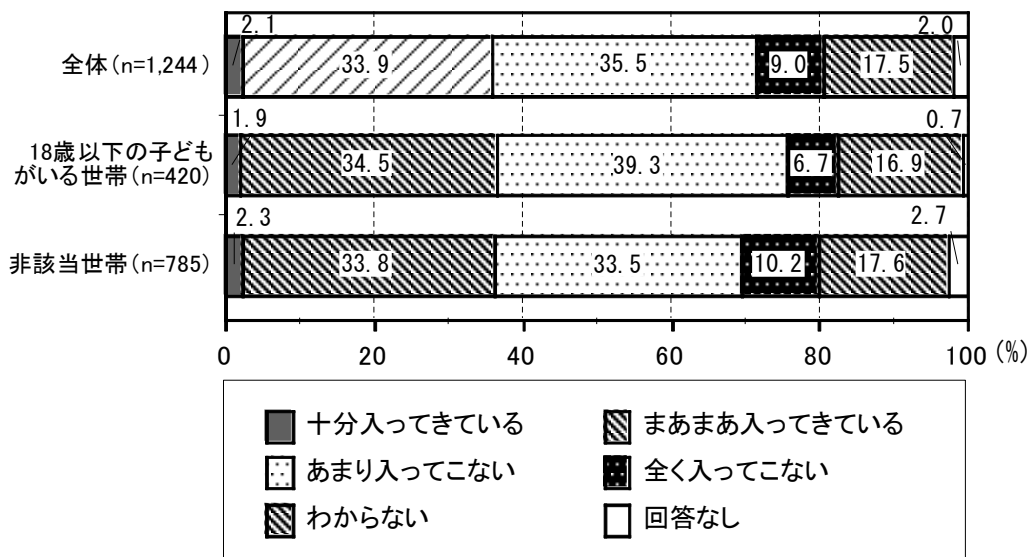
図2-2-3 75歳以上の高齢者がいる世帯別「福祉に関する情報入手の程度」



18歳以下の子どもがいる世帯別

○18歳以下の子どもがいる世帯と非該当世帯（そうでない世帯）とでは、割合にほとんど差はみられません（図2-2-4）。

図2-2-4 18歳以下の子どもがいる世帯別「福祉に関する情報入手の程度」



(3) 知りたい福祉に関する情報内容（問 11）

問 11 あなたは福祉に関してどのような情報を知りたいですか。
(あてはまるものすべてに○・ない場合は8に○)

要点

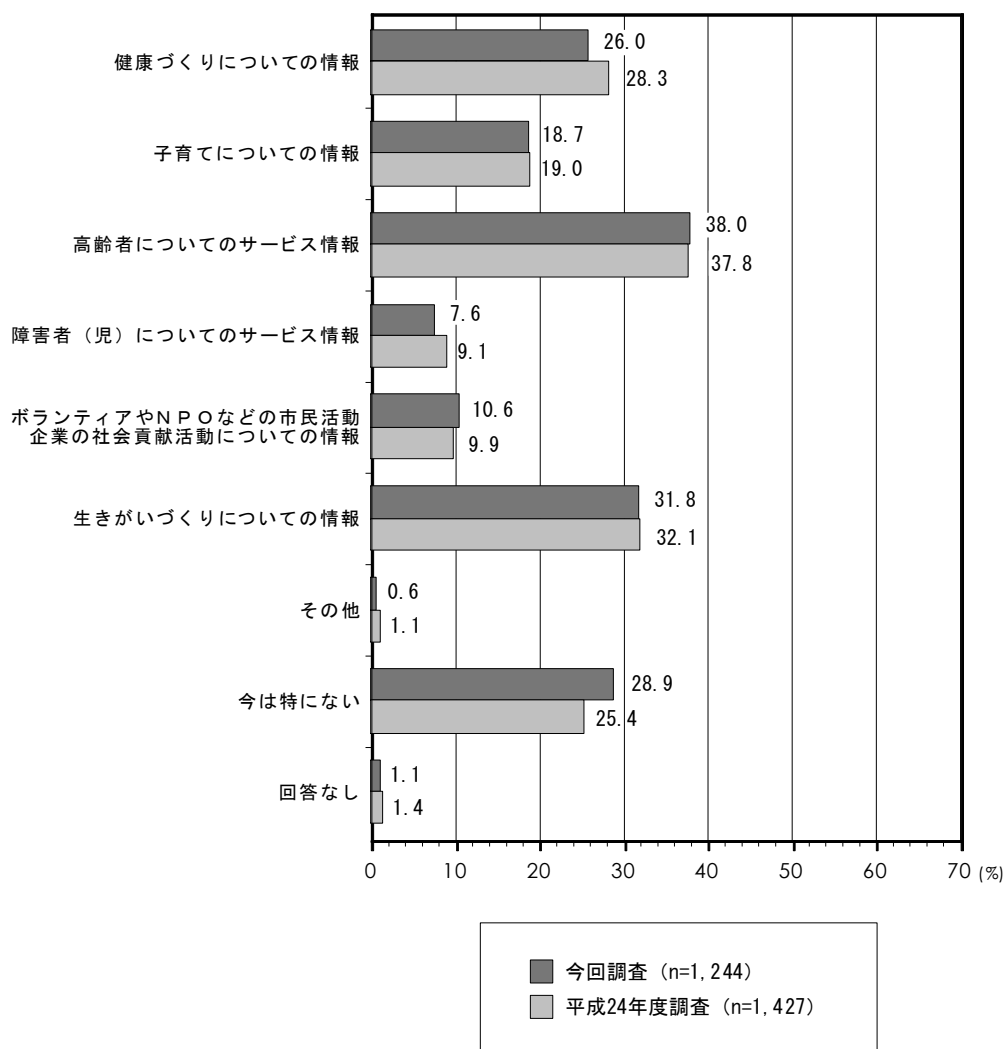
「高齢者についてのサービス情報」(38.0%)をはじめ、特に高齢者層にとって必要な情報の割合が多くなっています。知りたいと思っていながらもそうした福祉に関する情報にアクセスできていないような人が少なくありません。

全体

○「高齢者についてのサービス情報」が38.0%と最も多く、次いで「生きがいがづくり（講座、教室、サークル活動など）についての情報」の割合が31.8%、「健康づくりについての情報」の割合が26.0%となっています。(図2-3-1)。

○前回調査（平成24年度調査）とほぼ同様の結果となっています(図2-3-1)。

図2-3-1 「知りたい福祉に関する情報内容」



福祉に関する情報入手の程度別

- 「健康づくりについての情報」と「高齢者についてのサービス情報」、「生きがいづくりについての情報」といった特に高齢者層にとって必要な情報については、いずれも“福祉に関する情報が入ってきていると感じている人”ほど割合が順次多くなる傾向がみられます。
- これは、図2-2-3でみたように、年齢層が高いほど、“福祉に関する情報が入ってきていると感じている人”の割合が多くなる傾向があることに連動した結果であると考えられます。
- しかしながら、これら3つの特に高齢者層にとって必要な情報は、福祉に関する情報が全く入っていない人においても、それぞれ19.6%、33.0%、21.4%みられ、知りたいと思っていながらも、そうした情報にアクセスできていないような人が少なくない状況がうかがえます。
- 「障害者・児についてのサービス情報」と「ボランティアなどの市民活動、企業の社会貢献活動についての情報」については、福祉に関する情報が十分入ってきている人における割合が、それぞれ19.2%、30.8%と多くなっています。これらの情報についても、福祉に関する情報が全く入ってきていない人でも、それぞれ8.0%、9.8%みられ、知りたいと思っていながらも、そうした情報にアクセスできていないような人が少ないながらもいる状況がうかがえます。
- 「子育てについての情報」については、福祉に関する情報があまり入ってこない人において割合(24.3%)が多くなっており、「子育てについての情報」を知りたいと思っていながらも、そうした情報にあまりアクセスできていないような人が少なくない状況をうかがわせる結果となっています。
- 一方、知りたい福祉に関する情報が「今は特にない」の割合は、福祉に関する情報が全く入ってきていない人において36.6%と割合が多くなっています。これは、福祉に関する情報が全く入ってきていない人の中には、福祉に関する情報を特に必要としていない人が4割弱(36.6%)と少なからず含まれていることを示すものです(図2-3-2)。

図2-3-2 福祉に関する情報入手の程度別「知りたい福祉に関する情報内容」

上段:回答数 下段:%	全体	健康づくり についての 情報	子育てに ついての 情報	高齢者に ついての サービス 情報	障害者 (児)につ いての サービス 情報	ボランティ アやNPO などの市 民活動、 企業の社 会貢献活 動につい ての情報	生きがい づくり(講 座、教室、 サークル 活動など) について の情報	その他	今は特に ない	回答なし
全体	1,244 100.0	324 26.0	233 18.7	473 38.0	95 7.6	132 10.6	395 31.8	8 0.6	359 28.9	14 1.1
十分入ってきている	26 100.0	11 42.3	3 11.5	14 53.8	5 19.2	8 30.8	12 46.2	1 3.8	5 19.2	1 3.8
まあまあ入ってきている	422 100.0	132 31.3	78 18.5	182 43.1	30 7.1	44 10.4	165 39.1	3 0.7	92 21.8	5 1.2
あまり入ってこない	441 100.0	132 29.9	107 24.3	182 41.3	44 10.0	56 12.7	155 35.1	3 0.7	85 19.3	4 0.9
全く入ってこない	112 100.0	22 19.6	21 18.8	37 33.0	9 8.0	11 9.8	24 21.4	1 0.9	41 36.6	1 0.9
わからない	218 100.0	22 10.1	22 10.1	49 22.5	7 3.2	13 6.0	31 14.2	-	127 58.3	1 0.5
回答なし	25 100.0	5 20.0	2 8.0	9 36.0	-	-	8 32.0	-	9 36.0	2 8.0

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

(4) 福祉に関する情報の入手先 (問 13)

問 13 あなたは、福祉に関する必要な情報 (問 11 の選択肢参照) をどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)

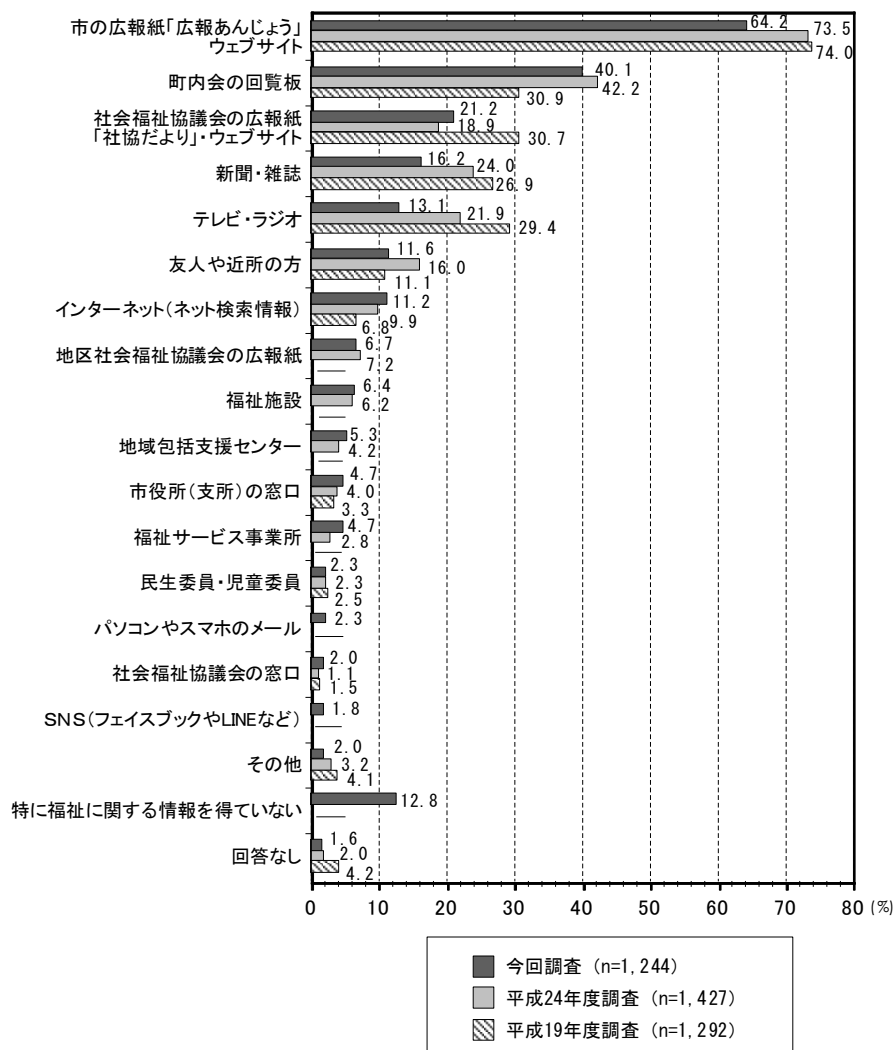
要点

依然として「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 64.2%と最も多く、「町内会の回覧板」(40.1%) が2番目に多くなっています。

全体

- 「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 64.2%と最も多く、次いで「町内会の回覧板」が 40.1%、「社会福祉協議会の広報紙『社協だより』・ウェブサイト」が 21.2%、「新聞・雑誌」の割合が 16.2%となっています。
- こうした市や社協の「市の広報紙・ウェブサイト」や「町内会の回覧板」、「新聞・雑誌」等の紙を中心とした媒体から情報を得ている割合が多いが、市役所や社協、地域包括支援センター等の専門機関の窓口や民生委員などから直接、情報を得ている割合は少ない傾向にあります。
- 前回・前々回の調査 (平成 24 年度調査・平成 19 年度調査) と比較すると、「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」と「新聞・雑誌」、「テレビ・ラジオ」の割合は前回調査結果に比べて、それぞれ 9.3 ポイント、7.8 ポイント、8.8 ポイント低下しています。一方、もともと割合が少ないものの「インターネット (ネット検索情報)」については、前々回よりも前回、前回よりも今回の方がというように、割合が徐々に増加しています (図 2-4-1)。

図 2-4-1 「福祉に関する情報の入手先」 (前回・前々回比較)



年齢別

- 「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」については、20歳代以下を除くどの年齢層においても最も割合が多くなっています。20歳代以下では、「特に福祉に関する情報を得ていない」の割合（37.7%）が「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」の割合（31.6%）を上回っています。
- 年齢が高いほど「町内会の回覧板」の割合が多くなる傾向がみられます。「インターネット（ネット検索情報）」はこれとは逆の傾向がみられます（図2-4-2）。

図2-4-2 年齢別「福祉に関する情報の入手先」

上段：回答数 下段：%	全体	市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト	社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト	地区社会福祉協議会の広報紙	市役所（支所）の窓口	社会福祉協議会の窓口	地域包括支援センター	福祉施設	福祉サービス事業所	町内会の回覧板
全体	1,244 100.0	799 64.2	264 21.2	83 6.7	59 4.7	25 2.0	66 5.3	80 6.4	58 4.7	499 40.1
20歳代以下	114 100.0	36 31.6	11 9.6	1 0.9	1 0.9	1 0.9	-	4 3.5	2 1.8	23 20.2
30歳代	153 100.0	108 70.6	28 18.3	6 3.9	9 5.9	1 0.7	3 2.0	4 2.6	3 2.0	45 29.4
40歳代	222 100.0	147 66.2	41 18.5	10 4.5	10 4.5	2 0.9	5 2.3	10 4.5	7 3.2	85 38.3
50歳代	188 100.0	136 72.3	39 20.7	10 5.3	8 4.3	4 2.1	11 5.9	11 5.9	14 7.4	76 40.4
60歳～64歳	105 100.0	75 71.4	25 23.8	8 7.6	4 3.8	2 1.9	7 6.7	7 6.7	5 4.8	44 41.9
65歳～74歳	264 100.0	184 69.7	77 29.2	31 11.7	12 4.5	6 2.3	18 6.8	23 8.7	9 3.4	132 50.0
75歳以上	188 100.0	111 59.0	43 22.9	17 9.0	14 7.4	9 4.8	22 11.7	21 11.2	18 9.6	91 48.4
回答なし	10 100.0	2 20.0	-	-	1 10.0	-	-	-	-	3 30.0

上段：回答数 下段：%	民生委員・児童委員	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	友人や近所の方	インターネット（ネット検索情報）	パソコンやスマホのメール	SNS（フェイスブックやLINEなど）	その他	特に福祉に関する情報を得ていない	回答なし
全体	28 2.3	202 16.2	163 13.1	144 11.6	139 11.2	29 2.3	23 1.8	25 2.0	159 12.8	20 1.6
20歳代以下	-	13 11.4	13 11.4	7 6.1	24 21.1	4 3.5	8 7.0	7 6.1	43 37.7	-
30歳代	1 0.7	5 3.3	8 5.2	19 12.4	30 19.6	3 2.0	3 2.0	6 3.9	19 12.4	1 0.7
40歳代	-	29 13.1	21 9.5	25 11.3	29 13.1	6 2.7	6 2.7	7 3.2	36 16.2	1 0.5
50歳代	3 1.6	41 21.8	24 12.8	22 11.7	24 12.8	6 3.2	3 1.6	3 1.6	15 8.0	2 1.1
60歳～64歳	2 1.9	15 14.3	13 12.4	12 11.4	12 11.4	2 1.9	-	-	7 6.7	2 1.9
65歳～74歳	9 3.4	57 21.6	45 17.0	35 13.3	17 6.4	7 2.7	3 1.1	-	22 8.3	8 3.0
75歳以上	13 6.9	42 22.3	37 19.7	24 12.8	3 1.6	1 0.5	-	1 0.5	13 6.9	6 3.2
回答なし	-	-	2 20.0	-	-	-	-	1 10.0	4 40.0	-

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

○いずれの情報についても「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」と「町内会の回覧板」が主要な情報入手手段となっています。

○しかしながら、障害者についてのサービス情報については、「インターネット(ネット検索情報)」の割合(30.5%)が「町内会の回覧板」と同じになっていること、「市役所(支所)の窓口」(20.0%)と「福祉施設」(21.1%)の割合が他の知りたい情報内容に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。これは、障害者についてのサービス情報を知りたいという人は、専門的な情報を欲している状況をうかがわせるものです。(図2-4-3)。

図2-4-3 知りたい情報内容別「福祉に関する情報の入手先」

上段:回答数 下段:%	全体	市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト	社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト	地区社会福祉協議会の広報紙	市役所(支所)の窓口	社会福祉協議会の窓口	地域包括支援センター	福祉施設	福祉サービス事業所	町内会の回覧板
全体	1,244	799	264	83	59	25	66	80	58	499
	100.0	64.2	21.2	6.7	4.7	2.0	5.3	6.4	4.7	40.1
健康づくりについての情報	324	250	99	36	13	7	22	26	16	164
	100.0	77.2	30.6	11.1	4.0	2.2	6.8	8.0	4.9	50.6
子育てについての情報	233	178	48	12	13	3	5	9	6	88
	100.0	76.4	20.6	5.2	5.6	1.3	2.1	3.9	2.6	37.8
高齢者についてのサービス情報	473	340	129	46	32	19	41	45	30	217
	100.0	71.9	27.3	9.7	6.8	4.0	8.7	9.5	6.3	45.9
障害者(児)についてのサービス情報	95	59	26	8	19	6	6	20	14	29
	100.0	62.1	27.4	8.4	20.0	6.3	6.3	21.1	14.7	30.5
ボランティアやNPOなどの市民活動、企業の社会貢献活動についての情報	132	100	44	22	8	10	10	10	8	60
	100.0	75.8	33.3	16.7	6.1	7.6	7.6	7.6	6.1	45.5
生きがいづくりについての情報	395	314	133	42	15	10	21	35	17	204
	100.0	79.5	33.7	10.6	3.8	2.5	5.3	8.9	4.3	51.6
その他	8	5	4	1	-	1	1	-	-	3
	100.0	62.5	50.0	12.5	-	12.5	12.5	-	-	37.5
今は特になし	359	172	49	13	11	3	13	11	13	115
	100.0	47.9	13.6	3.6	3.1	0.8	3.6	3.1	3.6	32.0
回答なし	14	4	-	-	1	-	-	-	-	4
	100.0	28.6	-	-	7.1	-	-	-	-	28.6

上段:回答数 下段:%	民生委員・児童委員	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	友人や近所の方	インターネット(ネット検索情報)	パソコンやスマホのメール	SNS(フェイスブックやLINEなど)	その他	特に福祉に関する情報を得ていない	回答なし
全体	28	202	163	144	139	29	23	25	159	20
	2.3	16.2	13.1	11.6	11.2	2.3	1.8	2.0	12.8	1.6
健康づくりについての情報	10	84	61	42	49	11	6	8	17	2
	3.1	25.9	18.8	13.0	15.1	3.4	1.9	2.5	5.2	0.6
子育てについての情報	1	23	16	36	51	5	10	12	16	1
	0.4	9.9	6.9	15.5	21.9	2.1	4.3	5.2	6.9	0.4
高齢者についてのサービス情報	15	106	96	64	70	12	9	10	28	5
	3.2	22.4	20.3	13.5	14.8	2.5	1.9	2.1	5.9	1.1
障害者(児)についてのサービス情報	3	15	12	15	29	4	2	4	5	-
	3.2	15.8	12.6	15.8	30.5	4.2	2.1	4.2	5.3	-
ボランティアやNPOなどの市民活動、企業の社会貢献活動についての情報	4	32	20	17	27	5	6	4	9	-
	3.0	24.2	15.2	12.9	20.5	3.8	4.5	3.0	6.8	-
生きがいづくりについての情報	9.0	71.0	50.0	49.0	62.0	12.0	11.0	5.0	19.0	5.0
	2.3	18.0	12.7	12.4	15.7	3.0	2.8	1.3	4.8	1.3
その他	2	3	-	-	3	-	-	2	-	-
	25.0	37.5	-	-	37.5	-	-	25.0	-	-
今は特になし	9	45	35	28	21	5	6	6	102	8
	2.5	12.5	9.7	7.8	5.8	1.4	1.7	1.7	28.4	2.2
回答なし	-	1	2	-	-	-	-	-	3	3
	-	7.1	14.3	-	-	-	-	-	21.4	21.4

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

(5) 充実してほしい情報発信手段 (問 14)

問 14 あなたにとって、福祉に関する情報 (問 11 の選択肢参照) をより得やすくするためには、どの情報発信を充実してほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

要点

問 14 の福祉に関する情報の入手先と同様に、「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 63.9%と最も多く、次いで「町内会の回覧板」(35.3%)「社会福祉協議会の広報紙『社協だより』・ウェブサイト」(19.9%)が多くなっています。

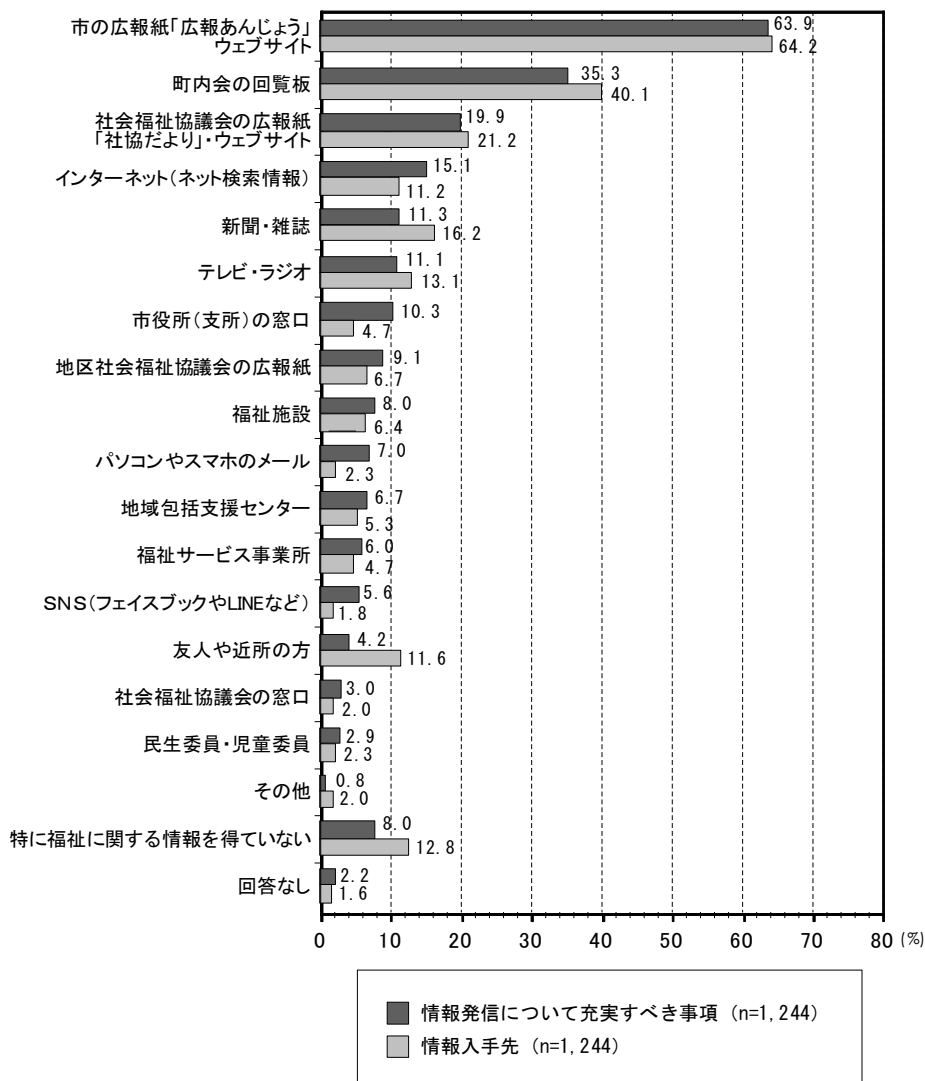
全体

○充実してほしい情報発信手段は、「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 63.9%と最も多く、次いで「町内会の回覧板」が 35.3%、「社会福祉協議会の広報紙『社協だより』・ウェブサイト」が 19.9%というように、上位 3 番目までは問 14 の福祉に関する情報の入手先と同様の結果となっています。

○一方、「新聞・雑誌」(11.3%)や「テレビ・ラジオ」(11.1%)、「友人や近所の方」(4.2%)を上回る割合(15.1%)で「インターネット(ネット検索情報)」が充実してほしい情報発信手段の 4 番目になっていることが特徴としてみられます。また、「市役所(支所)の窓口」の割合(10.3%)が福祉に関する情報の入手先の割合(4.7%)を 5.6 ポイント上回っており、情報入手実態よりもニーズの方が若干高くなっていることが特徴としてみられます。

○なお、それとは逆に「友人や近所の方」の割合(4.2%)については、福祉に関する情報の入手先の割合(11.6%)を 7.4 ポイント下回っています(図 2-5-1)。

図 2-5-1 「充実してほしい情報発信」(情報入手先比較)



年齢別

○「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」については、20 歳代以下を除くどの年齢層においても最も割合が多くなっています。20 歳代以下では、「インターネット（ネット検索情報）」の割合（30.7%）が「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」の割合（35.1%）に拮抗しています。

○65 歳以上の高齢者層ほど「町内会の回覧板」の割合が多くなっています。「インターネット（ネット検索情報）」は 20 歳代以下（30.7%）をはじめ、30 歳代（22.9%）や 50 歳代（22.3%）で多くなっています（図 2-5-2）。

図 2-5-2 年齢別「充実してほしい情報発信」

上段：回答数 下段：%	全体	市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト	社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト	地区社会福祉協議会の広報紙	市役所（支所）の窓口	社会福祉協議会の窓口	地域包括支援センター	福祉施設	福祉サービス事業所	町内会の回覧板
全体	1,244 100.0	795 63.9	248 19.9	113 9.1	128 10.3	37 3.0	83 6.7	100 8.0	75 6.0	439 35.3
20歳代以下	114 100.0	40 35.1	12 10.5	2 1.8	6 5.3	2 1.8	2 1.8	5 4.4	3 2.6	18 15.8
30歳代	153 100.0	103 67.3	23 15.0	6 3.9	19 12.4	5 3.3	5 3.3	11 7.2	7 4.6	47 30.7
40歳代	222 100.0	139 62.6	38 17.1	10 4.5	25 11.3	6 2.7	10 4.5	12 5.4	11 5.0	66 29.7
50歳代	188 100.0	138 73.4	38 20.2	19 10.1	18 9.6	5 2.7	9 4.8	11 5.9	8 4.3	60 31.9
60歳～64歳	105 100.0	76 72.4	25 23.8	9 8.6	12 11.4	1 1.0	7 6.7	4 3.8	5 4.8	33 31.4
65歳～74歳	264 100.0	183 69.3	76 28.8	41 15.5	24 9.1	11 4.2	22 8.3	31 11.7	19 7.2	125 47.3
75歳以上	188 100.0	113 60.1	36 19.1	25 13.3	21 11.2	6 3.2	26 13.8	24 12.8	21 11.2	88 46.8
回答なし	10 100.0	3 30.0	-	1 10.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0

上段：回答数 下段：%	民生委員・児童委員	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	友人や近所の方	インターネット（ネット検索情報）	パソコンやスマホのメール	SNS（フェイスブックやLINEなど）	その他	特に福祉に関する情報を得ていない	回答なし
全体	36 2.9	140 11.3	138 11.1	52 4.2	188 15.1	87 7.0	70 5.6	10 0.8	99 8.0	27 2.2
20歳代以下	2 1.8	9 7.9	18 15.8	5 4.4	35 30.7	17 14.9	29 25.4	2 1.8	24 21.1	1 0.9
30歳代	4 2.6	9 5.9	6 3.9	7 4.6	35 22.9	18 11.8	20 13.1	1 0.7	11 7.2	2 1.3
40歳代	4 1.8	21 9.5	22 9.9	8 3.6	39 17.6	18 8.1	14 6.3	1 0.5	22 9.9	4 1.8
50歳代	2 1.1	21 11.2	23 12.2	2 1.1	42 22.3	17 9.0	5 2.7	1 0.5	9 4.8	1 0.5
60歳～64歳	3 2.9	9 8.6	8 7.6	3 2.9	11 10.5	6 5.7	-	1 1.0	8 7.6	2 1.9
65歳～74歳	7 2.7	36 13.6	28 10.6	11 4.2	19 7.2	11 4.2	1 0.4	2 0.8	14 5.3	6 2.3
75歳以上	14 7.4	35 18.6	31 16.5	16 8.5	5 2.7	-	1 0.5	1 0.5	9 4.8	11 5.9
回答なし	-	-	2 20.0	-	2 20.0	-	-	1 10.0	2 20.0	-

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

3 日常生活、将来の暮らしについて

(1) 近所づきあいの程度 (問 15)

問 15 あなたは、地域での付き合い（近所づきあい）をどの程度していますか。
(○は1つだけ)

要点

“近所づきあいをよく・ある程度している人”が52.2%を占めているのに対して、「あまり付き合っていない」(32.4%)と「全く付き合っていない」(12.5%)を合わせた割合は44.9%となっています。

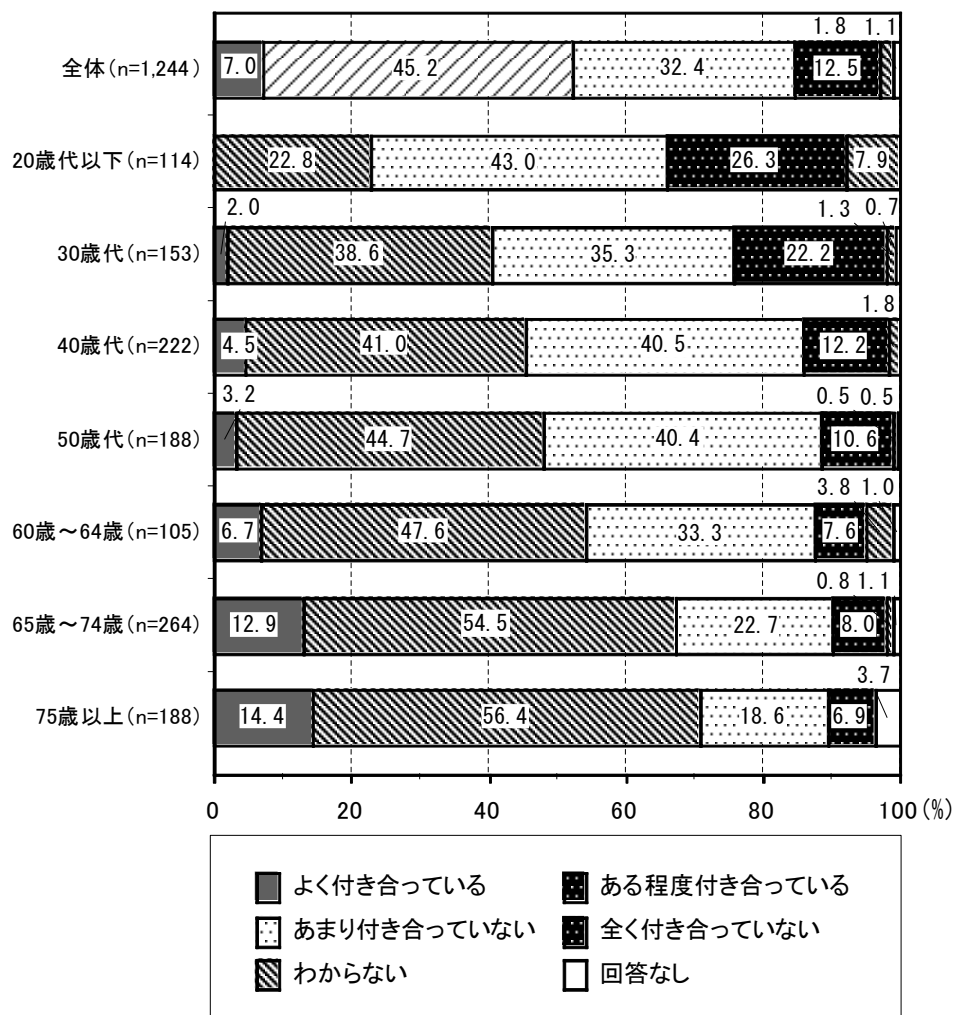
全体

○「よく付き合っている」(7.0%)と「ある程度付き合っている」(45.2%)を合わせた“近所づきあいをよく・ある程度している人”が52.2%を占めています。「あまり付き合っていない」(32.4%)と「全く付き合っていない」(12.5%)を合わせた割合(44.9%)を7.3ポイント上回っています(図3-1-1)。

年齢別

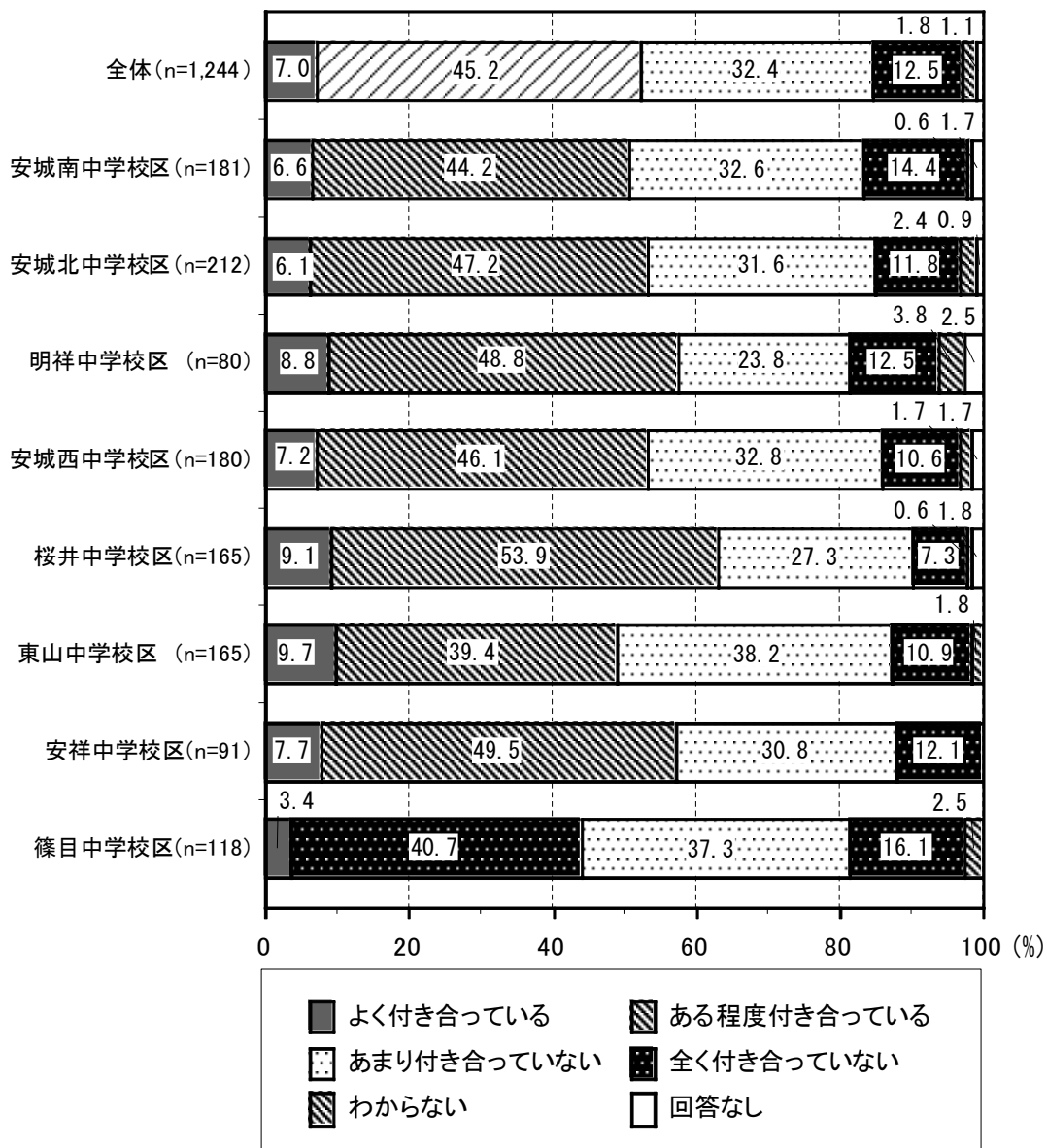
○“近所づきあいをよく・ある程度している人”の割合は、75歳以上では70.8%を占めているが、年齢層が低くなるにしたがってその割合は少なくなる傾向が顕著にみられ、20歳代以下では、22.8%（「ある程度付き合っている」）と1/4にも満たない結果になっています(図3-1-1)。

図3-1-1 年齢別「近所づきあいの程度」



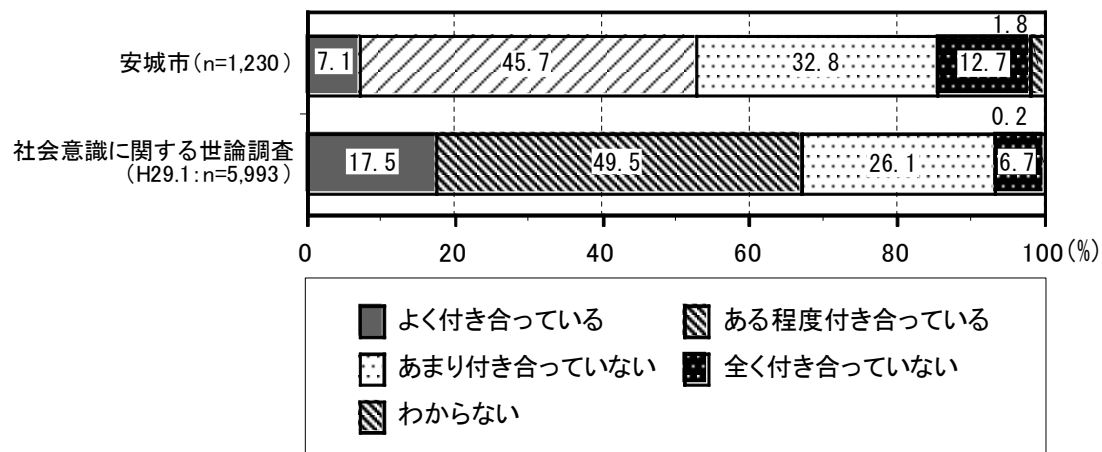
- “近所づきあいをよく・ある程度している人”の割合は、桜井中学校区で63.0%を占め、全体値を10.8ポイント上回っています。また、安祥中学校区（57.2%）と明祥中学校区（57.6%）でも、それぞれ全体値を5.0ポイント、5.4ポイント上回っています。
- 逆に篠目中学校区（44.1%）では全体値を8.1ポイント下回っています（図3-1-2）。

図3-1-2 中学校区別「近所づきあいの程度」



○国の社会意識に関する世論調査（平成 29 年調査）と比較すると国では、近所づきあいをよく・ある程度している人”の割合は 67.0%と、安城市（52.8%）の方が 14.2 ポイント下回っており、近所づきあいが国よりも希薄である状況をうかがわせる結果になっています（図 3-1-3）。

図 3-1-3 「近所づきあいの程度」（世論調査比較）



※国の調査では、「回答なし」を含めていないことから、それに合わせて「回答なし」を除いた%にしたため、図 3-1-1 や 3-1-2 とは%が一致していない。

(2) 地域での付き合いの満足度 (問 16)

問 16 地域での付き合い (近所づきあい) に満足していますか。(○は1つだけ)

要点

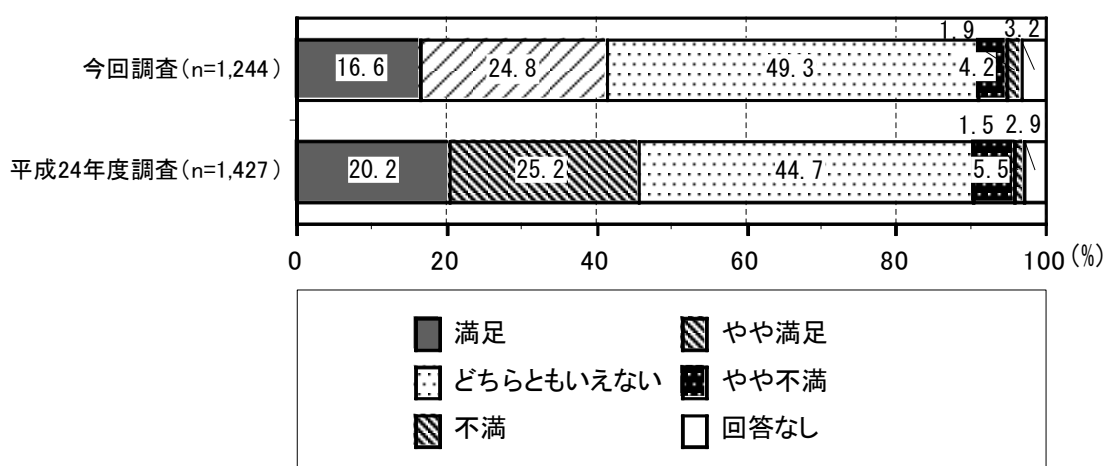
“近所づきあいに満足している人”の割合が41.4%に対して、“近所づきあいに不満である人”は6.1%で、総じて、近所づきあいには概ね満足している状況にあります

全体

○「満足」(16.6%)と「やや満足」(24.8%)を合わせた“近所づきあいに満足している人”の割合が41.4%、「やや不満」(4.2%)と「不満」(1.9%)を合わせた“近所づきあいに不満である人”の割合が6.1%となっています。「どちらともいえない」との回答が49.3%を占めているものの、総じて近所づきあいには概ね満足している状況にあります。

○前回調査(平成24年度調査)結果との有意な差はみられません(図3-2-1)。

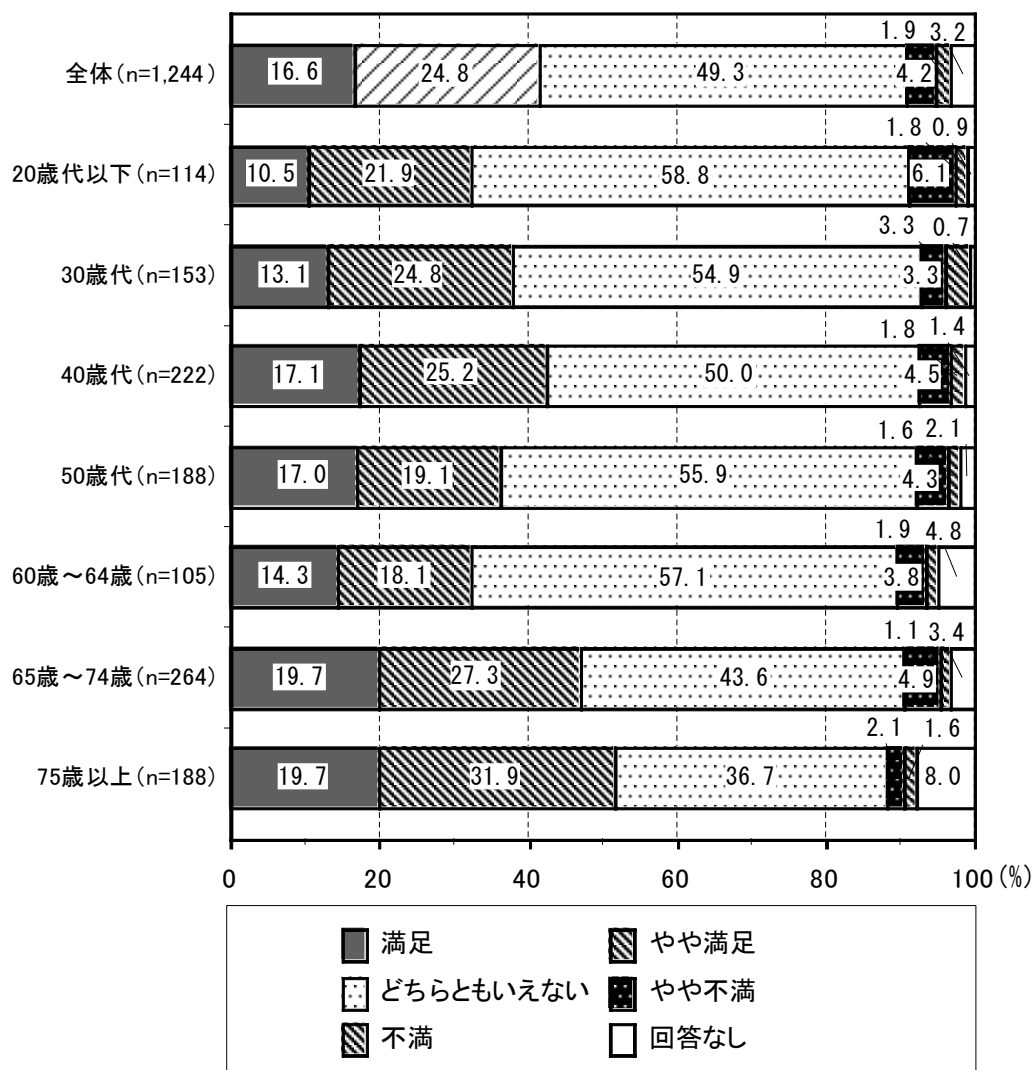
図3-2-1 「地域での付き合いの満足度」(前回比較)



○ “近所づきあいに不満である人” の割合については、年齢の違いによる有意な差はみられません。

○ 一方、“近所づきあいに満足している人” の割合については、75 歳以上では 51.6% を占め、全体値を 10.2 ポイント上回っていますが、20 歳代以下 (32.4%) と 60～64 歳 (32.4%) では、共に全体値を 9.0 ポイント下回っており、満足度が低くなっています (図 3-2-2)。

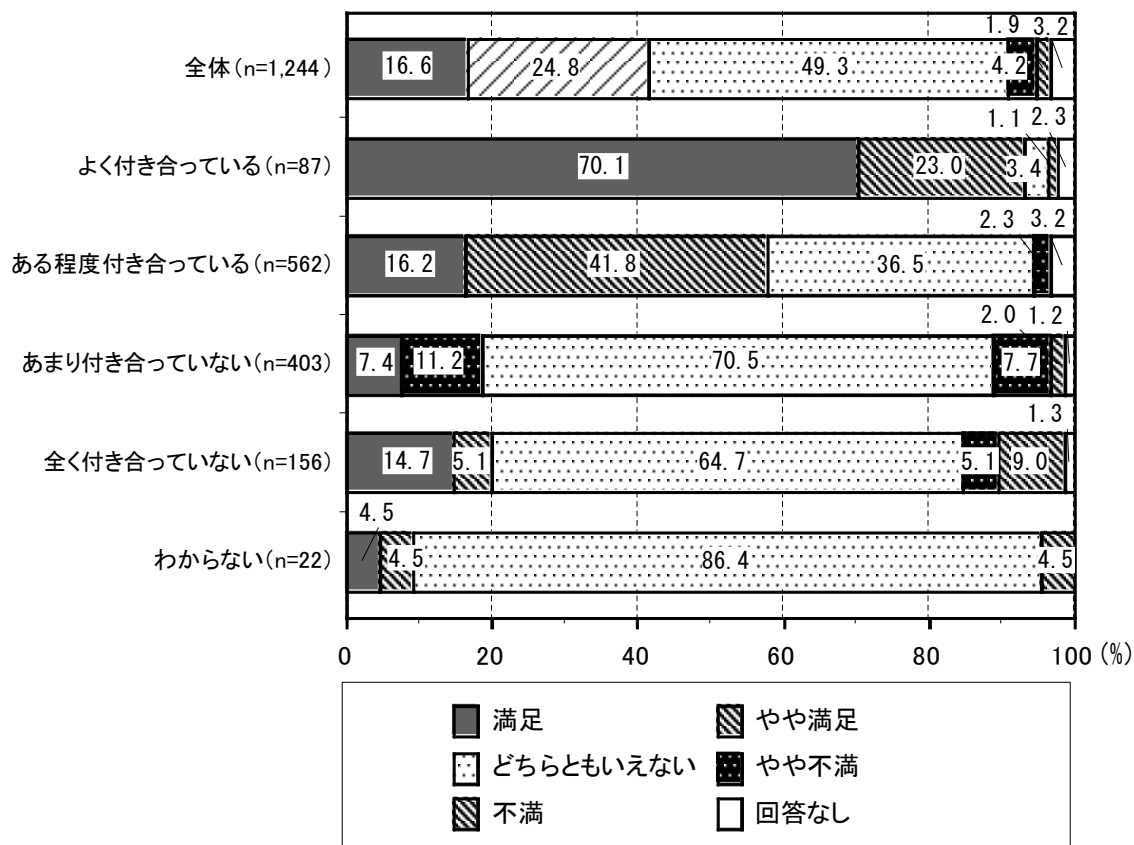
図 3-2-2 年齢別「地域での付き合いの満足度」



○近所づきあいがよい人ほど、満足度が高く、近所づきあいが希薄である人ほど満足度が低い傾向がみられます。

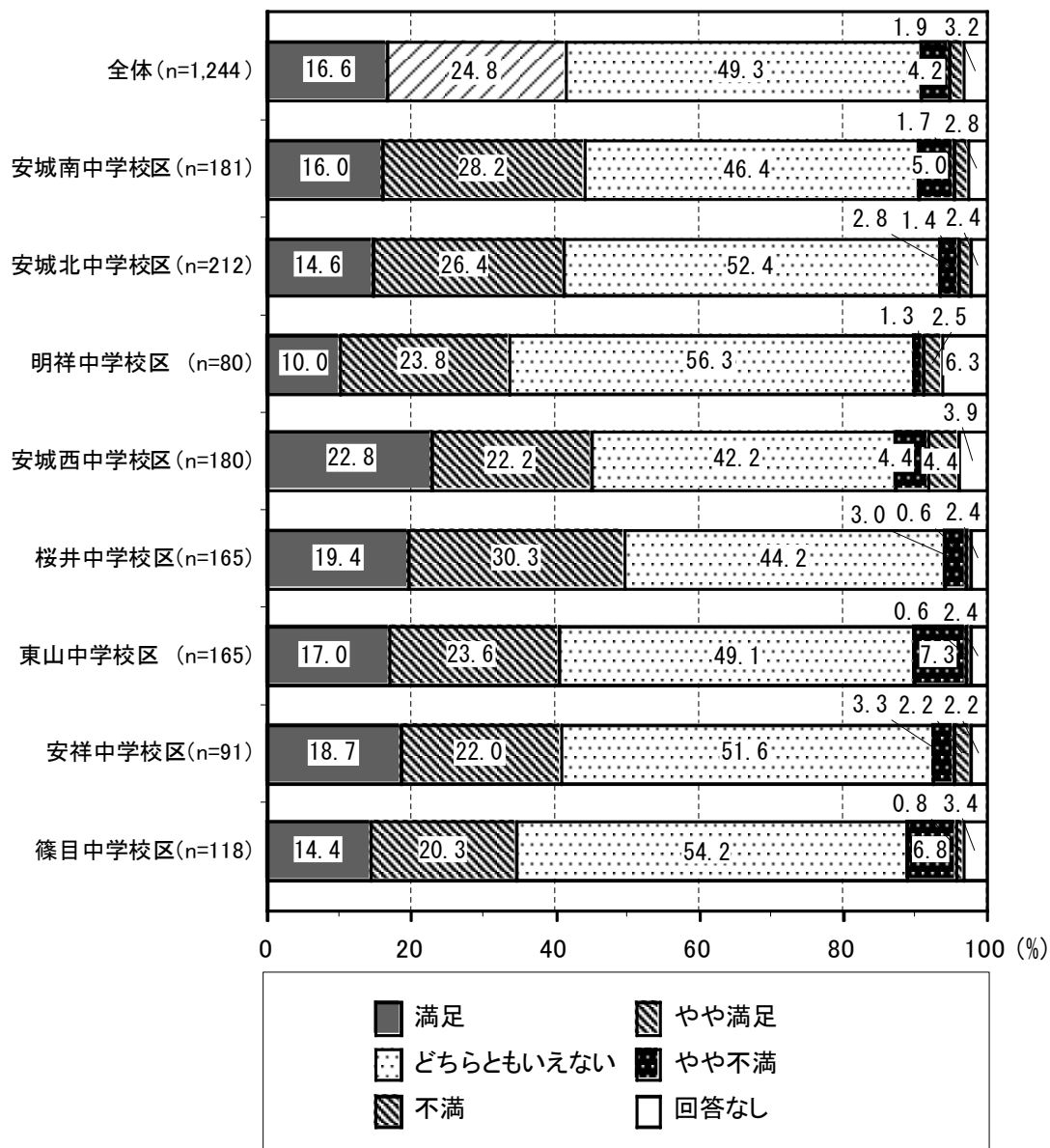
○近所づきあいが希薄である「全く付き合っていない」と「あまり付き合っていない」という人における“近所づきあいに満足している人”の割合は、それぞれ19.8%、18.6%と、共に2割にも達していませんが、「やや不満」や「不満」が極端に多いわけではなく、「どちらともいえない」が、それぞれ64.7%、70.5%と多数を占めています（図3-2-3）。

図3-2-3 近所づきあいの程度別「地域での付き合いの満足度」



○ “近所づきあいに満足している人” の割合は、桜井中学校区で 49.7% を占め多い一方で、明祥中学校区（33.8%）と篠目中学校区（34.7%）で少なくなっています（図 3-2-4）。

図 3-2-4 中学校区別「地域での付き合いの満足度」



(3) 望ましい地域での付き合いの程度 (問 17)

問 17 地域での付き合い (近所づきあい) は、どの程度が望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

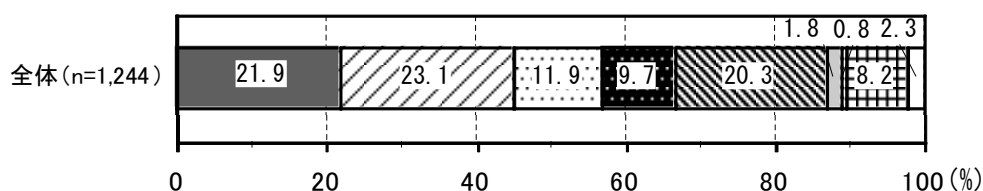
要点

“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”は合わせて 45.0%を占めています。しかしながら、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人 (20.3%) を含む“困った時に助け合うことをしない近所づきあいを望む人” (41.9%) もほぼ拮抗しています。

全体

- 「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」が 21.9%、「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」が 23.1%で、“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”は合わせて 45.0%を占めています。
- これに対して、「地域での付き合いは必要ない」の割合は 1.8%と僅かですが、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人が 20.3%を占めています。これと「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する」(11.9%)と「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする」(9.7%)を合わせた“困った時に助け合うことをしない近所づきあいを望む人”は 41.9%も占め、“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合と拮抗しています (図 3-3-1)。

図 3-3-1 「望ましい地域での付き合いの程度」

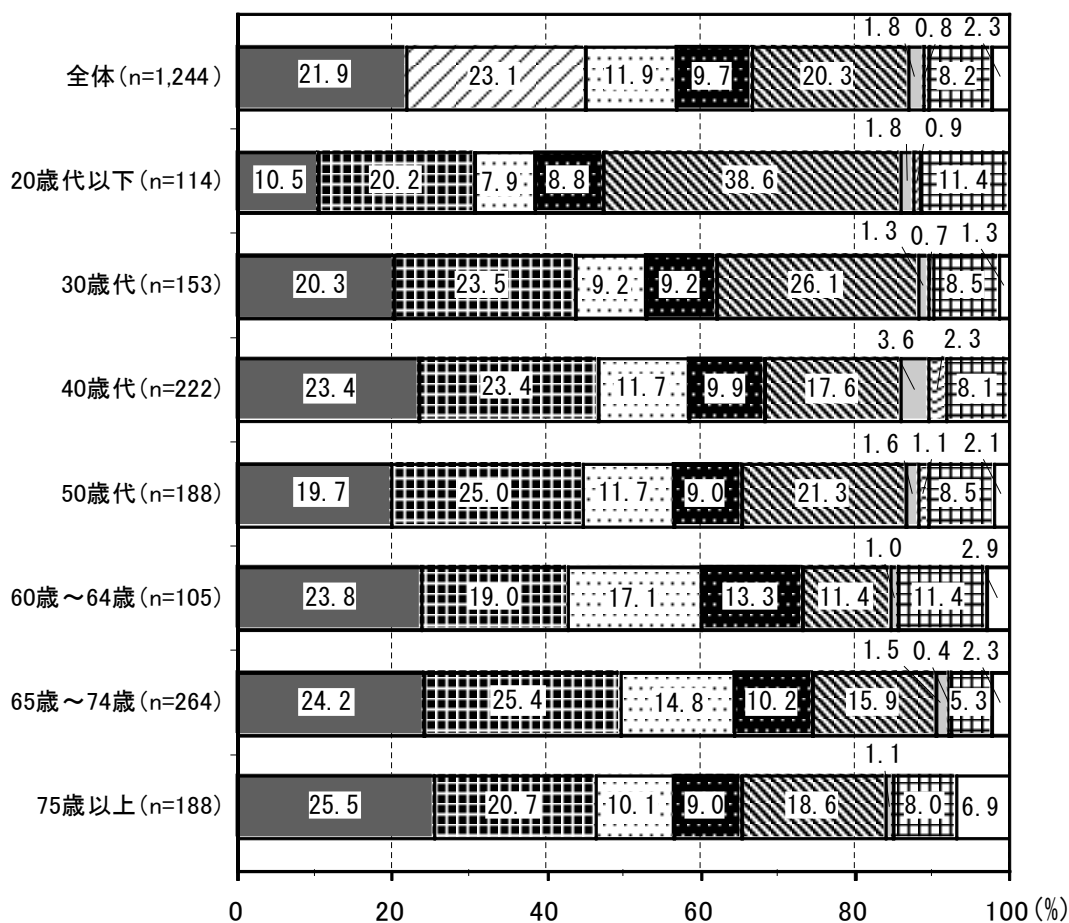


- 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う
- 気の合う住民の間で困ったときに助け合う
- 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する
- 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする
- 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす
- 地域での付き合いは必要ない
- その他
- わからない
- 回答なし

○20 歳代以下で“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合が 30.7%と、他の年齢層に比べて少なくなっています。その分、20 歳代以下では「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人が 38.6%と目立って多くなっています。

○また、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人は、30 歳代でも 26.1%を占め、全体値に比べて多くなっています(図 3-3-2)。

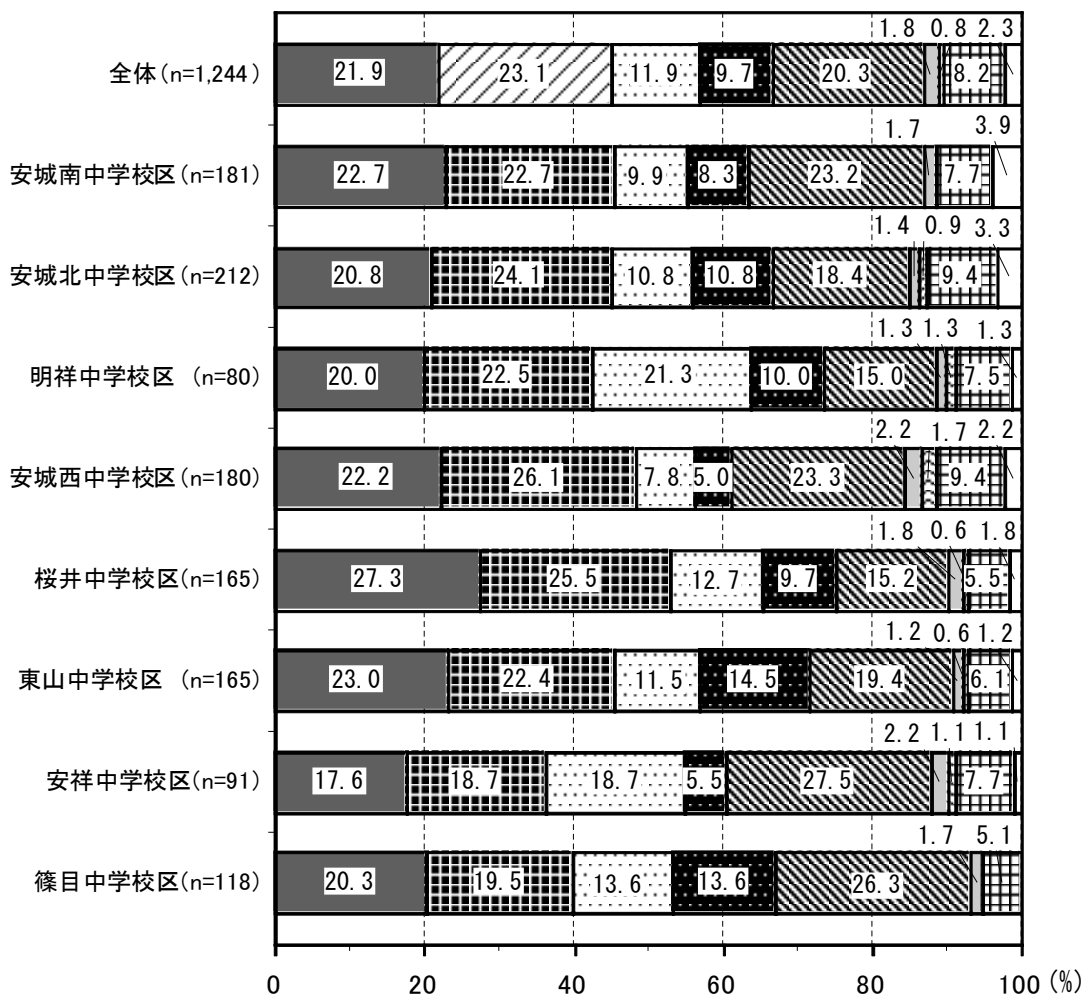
図 3-3-2 年齢別「望ましい地域での付き合いの程度」



- 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う
- 気の合う住民の間で困ったときに助け合う
- 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する
- 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする
- 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす
- 地域での付き合いは必要ない
- その他
- わからない
- 回答なし

○ “住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合は、桜井中学校区では52.8%を占め、全体値を7.8ポイント上回っていますが、安祥中学校区（36.3%）では、全体値を8.7ポイント下回っています（図3-3-3）。

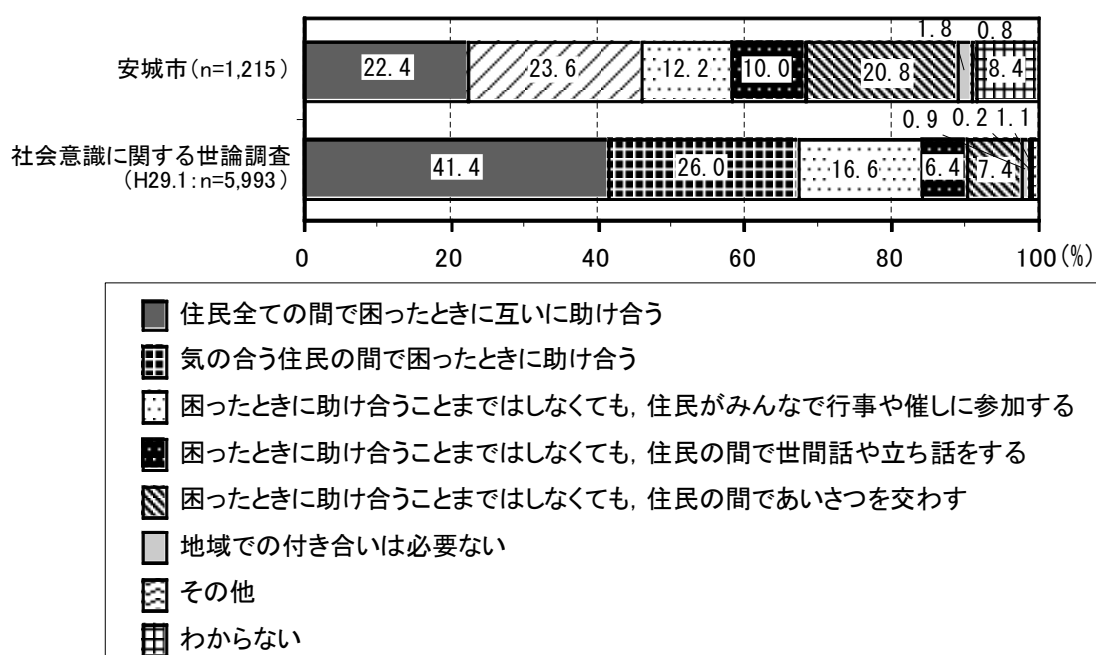
図3-3-3 中学校区別「望ましい地域での付き合いの程度」



- 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う
- ▨ 気の合う住民の間で困ったときに助け合う
- ▤ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する
- ▥ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする
- ▧ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす
- ▩ 地域での付き合いは必要ない
- その他
- わからない
- 回答なし

- 社会意識に関する世論調査（平成 29 年調査）と比較すると、“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合は、国よりも低くなっています。特に、「住民全ての間で困った時にお互い助け合う」の割合は、国が 41.4%であるのに対して、安城市では 22.4%で、国よりも 19.0 ポイントも下回っています。
- 一方、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人の割合（20.8%）は、国を 13.4 ポイントも上回っています。（図 3-3-4）。

図 3-3-4 「望ましい地域での付き合いの程度」（世論調査比較）



※国の調査では、「回答なし」を含めていないことから、それに合わせて「回答なし」を除いた%にしたため、図 3-3-1 や 3-3-2、3-3-3 とは%が一致していない。

(4) 近所からの頼みごとの有無 (問 18)

問 18 あなたは、近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることがありますか。(○は1つだけ)

要点

近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることが「ある」という人は、25.9%を占めています。

全体

○近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることが「ある」という人は、25.9%を占めています。前回調査（平成24年度調査）結果とほとんど変化はありません（図3-4-1）。

年齢別

○年齢が高くなるほど、「ある」という割合が増加する傾向がみられます（図3-4-2）。

図3-4-1 「近所からの頼みごとの有無」(前回比較)

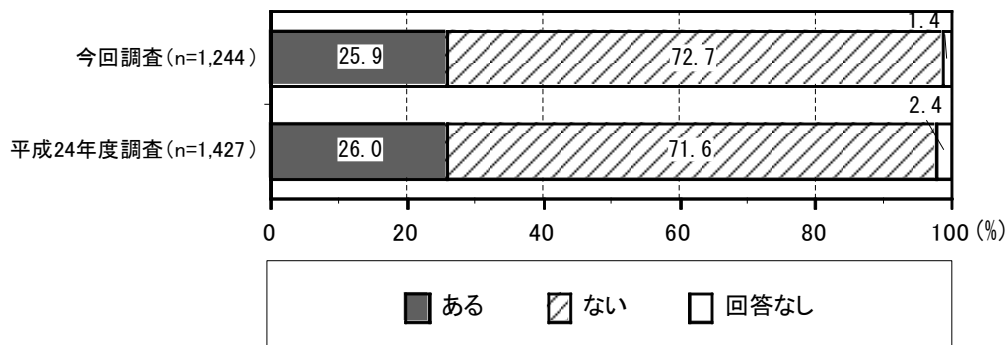
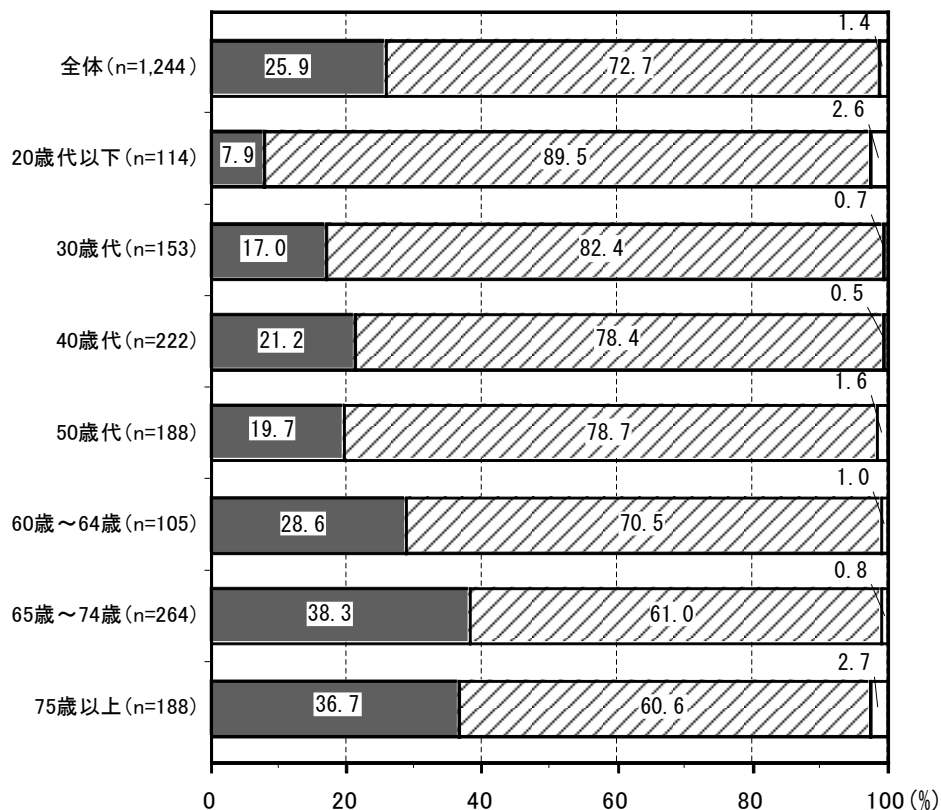
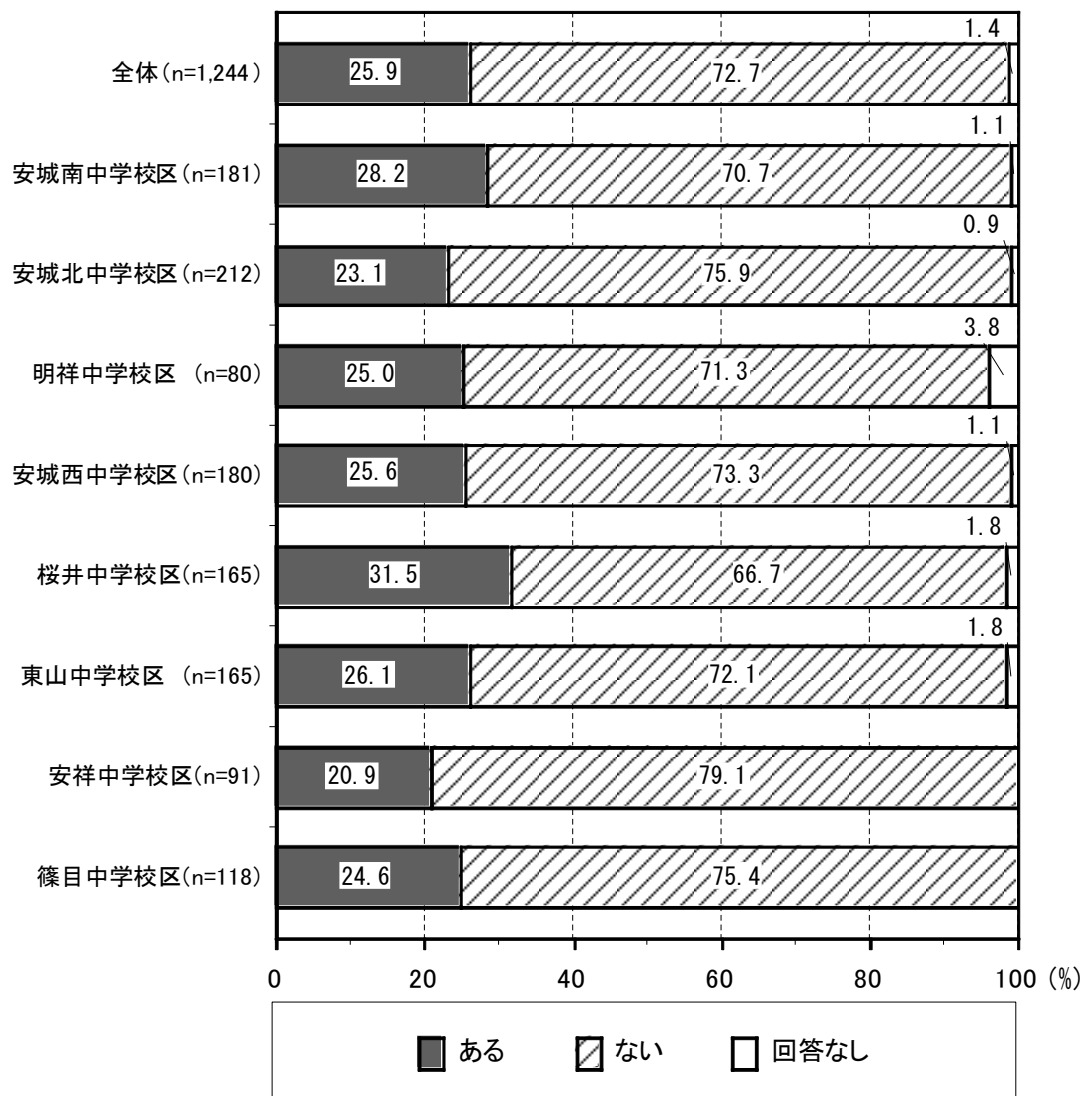


図3-4-2 年齢別「近所からの頼みごとの有無」



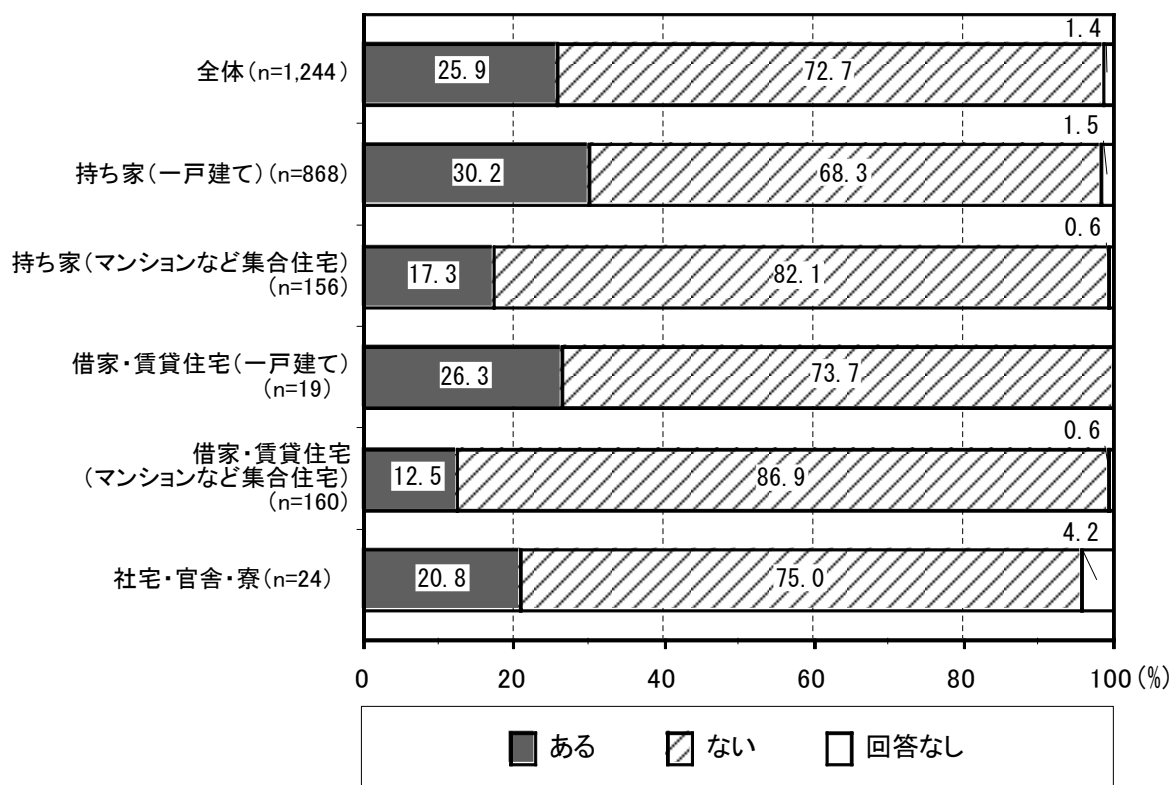
○「ある」という割合は、桜井中学校区では31.5%を占め、全体値を5.6ポイント上回っていますが、安祥中学校区（20.9%）では、全体値を5.0ポイント下回っています（図3-4-3）。

図3-4-3 中学校区別「近所からの頼みごとの有無」



- 「持ち家（一戸建て）」では、「ある」という割合が 30.2%を占めていますが、「借家・賃貸住宅（マンションなど集合住宅）」（12.5%）をはじめ、「持ち家（マンションなど集合住宅）」（17.3%）、「社宅・官舎・寮」（20.8%）では「ある」という割合が少なくなっています。
- このように、住まいの種類によって、近所との間柄が異なっています（図 3-4-4）。

図 3-4-4 住まい別「近所からの頼みごとの有無」



（５）具体的な手伝いの内容（問 18-1）

問 18-1 それは、どのような手伝いですか。（あてはまるものすべてに○・ない場合 12 に○）

要点

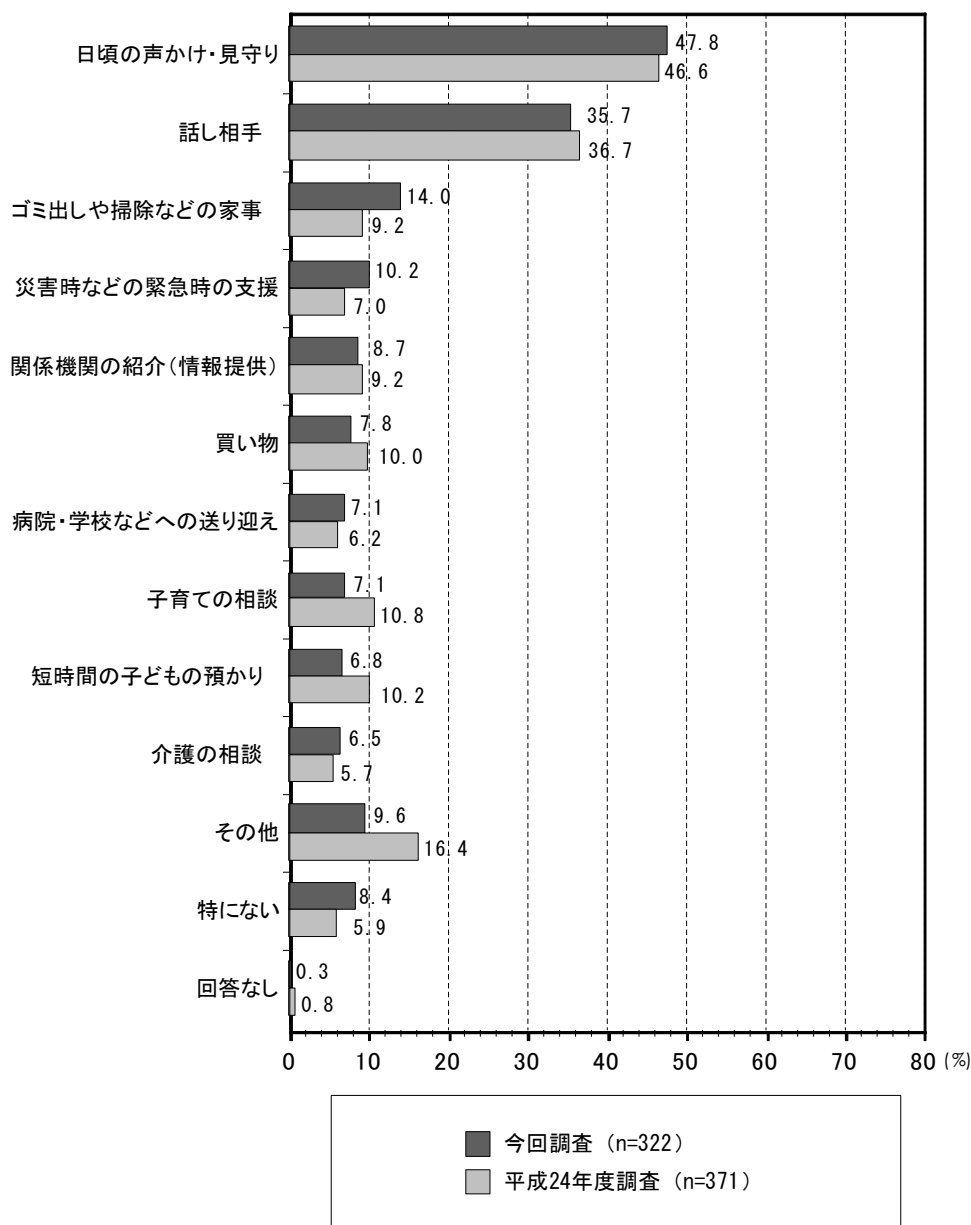
具体的な手伝いの内容については、「日頃の声かけ・見守り」が47.8%と最も多く、次いで「話し相手」（35.7%）が多くなっています。

全体

○問 18 で近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることが「ある」と回答した 322 人に対して手伝いの内容について尋ねたところ、「日頃の声かけ・見守り」が 47.8%と最も多く、次いで「話し相手」（35.7%）が多くなっています。上位 2 項目とは大きな差があるものの、「ゴミ出しや掃除などの家事」（14.0%）が 3 番目に多くなっています。

○前回調査（平成 24 年度調査）結果と比べてみても、大きな差異は認められません（図 3-5-1）。

図 3-5-1 「具体的な手伝いの内容」（前回調査）



年齢別

- 「日頃の声かけ・見守り」については、年齢が高くなるにしたがって概ね順次その割合が多くなる傾向がみられます。特に、60歳～64歳（60.0%）と75歳以上（62.3%）における割合が多くなっています。
- 「話し相手」についても、どちらかと言えば年齢が高くなるにしたがって回答割合が多くなる傾向がみられ、75歳以上（55.1%）で最も多くなっています。
- 一方、「短時間での子どもの預かり」と「子育ての相談」については、子育て期である30歳代で多くなっています（図3-5-2）。

図3-5-2 年齢別「具体的な手伝いの内容」

上段:回答数 下段:%	全体	日頃の声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 (情報提 供)
全体	322 100.0	154 47.8	115 35.7	25 7.8	45 14.0	23 7.1	22 6.8	23 7.1	21 6.5	28 8.7
20歳代以下	9 100.0	2 22.2	4 44.4	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	-	-
30歳代	26 100.0	5 19.2	6 23.1	2 7.7	2 7.7	4 15.4	8 30.8	7 26.9	-	2 7.7
40歳代	47 100.0	18 38.3	8 17.0	2 4.3	4 8.5	4 8.5	7 14.9	8 17.0	-	2 4.3
50歳代	37 100.0	16 43.2	11 29.7	3 8.1	6 16.2	4 10.8	3 8.1	4 10.8	2 5.4	3 8.1
60歳～64歳	30 100.0	18 60.0	9 30.0	-	1 3.3	-	-	-	4 13.3	2 6.7
65歳～74歳	101 100.0	51 50.5	38 37.6	11 10.9	19 18.8	7 6.9	2 2.0	3 3.0	11 10.9	11 10.9
75歳以上	69 100.0	43 62.3	38 55.1	5 7.2	12 17.4	3 4.3	1 1.4	-	4 5.8	7 10.1
回答なし	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	-	-	1 33.3

上段:回答数 下段:%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にな い	回答なし
全体	33 10.2	31 9.6	27 8.4	1 0.3
20歳代以下	-	-	4 44.4	-
30歳代	-	3 11.5	3 11.5	-
40歳代	4 8.5	4 8.5	6 12.8	-
50歳代	2 5.4	6 16.2	2 5.4	-
60歳～64歳	2 6.7	2 6.7	3 10.0	-
65歳～74歳	16 15.8	10 9.9	4 4.0	-
75歳以上	9 13.0	5 7.2	5 7.2	1 1.4
回答なし	-	1 33.3	-	-

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

中学校区別

- 「日頃の声かけ・見守り」については、桜井中学校区（61.5%）で多くなっています。一方、安祥中学校区（31.6%）と篠目中学校区（34.5%）で少なくなっています。
- 「話し相手」については、明祥中学校区（45.0%）や篠目中学校区（44.8%）、桜井中学校区（42.3%）で若干多くなっている一方で、東山中学校区（30.2%）では若干少なくなっています。
- 「買い物」については安城北中学校区（16.3%）で、若干多くなっています（図3-5-3）。

図3-5-3 中学校区別「具体的な手伝いの内容」

上段：回答数 下段：%	全体	日頃の声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 （情報提 供）
全体	322 100.0	154 47.8	115 35.7	25 7.8	45 14.0	23 7.1	22 6.8	23 7.1	21 6.5	28 8.7
安城南中学校区	51 100.0	22 43.1	16 31.4	3 5.9	5 9.8	2 3.9	4 7.8	3 5.9	4 7.8	4 7.8
安城北中学校区	49 100.0	22 44.9	16 32.7	8 16.3	10 20.4	3 6.1	5 10.2	4 8.2	5 10.2	3 6.1
明祥中学校区	20 100.0	10 50.0	9 45.0	2 10.0	3 15.0	2 10.0	- -	1 5.0	1 5.0	1 5.0
安城西中学校区	46 100.0	24 52.2	15 32.6	5 10.9	11 23.9	4 8.7	1 2.2	3 6.5	2 4.3	6 13.0
桜井中学校区	52 100.0	32 61.5	22 42.3	4 7.7	3 5.8	6 11.5	2 3.8	1 1.9	4 7.7	4 7.7
東山中学校区	43 100.0	23 53.5	13 30.2	1 2.3	7 16.3	2 4.7	8 18.6	8 18.6	1 2.3	1 2.3
安祥中学校区	19 100.0	6 31.6	7 36.8	1 5.3	3 15.8	3 15.8	- -	2 10.5	1 5.3	3 15.8
篠目中学校区	29 100.0	10 34.5	13 44.8	1 3.4	3 10.3	1 3.4	1 3.4	1 3.4	2 6.9	5 17.2
わからない	11 100.0	4 36.4	3 27.3	- -	- -	- -	1 9.1	- -	1 9.1	- -
回答なし	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0

上段：回答数 下段：%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にな い	回答なし
全体	33 10.2	31 9.6	27 8.4	1 0.3
安城南中学校区	8 15.7	1 2.0	6 11.8	1 2.0
安城北中学校区	7 14.3	10 20.4	1 2.0	- -
明祥中学校区	1 5.0	2 10.0	4 20.0	- -
安城西中学校区	3 6.5	4 8.7	2 4.3	- -
桜井中学校区	8 15.4	6 11.5	2 3.8	- -
東山中学校区	2 4.7	2 4.7	4 9.3	- -
安祥中学校区	- -	1 5.3	3 15.8	- -
篠目中学校区	4 13.8	4 13.8	2 6.9	- -
わからない	- -	1 9.1	3 27.3	- -
回答なし	- -	- -	- -	- -

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

（6）今後における近所づきあいの程度（問 19）

問 19 近所の人とは、今後どの程度の付き合いをしていきたいと思いますか。（○は1つだけ）

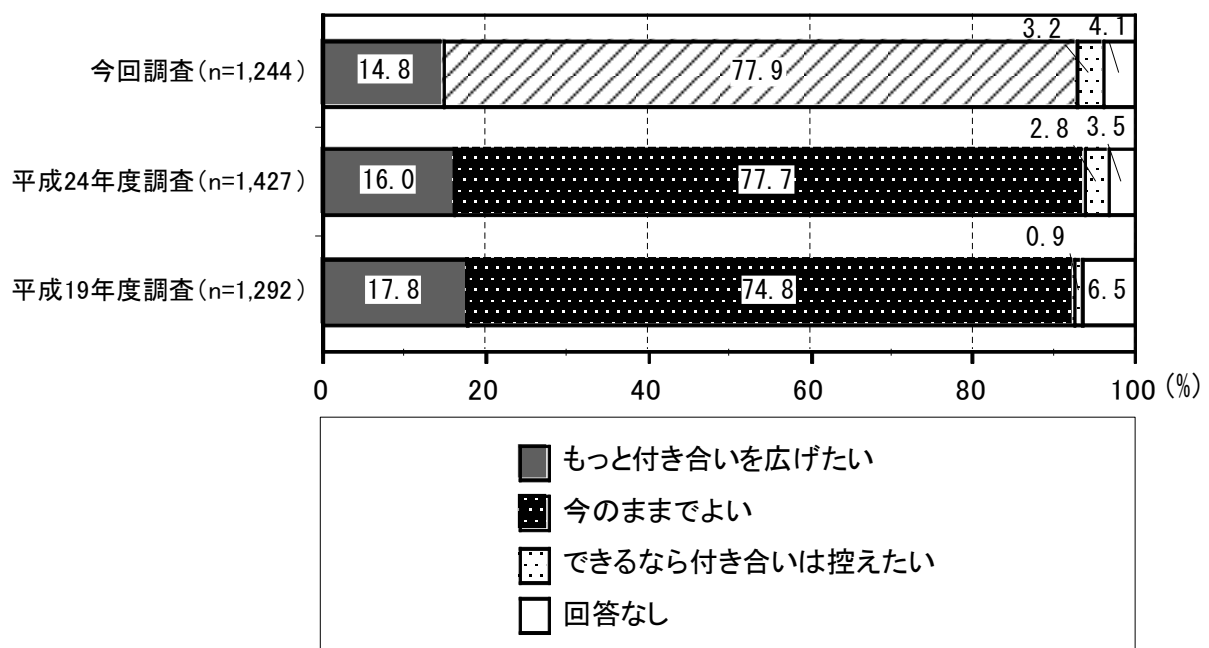
要点

今後の近所づきあいに対して「今のままでよい」と回答した割合が 77.9%を占め最も多くなっています。

全体

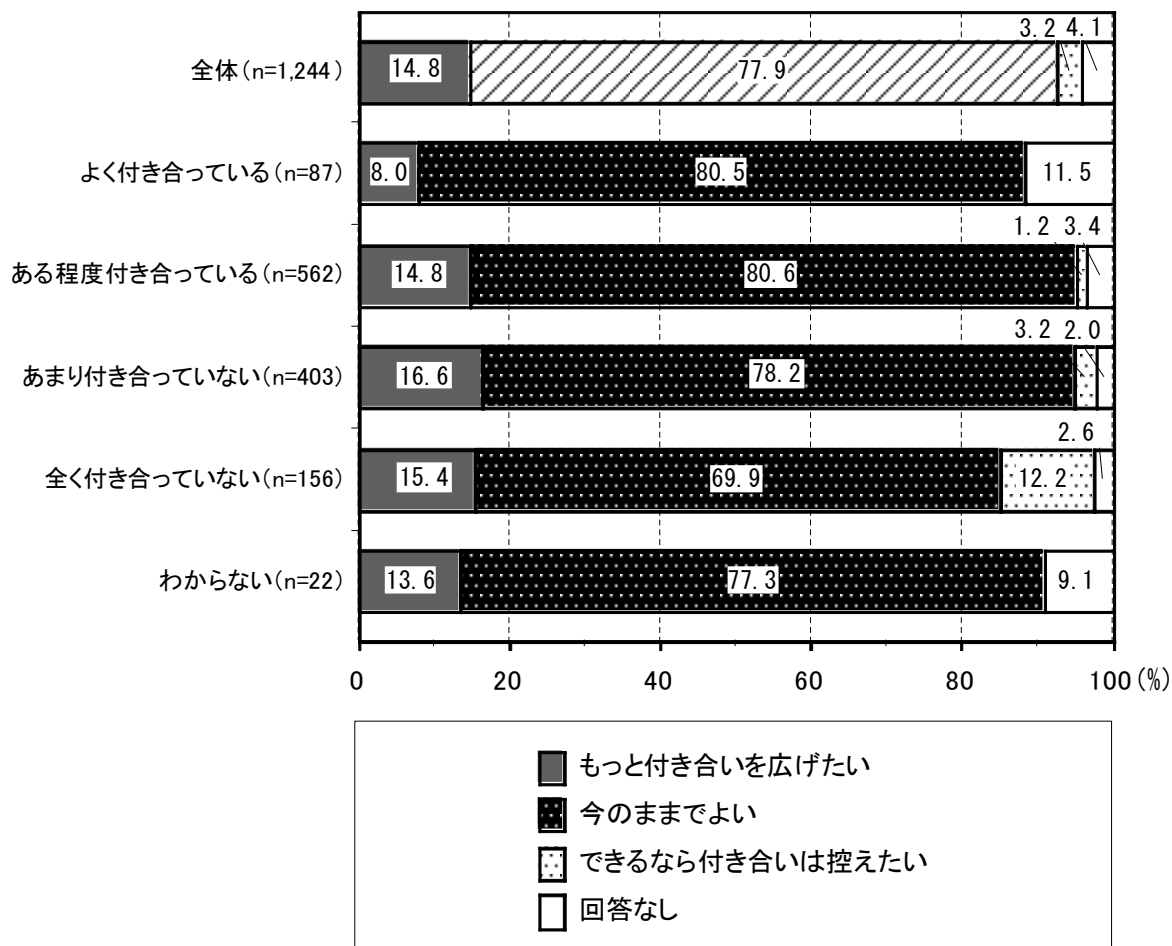
- 「今のままでよい」の割合が 77.9%を占め最も多く、次いで「もっと付き合いを広げたい」が 14.8%、「できるなら付き合いは控えたい」の割合が 3.2%となっています。
- 前回・前々回調査（平成 24 年度・平成 19 年度調査）と比較しても、大きな差異はみられません（図 3-6-1）。

図 3-6-1 「今後における近所づきあいの程度」（前回・前々回比較）



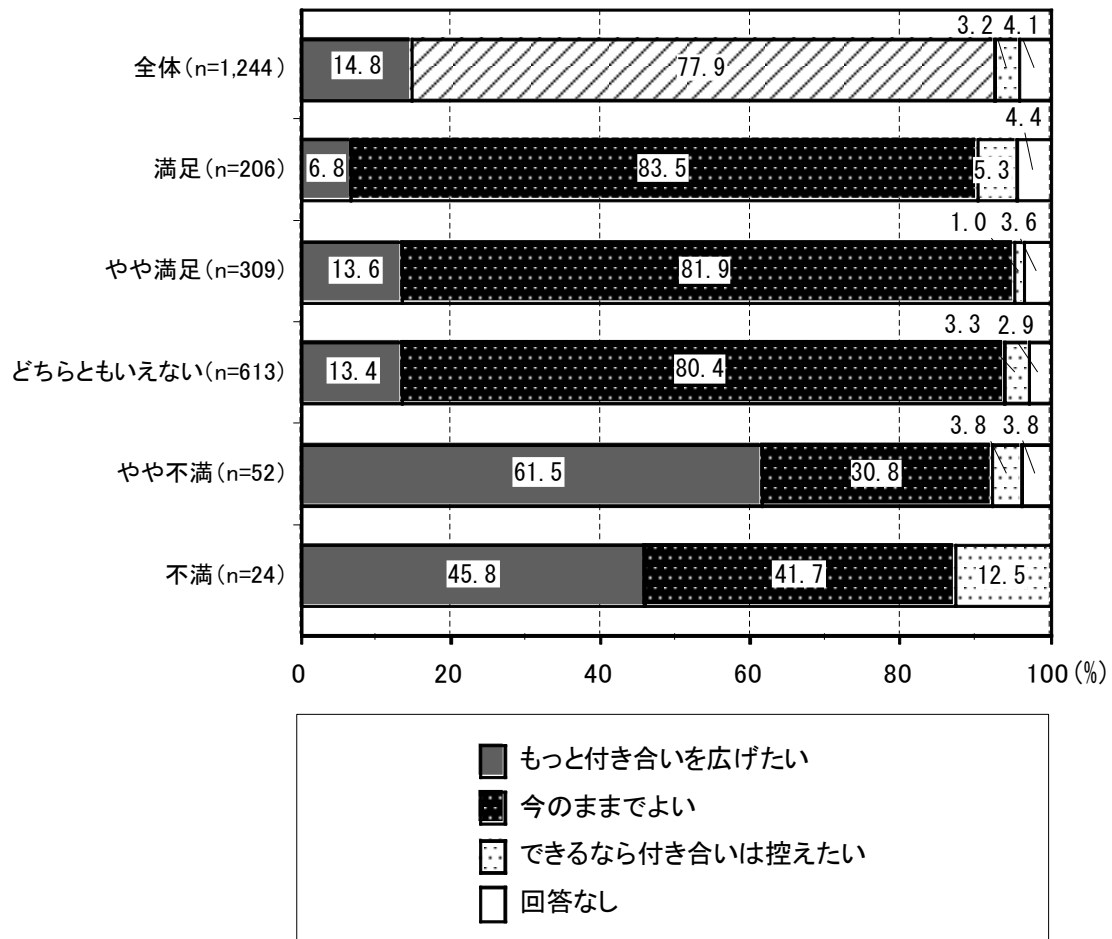
○近所と「よく付き合っている」と回答した人では、「もっと付き合いを広げたい」の割合(8.0%)が少なくなっています。一方、「全く付き合っていない」と回答した人では、「出来るだけ付き合ひは控えたい」の割合(12.2%)が少なくなっています図3-6-2)。

図3-6-2 近所づきあいの程度別「今後における近所づきあいの程度」



- 近所づきあいに「やや不満」と「不満」と回答した人では、「もっと付き合いを広げたい」の割合がそれぞれ61.5%、45.8%を占め、目立って多くなっています。
- 加えて、近所づきあいに「不満」と回答した人では、「できるなら付き合いは控えたい」の割合（12.5%）が多くなっています（図3-6-3）。

図3-6-3 地域での付き合いの満足度別「今後における近所づきあいの程度」



（7）毎日の暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安（問20、問21）

問20 毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていますか。（○は3つまで・ない場合は10に○）

問21 10年後のあなたご自身やあなたの家族の状況を考えた場合、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていると思われますか。（○は3つまで・ない場合は10に○）

要点

「自分や家族の健康に関すること」や「介護に関すること」、「お金（収入や家計）に関すること」の3項目が、多くの市民にとって大きな将来不安になっている状況がうかがえます。

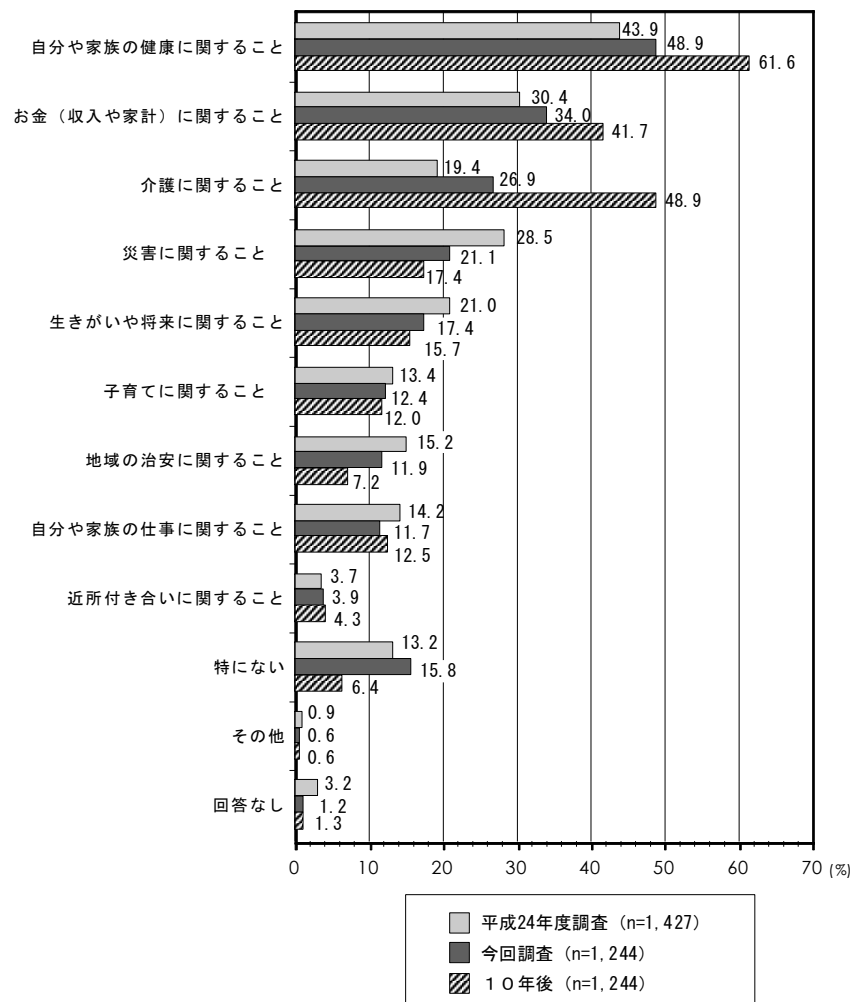
全体

○毎日の暮らしにおける悩みや不安の上位3項目は、1位：「自分や家族の健康に関すること」（48.9%）、2位：「お金（収入や家計）に関すること」（34.0%）、3位：「介護に関すること」（26.9%）となっています。

○一方、10年後の悩みや不安の上位3項目は、1位：「自分や家族の健康に関すること」（61.6%）、2位：「介護に関すること」（48.9%）、3位：「お金（収入や家計）に関すること」（41.7%）となっており、毎日の暮らしにおける悩みや不安の3位である「介護に関すること」が2位に浮上しています。

○また、これら上位3項目については、前回調査で、毎日の暮らしにおける悩みや不安と回答した割合よりも今回調査の方が、また、今回調査の毎日の暮らしにおける悩みや不安と回答した割合よりも10年後の悩みや不安と回答した割合の方が、いずれも高い割合になっており、これら3項目は、市民にとって大きな将来不安になっている状況がうかがえます（図3-7-1）。

図3-7-1 「毎日の暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安」



○年齢別に毎日の暮らしにおける悩みと不安についてみると、「自分や家族の健康に関すること」の割合は、年齢が高くなるにしたがって概ね順次多くなる傾向がみられ、65歳～74歳で62.9%と最も多くなっています。

○逆に「お金（収入や家計）に関すること」の割合は、年齢が高くなるにしたがって概ね順次少なくなる傾向がみられ、75歳以上の後期高齢者では17.0%となっており、「自分や家族の健康に関すること」（56.4%）や「介護に関すること」（39.4%）、さらには「災害に関すること」（21.3%）ほどは悩みや不安となっていません。

○「介護に関すること」の割合は、要支援・要介護のリスクを抱える年齢層にあたる75歳以上（39.4%）とその子どもの世代にあたる50歳代（37.8%）で多くなっています。

○「子育てに関すること」の割合は、子育て世代にあたる30歳代（43.1%）と40歳代（25.2%）で目立って多くなっています（図3-7-2）。

図3-7-2 年齢別「毎日の暮らしにおける悩みや不安」

上段：回答数 下段：%	全体	自分や家族の健康 に関すること	子育てに 関すること	介護に関 すること	自分や家族の 仕事に関すること	お金（収入 や家計）に 関すること	生きがい や将来に 関すること	近所付き 合いに関 すること	災害に関 すること	地域の治 安に関す ること
全体	1,244 100.0	608 48.9	154 12.4	335 26.9	145 11.7	423 34.0	217 17.4	48 3.9	262 21.1	148 11.9
20歳代以下	114 100.0	24 21.1	18 15.8	9 7.9	34 29.8	54 47.4	36 31.6	3 2.6	20 17.5	10 8.8
30歳代	153 100.0	48 31.4	66 43.1	10 6.5	24 15.7	67 43.8	17 11.1	8 5.2	41 26.8	27 17.6
40歳代	222 100.0	99 44.6	56 25.2	45 20.3	35 15.8	93 41.9	38 17.1	5 2.3	47 21.2	28 12.6
50歳代	188 100.0	100 53.2	7 3.7	71 37.8	21 11.2	59 31.4	36 19.1	4 2.1	33 17.6	21 11.2
60歳～64歳	105 100.0	58 55.2	1 1.0	31 29.5	8 7.6	34 32.4	21 20.0	4 3.8	20 19.0	7 6.7
65歳～74歳	264 100.0	166 62.9	2 0.8	92 34.8	12 4.5	77 29.2	39 14.8	17 6.4	61 23.1	31 11.7
75歳以上	188 100.0	106 56.4	1 0.5	74 39.4	10 5.3	32 17.0	28 14.9	7 3.7	40 21.3	22 11.7
回答なし	10 100.0	7 70.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	7 70.0	2 20.0	-	-	2 20.0

上段：回答数 下段：%	特にない	その他	回答なし
全体	196 15.8	7 0.6	15 1.2
20歳代以下	26 22.8	-	-
30歳代	23 15.0	-	1 0.7
40歳代	27 12.2	3 1.4	1 0.5
50歳代	30 16.0	1 0.5	-
60歳～64歳	17 16.2	2 1.9	2 1.9
65歳～74歳	34 12.9	-	6 2.3
75歳以上	39 20.7	-	4 2.1
回答なし	-	1 10.0	1 10.0

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

年齢別（10年後の暮らしの悩みや不安）

○年齢別に10年後の暮らしの悩みと不安についてみると、「自分や家族の健康に関すること」の割合は、20歳代以下（39.5%）や30歳代（42.5%）では少なく、50歳代以上の中高年層、その中でも65歳～74歳の前期高齢者（74.6%）で多くなっています。

○「介護に関すること」の割合についても同様に、50歳代以上の中高年層で若干多くなっています。

○逆に「お金（収入や家計）に関すること」の割合は、20歳代以下から50歳代にかけての年齢層で全体値と比べて若干多くなっている一方で、75歳以上（22.9%）や65歳～74歳（36.0%）では全体値に比べて少なくなっています。「自分や家族の健康に関すること」や「介護に関すること」ほどは悩みや不安となっておりません。

○「子育てに関すること」の割合は、子育て期を迎える年齢層や子育て期にあたる年齢層にあたる20歳代以下（38.6%）や30歳代（41.8%）で目立って多くなっています（図3-7-3）。

図3-7-3 年齢別「10年後の暮らしの悩みや不安」

上段：回答数 下段：%	全体	自分や家族の健康に関すること	子育てに関すること	介護に関すること	自分や家族の仕事に関すること	お金（収入や家計）に関すること	生きがいや将来に関すること	近所付き合いに関すること	災害に関すること	地域の治安に関すること
全体	1,244 100.0	766 61.6	149 12.0	608 48.9	155 12.5	519 41.7	195 15.7	53 4.3	216 17.4	90 7.2
20歳代以下	114 100.0	45 39.5	44 38.6	27 23.7	32 28.1	55 48.2	15 13.2	3 2.6	20 17.5	4 3.5
30歳代	153 100.0	65 42.5	64 41.8	50 32.7	25 16.3	73 47.7	15 9.8	9 5.9	36 23.5	22 14.4
40歳代	222 100.0	129 58.1	33 14.9	100 45.0	46 20.7	104 46.8	41 18.5	10 4.5	31 14.0	14 6.3
50歳代	188 100.0	127 67.6	3 1.6	103 54.8	23 12.2	93 49.5	42 22.3	2 1.1	32 17.0	7 3.7
60歳～64歳	105 100.0	70 66.7	1 1.0	57 54.3	4 3.8	48 45.7	21 20.0	5 4.8	18 17.1	8 7.6
65歳～74歳	264 100.0	197 74.6	2 0.8	160 60.6	14 5.3	95 36.0	34 12.9	16 6.1	49 18.6	19 7.2
75歳以上	188 100.0	125 66.5	1 0.5	107 56.9	10 5.3	43 22.9	23 12.2	7 3.7	30 16.0	16 8.5
回答なし	10 100.0	8 80.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	8 80.0	4 40.0	1 10.0	-	-

上段：回答数 下段：%	特になし	その他	回答なし
全体	80 6.4	7 0.6	16 1.3
20歳代以下	12 10.5	-	1 0.9
30歳代	6 3.9	1 0.7	2 1.3
40歳代	17 7.7	-	2 0.9
50歳代	6 3.2	3 1.6	-
60歳～64歳	8 7.6	-	1 1.0
65歳～74歳	12 4.5	2 0.8	5 1.9
75歳以上	19 10.1	-	5 2.7
回答なし	-	1 10.0	-

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

中学校区別
(毎日)

○毎日の暮らしにおける悩みと不安について中学校区別にみると、全般的にあまり大きな差異はみられませんが、安城北中学校区で「自分や家族の健康に関すること」(55.7%)が、また、明祥中学校区で「介護に関すること」(32.5%)が他の中学校区に比べて若干多くなっています(図3-7-4)。

図3-7-4 中学校区別「毎日の暮らしにおける悩みや不安」

上段:回答数 下段:%	全体	自分や家族の健康に関すること	子育てに関すること	介護に関すること	自分や家族の仕事に関すること	お金(収入や家計)に関すること	生きがいや将来に関すること	近所付き合いに関すること	災害に関すること	地域の治安に関すること
全体	1,244 100.0	608 48.9	154 12.4	335 26.9	145 11.7	423 34.0	217 17.4	48 3.9	262 21.1	148 11.9
安城南中学校区	181 100.0	84 46.4	18 9.9	41 22.7	21 11.6	60 33.1	41 22.7	6 3.3	35 19.3	11 6.1
安城北中学校区	212 100.0	118 55.7	19 9.0	61 28.8	27 12.7	63 29.7	32 15.1	11 5.2	36 17.0	31 14.6
明祥中学校区	80 100.0	40 50.0	10 12.5	26 32.5	7 8.8	30 37.5	14 17.5	4 5.0	12 15.0	9 11.3
安城西中学校区	180 100.0	87 48.3	21 11.7	48 26.7	19 10.6	58 32.2	30 16.7	10 5.6	42 23.3	19 10.6
桜井中学校区	165 100.0	87 52.7	19 11.5	45 27.3	19 11.5	60 36.4	22 13.3	10 6.1	39 23.6	19 11.5
東山中学校区	165 100.0	69 41.8	27 16.4	44 26.7	21 12.7	63 38.2	29 17.6	3 1.8	39 23.6	18 10.9
安祥中学校区	91 100.0	41 45.1	8 8.8	27 29.7	11 12.1	30 33.0	17 18.7	2 2.2	24 26.4	14 15.4
篠目中学校区	118 100.0	59 50.0	22 18.6	29 24.6	16 13.6	37 31.4	23 19.5	-	26 22.0	25 21.2
わからない	35 100.0	14 40.0	7 20.0	8 22.9	3 8.6	12 34.3	6 17.1	1 2.9	7 20.0	1 2.9
回答なし	17 100.0	9 52.9	3 17.6	6 35.3	1 5.9	10 58.8	3 17.6	1 5.9	2 11.8	1 5.9

上段:回答数 下段:%	特にない	その他	回答なし
全体	196 15.8	7 0.6	15 1.2
安城南中学校区	34 18.8	2 1.1	2 1.1
安城北中学校区	31 14.6	-	-
明祥中学校区	13 16.3	-	-
安城西中学校区	29 16.1	2 1.1	3 1.7
桜井中学校区	27 16.4	1 0.6	2 1.2
東山中学校区	24 14.5	-	2 1.2
安祥中学校区	14 15.4	-	1 1.1
篠目中学校区	13 11.0	2 1.7	1 0.8
わからない	10 28.6	-	1 2.9
回答なし	1 5.9	-	3 17.6

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

○10年後における暮らしの悩みと不安について中学校区別にみると、全般的にあまり大きな差異はみられませんが、安城北中学校区で「自分や家族の健康に関すること」(71.7%)が多くなっています。また、明祥中学校区でも「自分や家族の健康に関すること」(70.0%)が若干多くなっています。

○さらに、桜井中学校区で「介護に関すること」と「お金(収入や家計)に関すること」の割合が若干多くなっています(図3-7-5)。

図3-7-5 中学校区別「10年後の暮らしの悩みや不安」

上段:回答数 下段:%	全体	自分や家族の健康に関すること	子育てに関すること	介護に関すること	自分や家族の仕事に関すること	お金(収入や家計)に関すること	生きがいや将来に関すること	近所付き合いに関すること	災害に関すること	地域の治安に関すること
全体	1,244 100.0	766 61.6	149 12.0	608 48.9	155 12.5	519 41.7	195 15.7	53 4.3	216 17.4	90 7.2
安城南中学校区	181 100.0	103 56.9	17 9.4	94 51.9	22 12.2	75 41.4	33 18.2	6 3.3	28 15.5	10 5.5
安城北中学校区	212 100.0	152 71.7	18 8.5	109 51.4	19 9.0	76 35.8	37 17.5	13 6.1	37 17.5	23 10.8
明祥中学校区	80 100.0	56 70.0	8 10.0	39 48.8	8 10.0	40 50.0	12 15.0	3 3.8	11 13.8	6 7.5
安城西中学校区	180 100.0	108 60.0	23 12.8	82 45.6	23 12.8	76 42.2	27 15.0	9 5.0	37 20.6	12 6.7
桜井中学校区	165 100.0	106 64.2	15 9.1	90 54.5	21 12.7	77 46.7	23 13.9	4 2.4	28 17.0	13 7.9
東山中学校区	165 100.0	98 59.4	31 18.8	78 47.3	24 14.5	66 40.0	22 13.3	7 4.2	26 15.8	8 4.8
安祥中学校区	91 100.0	54 59.3	9 9.9	44 48.4	12 13.2	36 39.6	13 14.3	3 3.3	21 23.1	3 3.3
篠目中学校区	118 100.0	63 53.4	22 18.6	54 45.8	21 17.8	50 42.4	19 16.1	6 5.1	20 16.9	14 11.9
わからない	35 100.0	16 45.7	5 14.3	10 28.6	4 11.4	14 40.0	5 14.3	1 2.9	7 20.0	1 2.9
回答なし	17 100.0	10 58.8	1 5.9	8 47.1	1 5.9	9 52.9	4 23.5	1 5.9	1 5.9	-

上段:回答数 下段:%	特にない	その他	回答なし
全体	80 6.4	7 0.6	16 1.3
安城南中学校区	14 7.7	-	2 1.1
安城北中学校区	9 4.2	1 0.5	-
明祥中学校区	7 8.8	-	1 1.3
安城西中学校区	8 4.4	-	4 2.2
桜井中学校区	9 5.5	3 1.8	1 0.6
東山中学校区	13 7.9	-	2 1.2
安祥中学校区	9 9.9	-	1 1.1
篠目中学校区	4 3.4	2 1.7	2 1.7
わからない	7 20.0	-	1 2.9
回答なし	-	1 5.9	2 11.8

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

(8) 家族、親族以外の相談相手 (問 22)

問 22 毎日の暮らしの中で困ったり不安を感じたときに、家族や親族以外では、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○・不明の場合は1 4に○)

要点

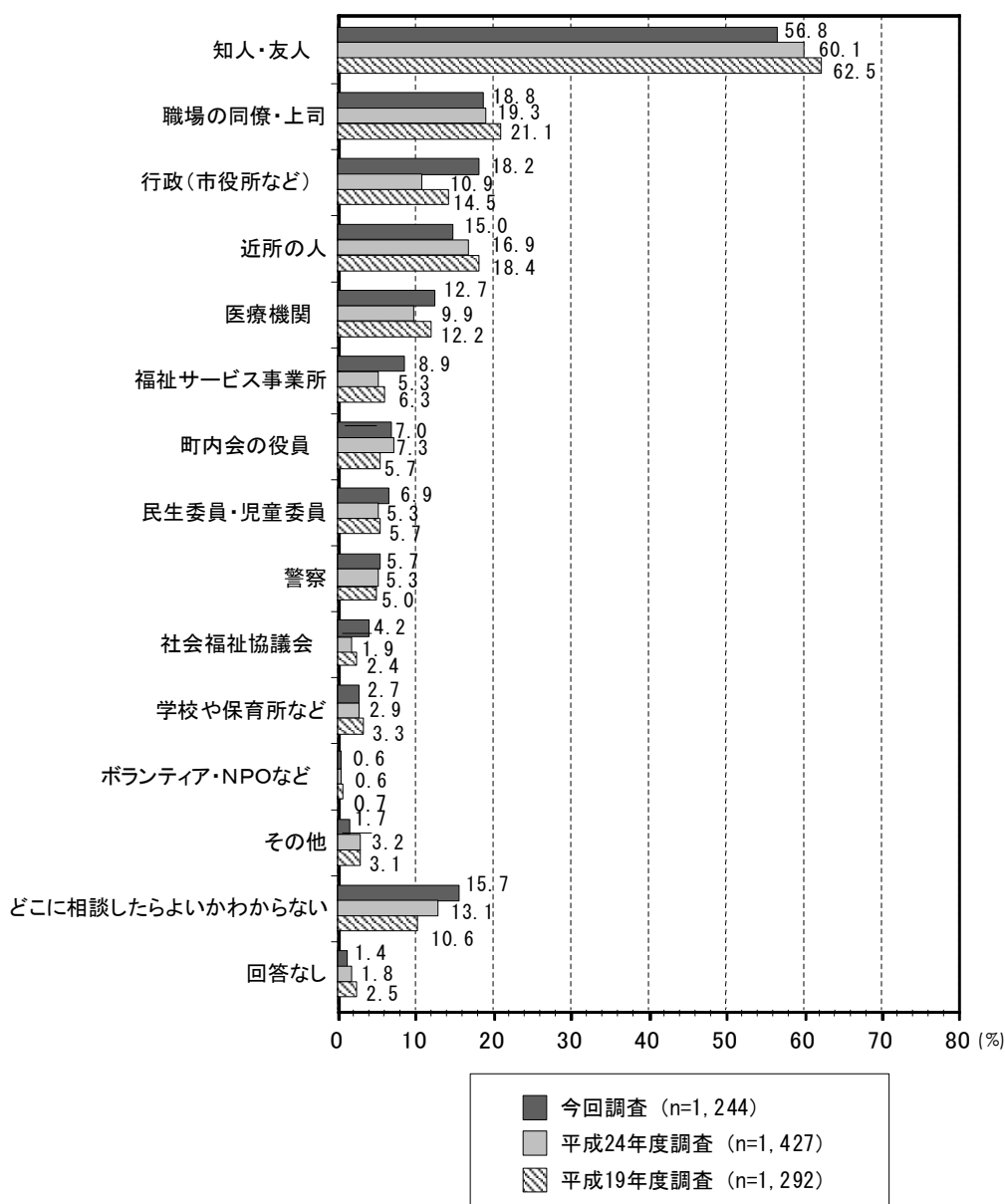
「知人・友人」の割合が 56.8%と最も多なっています。次いで「職場の同僚・上司」(18.8%)、「行政(市役所など)」(18.2%)となっています。

全体

○「知人・友人」の割合が 56.8%と最も多なっています。「知人・友人」よりは随分と割合が少ないながらも、次いで「職場の同僚・上司」(18.8%)と「行政(市役所など)」(18.2%)が多くなっています。

○前回・前々回調査(平成 24 年度・平成 19 年度調査)と比較しても大きな差異はみられませんが、「知人・友人」が調査を重ねるごとに割合が少なくなる傾向がみられる一方で、「どこに相談したらよいかわからない」については、調査を重ねるごとに割合が多くなる傾向がみられます。また、「行政(市役所など)」の割合(18.2%)は前回調査に比べて 7.3 ポイントアップしています(図 3-8-1)。

図 3-8-1 「家族、親族以外の相談相手」(前回・前々回比較)



○「知人・友人」と「職場の同僚・上司」の割合は、20歳代以下から40歳代にかけての年齢層で多く、65歳以上の高齢者層では少なくなっています。

○その分、65歳～74歳の前期高齢者では、「行政（市役所など）」（23.5%）や「医療機関」（18.6%）、「福祉サービス事業所」（14.8%）、「どこに相談してよいかわからない」（22.0%）が若干多くなっています。また、75歳以上の後期高齢者では、「行政（市役所など）」（27.1%）や「福祉サービス事業所」（17.6%）が若干多くなっています（図3-8-2）。

図3-8-2 年齢別「家族、親族以外の相談相手」

上段：回答数 下段：%	全体	民生委員・児童委員	町内会の役員	近所の人	知人・友人	職場の同僚・上司	行政（市役所など）	学校や保育所など	医療機関	警察
全体	1,244 100.0	86 6.9	87 7.0	186 15.0	706 56.8	234 18.8	226 18.2	33 2.7	158 12.7	71 5.7
20歳代以下	114 100.0	2 1.8	1 0.9	4 3.5	87 76.3	41 36.0	9 7.9	2 1.8	5 4.4	2 1.8
30歳代	153 100.0	-	2 1.3	18 11.8	114 74.5	59 38.6	13 8.5	17 11.1	12 7.8	10 6.5
40歳代	222 100.0	7 3.2	5 2.3	18 8.1	154 69.4	71 32.0	23 10.4	8 3.6	21 9.5	8 3.6
50歳代	188 100.0	5 2.7	8 4.3	21 11.2	106 56.4	39 20.7	44 23.4	2 1.1	24 12.8	12 6.4
60歳～64歳	105 100.0	9 8.6	10 9.5	12 11.4	60 57.1	11 10.5	20 19.0	-	10 9.5	6 5.7
65歳～74歳	264 100.0	31 11.7	34 12.9	57 21.6	116 43.9	7 2.7	62 23.5	3 1.1	49 18.6	14 5.3
75歳以上	188 100.0	31 16.5	26 13.8	56 29.8	63 33.5	3 1.6	51 27.1	-	33 17.6	17 9.0
回答なし	10 100.0	1 10.0	1 10.0	-	6 60.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	4 40.0	2 20.0

上段：回答数 下段：%	社会福祉協議会	福祉サービス事業所	ボランティア・NPOなど	その他	どこに相談したらよいかわからない	回答なし
全体	52 4.2	111 8.9	7 0.6	21 1.7	195 15.7	17 1.4
20歳代以下	1 0.9	3 2.6	-	1 0.9	12 10.5	-
30歳代	7 4.6	4 2.6	2 1.3	1 0.7	10 6.5	1 0.7
40歳代	4 1.8	7 3.2	2 0.9	6 2.7	28 12.6	1 0.5
50歳代	5 2.7	15 8.0	-	5 2.7	33 17.6	-
60歳～64歳	3 2.9	9 8.6	-	2 1.9	17 16.2	-
65歳～74歳	13 4.9	39 14.8	1 0.4	2 0.8	58 22.0	7 2.7
75歳以上	19 10.1	33 17.6	1 0.5	4 2.1	36 19.1	8 4.3
回答なし	-	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	-

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

○町内福祉員会をよく知っている人ほど、家族・親族以外の相談相手が多様である状況をうかがわせる結果になっています（図3-8-3）。

図3-8-3 町内福祉委員会の認知度別「家族、親族以外の相談相手」

上段：回答数 下段：%	全体	民生委員・児童委員	町内会の役員	近所の人	知人・友人	職場の同僚・上司	行政（市役所など）	学校や保育所など	医療機関	警察
全体	1,244 100.0	86 6.9	87 7.0	186 15.0	706 56.8	234 18.8	226 18.2	33 2.7	158 12.7	71 5.7
町内福祉委員会の活動内容を知っている	168 100.0	37 22.0	35 20.8	52 31.0	87 51.8	11 6.5	50 29.8	2 1.2	39 23.2	13 7.7
名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	364 100.0	25 6.9	31 8.5	67 18.4	214 58.8	65 17.9	75 20.6	8 2.2	51 14.0	22 6.0
町内福祉委員会について知らない	657 100.0	13 2.0	17 2.6	55 8.4	384 58.4	153 23.3	93 14.2	21 3.2	58 8.8	32 4.9
回答なし	55 100.0	11 20.0	4 7.3	12 21.8	21 38.2	5 9.1	8 14.5	2 3.6	10 18.2	4 7.3

上段：回答数 下段：%	社会福祉協議会	福祉サービス事業所	ボランティア・NPOなど	その他	どこに相談したらよいかわからない	回答なし
全体	52 4.2	111 8.9	7 0.6	21 1.7	195 15.7	17 1.4
町内福祉委員会の活動内容を知っている	24 14.3	24 14.3	2 1.2	2 1.2	10 6.0	2 1.2
名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	9 2.5	37 10.2	2 0.5	4 1.1	55 15.1	3 0.8
町内福祉委員会について知らない	13 2.0	41 6.2	3 0.5	15 2.3	125 19.0	6 0.9
回答なし	6 10.9	9 16.4	-	-	5 9.1	6 10.9

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

(9) 困っている世帯にできること (問 23)

問 23 地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたにできることは何ですか。(○は3つまで・ない場合は1 2に○)

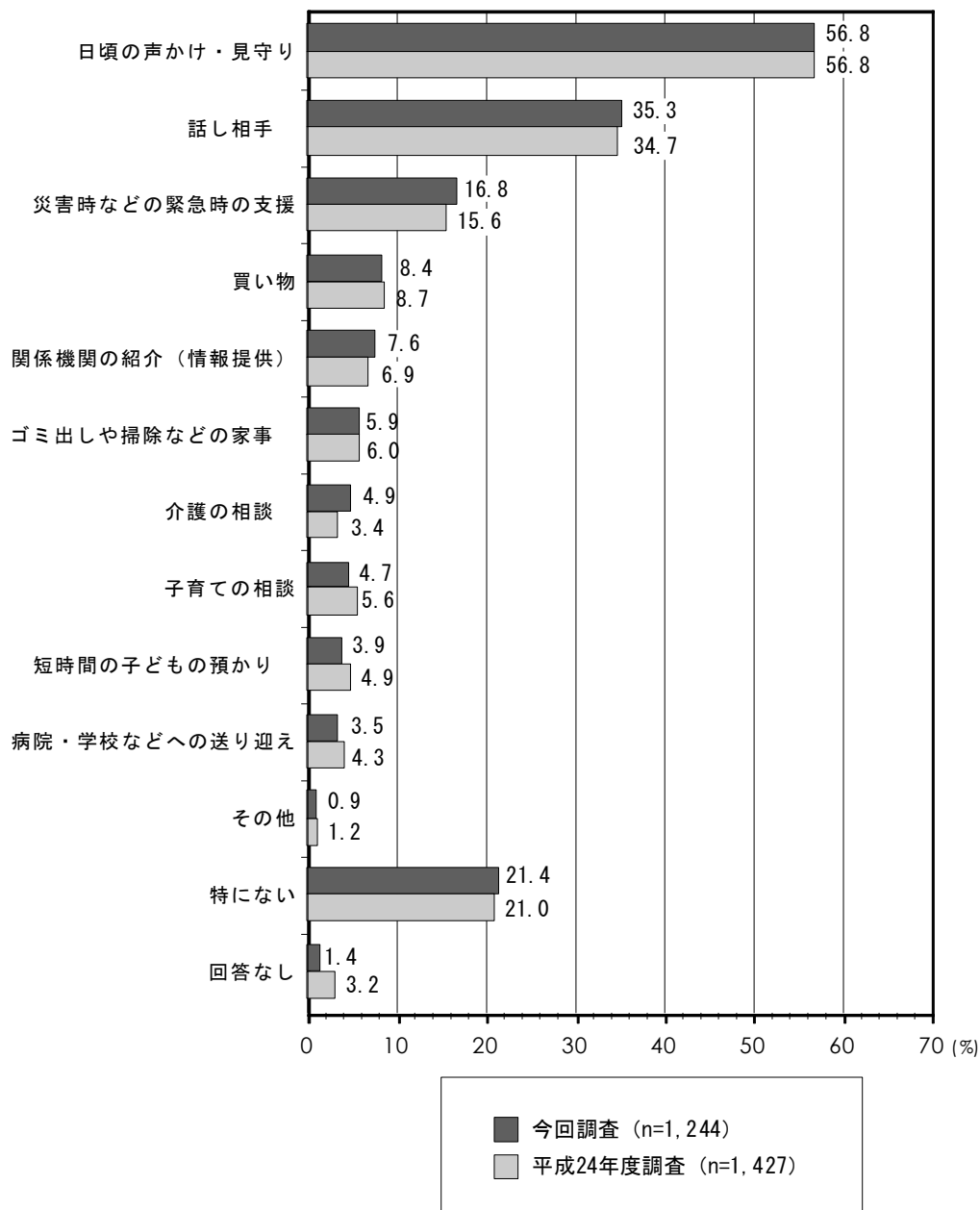
要点

「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 56.8%と最も多く多く、次いで「話し相手」(35.3%) が多くなっています。

全体

- 「特にない」が 21.4%を占めており、これと「回答なし」(1.4%)を除いた残りの 77.2%の人が、一人暮らし高齢者など困っている世帯があった時の何らかの支援項目を回答しています。
- 具体的には、「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 56.8%と最も多く、次いで「話し相手」の割合が 35.3%、「災害時などの緊急時の支援」の割合が 16.8%となっています。
- その他の具体的な支援の項目は、いずれも 1 割未満の割合にとどまっています。しかしながら、例えば、「病院・学校などへの送り迎え」の割合は 3.5%と少ないですが、仮に安城市全体の 18 歳以上の人口に換算するしてみると、5 千人以上と相当の人数になります (図 3-9-1)。

図 3-9-1 「困っている世帯にできること」(前回比較)



年齢別

- 「日ごろの声かけ・見守り」の割合は、30 歳代（62.1%）や 50 歳代（63.8%）で若干多くなっている一方で、75 歳以上の後期高齢者層で若干少なくなっています。75 歳以上の後期高齢者層ではその分「特にない」（31.9%）が全体値に比べて多くなっています。
- 「話し相手」の割合は、50 歳代（27.7%）と 60 歳～64 歳（29.5%）で全体値に比べて若干少なくなっている一方で、65 歳～74 歳の前期高齢者で若干多くなっています。
- 「災害時などの緊急時の支援」の割合は 50 歳代（25.0%）で若干多くなっています（図 3-9-2）。

図 3-9-2 年齢別「困っている世帯にできること」

上段：回答数 下段：%	全体	日頃の声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 （情報提 供）
全体	1,244 100.0	706 56.8	439 35.3	104 8.4	74 5.9	44 3.5	49 3.9	59 4.7	61 4.9	95 7.6
20歳代以下	114 100.0	56 49.1	41 36.0	7 6.1	4 3.5	2 1.8	5 4.4	7 6.1	3 2.6	8 7.0
30歳代	153 100.0	95 62.1	61 39.9	13 8.5	7 4.6	6 3.9	10 6.5	18 11.8	7 4.6	10 6.5
40歳代	222 100.0	122 55.0	69 31.1	19 8.6	7 3.2	11 5.0	15 6.8	20 9.0	4 1.8	14 6.3
50歳代	188 100.0	120 63.8	52 27.7	20 10.6	15 8.0	7 3.7	9 4.8	8 4.3	10 5.3	15 8.0
60歳～64歳	105 100.0	62 59.0	31 29.5	4 3.8	6 5.7	- -	1 1.0	1 1.0	5 4.8	8 7.6
65歳～74歳	264 100.0	153 58.0	115 43.6	30 11.4	21 8.0	10 3.8	6 2.3	5 1.9	17 6.4	29 11.0
75歳以上	188 100.0	91 48.4	67 35.6	10 5.3	13 6.9	7 3.7	2 1.1	- -	14 7.4	11 5.9
回答なし	10 100.0	7 70.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	- -	1 10.0	- -

上段：回答数 下段：%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にない	回答なし
全体	209 16.8	11 0.9	266 21.4	18 1.4
20歳代以下	16 14.0	- -	30 26.3	1 0.9
30歳代	19 12.4	1 0.7	19 12.4	1 0.7
40歳代	34 15.3	4 1.8	39 17.6	2 0.9
50歳代	47 25.0	1 0.5	38 20.2	1 0.5
60歳～64歳	18 17.1	1 1.0	23 21.9	1 1.0
65歳～74歳	52 19.7	3 1.1	55 20.8	6 2.3
75歳以上	23 12.2	1 0.5	60 31.9	6 3.2
回答なし	- -	- -	2 20.0	- -

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

- 「日ごろの声かけ・見守り」の割合は、桜井中学校区（63.6%）と東山中学校区（61.8%）で全体値に比べて若干多くなっている一方で、明祥中学校区（48.8%）と安城西中学校区（51.7%）で若干少なくなっています。
- 桜井中学校区では、これに加えて「話し相手」の割合が 45.5%と全体値を 10.2 ポイント上回っています。
- なお、安祥中学校区では、「特にない」の割合が全体値に比べて若干多くなっています(図 3-9-3)。

図 3-9-3 中学校区別「困っている世帯にできること」

上段: 回答数 下段: %	全体	日ごろの声かけ・見守り	話し相手	買い物	ゴミ出しや掃除などの家事	病院・学校などへの送り迎え	短時間の子ども預かり	子育ての相談	介護の相談	関係機関の紹介(情報提供)
全体	1,244 100.0	706 56.8	439 35.3	104 8.4	74 5.9	44 3.5	49 3.9	59 4.7	61 4.9	95 7.6
安城南中学校区	181 100.0	108 59.7	70 38.7	13 7.2	10 5.5	6 3.3	6 3.3	5 2.8	8 4.4	12 6.6
安城北中学校区	212 100.0	124 58.5	67 31.6	26 12.3	19 9.0	9 4.2	9 4.2	9 4.2	13 6.1	18 8.5
明祥中学校区	80 100.0	39 48.8	27 33.8	4 5.0	1 1.3	1 1.3	4 5.0	4 5.0	6 7.5	7 8.8
安城西中学校区	180 100.0	93 51.7	59 32.8	14 7.8	6 3.3	6 3.3	7 3.9	6 3.3	6 3.3	8 4.4
桜井中学校区	165 100.0	105 63.6	75 45.5	13 7.9	7 4.2	7 4.2	4 2.4	7 4.2	7 4.2	17 10.3
東山中学校区	165 100.0	102 61.8	53 32.1	16 9.7	9 5.5	6 3.6	5 3.0	13 7.9	6 3.6	14 8.5
安祥中学校区	91 100.0	49 53.8	34 37.4	3 3.3	10 11.0	2 2.2	4 4.4	6 6.6	6 6.6	7 7.7
篠目中学校区	118 100.0	65 55.1	42 35.6	12 10.2	10 8.5	6 5.1	8 6.8	8 6.8	7 5.9	12 10.2
わからない	35 100.0	13 37.1	8 22.9	2 5.7	-	-	-	1 2.9	2 5.7	-
回答なし	17 100.0	8 47.1	4 23.5	1 5.9	2 11.8	1 5.9	2 11.8	-	-	-

上段: 回答数 下段: %	災害時などの緊急時の支援	その他	特にない	回答なし
全体	209 16.8	11 0.9	266 21.4	18 1.4
安城南中学校区	40 22.1	1 0.6	32 17.7	3 1.7
安城北中学校区	30 14.2	-	46 21.7	3 1.4
明祥中学校区	16 20.0	-	20 25.0	2 2.5
安城西中学校区	37 20.6	3 1.7	46 25.6	3 1.7
桜井中学校区	26 15.8	1 0.6	25 15.2	1 0.6
東山中学校区	31 18.8	3 1.8	29 17.6	3 1.8
安祥中学校区	12 13.2	-	25 27.5	1 1.1
篠目中学校区	13 11.0	1 0.8	22 18.6	1 0.8
わからない	4 11.4	2 5.7	16 45.7	-
回答なし	-	-	5 29.4	1 5.9

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

町内福祉委員会の認知度別

○「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と回答した人において、「日頃の声かけ・見守り」の割合（72.0%）が全体値に比べて目立って多くなっています。また、「関係機関の紹介（情報提供）」（17.3%）と「災害時などの緊急時の支援」（25.0%）の割合も全体値に比べて若干多くなっています（図3-9-4）。

図3-9-4 町内福祉委員会の認知度別「困っている世帯にできること」

上段：回答数 下段：%	全体	日頃の声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 （情報提 供）
全体	1,244 100.0	706 56.8	439 35.3	104 8.4	74 5.9	44 3.5	49 3.9	59 4.7	61 4.9	95 7.6
町内福祉委員会の活動内容を知っている	168 100.0	121 72.0	64 38.1	18 10.7	12 7.1	10 6.0	4 2.4	7 4.2	15 8.9	29 17.3
名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	364 100.0	215 59.1	148 40.7	36 9.9	18 4.9	16 4.4	15 4.1	20 5.5	19 5.2	24 6.6
町内福祉委員会について知らない	657 100.0	349 53.1	210 32.0	45 6.8	37 5.6	16 2.4	28 4.3	29 4.4	24 3.7	40 6.1
回答なし	55 100.0	21 38.2	17 30.9	5 9.1	7 12.7	2 3.6	2 3.6	3 5.5	3 5.5	2 3.6

上段：回答数 下段：%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にない	回答なし
全体	209 16.8	11 0.9	266 21.4	18 1.4
町内福祉委員会の活動内容を知っている	42 25.0	1 0.6	22 13.1	1 0.6
名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない	56 15.4	4 1.1	72 19.8	3 0.8
町内福祉委員会について知らない	106 16.1	6 0.9	159 24.2	8 1.2
回答なし	5 9.1	-	13 23.6	6 10.9

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

(10) 地域の人たちに支援してほしい事項（問 24）

問 24 あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、A欄に示したようなことを、地域の人たちに支援してほしいですか。

（○は3つまで・ない場合は1 2.に○）

要点

「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 36.5%と最も多く、次いで「災害時などの緊急時の支援」(24.8%)、「介護の相談」(20.0%) が多くなっています。支援してほしい”（需要）と“地域で困っている世帯にできること”（供給）との間には隔たりが認められます。

全体

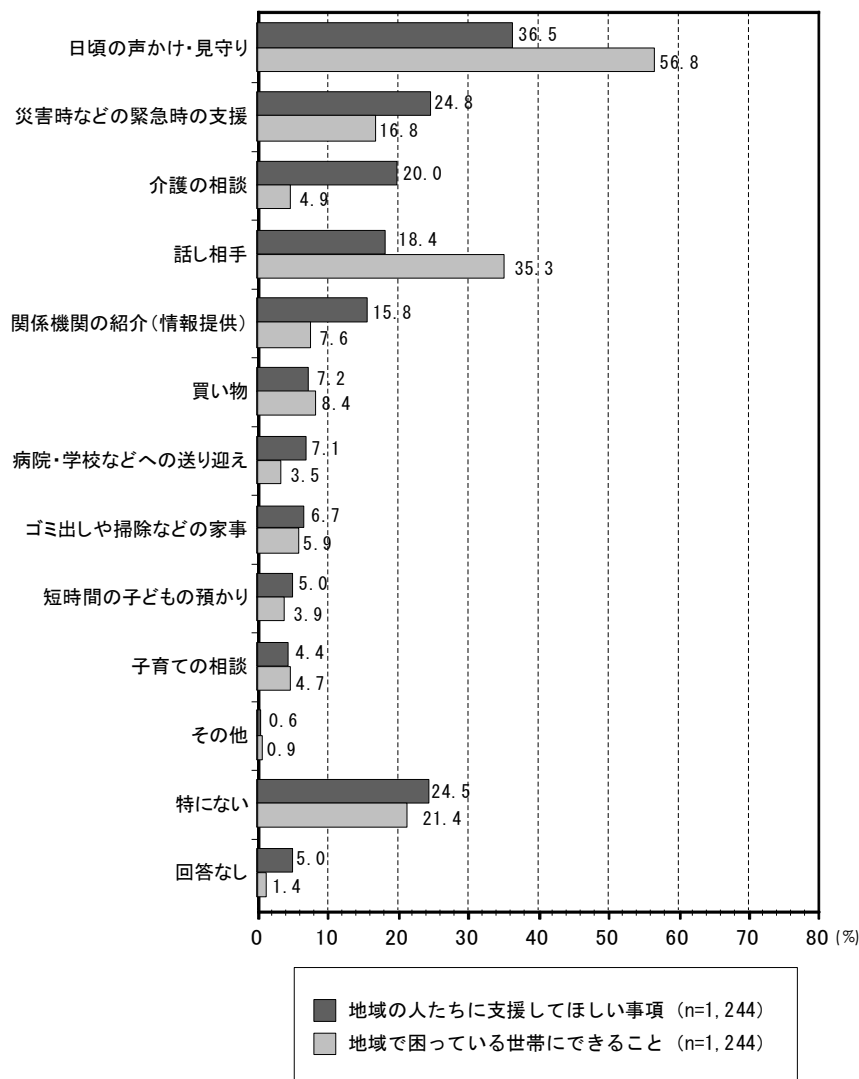
○「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 36.5%と最も多く、次いで「災害時などの緊急時の支援」(24.8%)、「介護の相談」(20.0%)、「話し相手」(18.4%)、「関係機関の紹介(情報提供)」(15.8%)の割合が多くなっています。

○問 23 の「地域で困っている世帯にできること」の結果と比較すると、「日ごろの声かけ・見守り」や「話し相手」については、“支援してほしい”よりも“地域で困っている世帯にできること”の方が、それぞれ 20.3 ポイント、16.9 ポイント上回っています。

○逆に、「介護の相談」や「関係機関の紹介(情報提供)」、「災害時などの緊急時の支援」については、“支援してほしい”の方が“地域で困っている世帯にできること”よりもそれぞれ 15.1 ポイント、8.2 ポイント、8.0 ポイント上回っています。

○このように、項目によっては“支援してほしい”（需要）と“地域で困っている世帯にできること”（供給）との間には隔たりがみられます（図 3-10-1）。

図 3-10-1 「地域の人たちに支援してほしい事項」（問 23 困っている世帯にできることとの比較）



年齢別

- 「日ごろの声かけ・見守り」の割合は、60歳～64歳で全体値に比べて若干多くなっています。
- 「災害時などの緊急時の支援」の割合は、50歳代（31.4%）で若干多くなっています。
- 「介護の相談」の割合は、要支援・要介護のリスクを抱える年齢層にあたる75歳以上（27.7%）とその子どもの世代にあたる50歳代（26.6%）で若干多くなっています。
- また、30歳代において「短時間の子どもの預かり」（16.3%）と「子育ての相談」（15.7%）の割合が他の年齢層に比べて多くなっているのが特徴としてみられます。
- なお、「特にない」の割合は20歳代以下（35.1%）で多くなっています（図3-10-2）。

図3-10-2 年齢別「支援してほしい事項」

上段:回答数 下段:%	全体	日ごろの声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 (情報提 供)
全体	1,244 100.0	454 36.5	229 18.4	90 7.2	83 6.7	88 7.1	62 5.0	55 4.4	249 20.0	197 15.8
20歳代以下	114 100.0	34 29.8	16 14.0	5 4.4	2 1.8	2 1.8	7 6.1	14 12.3	12 10.5	12 10.5
30歳代	153 100.0	59 38.6	29 19.0	8 5.2	7 4.6	12 7.8	25 16.3	24 15.7	18 11.8	16 10.5
40歳代	222 100.0	76 34.2	39 17.6	16 7.2	7 3.2	21 9.5	21 9.5	14 6.3	38 17.1	29 13.1
50歳代	188 100.0	73 38.8	29 15.4	13 6.9	16 8.5	10 5.3	2 1.1	2 1.1	50 26.6	43 22.9
60歳～64歳	105 100.0	45 42.9	17 16.2	9 8.6	8 7.6	7 6.7	2 1.9	— —	16 15.2	23 21.9
65歳～74歳	264 100.0	98 37.1	56 21.2	25 9.5	27 10.2	20 7.6	3 1.1	1 0.4	62 23.5	48 18.2
75歳以上	188 100.0	64 34.0	41 21.8	13 6.9	16 8.5	15 8.0	2 1.1	— —	52 27.7	25 13.3
回答なし	10 100.0	5 50.0	2 20.0	1 10.0	— —	1 10.0	— —	— —	1 10.0	1 10.0

上段:回答数 下段:%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にない	回答なし
全体	309 24.8	8 0.6	305 24.5	62 5.0
20歳代以下	23 20.2	1 0.9	40 35.1	7 6.1
30歳代	42 27.5	1 0.7	35 22.9	6 3.9
40歳代	52 23.4	2 0.9	62 27.9	7 3.2
50歳代	59 31.4	— —	39 20.7	4 2.1
60歳～64歳	25 23.8	1 1.0	31 29.5	1 1.0
65歳～74歳	78 29.5	2 0.8	48 18.2	18 6.8
75歳以上	30 16.0	1 0.5	46 24.5	19 10.1
回答なし	— —	— —	4 40.0	— —

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

○75 歳以上の高齢者がいる世帯の方が非該当世帯（そうでない世帯）よりも「介護の相談」（28.5%）と「災害時などの緊急時の支援」（30.5%）の割合が多くなっています（図 3-10-3）。

図 3-10-3 75 歳以上の高齢者がいる世帯別「支援してほしい事項」

上段：回答数 下段：%	全体	日頃の声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 （情報提 供）
全体	1,244 100.0	454 36.5	229 18.4	90 7.2	83 6.7	88 7.1	62 5.0	55 4.4	249 20.0	197 15.8
75歳以上の高齢者が いる世帯	249 100.0	88 35.3	46 18.5	13 5.2	20 8.0	20 8.0	3 1.2	5 2.0	71 28.5	47 18.9
非該当世帯	956 100.0	349 36.5	176 18.4	75 7.8	61 6.4	67 7.0	59 6.2	50 5.2	166 17.4	144 15.1
回答なし	39 100.0	17 43.6	7 17.9	2 5.1	2 5.1	1 2.6	— —	— —	12 30.8	6 15.4

上段：回答数 下段：%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にな い	回答な し
全体	309 24.8	8 0.6	305 24.5	62 5.0
75歳以上の高齢者が いる世帯	76 30.5	— —	54 21.7	12 4.8
非該当世帯	226 23.6	8 0.8	243 25.4	46 4.8
回答なし	7 17.9	— —	8 20.5	4 10.3

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

○18 歳以下の子どもがいる世帯と非該当世帯（そうでない世帯）とでは、大きな差は認められ
ません（図 3-10-4）。

図 3-10-4 18 歳以下の子どもがいる世帯別「支援してほしい事柄」

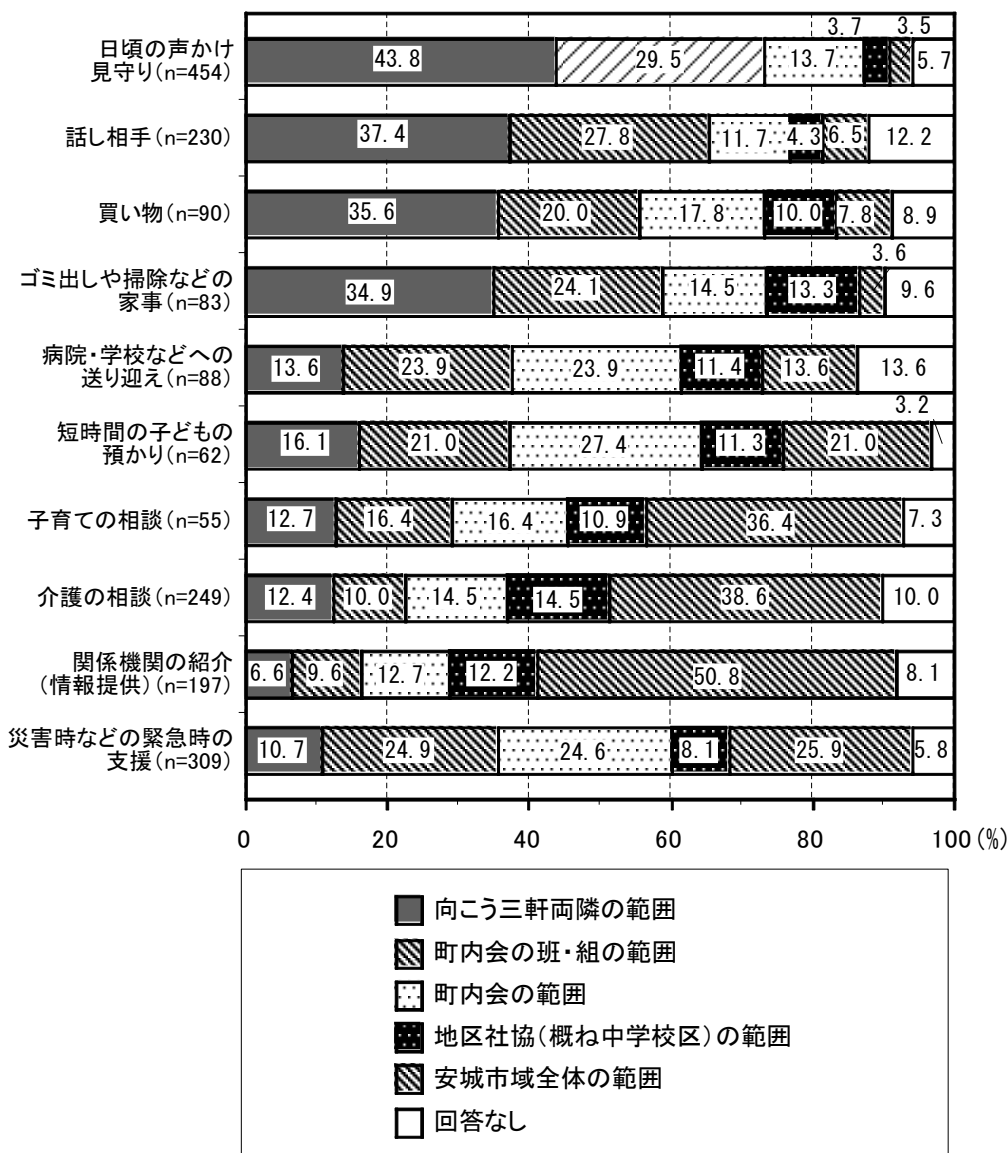
上段:回答数 下段:%	全体	日頃の声 かけ・見守 り	話し相手	買い物	ゴミ出しや 掃除など の家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談	介護の相 談	関係機関 の紹介 (情報提 供)
全体	1,244 100.0	454 36.5	229 18.4	90 7.2	83 6.7	88 7.1	62 5.0	55 4.4	249 20.0	197 15.8
18歳以下の子どもが いる世帯	420 100.0	151 36.0	81 19.3	20 4.8	20 4.8	36 8.6	45 10.7	38 9.0	69 16.4	58 13.8
非該当世帯	785 100.0	286 36.4	141 18.0	68 8.7	61 7.8	51 6.5	17 2.2	17 2.2	168 21.4	133 16.9
回答なし	39 100.0	17 43.6	7 17.9	2 5.1	2 5.1	1 2.6	- -	- -	12 30.8	6 15.4

上段:回答数 下段:%	災害時な どの緊急 時の支援	その他	特にない	回答なし
全体	309 24.8	8 0.6	305 24.5	62 5.0
18歳以下の子どもが いる世帯	103 24.5	1 0.2	98 23.3	18 4.3
非該当世帯	199 25.4	7 0.9	199 25.4	40 5.1
回答なし	7 17.9	- -	8 20.5	4 10.3

- 全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
- 全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
- 行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

- 「日ごろの声かけ・見守り」や「話し相手」、「買い物」、「ごみ出しや清掃などの家事」については、いずれも「向こう三軒両隣の範囲」の割合が最も多く、次いで「町内会の班・組の範囲」の割合が多くなっています。
- 「向こう三軒両隣の範囲」の割合と「町内会の班・組の範囲」を合わせた割合は、「日ごろの声かけ・見守り」では73.3%、「話し相手」では65.2%、「買い物」では55.6%、「ごみ出しや清掃などの家事」では59.0%となっており、半数を超える人が最も身近な地域での支援を望んでいます。
- 「病院・学校などへの送り迎え」と「短時間の子どもの預かり」については、どちらも「町内会の範囲」が最も多く、次いで「町内会の班・組の範囲」が多く、両者を合わせた割合はそれぞれ、47.8%、48.4%と、半数近くの人が比較的身近な地域での支援を望んでいます。また、「短時間の子どもの預かり」については、「安城市全体の範囲」が21.0%と、「町内会の班・組の範囲」と同じ割合を占めている特徴としてみられます。
- 「関係機関の紹介（情報提供）」と「介護の相談」、「子育ての相談」については、いずれも「安城市全体の範囲」の割合がそれぞれ、50.8%、38.6%、36.4%を占めています（図3-10-5）。
- 安城市の場合、地域包括支援センターによる介護相談をはじめとした福祉関連の相談窓口の多くは、地区社協（中学校区）単位で開設されていますが、それが市民にはあまり浸透していない状況がうかがえる結果になっています。

図 3-10-5 「地域の人たちに支援してほしい事項の地域の範囲」



(11) 困ったときに頼りになる知人・友人の有無（問 25）

問 25 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。
お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。
（○はそれぞれ1つ）

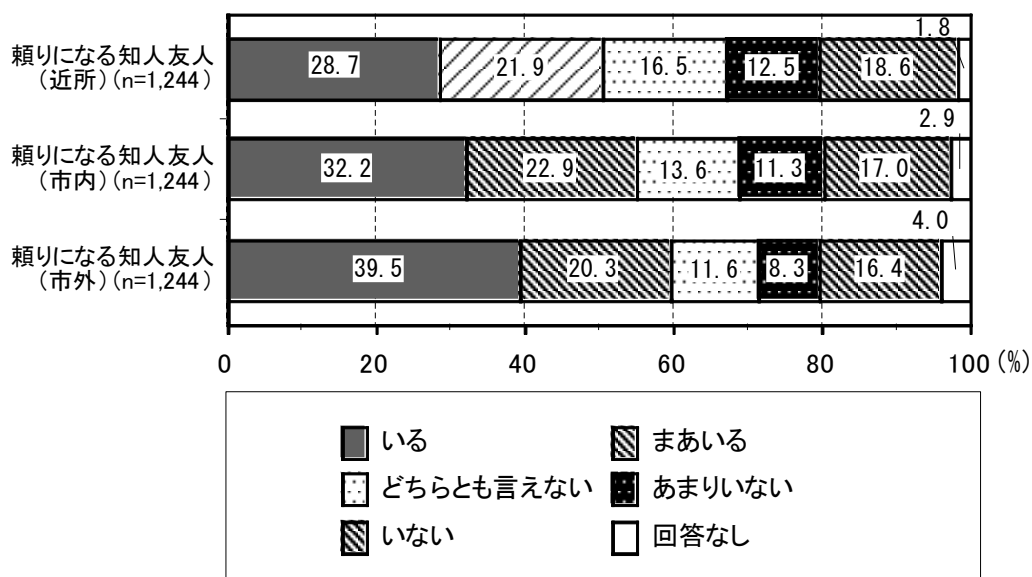
要点

困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」と「まあいる」を合わせた割合は、「近所」では 50.6%、「市内」では 55.1%、「市外」では 59.8%を占めています。困ったときに頼りになる知人・友人の範囲は、日常的な生活範囲（行動範囲）に影響を受けるような結果となっています。

全体

○困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」という人の割合は、「近所」では 28.7%、「市内」では 32.2%、「市外」では 39.5%となっています。「まあいる」の割合と合わせると、「近所」では 50.6%、「市内」では 55.1%、「市外」では 59.8%となっており、「近所」よりも「市内」の割合、「市内」よりも「市外」の割合の方が多くなっています（図 3-11-1）。

図 3-11-1 「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所・市内・市外）」



- 困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」と「まあいる」を合わせた割合は、20歳代以下では、「近所」(50.0%)よりも「市内」(64.9%)の方が、さらには、「市外」(71.9%)の方が多くなっています。
- 同様に「近所」<「市内」<「市外」という傾向は、30歳代や40歳代、50歳代でもみられ、30歳代では52.3%→59.4%→77.1%、40歳代では47.3%→56.3%→64.4%、50歳代では41.5%→48.4%→61.2%となっています。
- 60歳～64歳では50.5%→50.4%→53.3%（「近所」≒「市内」<「市外」）となっています。
- 65歳～74歳では54.1%→53.0%→53.4%（「近所」≒「市内」≒「市外」）となっています。
- 75歳以上では58.0%→59.9%→34.1%（「近所」≒「市内」>「市外」）となっています。
- このように、困ったときに頼りになる知人・友人の範囲は、日常生活範囲（行動範囲）に影響を受けるような結果となっています（図3-12-2～4）。
- また、65歳～74歳の前期高齢者や75歳以上の後期高齢者でも、近所に頼りになる知人・友人が「いない」という人が、それぞれ13.6%、16.0%いる状況は看過することができません。

図3-12-2 年齢別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）」

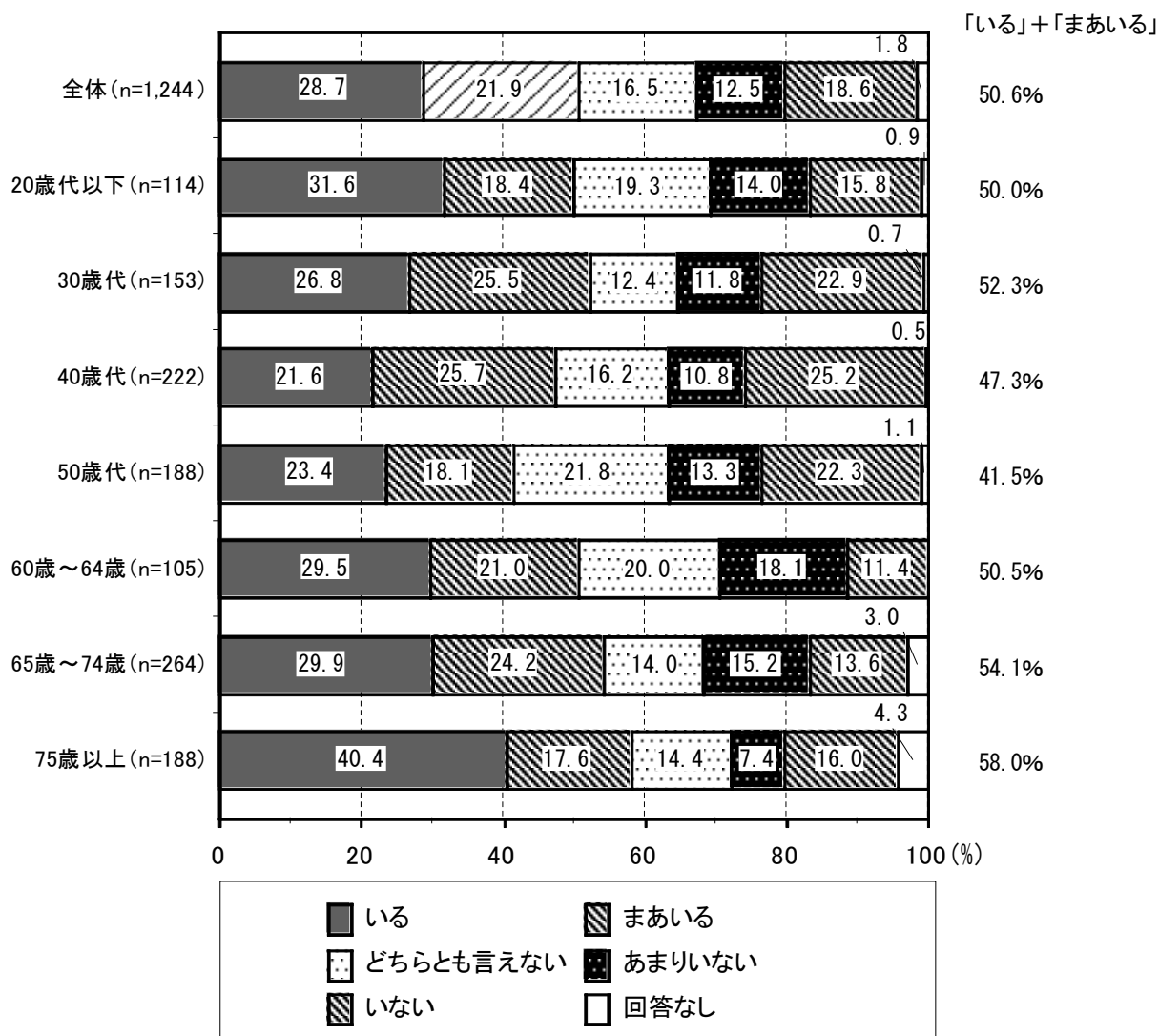


図 3-12-3 年齢別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（市内）」

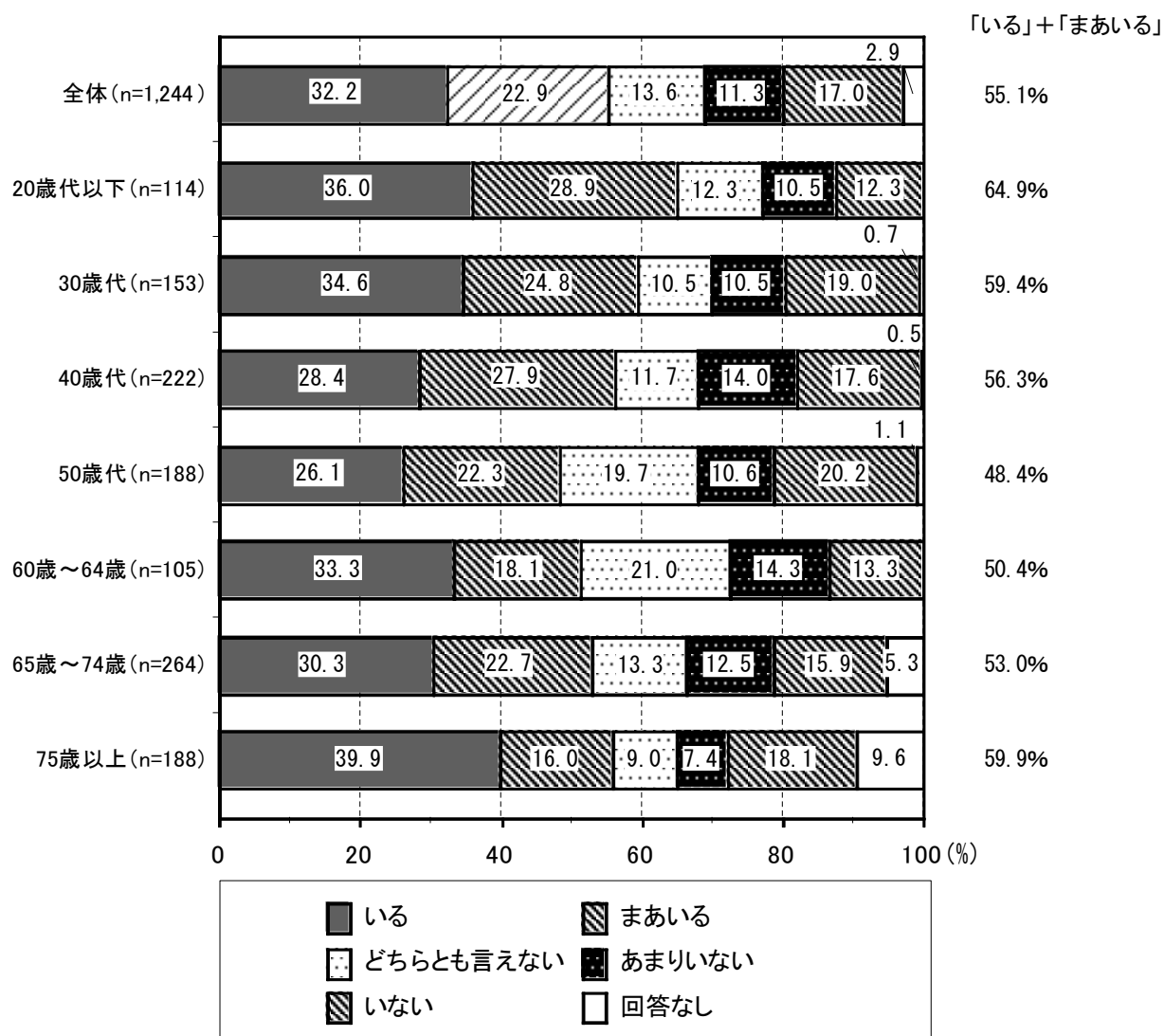
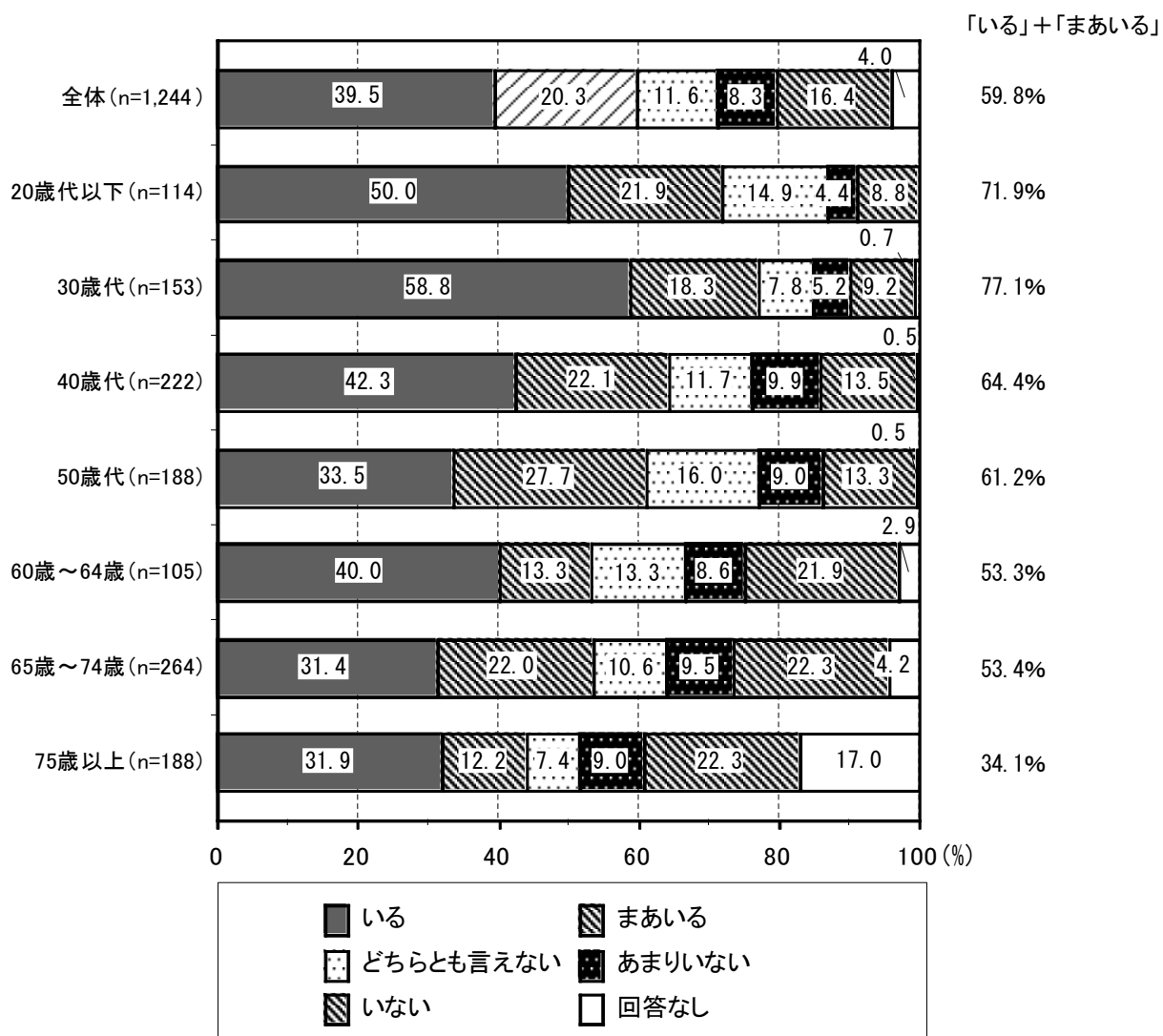
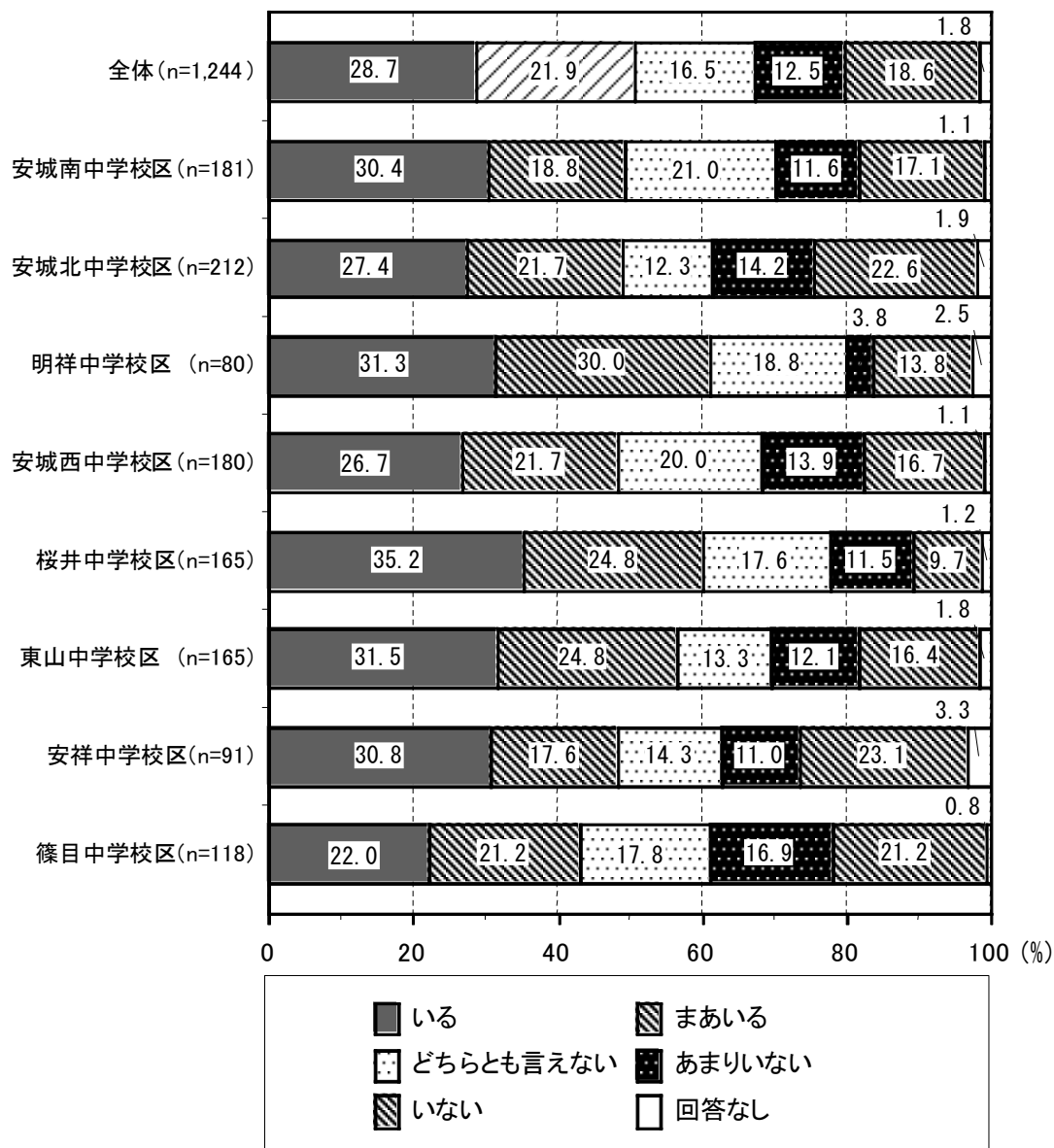


図 3-12-4 年齢別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（市外）」



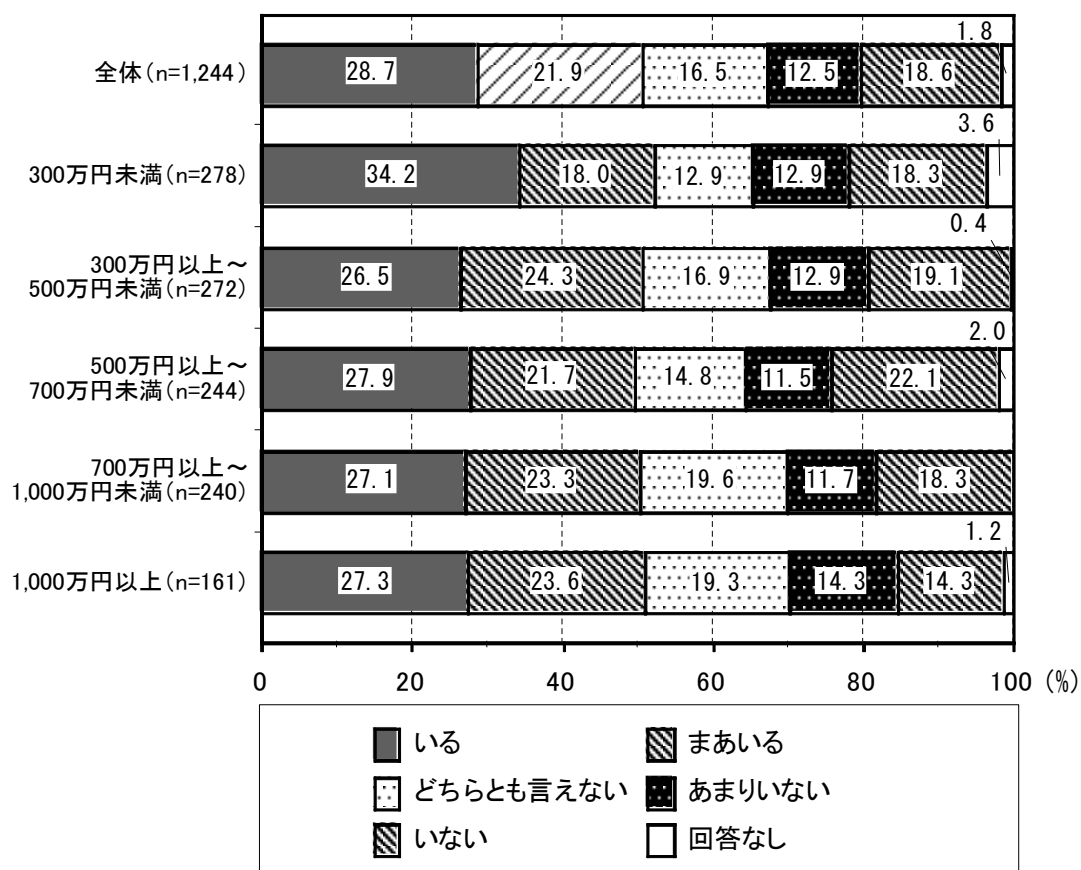
○中学校区別に困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）についてみると、困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」と「まあいる」を合わせた割合は、明祥中学校区（61.3%）と桜井中学校区（60.0%）で他の中学校区と比べて多くなっていますが、篠目中学校区（43.2%）で他の中学校区と比べて少なくなっています（図3-12-5）。

図3-12-5 中学校区別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）」



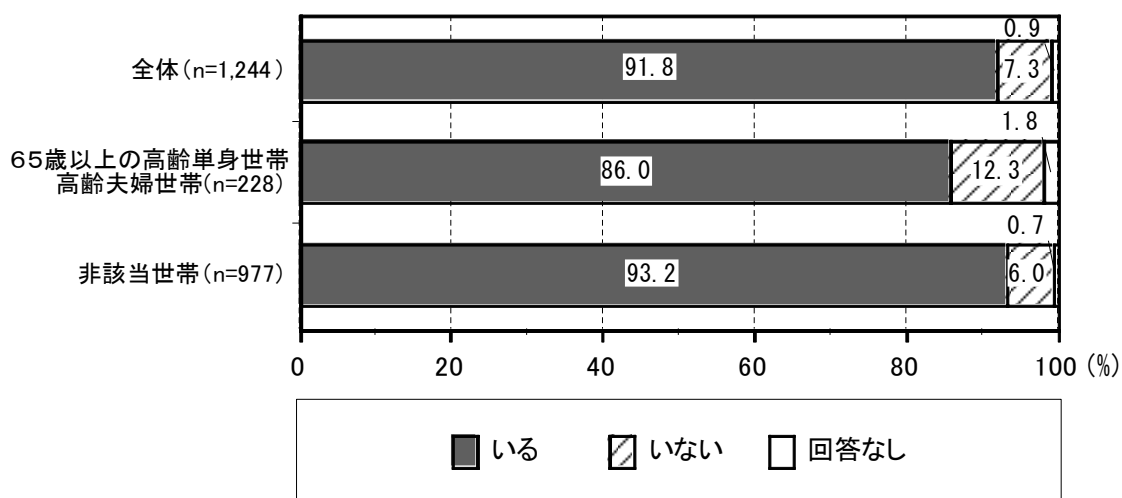
○世帯年収別に中学校区別に困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）についてみると、全般的に世帯年収による大きな差はみられませんが、低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯で「いる」の占める割合が若干多くなっています。一方で、低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯でも「いない」（18.3%）が2割程度占めていることは看過できません（図 3-12-6）。

図 3-12-6 世帯年収別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）」



○近所・市内・市外のいずれにも困ったときに頼りになる知人・友人が全く「いない」という人は、7.3%います。しかも、孤立化のリスクを抱えている「65歳以上の高齢単身世帯・高齢夫婦世帯」で「いない」という人が12.3%を占めていることは看過できません（図3-12-7）。

図3-12-7 65歳以上の高齢単身世帯・高齢夫婦世帯別
「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所・市内・市外）」



4 地域活動、ボランティア活動について

(1) 地域行事等への参加 (問 26)

問 26 この1年間で、あなたは、防犯や防災、お祭りなど地域の行事等に参加しましたか。
(○は1つだけ)

要点

「参加したことがない」という割合が34.6%と最も多くなっていますが、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」の割合は合わせて43.7%を占めています。

全体

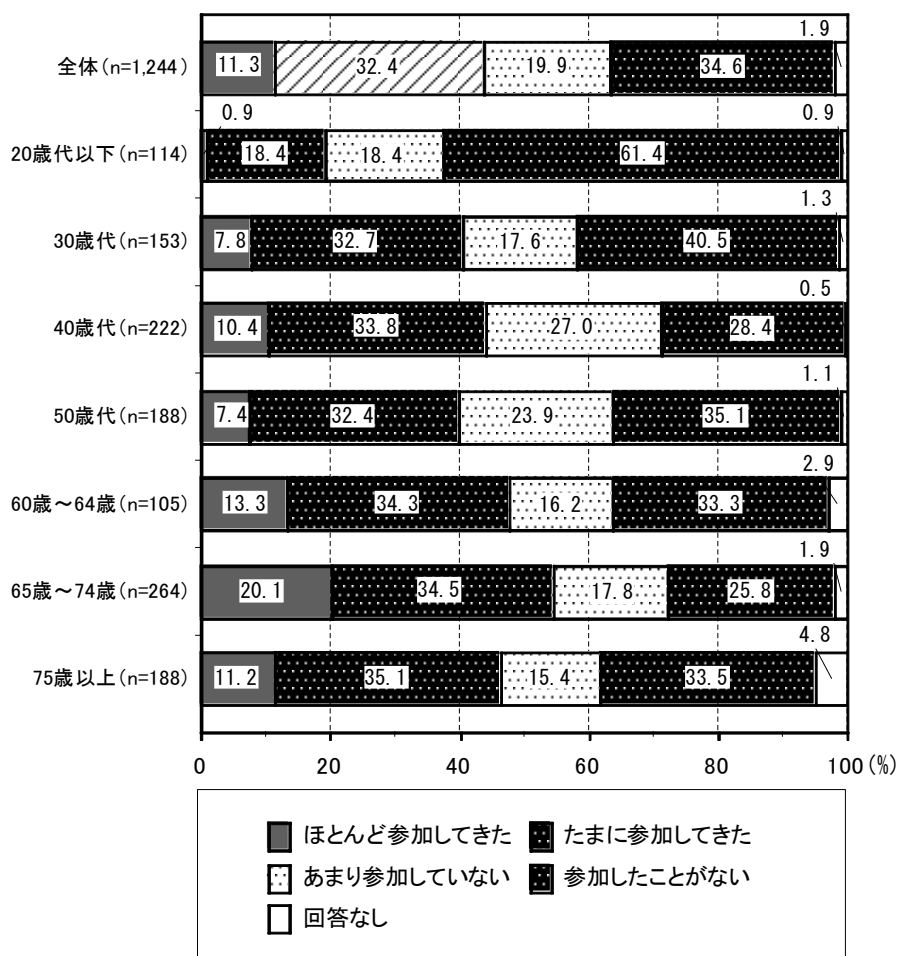
○この1年間で防犯や防災、お祭りなど地域の行事等に「参加したことがない」という割合が34.6%と最も多く、「あまり参加できていない」(19.9%)と合わせると54.5%で過半数を占めています。

○一方、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」の割合は、それぞれ11.3%、32.4%で合わせて43.7%を占めています(図4-1-1)。

年齢別

○20歳代以下で「参加したことがない」の割合が61.4%を占め目立って多くなっていること、30歳代でも「参加したことがない」の割合が40.5%と若干多くなっていることが特徴としてみられます。また、65～74歳で「ほとんど参加してきた」の割合が20.1%と他の年齢層に比べて多くなっていることが特徴としてみられます(図4-1-1)。

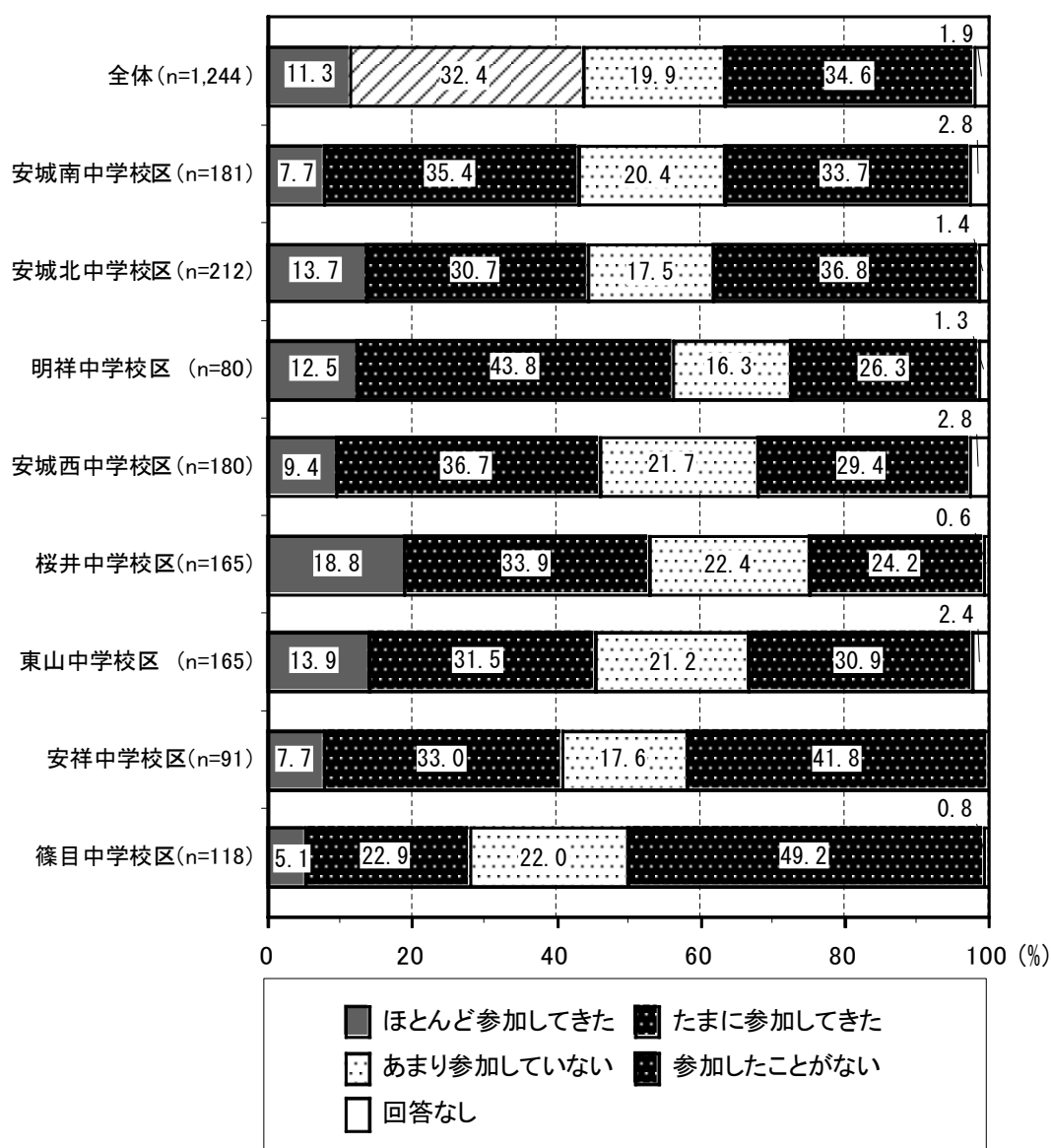
図4-1-1 年齢別「地域行事等への参加」



○明祥中学校区と桜井中学校区において、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合が、それぞれ 56.3%、52.7%を占め多くなっています。また、桜井中学校区では、「ほとんど参加してきた」の割合が 18.8%を占め、8 中学校区の中で一番多くなっています。

○一方、篠目中学校区では、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合が 28.0%と全体値を大きく下回っています。その分、「参加したことがない」の割合が 49.2%を占め目立って多くなっています。「参加したことがない」の割合は、安祥中学校区（41.8%）でも若干多くなっています（図 4-1-2）。

図 4-1-2 中学校区別「地域行事等への参加」

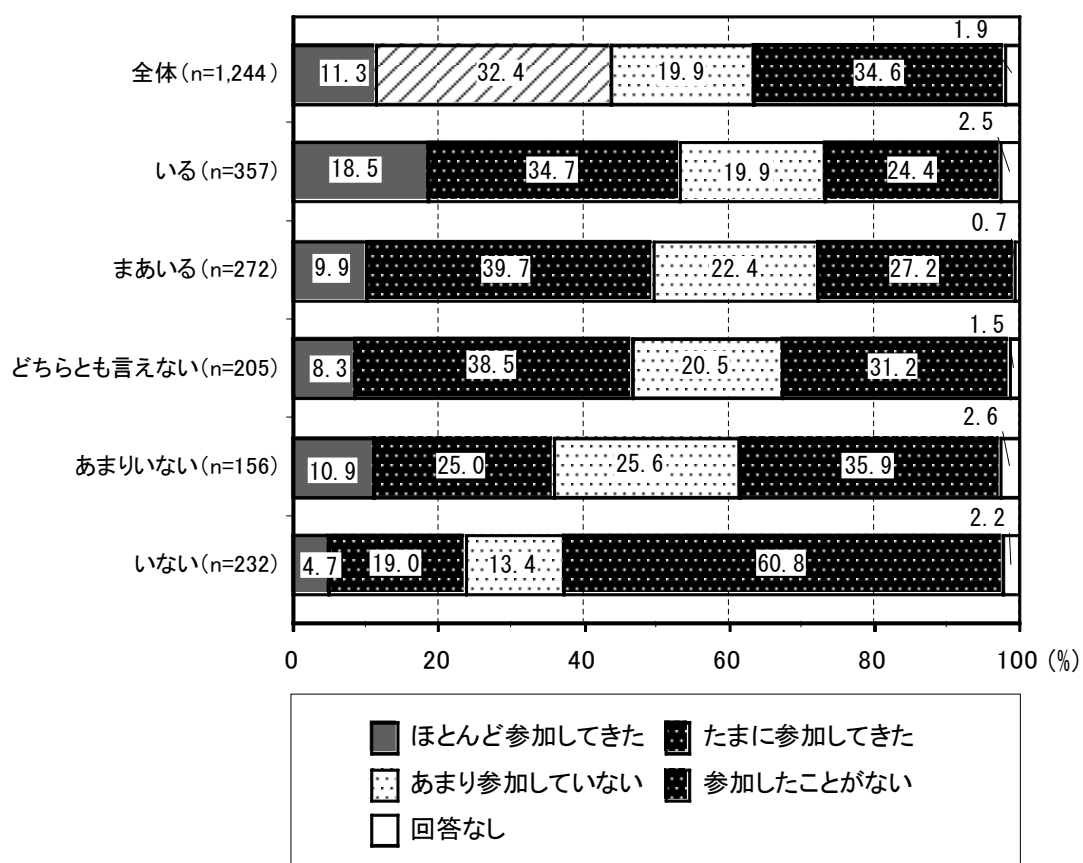


頼りになる知人・友人（近所）別

○困ったときに頼りになる知人・友人が近所にいない人ほど「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合が少なくなる傾向が顕著にみられます。

○困ったときに頼りになる知人・友人が近所に「いない」という人では、「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」を合わせた割合は 23.7%と少ない一方で、「参加したことがない」が 60.8%も占めています（図 4-1-3）。

図 4-1-3 頼りになる知人・友人（近所）別「地域行事等への参加」



(2) 参加している活動団体の行事（問 26-1）

問 26-1 どの活動団体の行事などに参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

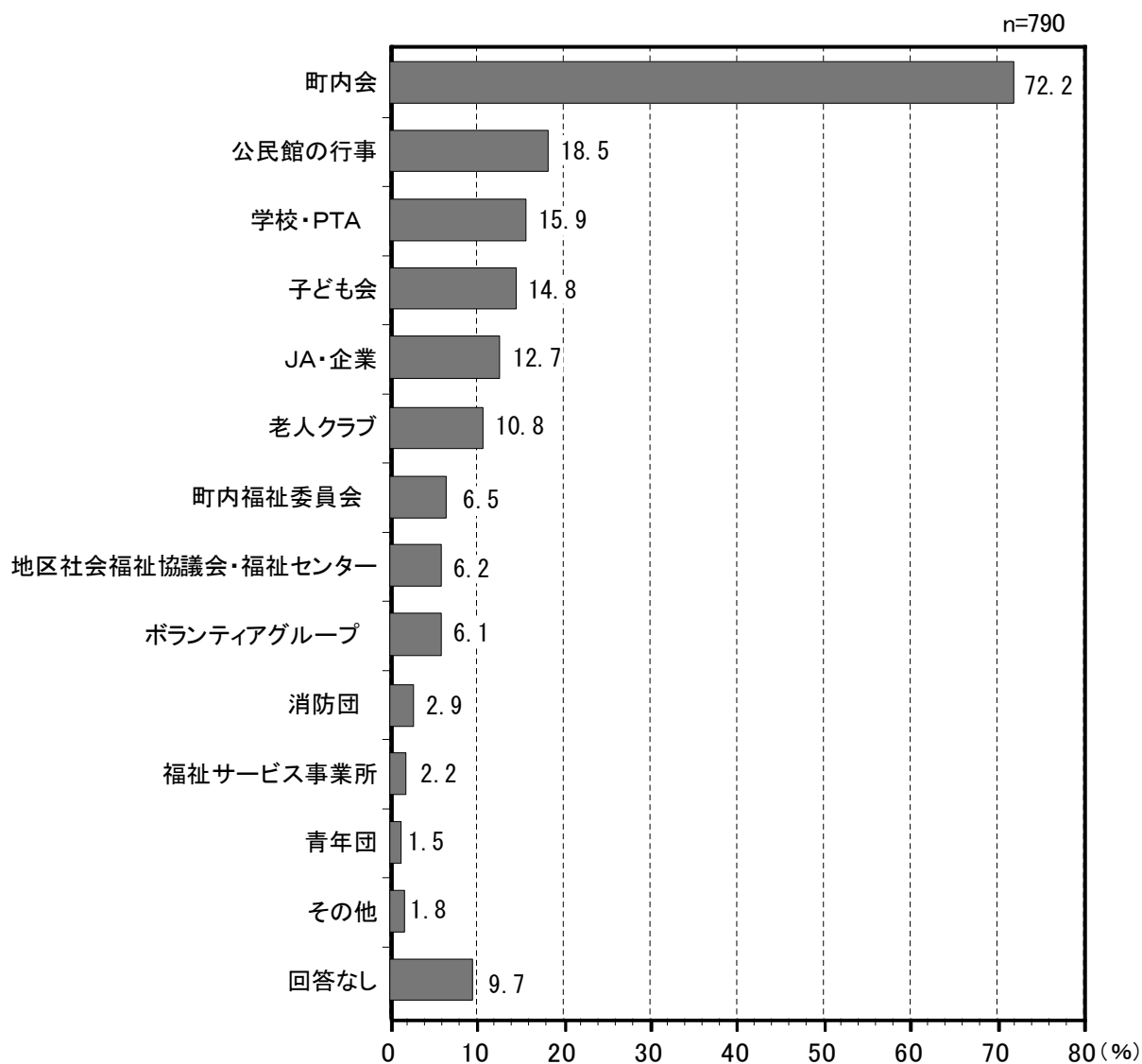
要点

「町内会」の行事等（72.2%）が最も多くなっています。

全体

- 問 26 で「ほとんど参加してきた」と「たまに参加してきた」、「あまり参加していない」のいずれかを回答した人 790 人に対して参加したことがある活動団体の行事等を尋ねたところ、「町内会」の行事等が 72.2%と他の団体を大きな差をつける形で最も多くなっています。
- 「町内会」に次いで、公民館の行事（18.5%）や「学校・PTA」（15.9%）、「子ども会」（14.8%）、「JA・企業」（12.7%）、「老人クラブ」（10.8%）が多くなっています（図 4-2-1）。

図 4-2-1 「参加している活動団体の行事」



(3) 地域福祉活動等への関わり (問 27)

問 27 現在、あなたは、次の (ア) ～ (サ) のような地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に関わっていますか。また、今後関わっていききたいですか。(ア) ～ (サ) の項目それぞれについて、1～6 の該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

要点

「若者の引きこもりの問題」などこれまでは関わりのある人が少なかった活動であっても、「これまで参加せずー今後は関わってみたい」といった潜在的な参加者はかなりの数です。こうした潜在的な参加者をいかに顕在化していくかが課題です。

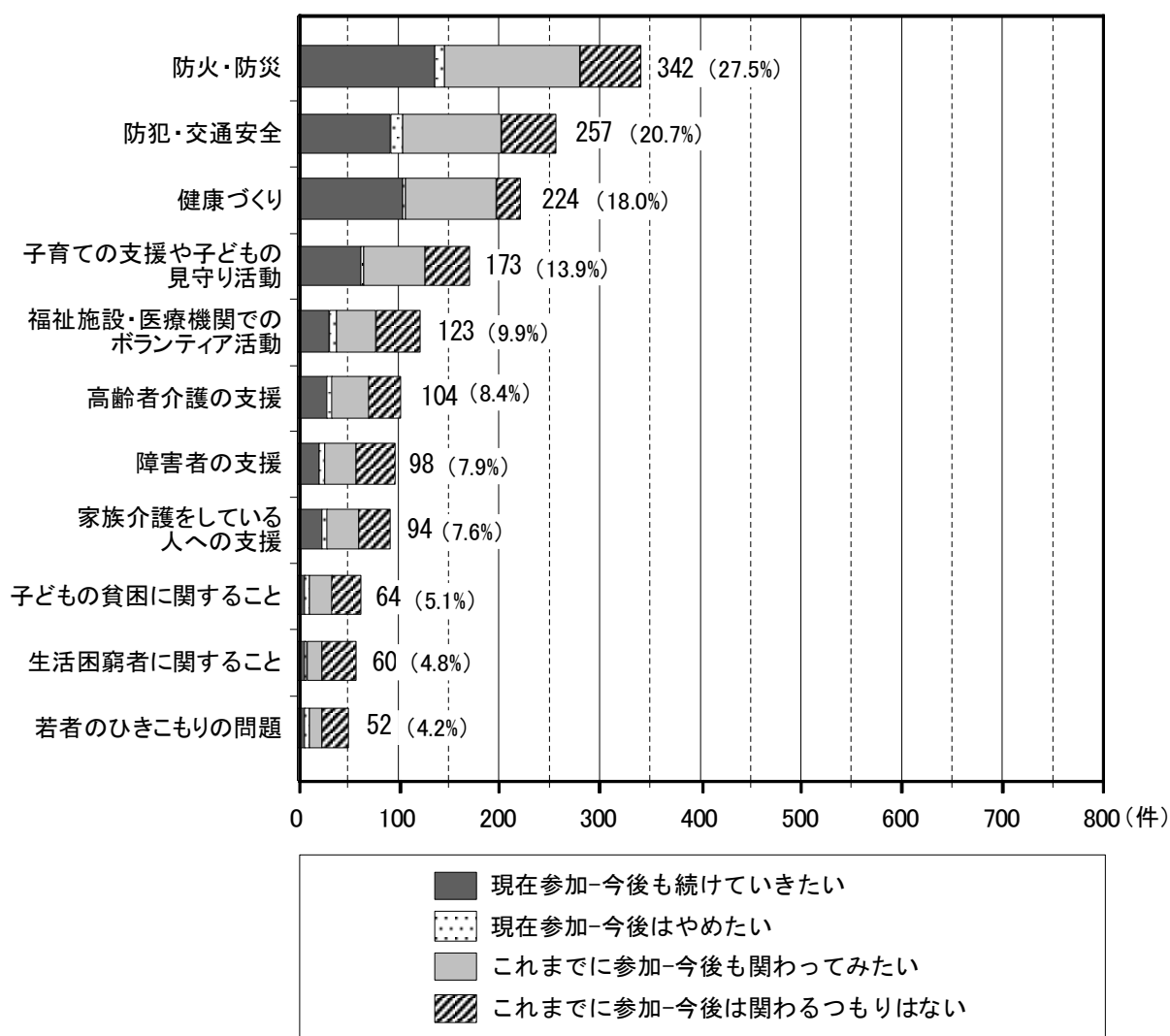
全体

【現在参加している・これまで参加したことがある地域福祉活動】

○最も多いのは、「防火・防災」で 342 人 (27.5%) となっています。次いで多いのは、「防犯・交通安全」(257 人、20.7%)、「健康づくり」(224 人、18.0%)、「子育ての支援や子どもの見守り活動」(173 人、13.9%) となっています。

○一方、近年課題になっている「若者の引きこもりの問題」(52 人、4.2%) や「生活困窮者に関すること」(60 人、4.8%)、「子どもの貧困に関すること」(64 人、5.1%) に参加したことがある人は限られています (図 4-3-1、図 4-3-3)。

図 4-3-1 「地域福祉活動等への関わり (現在参加している・これまで参加したことがある活動)」



【今後も参加する・今後は参加する地域福祉活動】

- 最も多いのは、「健康づくり」で 650 人 (52.3%) となっています。次いで多いのは、「防火・防災」(610 人、49.0%)、「防犯・交通安全」(553 人、44.5%)、「子育ての支援や子どもの見守り活動」(486 人、39.1%) となっています。
- いずれの地域福祉活動も「これまで参加せず-今後は関わってみたい」といった潜在的な参加者はかなりの数(割合)になっています。
- そして、近年課題になっている「子どもの貧困に関すること」(345 人、27.7%)や「生活困窮者に関すること」(235 人、18.9%)、「若者の引きこもりの問題」(245 人、19.7%)に参加したい・関わってみたいという人はかなりの数になっています(図 4-3-2、図 4-3-3)。

図 4-3-2 「地域福祉活動等への関わり(今後も参加する・今後は参加する活動)」

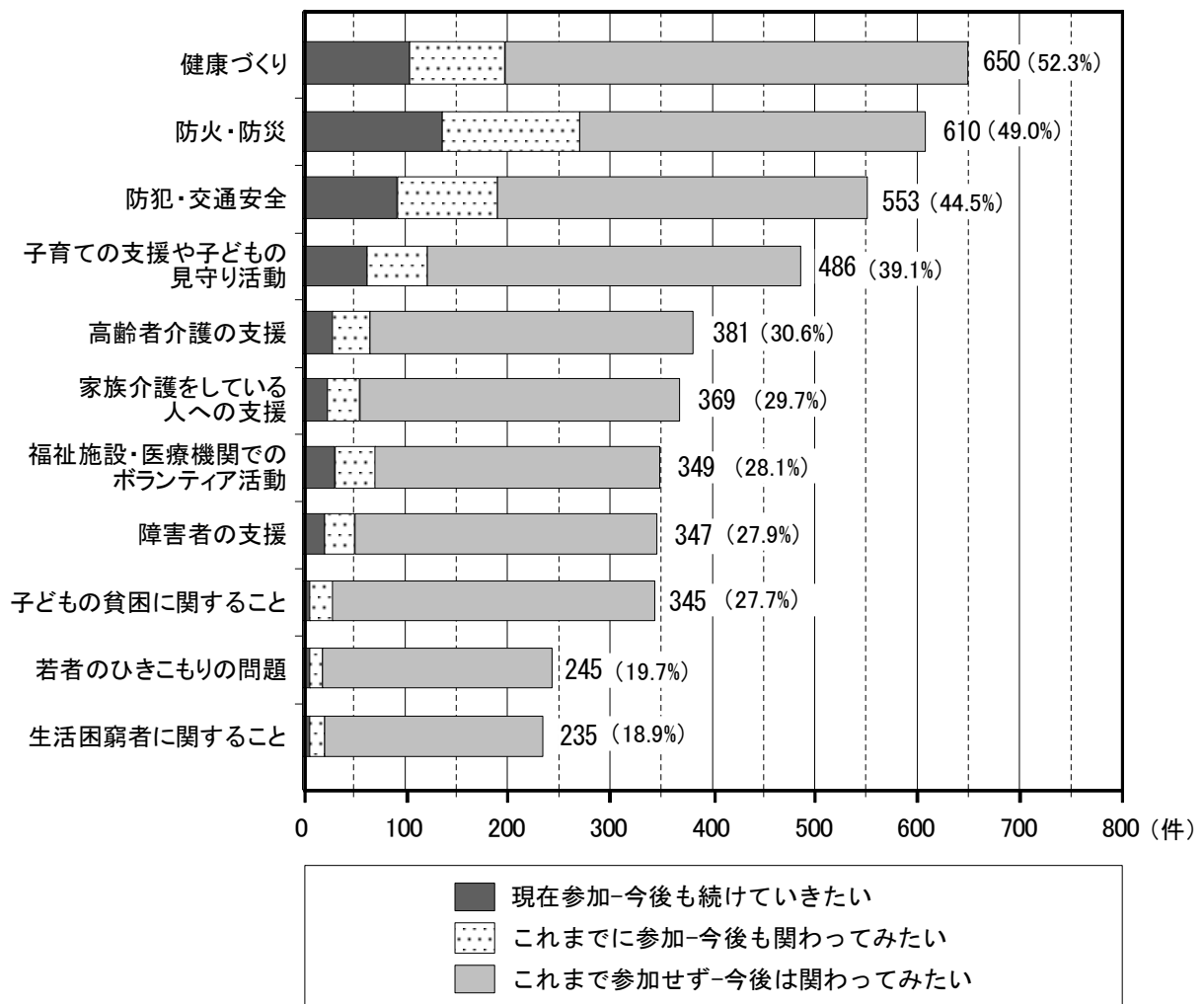
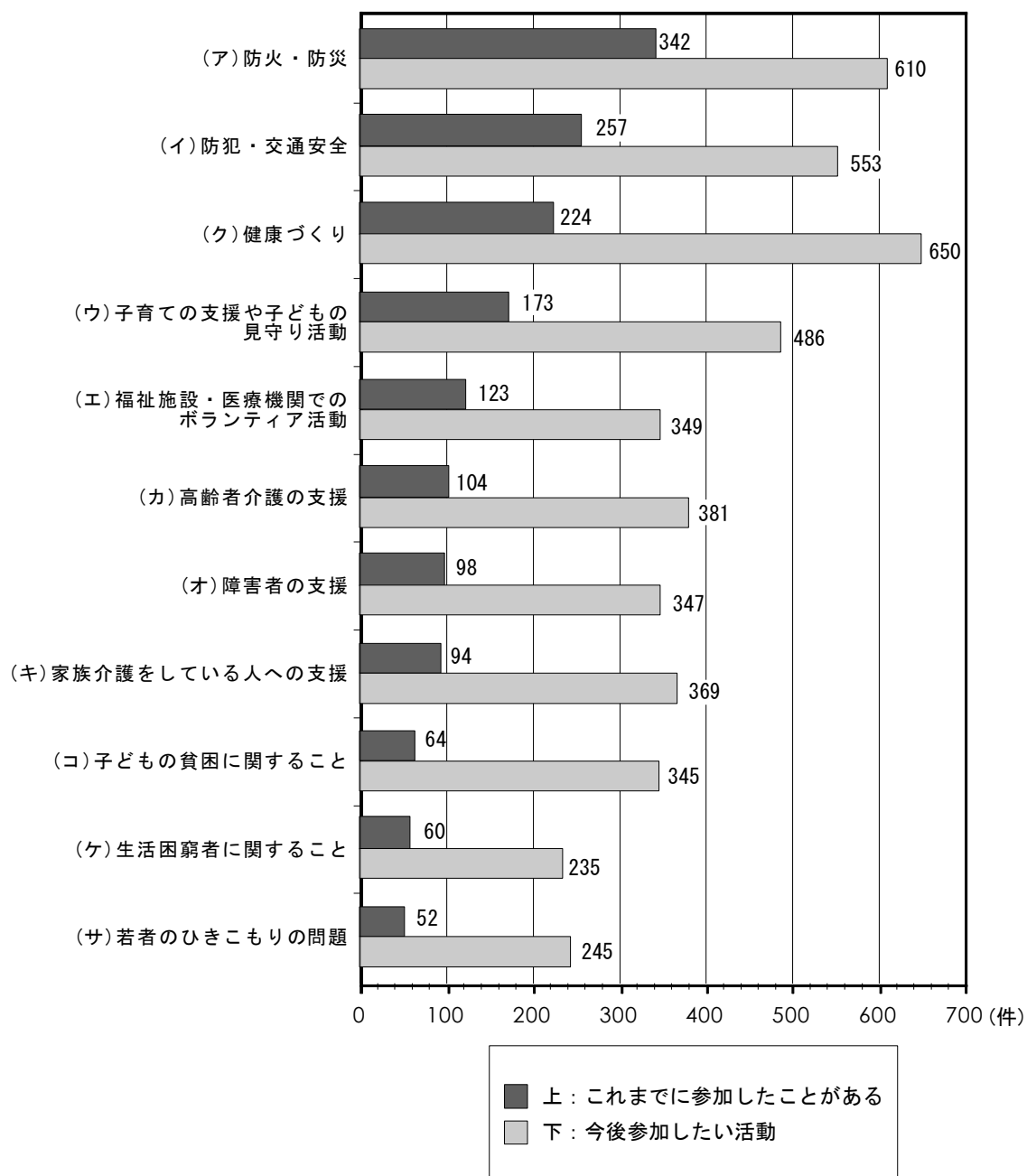


図 4-3-3 これまで参加したことがある活動と今後も（今後は）参加したい活動の比較



(4) 地域福祉活動等への参加意向 (問 27-1)

問 27-1 今後どのような条件が整えば、町内会等による地域福祉活動やボランティアNPO等の活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

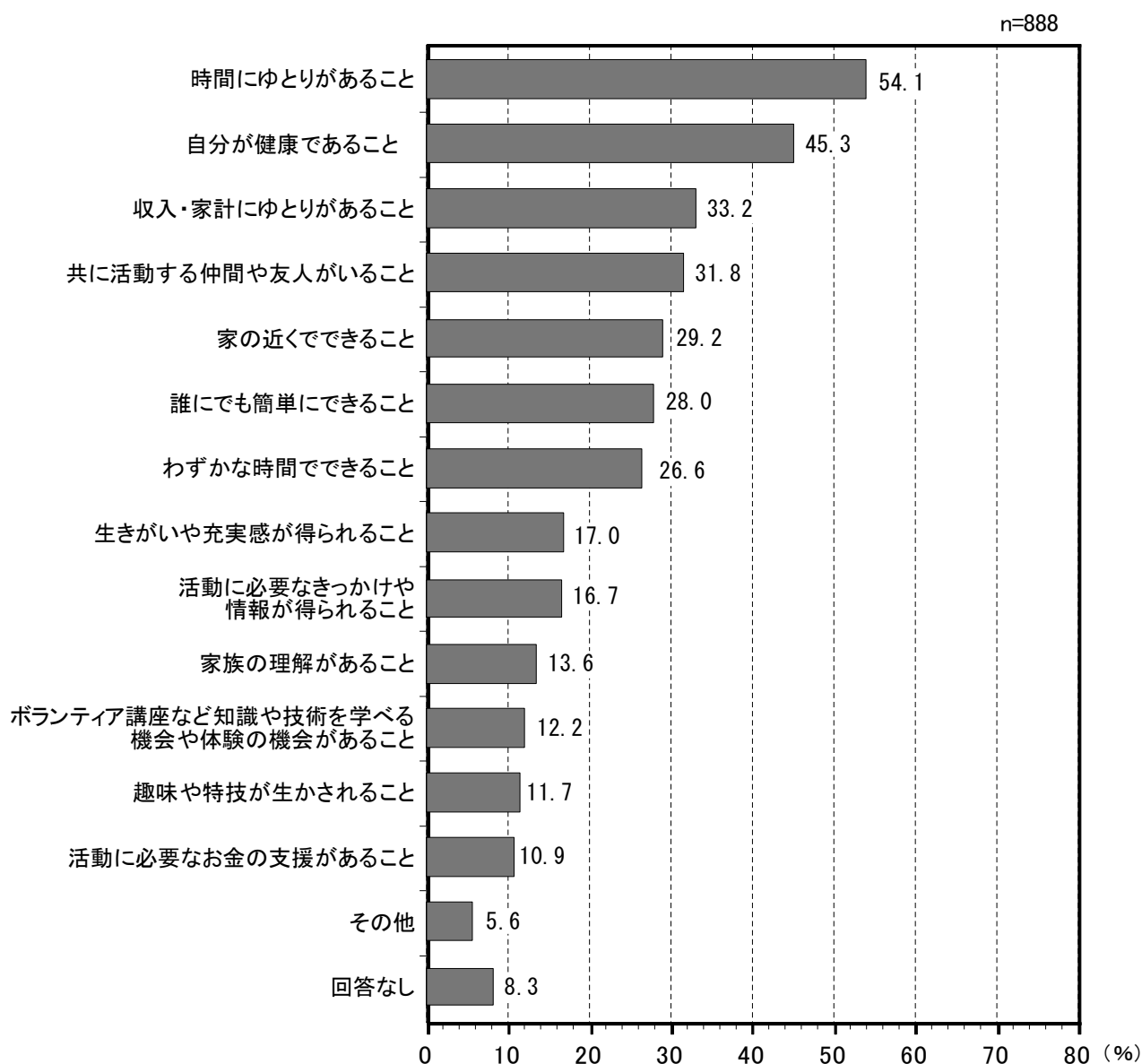
要点

「時間にゆとりがあること」の割合が 54.1%と最も多くなっています。次いで「自分が健康であること」(45.3%)、「収入・家計にゆとりがあること」(33.2%)、「共に活動する仲間や友人がいること」(31.8%)の割合が多くなっています。

全体

○「時間にゆとりがあること」の割合が 54.1%と最も多く、次いで「自分が健康であること」の割合が 45.3%、「収入・家計にゆとりがあること」の割合が 33.2%、「共に活動する仲間や友人がいること」の割合が 31.8%となっています(図 4-4-1)。

図 4-4-1 「地域福祉活動等への参加意向」



- 「時間にゆとりがあること」の割合は、30 歳代（78.8%）や 40 歳代（76.5%）、50 歳代（50 歳代（64.7%）といった働き盛りの世代で多くなっています。また、「収入・家計にゆとりがあること」の割合についても同様の傾向がみられます。
- 一方、「自分が健康であること」の割合については、65 歳～74 歳の前期高齢者（71.3%）までは、年齢が高くなるほど割合が多くなる傾向が顕著にみられます。
- 「共に活動する仲間や友人がいること」の割合は、特に 20 歳代以下（43.9%）で多くなっています。
- こうした若い年齢層の人の地域福祉活動等への参加を促すためには、「時間にゆとりがあること」はもとより、仲間や友人と共に活動できるような条件づくりをしていくことが大切であることを示唆する結果になっています。
- 「家の近くでできること」の割合は、地域デビューを迎える年齢層にあたる 60 歳～64 歳（44.9%）で多くなっています（図 4-4-2）。

図 4-4-2 年齢別「地域福祉活動等への参加意向」

上段:回答数 下段:%	全体	時間にゆとりがあること	収入・家計にゆとりがあること	家族の理解があること	自分が健康であること	共に活動する仲間や友人がいること	生きがいや充実感が得られること	趣味や特技が活かされること	誰にでも簡単にできること	家の近くでできること
全体	888 100.0	480 54.1	295 33.2	121 13.6	402 45.3	282 31.8	151 17.0	104 11.7	249 28.0	259 29.2
20歳代以下	82 100.0	51 62.2	30 36.6	6 7.3	13 15.9	36 43.9	13 15.9	6 7.3	14 17.1	11 13.4
30歳代	113 100.0	89 78.8	53 46.9	19 16.8	30 26.5	30 26.5	13 11.5	13 11.5	24 21.2	34 30.1
40歳代	183 100.0	140 76.5	89 48.6	37 20.2	76 41.5	65 35.5	30 16.4	19 10.4	64 35.0	51 27.9
50歳代	150 100.0	97 64.7	65 43.3	30 20.0	72 48.0	53 35.3	39 26.0	25 16.7	47 31.3	48 32.0
60歳～64歳	78 100.0	37 47.4	25 32.1	10 12.8	40 51.3	25 32.1	17 21.8	8 10.3	29 37.2	35 44.9
65歳～74歳	167 100.0	49 29.3	27 16.2	10 6.0	119 71.3	47 28.1	21 12.6	23 13.8	46 27.5	55 32.9
75歳以上	109 100.0	14 12.8	4 3.7	8 7.3	48 44.0	23 21.1	15 13.8	9 8.3	23 21.1	24 22.0
回答なし	6 100.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	4 66.7	3 50.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7

上段:回答数 下段:%	わずかな時間でできること	活動に必要なお金や支援があること	ボランティア講座など、知識や技術を学べる機会や体験の機会があること	活動に必要なきっかけや情報が得られること	その他	回答なし
全体	236 26.6	97 10.9	108 12.2	148 16.7	50 5.6	74 8.3
20歳代以下	24 29.3	8 9.8	6 7.3	14 17.1	6 7.3	7 8.5
30歳代	35 31.0	16 14.2	15 13.3	18 15.9	8 7.1	3 2.7
40歳代	60 32.8	24 13.1	30 16.4	36 19.7	8 4.4	4 2.2
50歳代	48 32.0	22 14.7	29 19.3	33 22.0	5 3.3	7 4.7
60歳～64歳	19 24.4	12 15.4	11 14.1	20 25.6	3 3.8	9 11.5
65歳～74歳	32 19.2	7 4.2	9 5.4	17 10.2	8 4.8	16 9.6
75歳以上	15 13.8	5 4.6	6 5.5	9 8.3	12 11.0	28 25.7
回答なし	3 50.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	-	-

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

(5) 今後、充実すべき地域福祉活動（問 28）

問 28 今後のあなたの暮らしや今後予想される地域社会の状況を踏まえると、今後、どのような地域の福祉活動（町内会等の地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動）を充実していくべきと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

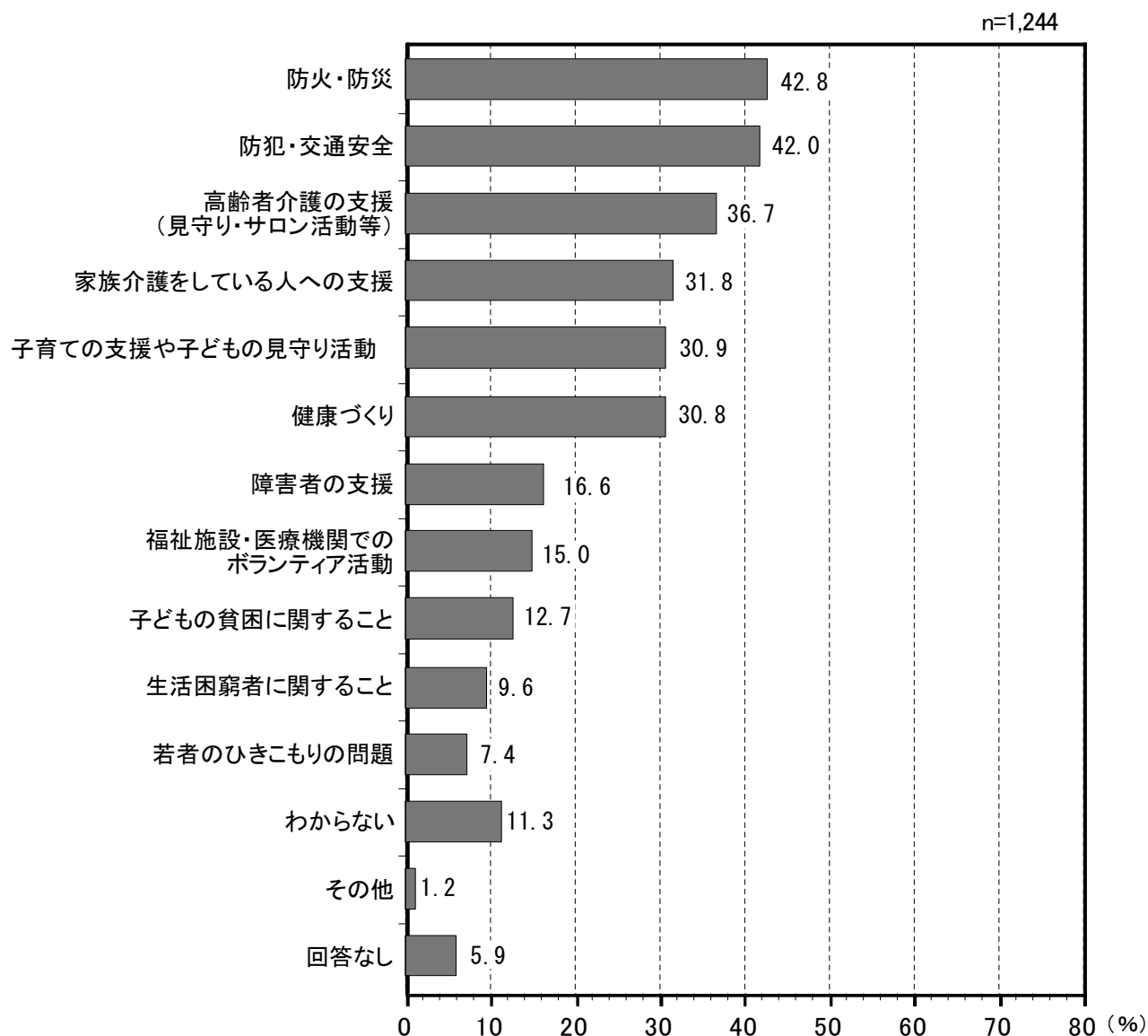
要点

「防火・防災」(42.8%)の割合が最も多くなっていますが、「防犯・交通安全」(42.0%)もほぼ同じ割合になっています。これらに次いで「高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等）」(36.7%)や「家族介護をしている人の支援」(31.8%)等が多くなっています。

全体

○「防火・防災」の割合が42.8%と最も多くなっていますが、「防犯・交通安全」(42.0%)もほぼ同じ割合になっています。
○これらに次いで「高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等）」(36.7%)、「家族介護をしている人の支援」(31.8%)、「子育ての支援や子どもの見守り」(30.9%)、「健康づくり」(30.8%)の割合が多くなっています（図4-5-1）。

図4-5-1 「今後、充実すべき地域福祉活動」



年齢別

- 「防火・防災」の割合は、30歳代（53.6%）で多くなっています。また、50歳代でも若干多くなっています。
- 「子育ての支援や子どもの見守り」の割合についても30歳代（58.2%）が目立って多く、また、20歳代以下（42.1%）と40歳代（41.4%）でも多くなっています。
- 「健康づくり」の割合は、65歳～74歳の前期高齢者（46.6%）で多くなっています（図4-5-2）。

図4-5-2 年齢別「今後、充実すべき地域福祉活動」

上段：回答数 下段：%	全体	防火・防災	防犯・交通安全	子育ての支援や子どもの見守り活動	福祉施設・医療機関でのボランティア活動	障害者の支援	高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等）	家族介護をしている人への支援	健康づくり	生活困窮者に関する事
全体	1,244 100.0	533 42.8	523 42.0	385 30.9	187 15.0	207 16.6	456 36.7	396 31.8	383 30.8	119 9.6
20歳代以下	114 100.0	45 39.5	43 37.7	48 42.1	16 14.0	14 12.3	31 27.2	29 25.4	17 14.9	15 13.2
30歳代	153 100.0	82 53.6	83 54.2	89 58.2	18 11.8	29 19.0	50 32.7	50 32.7	29 19.0	18 11.8
40歳代	222 100.0	93 41.9	93 41.9	92 41.4	41 18.5	41 18.5	83 37.4	85 38.3	56 25.2	18 8.1
50歳代	188 100.0	93 49.5	89 47.3	55 29.3	28 14.9	31 16.5	74 39.4	68 36.2	58 30.9	14 7.4
60歳～64歳	105 100.0	47 44.8	46 43.8	27 25.7	20 19.0	20 19.0	43 41.0	36 34.3	34 32.4	15 14.3
65歳～74歳	264 100.0	114 43.2	109 41.3	54 20.5	36 13.6	45 17.0	112 42.4	78 29.5	123 46.6	26 9.8
75歳以上	188 100.0	55 29.3	56 29.8	17 9.0	25 13.3	26 13.8	60 31.9	48 25.5	65 34.6	11 5.9
回答なし	10 100.0	4 40.0	4 40.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0

上段：回答数 下段：%	子どもの貧困に関する事	若者のひきこもりの問題	わからない	その他	回答なし
全体	158 12.7	92 7.4	141 11.3	15 1.2	73 5.9
20歳代以下	15 13.2	9 7.9	22 19.3	2 1.8	3 2.6
30歳代	30 19.6	12 7.8	5 3.3	2 1.3	4 2.6
40歳代	36 16.2	24 10.8	31 14.0	4 1.8	6 2.7
50歳代	17 9.0	12 6.4	19 10.1	4 2.1	2 1.1
60歳～64歳	16 15.2	12 11.4	10 9.5	-	6 5.7
65歳～74歳	30 11.4	15 5.7	24 9.1	1 0.4	13 4.9
75歳以上	11 5.9	7 3.7	29 15.4	1 0.5	37 19.7
回答なし	3 30.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

（６）福祉活動をする上でほしい対価（問 29）

問 29 あなたが地域で福祉活動をする場合、どれくらいの対価が得られれば活動したいと思いますか。
（○は１つだけ）

要点

「特に対価を求めない」の割合が 40.5%を占め最も多く、次いで「最低賃金程度の報酬が得られれば活動する」（20.6%）の割合が多くなっています。

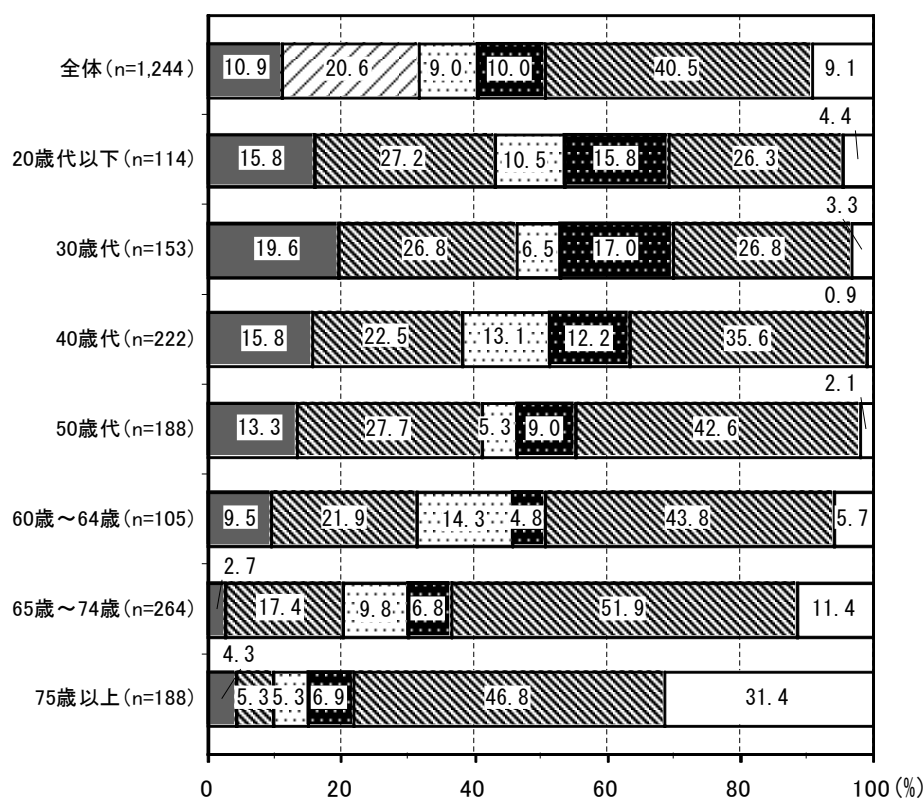
全体

○「特に対価を求めない」の割合が 40.5%を占め最も多くなっています。
○次いで「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する」（20.6%）の割合が多く、「ワンコイン（500 円）程度の報酬が得られれば活動する」（9.0%）と合わせた“低額の有償であれば活動する”という人は 29.6%を占めています（図 4-6-1）。

年齢別

○「特に対価を求めない」の割合は、75 歳以上を除くと年齢が高くなるほど多くなる傾向が顕著にみられます。
○逆に「生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する」といった仕事として捉えているような人の割合は、30 歳代（19.6%）や 20 歳代以下（15.8%）、40 歳代（15.8%）で若干多くなっています（図 4-6-1）。

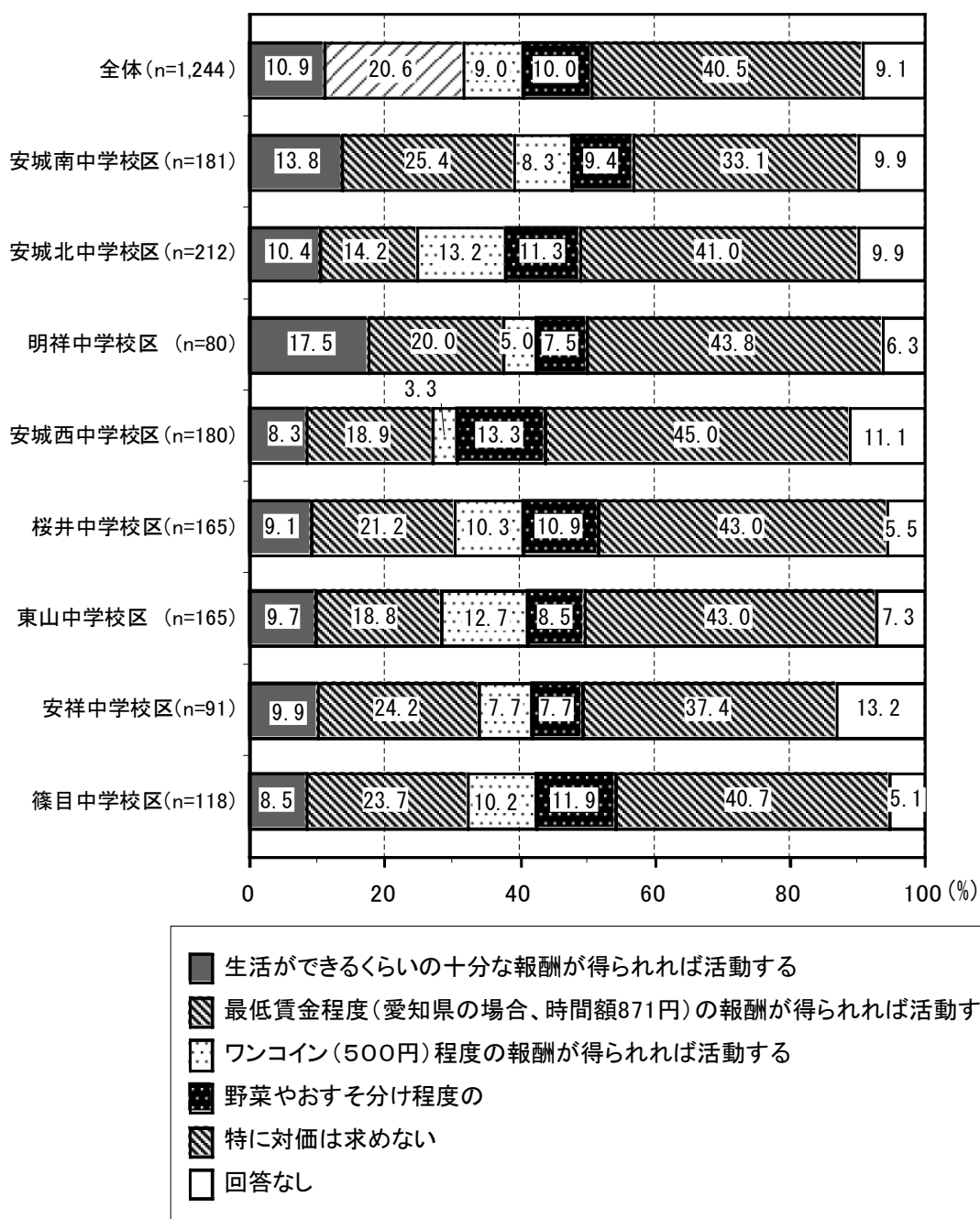
図 4-6-1 年齢別「福祉活動をする上でほしい対価」



- 生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する
- ▨ 最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する
- ワンコイン（500 円）程度の報酬が得られれば活動する
- 野菜やおすそ分け程度の
- ▨ 特に対価は求めない
- 回答なし

- 全般的にあまり大きな差異はみられませんが、安城南中学校区で「特に対価を求めない」の割合（33.1%）が全体値に比べて少なくなっています。
- また、安城北中学校区で「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する」の割合（14.2%）が全体値に比べて少なくなっています。
- さらに、「生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する」といった仕事として捉えているような人の割合は、明祥中学校区（17.5%）で多くなっています（図 4-6-2）。

図 4-6-2 中学校区別「福祉活動をする上でほしい対価」



（７）福祉活動を依頼する上で支払う対価（問 30）

問 30 あなたが地域での福祉活動を依頼する場合、どれくらいの対価であれば依頼したいと思いますか。（○は１つだけ）

要点

「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」が 32.0%を占め最も多く、次いで多い「最低賃金程度であれば支払って依頼する」（26.0%）と合わせると 58.0%を占めています。

福祉活動する側は、無償ボランティアの志向が強いのにに対して、福祉活動を依頼する側の立場ではといった有償ボランティアの方が気軽であるという意識が強い状況がうかがえます。

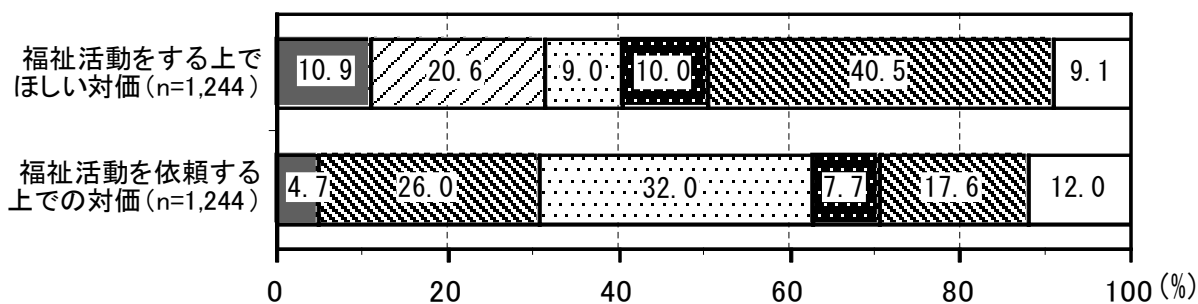
全体

○福祉活動をする上でほしい対価では、「特に対価を求めない」（40.5%）の割合が最も多くなっていたのに対して、福祉活動を依頼する上での支払う対価では、「対価の支払いがあるのであれば依頼しない」の割合は 17.6%とあまり多くありません。

○福祉活動を依頼する上で支払う対価では、「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」が 32.0%を占め最も多く、次いで多い「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」（26.0%）と合わせた“低額であれば支払って依頼する”という人は 58.0%を占めています（図 4-7-1）。

○このように、福祉活動する側は、「特に対価を求めない」といった無償ボランティアの志向が強いのにに対して、福祉活動を依頼する側の立場では「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」といった有償ボランティアの方が気軽であるという意識が強い状況がうかがえます。

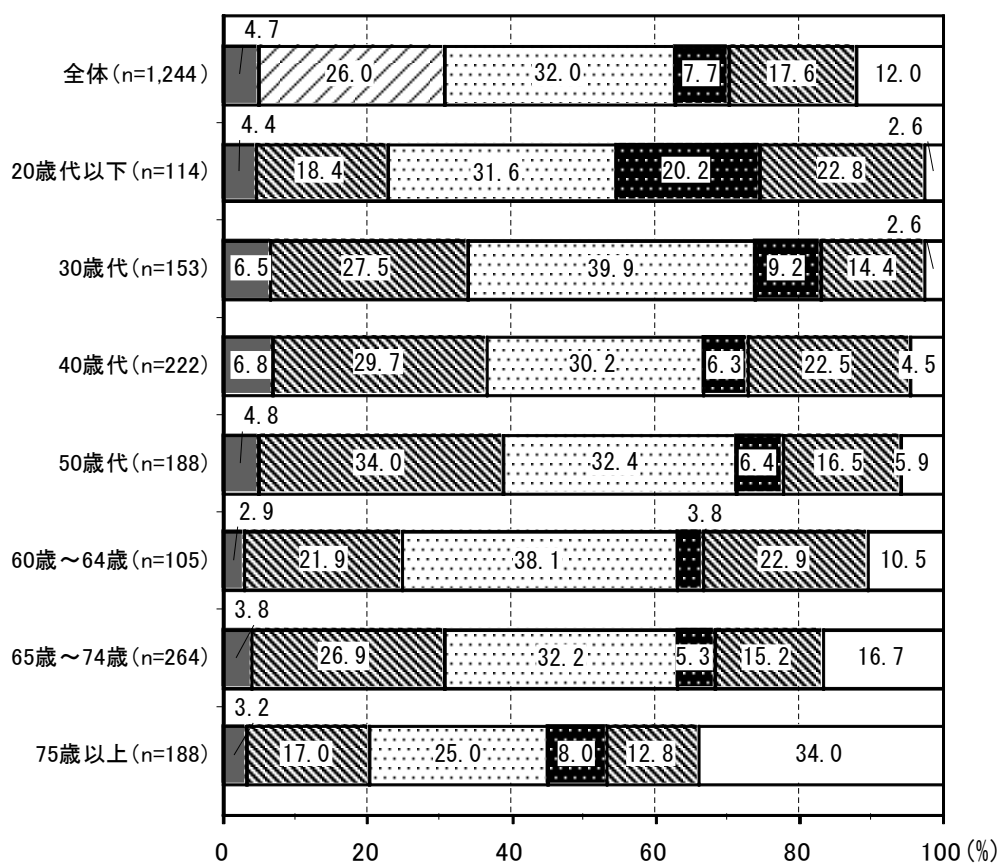
図 4-7-1 「福祉活動をする上でほしい対価と福祉活動を依頼する上で支払う対価」



- 生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する(依頼する)
- ▨ 最低賃金程度(愛知県の場合、時間額871円)の報酬が得られれば活動する(依頼する)
- ▤ ワンコイン(500円)程度の報酬が得られれば活動する(依頼する)
- ▥ 野菜やおすそ分け程度の気持ちがあれば活動する(依頼する)
- ▧ 特に対価は求めない(対価の支払いがあるのであれば依頼しない)
- 回答なし

- 「ワンコイン（500 円）程度であれば支払って依頼する」の割合は 30 歳代（39.9%）や 60 歳～64 歳（38.1%）で若干多くなっています。
- そのほか、50 歳代で「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」の割合（34.0%）が他の年齢層に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。
- また、20 歳代以下では、「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）であれば支払って依頼する」の割合が 18.4%と少ない一方で、「野菜やおすそ分け程度であれば依頼する」（20.2%）や「対価の支払いがあるのであれば依頼しない」（22.8%）が多くなっていることが特徴としてみられます（図 4-7-2）。

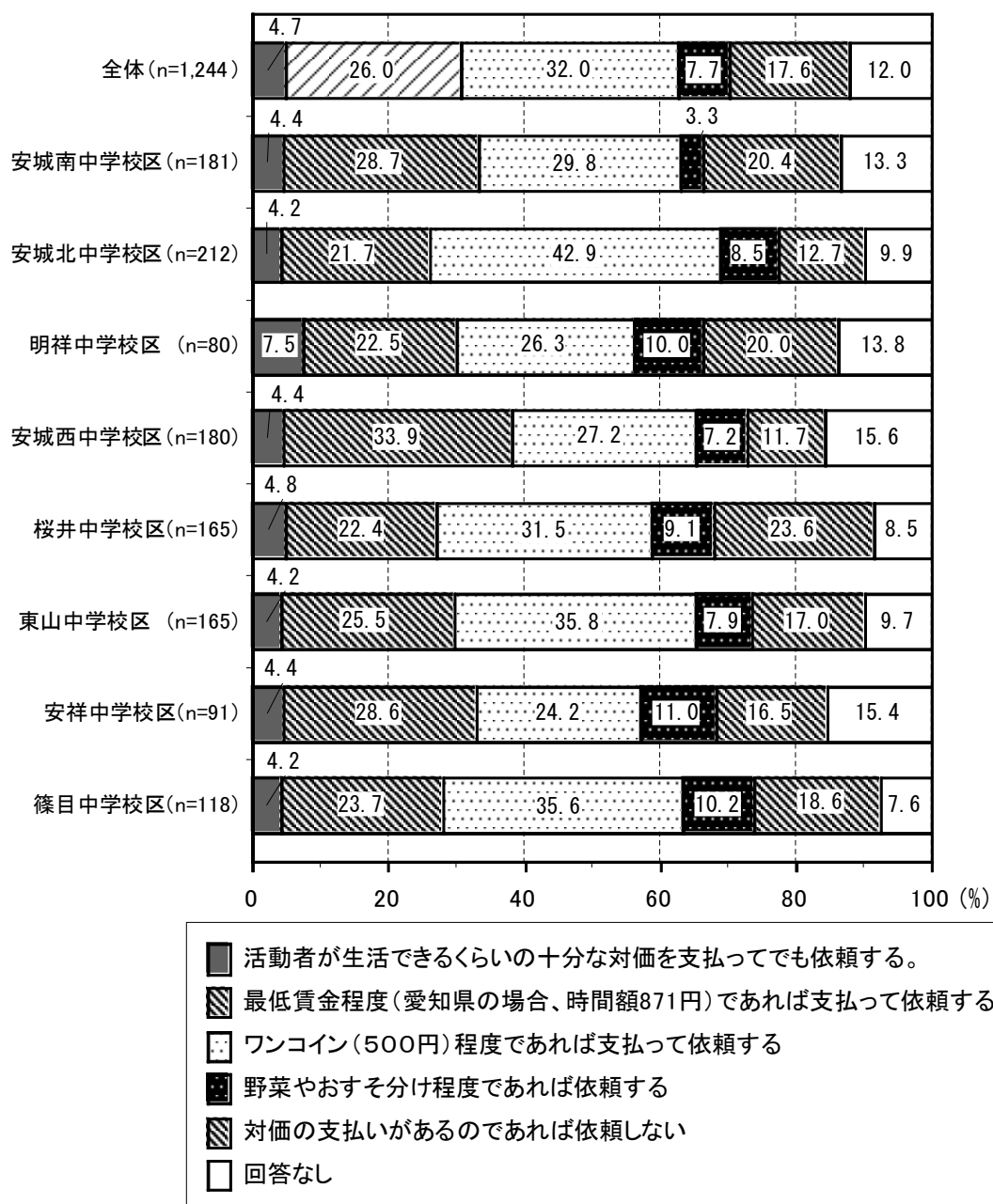
図 4-7-2 年齢別「福祉活動を依頼する上で支払う対価」



- 活動者が生活できるくらいの十分な対価を支払ってでも依頼する。
- ▨ 最低賃金程度（愛知県の場合、時間額871円）であれば支払って依頼する
- ░ ワンコイン（500円）程度であれば支払って依頼する
- ▤ 野菜やおすそ分け程度であれば依頼する
- ▧ 対価の支払いがあるのであれば依頼しない
- 回答なし

- 「ワンコイン（500円）程度であれば支払って依頼する」の割合は、安城北中学校区（42.9%）で多くなっています。
- 「最低賃金程度（愛知県の場合、時間額871円）であれば支払って依頼する」の割合は、安城西中学校区（33.9%）で若干多くなっています。
- 「対価の支払いがあるのであれば依頼しない」の割合は、桜井中学校区（23.6%）で若干多くなっています（図4-7-3）。

図4-7-3 中学校区別「福祉活動を依頼する上での対価の額」



(8) 高齢期の過ごし方 (問 31)

問 31 あなたは、定年退職後など的高齢期を主にどのように過ごしたいとお考えですか。
(○は3つまで) ※既に高齢期を迎えておられる方もご回答ください。

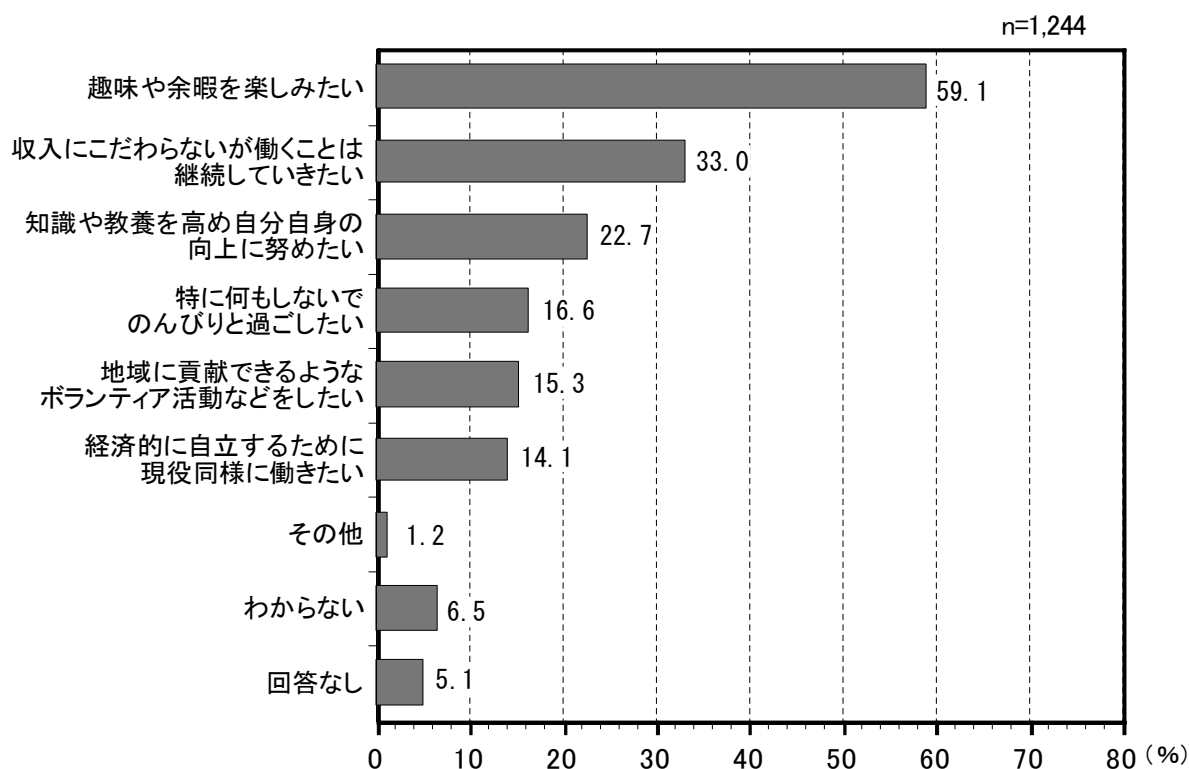
要点

「趣味や余暇を楽しみたい」(59.1%)や「収入にこだわらないが働くことは継続していききたい」(33.0%)など、自身のためや個人的な生活のために高齢期を過ごしていききたいという意向が強く、「地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい」といった他者への貢献に対する意向を示す人はあまり多くありません。

全体

○「趣味や余暇を楽しみたい」の割合が59.1%と最も多くなっています。次いで「収入にこだわらないが働くことは継続していききたい」(33.0%)、「知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい」(22.7%)が多くなっています。
○全般的に自身のためや個人的な生活のために高齢期を過ごしていききたいという意向が強い傾向がみられ、「地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい」(15.3%)といった他者への貢献に対する意向を示す人はあまり多くありません(図4-8-1)。

図 4-8-1 「高齢期の過ごし方」



- 「趣味や余暇を楽しみたい」の割合は、いずれの年齢層においても一番目に多くなっていますが、特に20歳代以下(70.2%)や30歳代(71.2%)といった若い年齢層で多くなっています。一方、75歳以上の後期高齢者(40.4%)で目立って少なくなっています(図4-8-2)。
- 「収入にこだわらないが働くことは継続していきたい」の割合は、40歳代(40.5%)や50歳代(39.9%)、「60歳～64歳」(38.1%)で若干多くなっています。
- 「知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい」の割合は、特に60～64歳(30.5%)で若干多くなっています。
- 「特に何もしないでのんびりと過ごしたい」の割合は、20歳代以下(22.8%)と75歳以上(24.5%)で若干多くなっています。
- 「地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい」の割合は、50歳代(19.7%)で、また、「経済的に自立するために現役同様に働きたい」の割合は、30歳代(22.2%)と50歳代(20.7%)で若干多くなっています。(図4-8-2)。

図4-8-2 年齢別「高齢期の過ごし方」

上段:回答数 下段:%	全体	経済的に自立するために、現役同様に働きたい	収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい	趣味や余暇を楽しみたい	知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい	地域に貢献できるようなボランティア活動などしたい	特に何もしないでのんびりと過ごしたい	その他	わからない	回答なし
全体	1,244	175	411	735	282	190	207	15	81	63
	100.0	14.1	33.0	59.1	22.7	15.3	16.6	1.2	6.5	5.1
20歳代以下	114	12	23	80	20	14	26	-	15	1
	100.0	10.5	20.2	70.2	17.5	12.3	22.8	-	13.2	0.9
30歳代	153	34	56	109	30	29	15	4	5	1
	100.0	22.2	36.6	71.2	19.6	19.0	9.8	2.6	3.3	0.7
40歳代	222	41	90	132	44	26	35	4	11	7
	100.0	18.5	40.5	59.5	19.8	11.7	15.8	1.8	5.0	3.2
50歳代	188	39	75	104	50	37	22	2	9	4
	100.0	20.7	39.9	55.3	26.6	19.7	11.7	1.1	4.8	2.1
60歳～64歳	105	16	40	68	32	20	20	-	2	2
	100.0	15.2	38.1	64.8	30.5	19.0	19.0	-	1.9	1.9
65歳～74歳	264	22	87	160	70	40	42	2	11	21
	100.0	8.3	33.0	60.6	26.5	15.2	15.9	0.8	4.2	8.0
75歳以上	188	11	34	76	35	23	46	3	28	25
	100.0	5.9	18.1	40.4	18.6	12.2	24.5	1.6	14.9	13.3
回答なし	10	-	6	6	1	1	1	-	-	2
	100.0	-	60.0	60.0	10.0	10.0	10.0	-	-	20.0

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの(「回答なし」を除く)。

5 町内福祉委員会について

(1) 町内福祉委員会の認知度 (問 32)

問 32 町内福祉委員会についてどの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

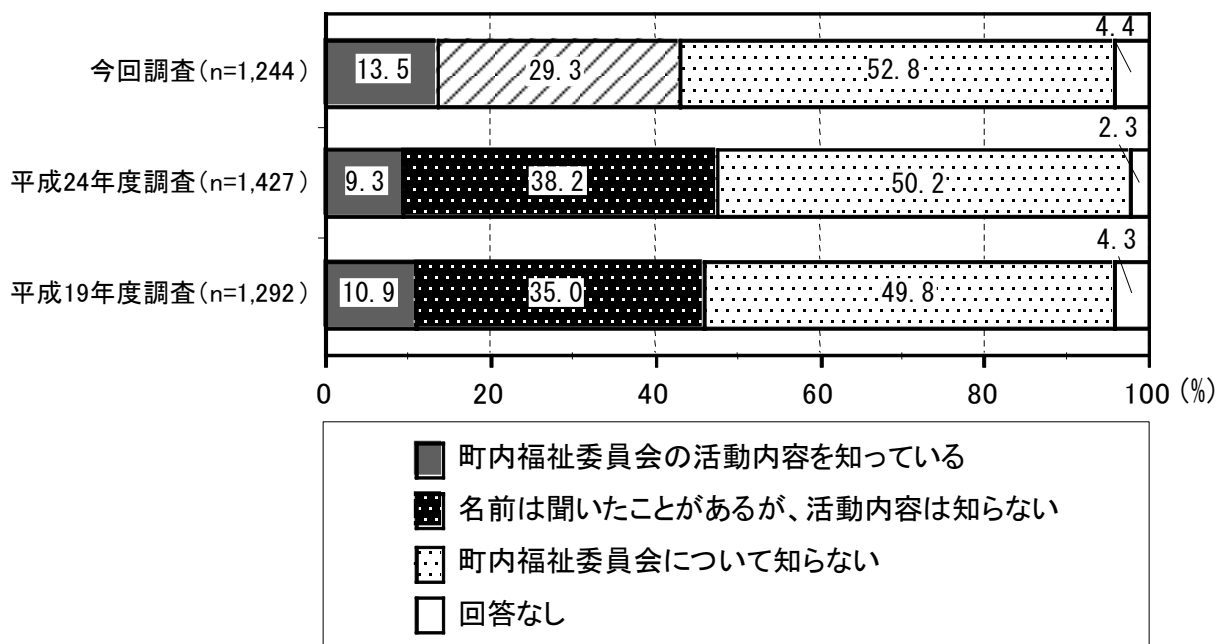
要点

町内福祉委員会を“知っている”という人は 42.8%を占めています。年齢が高くなるほど“知っている”の割合が概ね順次多くなっていく傾向がみられます。

全体

- 「町内福祉委員会の活動内容を知っている」の割合が 13.5%となっています。「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」(29.3%) と合わせた“知っている”という人は 42.8%で、「町内福祉委員会について知らない」(52.8%) を 10 ポイント下回っています。
- 前回・前々回調査(平成 24 年度・平成 19 年度調査)と比較してもあまり大きな差異はみられません(図 5-1-1)。

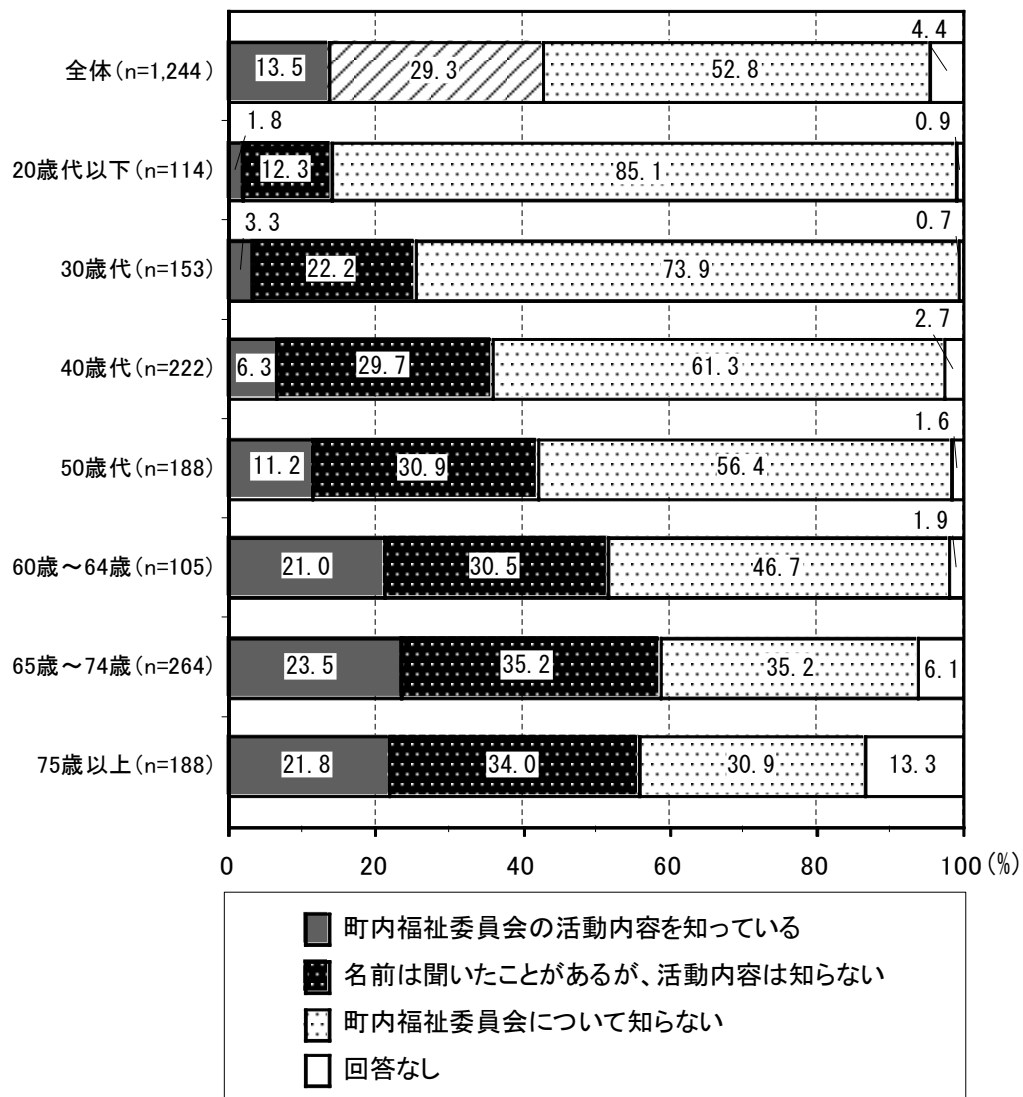
図 5-1-1 「町内福祉委員会の認知度」(前回・前々回比較)



○年齢が高くなるほど“知っている”の割合が概ね順次多くなっていく傾向がみられ、65歳～74歳の前期高齢者で58.7%を占め最も多くなっています。

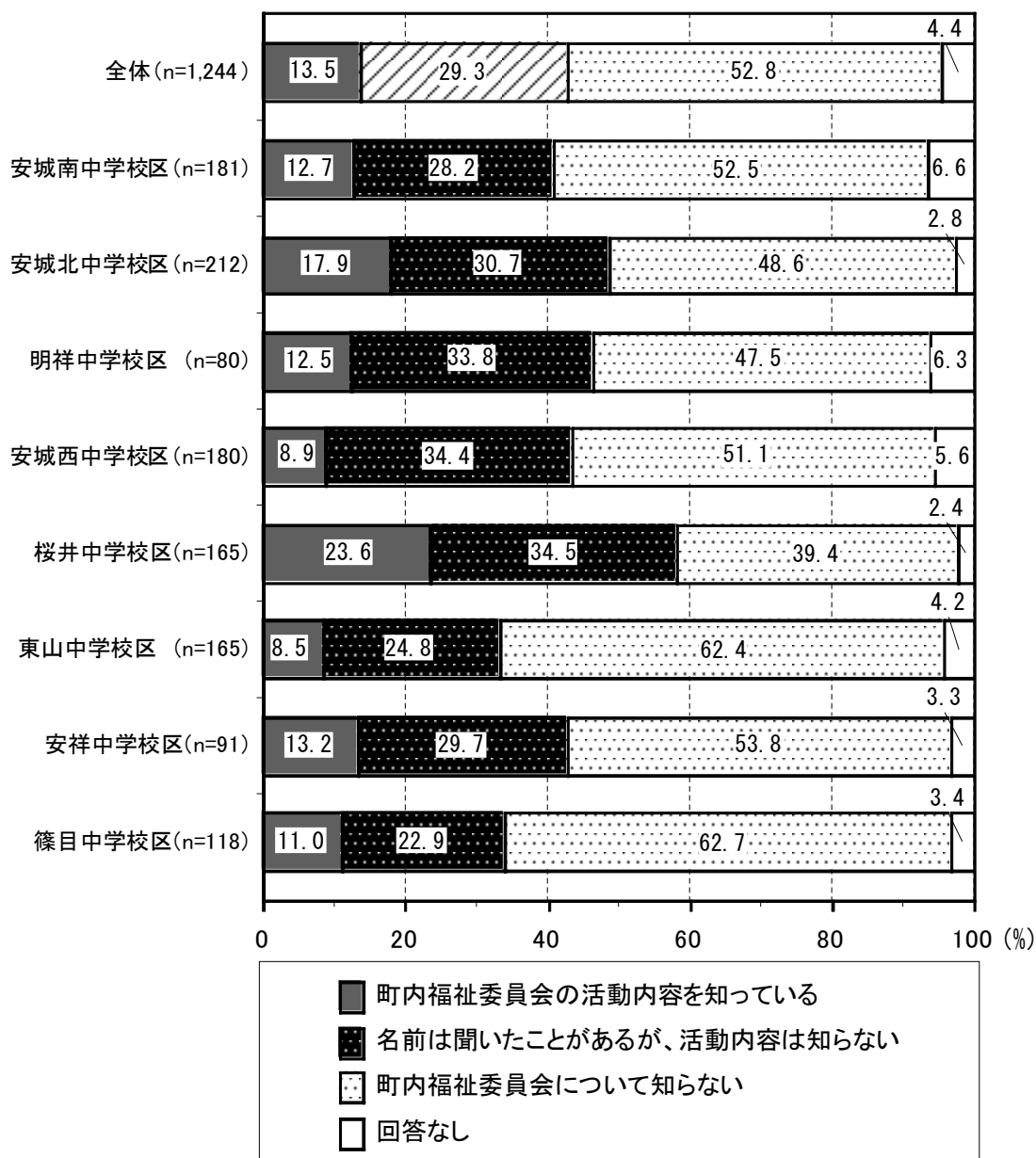
○また、60歳～64歳以降の年齢層では、“知っている”の割合が「町内福祉委員会について知らない」の割合を上回っています（図5-1-2）。

図5-1-2 年齢別「町内福祉委員会の認知度」



- 「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」を合わせた“知っている”という人の割合は、桜井中学校区（58.1%）で全体値を15.3ポイント上回る形で多くなっています。また、安城北中学校区（48.6%）でも若干多くなっています。
- 一方、知っている”という人の割合は、東山中学校区（33.3%）と篠目中学校区（33.9%）で若干少なくなっています（図5-1-3）。

図5-1-3 中学校区別「町内福祉委員会の認知度」



(2) 町内福祉委員会への関わり (問 32-1)

問 32-1 町内福祉委員会の活動についてどのぐらいかかわっていますか。(○は1つだけ)

要点

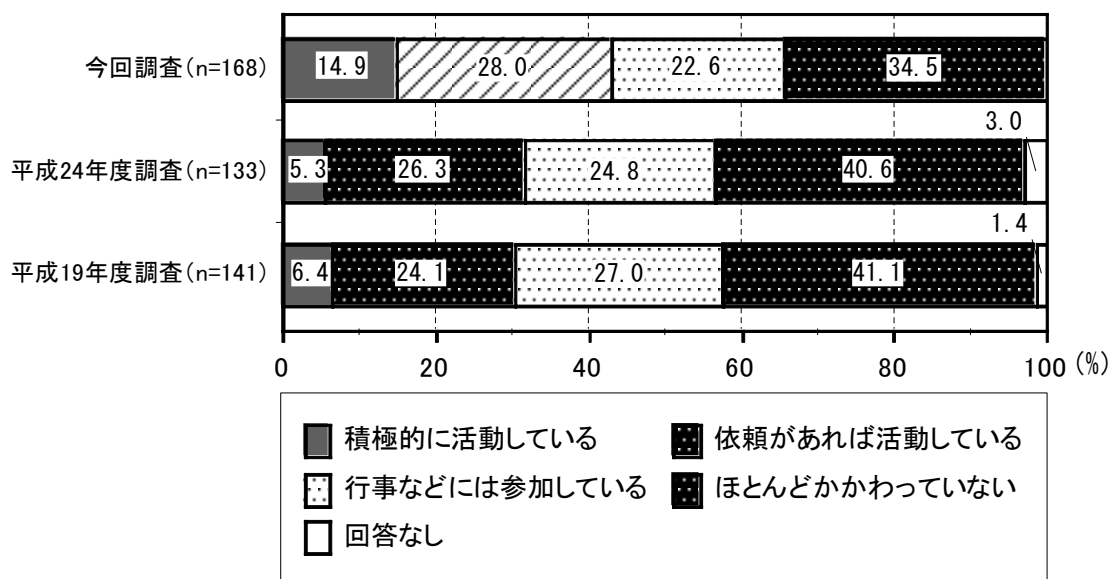
問 32 で「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と回答した 168 人 (13.5%) に町内福祉委員会への関わりについて尋ねたところ、「主催側の立場で関わっている人」(「積極的に活動している」+「依頼があれば活動している」)は 42.9%を占めています。

全体

○問 32 で「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と回答した 168 人 (回答者全体の 13.5%) に対して町内福祉委員会への関わりについて尋ねたところ、「ほとんど関わっていない」の割合が 34.5%を占め最も多いものの、「積極的に活動している」の (14.9%) と「依頼があれば活動している」(28.0%) で「主催側の立場で関わっている人」は合わせて 42.9%を占め、「ほとんど関わっていない」を 8.4%ポイント上回っています。(図 5-2-1)。

○前回調査 (平成 24 年度) と比較すると、「積極的に活動している」(14.9%) が前回調査よりも 9.6 ポイント高くなっています (図 5-2-1)。

図 5-2-1 「町内福祉委員会への関わり」(前回・前々回比較)



（３）町内福祉委員会活動への参加意向（問 33）

問 33 今後、町内福祉委員会による活動に参加する機会があれば、参加したいと思いますか。
（○は１つだけ）

要点

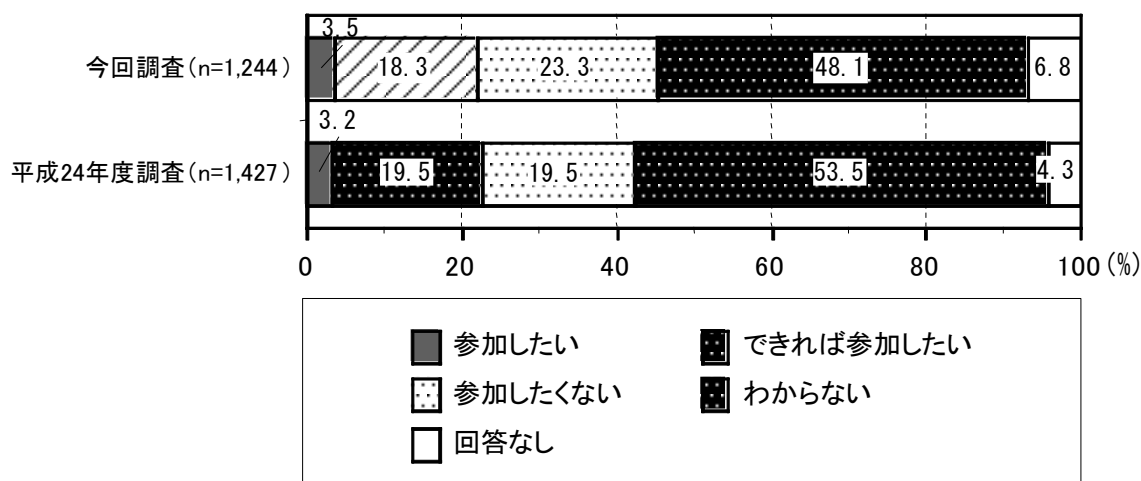
「参加したい」という割合は 3.5%と少ないですが、「できれば参加したい」と合わせると 21.8%を占め、必ずしも少なくありません。「参加したい」と「できれば参加したい」とを合わせた割合は、65 歳～74 歳の前期高齢者（33.0%）で最も多くなっています

全体

○町内福祉委員会活動に「参加したい」という割合は 3.5%と少ないですが、「できれば参加したい」と合わせると 21.8%を占め、「参加したくない」（23.3%）を僅かながら下回っているものの必ずしも少なくありません。

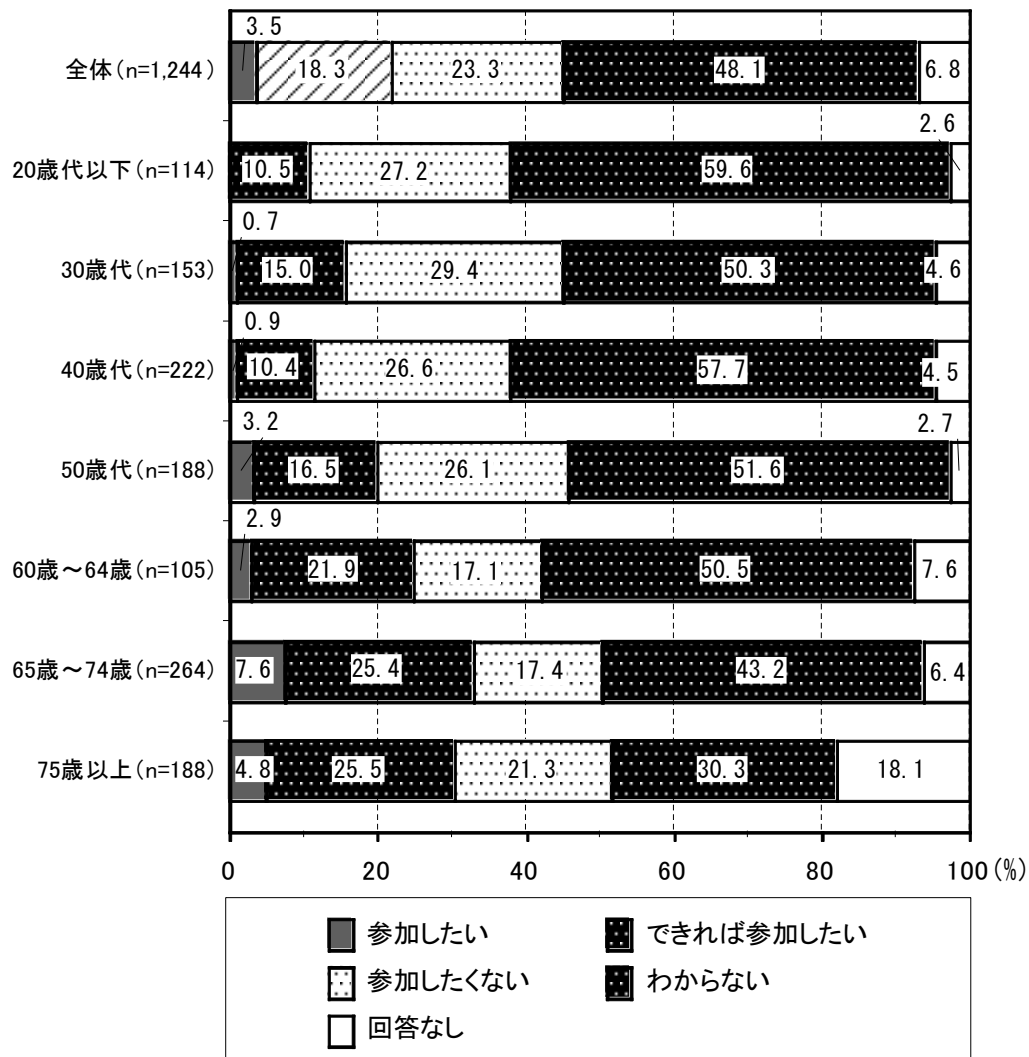
○前回調査（平成 24 年度調査）と比較すると、「わからない」の割合が 5.4 ポイント減少しています（図 5-3-1）。

図 5-3-1 「町内福祉委員会活動への参加意向」（前回調査）



- 「参加したい」と「できれば参加したい」とを合わせた割合は、年齢が高くなるほど概ね順次多くなる傾向がみられ、65歳～74歳の前期高齢者（33.0%）で最も多くなっています。
- 「参加したくない」の割合は、30歳代（29.4%）で全体値と比べて若干多くなっています（図5-3-2）。

図5-3-2 年齢別「町内福祉委員会活動への参加意向」



(4) 参加したくない理由 (問 33-1)

問 33-1 参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

要点

「自分の生活で精一杯だから」(37.9%) が最も多く、次いで「仕事が忙しくて余裕がないから」(35.9%) が多くなっています。

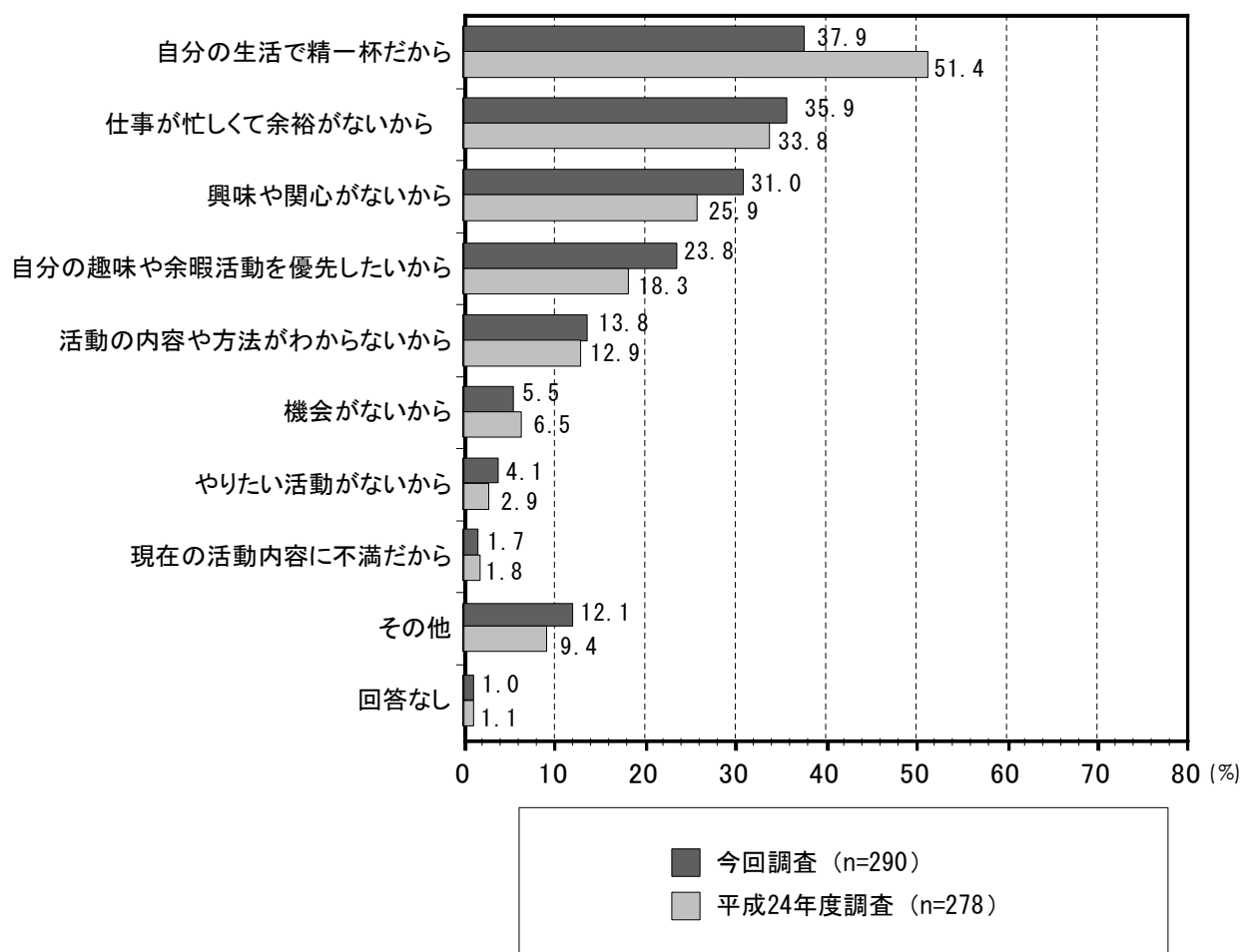
全体

○問 33 で「参加したくない」と回答した 290 人(回答者全体の 23.3%) に対して参加したくない理由を尋ねたところ、「自分の生活で精一杯だから」(37.9%) が最も多く、次いで「仕事が忙しくて余裕がないから」(35.9%)、「興味や関心がないから」(31.0%)、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」(23.8%) が多くなっています(図 5-4-1)。

○これら 4 項目のうち、「自分の生活で精一杯だから」や「仕事が忙しくて余裕がないから」(35.9%)、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」といった理由については、対応がなかなか困難ですが、「活動の内容や方法がわからないから」という回答は 13.8%みられることから、活動内容や方法、さらにはそれらの必要性を周知することによって町内福祉委員会活動を知ってもらい、興味や関心の向上に結びつけていくことが考えられます。

○前回調査(平成 24 年度調査)と比較すると、「自分の生活で精一杯だから」の割合は前回調査よりも 13.5 ポイントも減っています。一方で、「興味や関心がないから」と「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」の割合は、前回調査よりもそれぞれ 5.1 ポイント、5.5 ポイント増えています(図 5-4-1)。

図 5-4-1 「参加したくない理由」(前回比較)



6 社会福祉協議会、地区社会福祉協議会（地区社協）について

（１）社会福祉協議会の認知度（問 34）

問 34 安城市社会福祉協議会をご存知ですか。（○は１つだけ）

要点

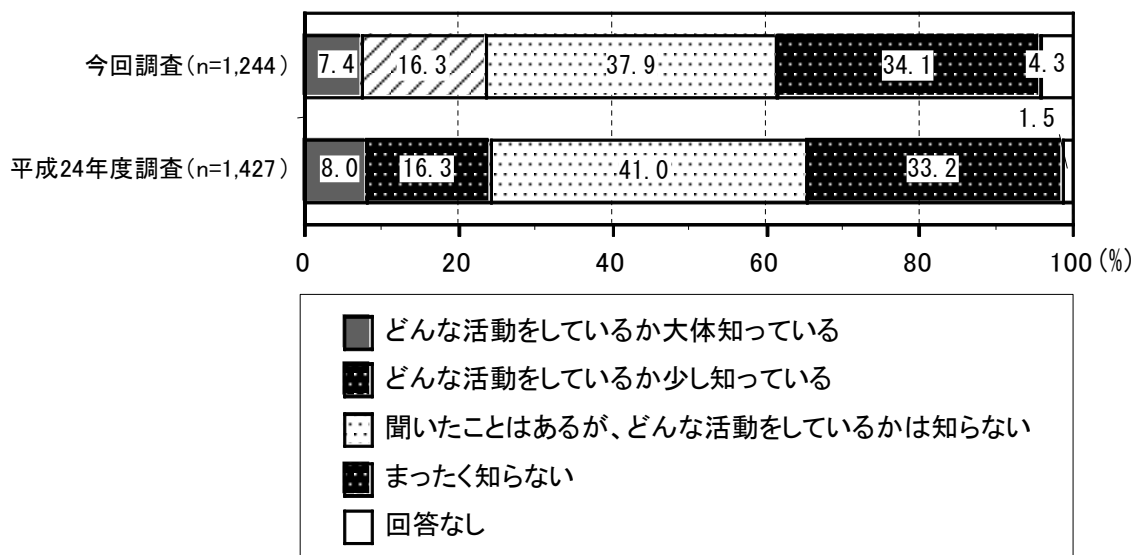
社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」（7.4%）と「どんな活動をしているか少し知っている」（16.3%）を合わせると 23.7%を占めています。

全体

○社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」の割合は 7.4%と少ないですが、「どんな活動をしているか少し知っている」（16.3%）を合わせると 23.7%を占めています。さらに、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」（37.9%）を加えると 61.6%になり、「まったく知らない」（34.1%）を大きく上回る結果になっています。

○前回調査（平成 24 年度調査）と比較しても、大きな差異はみられません（図 6-1-1）。

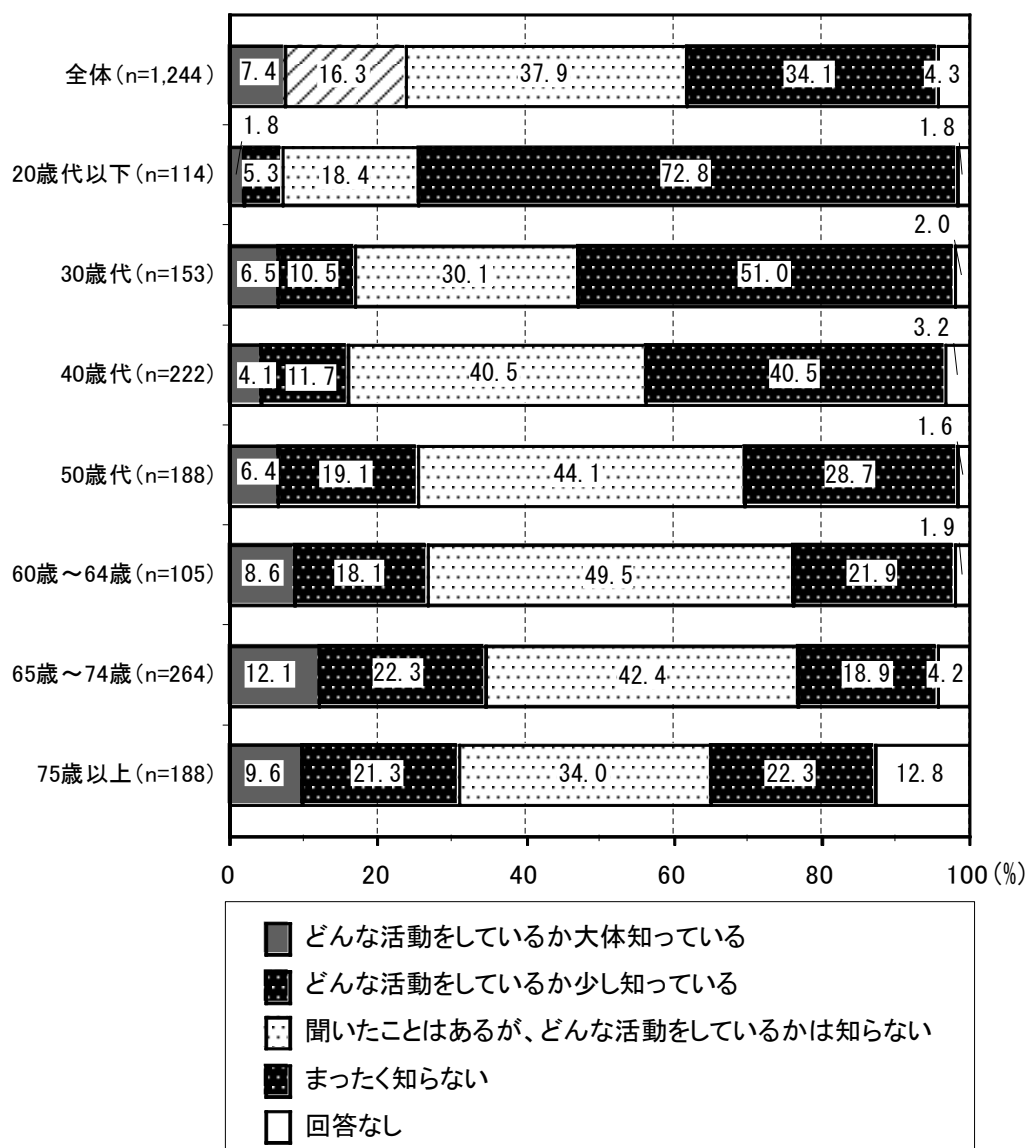
図 6-1-1 「社会福祉協議会の認知度」（前回比較）



○「まったく知らない」の割合は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、20歳代以下では72.8%、30歳代で51.0%と過半数を占めています。

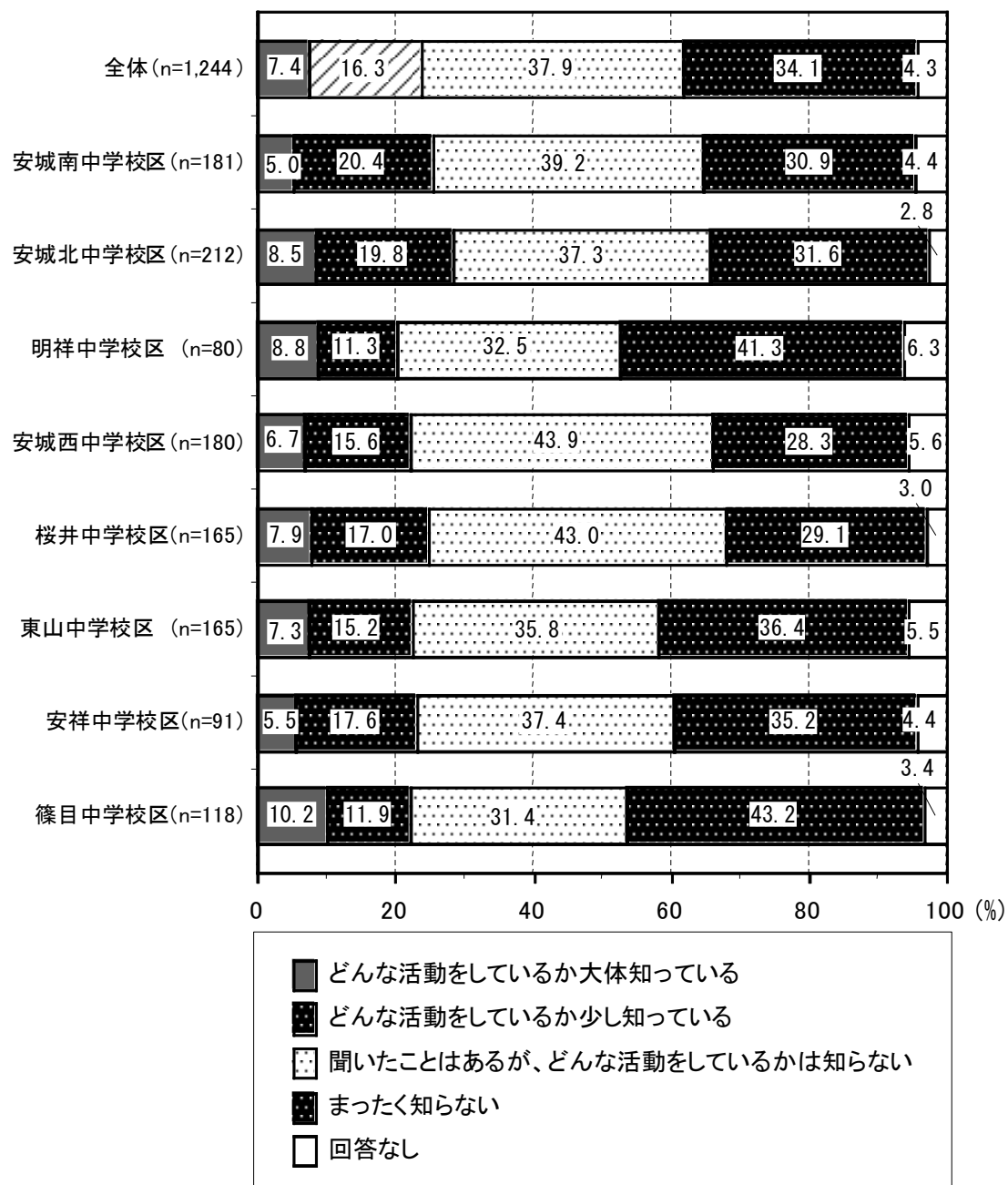
○逆に、社会福祉協議会の認知度は年齢が高くなるにしたがって概ね順次多くなる傾向がみられ、「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、65歳～74歳の前期高齢者で34.4%を占め最も多くなっています（図6-1-2）。

図6-1-2 年齢別「社会福祉協議会の認知度」



○「まったく知らない」の割合は、篠目中学校区（43.2%）と明祥中学校区（41.3%）で多くなっています（図 6-1-3）。

図 6-1-3 中学校区別「社会福祉協議会の認知度」



（２）地区社会福祉協議会の認知度（問 35）

問 35 市内8中学校区ごとに、地区社会福祉協議会（地区社協）が地域福祉の推進組織としてありますが、どの程度ご存知ですか。（○は1つだけ）

要点

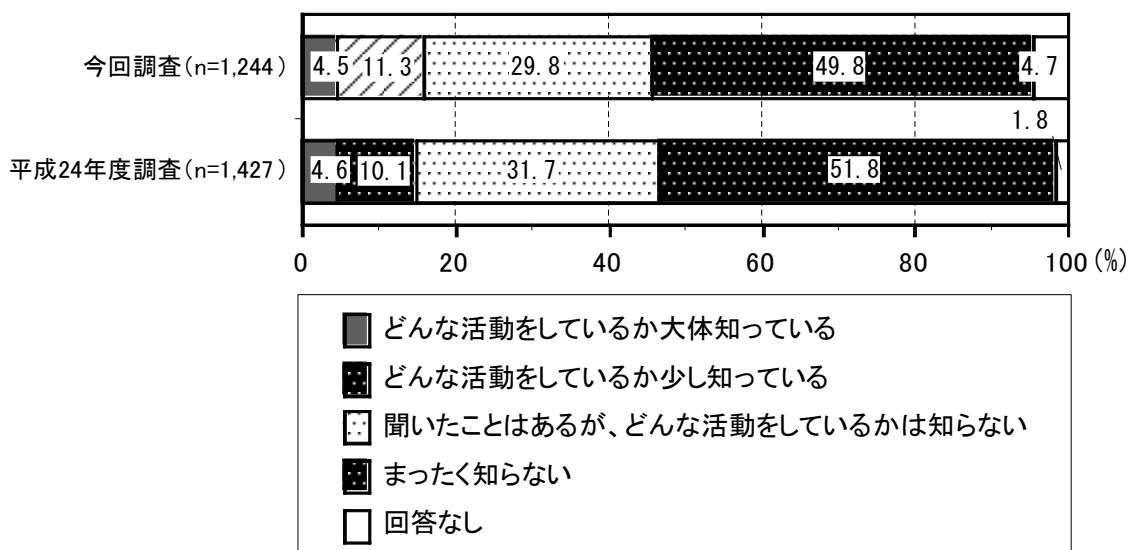
地区社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」（4.5%）と「どんな活動をしているか少し知っている」（11.3%）を合わせると 15.8%を占めています。

全体

○地区社会福祉協議会が「どんな活動をしているか大体知っている」の割合は4.5%で、「どんな活動をしているか少し知っている」（11.3%）と合わせても 15.8%で、社会福祉協議会よりも認知度が低くなっています。「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」（29.8%）を加えても 45.6%と半数に達しておらず、「まったく知らない」（49.8%）を下回る結果になっています。

○前回調査（平成 24 年度調査）と比較しても、大きな差異はみられません（図 6-2-1）。

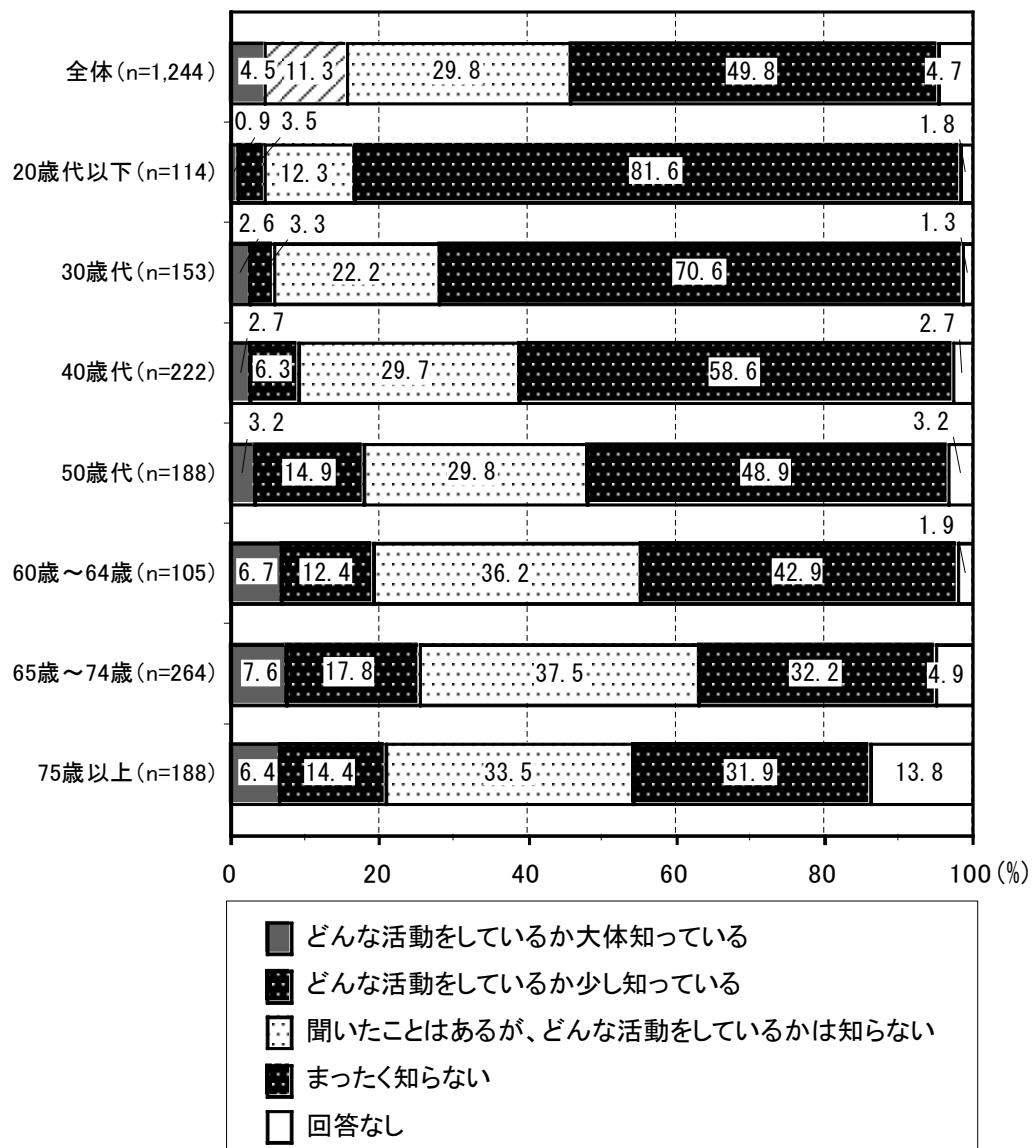
図 6-2-1 「地区社会福祉協議会の認知度」（前回比較）



○「まったく知らない」の割合は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、20歳代以下では81.6%、30歳代で70.6%を占めています。

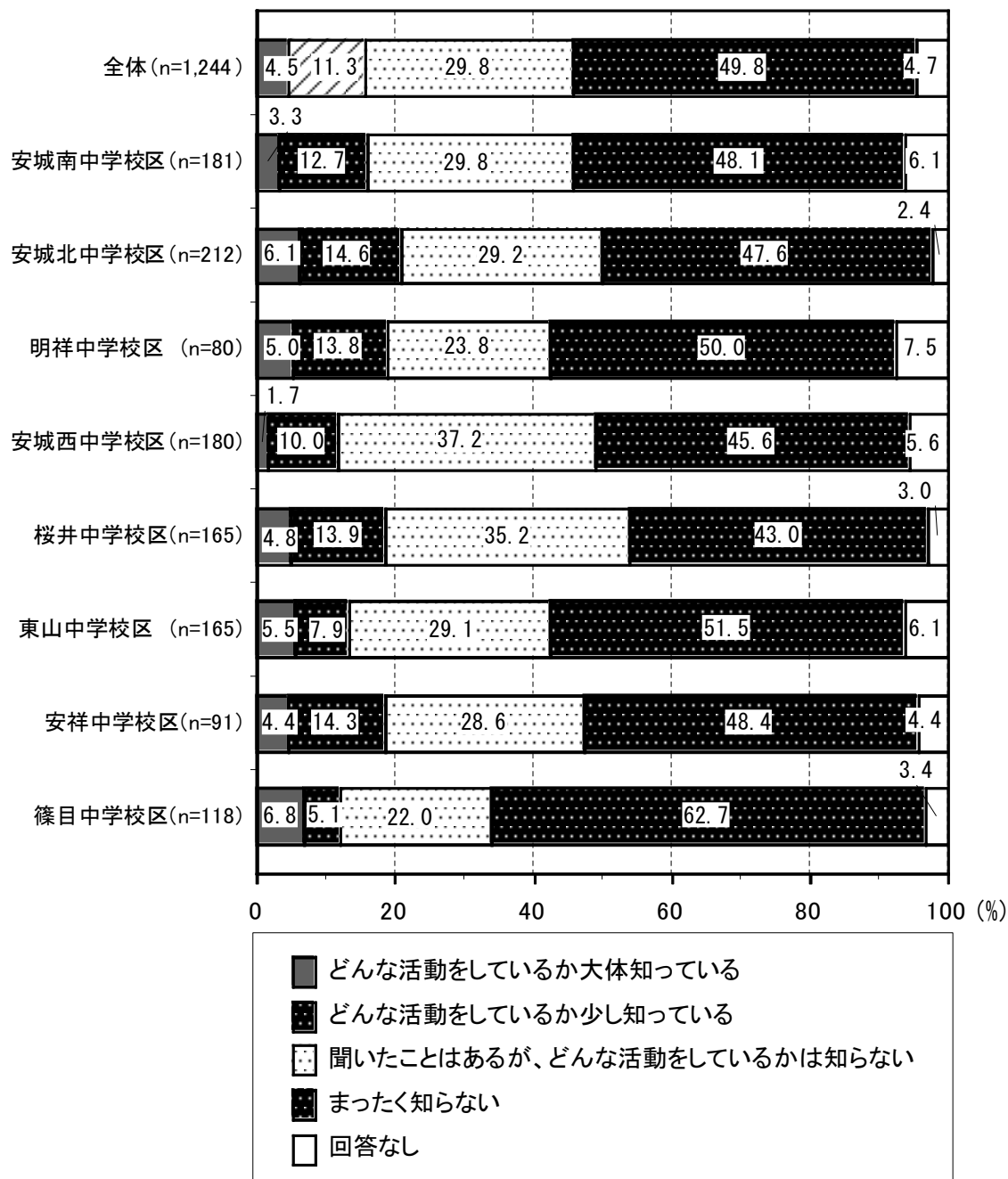
○逆に、年齢が高くなるほど認知度が高まっていく傾向がみられ、「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、65歳～74歳の前期高齢者で25.4%を占め最も多くなっています（図6-2-2）。

図6-2-2 年齢別「地区社会福祉協議会の認知度」



○「まったく知らない」の割合は、篠目中学校区（62.7%）を占め目立って多くなっています。
逆に、桜井中学校区（43.0%）で少なくなっています（図 6-2-3）。

図 6-2-3 中学校区別「地区社会福祉協議会の認知度」



(3) 地域包括支援センターの認知度 (問 36)

問 36 市内8中学校区ごとに、地域包括支援センターが高齢者介護の相談機関としてありますが、どの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

要点

地域包括支援センターが「どんな活動をしているか大体知っている」(6.4%)と「どんな活動をしているか少し知っている」(14.1%)を合わせると20.5%を占めています。

全体

○地域包括支援センターが「どんな活動をしているか大体知っている」の割合は6.4%と少ないですが、「どんな活動をしているか少し知っている」(14.1%)を合わせると20.5%を占めています。社会福祉協議会よりは若干認知度が低いですが、地区社会福祉協議会よりは認知度が高くなっています。

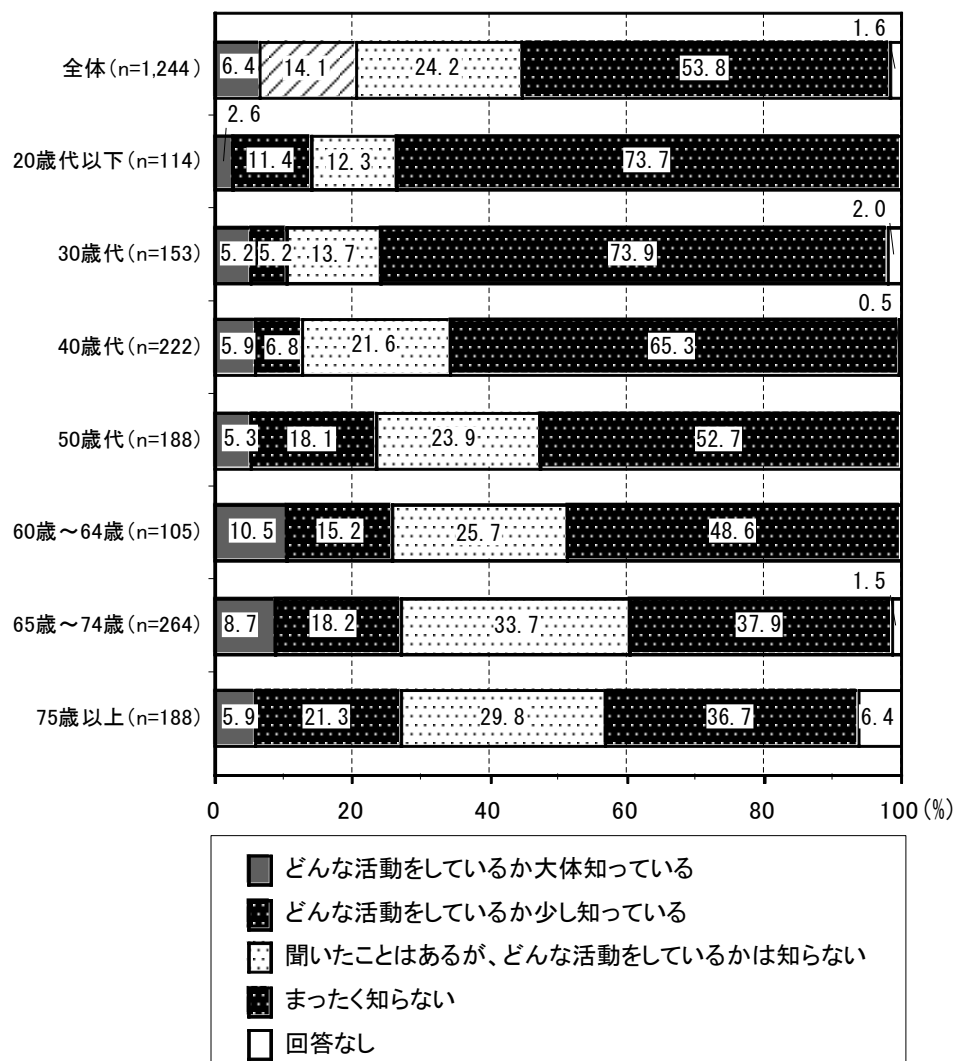
○これに、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」(24.2%)を加えると44.7%になりますが、「まったく知らない」(53.8%)を下回る結果になっています。(図6-3-1)。

年齢別

○「まったく知らない」の割合は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、20歳代以下では73.7%、30歳代で73.9%を占めています。

○逆に、年齢が高くなるほど認知度が高まっていく傾向がみられ、「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、75歳以上の後期高齢者で27.2%を占め最も多くなっています(図6-3-1)。

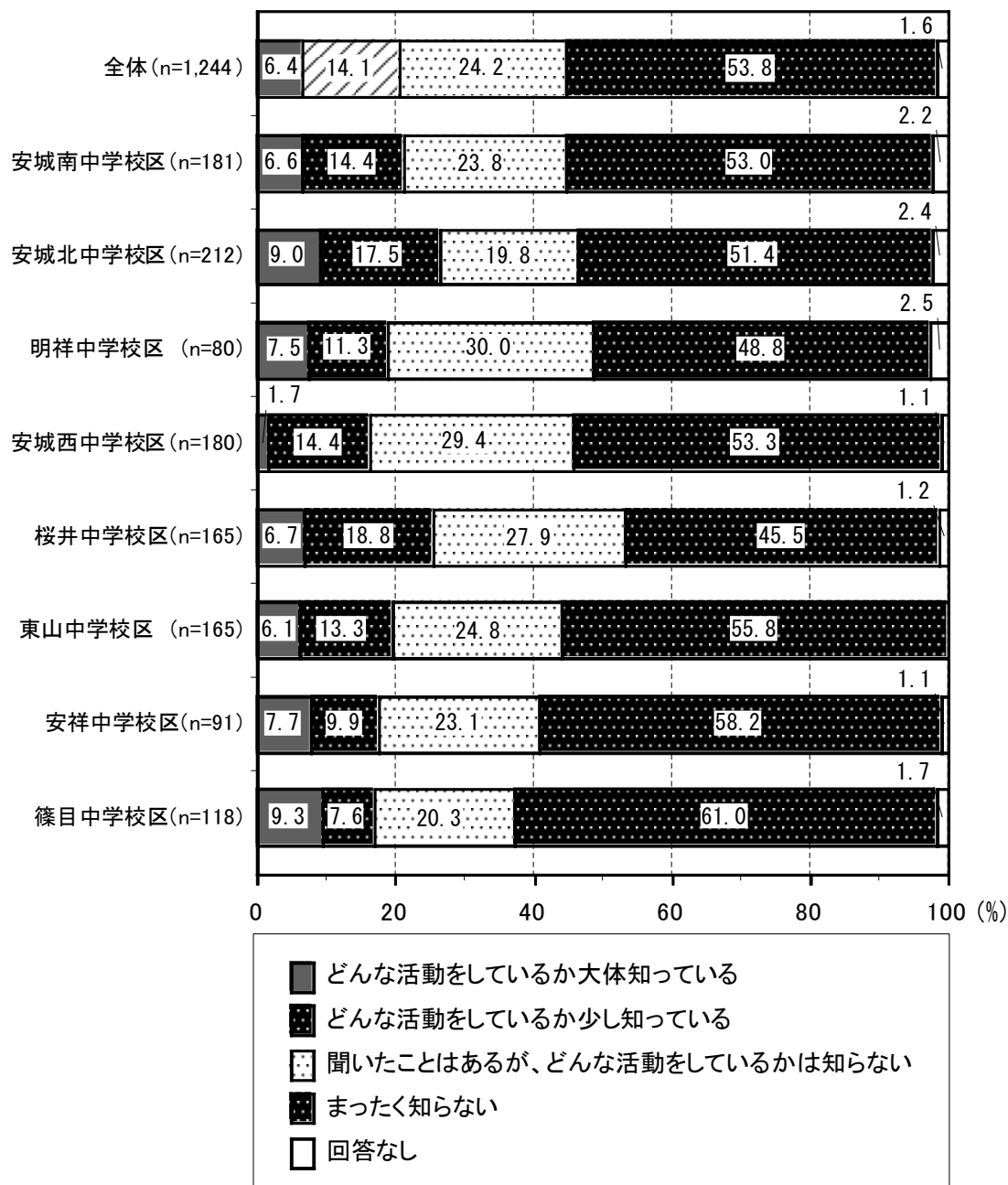
図 6-3-1 年齢別「地域包括支援センターの認知度」



○地域包括支援センターが「どんな活動をしているか大体知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」を合わせた割合は、安城北中学校区（26.5%）と桜井中学校区（25.5%）で多くなっています。

○「まったく知らない」の割合は、篠目中学校区（61.0%）で多くなっています（図 6-3-2）。

図 6-3-2 中学校区別「地域包括支援センターの認知度」



7 今後の行政等による地域福祉施策について

(1) 今後、優先すべき地域福祉関連施策（問 37）

問 37 今後、市は、以下のどの地域福祉関連施策を優先して充実すべきだと思いますか。
（○は2つまで）

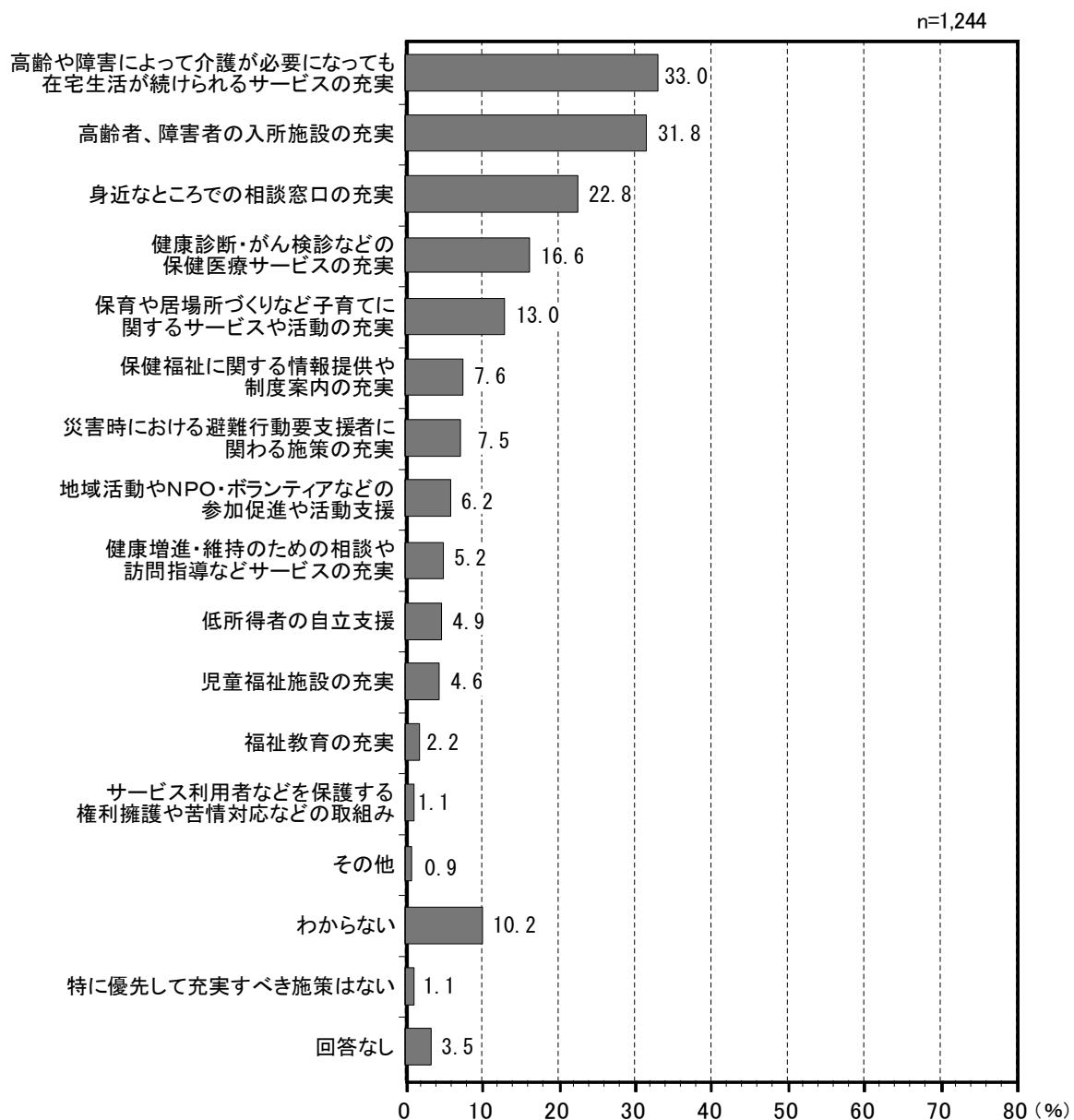
要点

「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」（33.0%）の割合が最も多く、次いで「高齢者、障害者の入所施設の充実」（31.8%）、「身近なところでの相談窓口の充実」（22.8%）が多くなっています。

全体

○「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」の割合が 33.0%と最も多く、次いで「高齢者、障害者の入所施設の充実」（31.8%）、「身近なところでの相談窓口の充実」（22.8%）、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」（16.6%）、「保育や居場所づくりなど子育てに関するサービスや活動の充実」（13.0%）の順で多くなっています（図 7-1-1）。

図 7-1-1 「今後、優先すべき地域福祉関連施策」



- 「高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」の割合は、当事者にあたる75歳以上（44.1%）や65歳～74歳といった高齢者層で多くなっています。「高齢者、障害者の入所施設の充実」の割合は、当事者にあたる高齢者層に加えて、親が要支援・要介護になる可能性が高い50歳代（37.2%）においても若干多くなっています。
- 「身近なところでの相談窓口の充実」の割合についても親が要支援・要介護になる可能性が高い50歳代（29.8%）で若干多くなっています。
- 4番目に割合の多い「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」については、30歳代（21.6%）で若干多くなっています
- 5番目に多い「保育や居場所づくりなど、子育てに関するサービスや活動の充実」の割合は、30歳代（34.0%）と20歳代以下（27.2%）で多くなっています（図7-1-2）。

図7-1-2 年齢別「今後、優先すべき地域福祉関連施策」

上段:回答数 下段:%	全体	地域活動 やNPO・ ボランティアなどの 参加促進 や活動支援	身近なところでの 相談窓口の 充実	高齢や障 害によっ て介護が 必要にな っても、 在宅生活 が続けら れるサー ビスの充 実	保健福祉 に関する 情報提供 や制度案 内の充実	健康増 進・維持 のための 相談や訪 問指導な どサービ スの充実	健康診 断・がん検 診などの 保健医療 サービスの 充実	サービス 利用者な どを保護 する権利 擁護や苦 情対応な どの取組 み	福祉教育 の充実	高齢者、 障害者の 入所施設 の充実
全体	1,244 100.0	77 6.2	284 22.8	410 33.0	95 7.6	65 5.2	206 16.6	14 1.1	27 2.2	396 31.8
20歳代以下	114 100.0	5 4.4	21 18.4	16 14.0	8 7.0	2 1.8	23 20.2	-	5 4.4	18 15.8
30歳代	153 100.0	13 8.5	32 20.9	28 18.3	13 8.5	4 2.6	33 21.6	2 1.3	3 2.0	33 21.6
40歳代	222 100.0	15 6.8	54 24.3	64 28.8	12 5.4	10 4.5	38 17.1	2 0.9	4 1.8	63 28.4
50歳代	188 100.0	16 8.5	56 29.8	68 36.2	20 10.6	9 4.8	22 11.7	4 2.1	6 3.2	70 37.2
60歳～64歳	105 100.0	9 8.6	25 23.8	36 34.3	11 10.5	9 8.6	22 21.0	1 1.0	2 1.9	30 28.6
65歳～74歳	264 100.0	10 3.8	58 22.0	111 42.0	24 9.1	15 5.7	48 18.2	3 1.1	4 1.5	105 39.8
75歳以上	188 100.0	8 4.3	35 18.6	83 44.1	7 3.7	16 8.5	19 10.1	2 1.1	3 1.6	75 39.9
回答なし	10 100.0	1 10.0	3 30.0	4 40.0	-	-	1 10.0	-	-	2 20.0

上段:回答数 下段:%	保育や居 場所づくり など、子育てに 関するサー ビスや活動 の充実	児童福祉 施設の充 実	低所得者 の自立支 援	災害時にお ける避難行 動要支援者 に関わる施 策の充実	その他	わからない	特に優先 して充実 すべき施 策はない	回答なし
全体	162 13.0	57 4.6	61 4.9	93 7.5	11 0.9	127 10.2	14 1.1	43 3.5
20歳代以下	31 27.2	9 7.9	10 8.8	8 7.0	1 0.9	27 23.7	2 1.8	2 1.8
30歳代	52 34.0	16 10.5	9 5.9	17 11.1	2 1.3	10 6.5	2 1.3	3 2.0
40歳代	38 17.1	12 5.4	7 3.2	17 7.7	4 1.8	28 12.6	5 2.3	2 0.9
50歳代	17 9.0	6 3.2	9 4.8	10 5.3	1 0.5	14 7.4	3 1.6	5 2.7
60歳～64歳	10 9.5	2 1.9	2 1.9	13 12.4	2 1.9	8 7.6	2 1.9	1 1.0
65歳～74歳	12 4.5	7 2.7	19 7.2	15 5.7	-	17 6.4	-	12 4.5
75歳以上	1 0.5	4 2.1	5 2.7	12 6.4	-	22 11.7	-	17 9.0
回答なし	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0

全体値の割合よりも10ポイント以上多い。
全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。
行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

○全般的に大きな差異はみられませんが、「高齢者、障害者の入所施設の充実」の割合は、安祥中学校区（37.4%）で若干多くなっています。

○「身近なところでの相談窓口の充実」の割合は篠目中学校区（28.8%）で、また、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」の割合は安城西中学校区（22.8%）で若干多くなっています（図 7-1-3）。

図 7-1-3 中学校区別「今後、優先すべき地域福祉関連施策」

上段：回答数 下段：%	全体	地域活動 やNPO・ ボランティアなどの 参加促進 や活動支 援	身近なと ころでの相 談窓口の 充実	高齢や障 害によっ て介護が 必要にな っても、 在宅生活 が続けら れるサー ビスの充 実	保健福祉 に関する 情報提供 や制度案 内の充実	健康増 進・維持 のための 相談や訪 問指導な どサービ スの充実	健康診 断・がん検 診などの 保健医療 サービスの 充実	サービス 利用者な どを保護 する権利 擁護や苦 情対応な どの取組 み	福祉教育 の充実	高齢者、 障害者の 入所施設 の充実
全体	1,244 100.0	77 6.2	284 22.8	410 33.0	95 7.6	65 5.2	206 16.6	14 1.1	27 2.2	396 31.8
安城南中学校区	181 100.0	8 4.4	38 21.0	61 33.7	22 12.2	11 6.1	24 13.3	4 2.2	3 1.7	54 29.8
安城北中学校区	212 100.0	14 6.6	44 20.8	78 36.8	17 8.0	13 6.1	25 11.8	4 1.9	6 2.8	70 33.0
明祥中学校区	80 100.0	4 5.0	17 21.3	27 33.8	5 6.3	6 7.5	15 18.8	1 1.3	1 1.3	23 28.8
安城西中学校区	180 100.0	8 4.4	38 21.1	55 30.6	15 8.3	7 3.9	41 22.8	2 1.1	3 1.7	56 31.1
桜井中学校区	165 100.0	9 5.5	42 25.5	56 33.9	13 7.9	9 5.5	31 18.8	-	4 2.4	57 34.5
東山中学校区	165 100.0	16 9.7	40 24.2	49 29.7	10 6.1	7 4.2	31 18.8	-	4 2.4	57 34.5
安祥中学校区	91 100.0	3 3.3	20 22.0	31 34.1	7 7.7	3 3.3	13 14.3	-	2 2.2	34 37.4
篠目中学校区	118 100.0	13 11.0	34 28.8	36 30.5	4 3.4	7 5.9	20 16.9	3 2.5	3 2.5	34 28.8
わからない	35 100.0	1 2.9	5 14.3	11 31.4	1 2.9	1 2.9	5 14.3	-	1 2.9	8 22.9
回答なし	17 100.0	1 5.9	6 35.3	6 35.3	1 5.9	1 5.9	1 5.9	-	-	3 17.6

上段：回答数 下段：%	保育や居 場所づくり など、子育 てに関するサー ビスや活動 の充実	児童福祉 施設の充 実	低所得者 の自立支 援	災害時に おける避 難行動要 支援者に 関わる施 策の充実	その他	わから ない	特に優先 して充実 すべき施 策はない	回答なし
全体	162 13.0	57 4.6	61 4.9	93 7.5	11 0.9	127 10.2	14 1.1	43 3.5
安城南中学校区	21 11.6	10 5.5	8 4.4	14 7.7	1 0.6	18 9.9	1 0.6	8 4.4
安城北中学校区	24 11.3	8 3.8	13 6.1	19 9.0	1 0.5	20 9.4	3 1.4	10 4.7
明祥中学校区	11 13.8	5 6.3	4 5.0	2 2.5	1 1.3	11 13.8	2 2.5	2 2.5
安城西中学校区	28 15.6	8 4.4	8 4.4	14 7.8	4 2.2	15 8.3	1 0.6	6 3.3
桜井中学校区	21 12.7	8 4.8	11 6.7	17 10.3	1 0.6	10 6.1	3 1.8	4 2.4
東山中学校区	26 15.8	11 6.7	8 4.8	8 4.8	1 0.6	18 10.9	1 0.6	3 1.8
安祥中学校区	6 6.6	4 4.4	5 5.5	4 4.4	1 1.1	12 13.2	2 2.2	3 3.3
篠目中学校区	20 16.9	1 0.8	2 1.7	8 6.8	1 0.8	10 8.5	1 0.8	5 4.2
わからない	4 11.4	-	2 5.7	6 17.1	-	10 28.6	-	-
回答なし	1 5.9	2 11.8	-	1 5.9	-	3 17.6	-	2 11.8

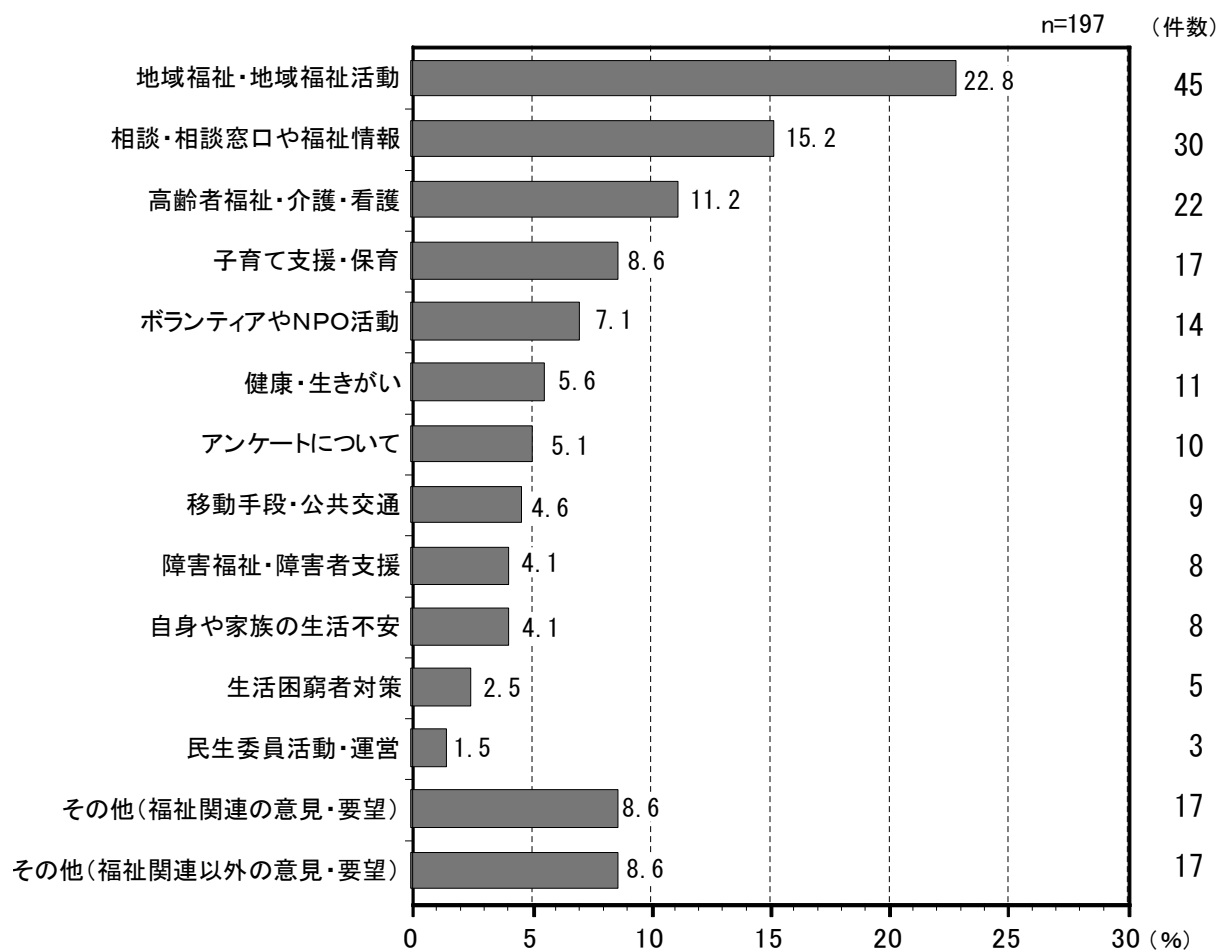
全体値の割合よりも10ポイント以上多い。

全体値の割合よりも5ポイント以上10ポイント未満多い。

行の中で最も割合の多いもの（「回答なし」を除く）。

8 自由回答の結果

197 人から計 216 件の自由回答が得られました。



自由回答抜粋

自由意見	性別	年齢
1. 地域福祉・地域福祉活動		
地域福祉活動で何をしているのか全く知らなかった。同じような人が多くいると思う。中学などで活動内容を教えると、もっと広く活動が広まると思う。そうすれば学生や若い人がもっと福祉活動に参加しやすくなるのではないかな。	女性	20 歳代以下
身近なふれあいの場が欲しい。	男性	20 歳代以下
メリットがなくても参加したいと思うような会の開催ができればいいと思う。いざというとき、近所で助け合わなかったら何もできないと思う。(地震とか)	女性	30 歳代
大人だけでなく、小中学生の子たちにも身近に感じ、分かるように進めていったらいいと思う。特別なこと、一部だけでなく当たり前のこととして捉えることが大切だと思う。	女性	30 歳代
自分の住んでいる町内は、町内会の役員役職が多く、掛け持ちをしている人も何人もいる。町内行事も現代に合わないようなことが多く、参加しないとあとで何を言われるか分からないのでいやいや参加していることが多い。もう少し自由な町内会や福祉活動にしてほしい。	男性	40 歳代
地域で何かを、というのは新しく家を買って住み始めた人たちには大きなハードルだと思う。無理をしてまで参加したくない人はたくさんいるのでは。	男性	40 歳代
地域福祉活動について市の取り組みを知らないでいたので、今後は少し関心を持ってみたいと思う。	女性	40 歳代
町内福祉委員会の活動に参加したいが、平日がほとんどのため、仕事があって参加できない。働き盛りの 40～50 代が福祉に気軽に参加できる機会をつくってほしい。	男性	50 歳代
身近なところから活動したい。地域福祉活動は近所づきあいが一番大切だと思う。大きな話より小さな近所付き合いから。	女性	50 歳代
高齢者への福祉サービスも大事だが、子育て、子どもたちが地域行事に参加できるような仕組み、また、母親等への地域参加の必要性を行ってほしい。	男性	60 歳～64 歳
田舎では高齢者の 2 人暮らし世帯が増えている。いかに健康寿命を伸ばしていけるかに気を付けて生活している。近所の人たちとも深入りした付き合いではなく、お互いが何気なく気を遣える関係がよいと思う。	女性	60 歳～64 歳
地域福祉を町内会に頼ることが多くなっている。町内会業務がますます多忙化している。今後、町内会役員の担い手も少なくなっていくと思われる。行政がもっと動いてほしいと思っている。	男性	65 歳～74 歳
町内会に入って 50 年ほどになるが、住んでいるマンションでは当初ほぼ全員加入、子ども会を終えたころより脱会され、今は半数以下だ。一戸建てと違って高層建ての住居のコミュニケーションは取れないというのが現実だ。	女性	65 歳～74 歳
地域活動奉仕は負荷が急増。重荷化してきているのではという声をよく聞く。参加型から (IT 利用等) 情報交流型に移行してほしい。	男性	65 歳～74 歳
介護が必要となった人たちへの地域での福祉活動を充実してやっていけるよう願っている。	男性	75 歳以上
日々各町内会での組、お隣さんの声掛けが日常的に行動ができることがとても大切なことだと思う。	女性	75 歳以上

自由意見	性別	年齢
2. 相談・相談窓口や福祉情報		
何かに困っている人がどこに相談すればよいか分からない人が多いと思う。	男性	20 歳代以下
子育てしていて児童センターにも行ったことがないので、広報のウェブサイトでもいいのでもう少し情報を詳しく書いてほしい。広報の冊子を見るけれど、そのときだけで欲しいときに手元にないことがあるため。	女性	30 歳代
実際の立場にならないとこういうことが行われていることを知らないの、もっと分かりやすくした方がよい。いざ困ったときにどうしていいのかわからない。役所の方から声掛けすべき。役所の人はいつもこう言う。「言われなきゃ答えません」ではよくない。	女性	30 歳代
地域福祉活動の情報は回覧板などで情報提供や SNS など気軽に見られるようにしてほしい。自分の地域の町内会も組長をやらない限り町内に関わることが全くない人が多いと思う。	女性	40 歳代
いろいろな場所に分かれているため、自分が困ったときにまずどこに相談すればよいか分からない。総合窓口があれば分かりやすいのではないかと思う。	女性	40 歳代
まだ今は関わりが少ないが、情報はたくさん頂けると選択肢が増えるし関心も持てるような気がする。	女性	50 歳代
いろいろな情報を的確に展開していただきたい。	女性	60 歳～64 歳
助けられ助け合うための福祉サービスを受けられる内容、福祉支援できる内容をまとめた資料があるとよい。どこへ行けば求めているすべてを知ることができるだろうか。	男性	65 歳～74 歳
高齢者、障害者の人が困ったときに、シンプルに相談できる窓口(電話)が必要だと思う。	女性	65 歳～74 歳
市の相談員は相談者の気持ちになってほしい。	男性	75 歳以上
3. 高齢者福祉・介護・看護		
2030 年に西三地区は超高齢化となるため、今は高齢者福祉を一番に充実させるべきだと思う。施設も少なく、在宅介護は家族の負担が大きいため、早い段階での改善が必要。	男性	30 歳代
家族がいない認知症の高齢者の支援をお願いしたい。	女性	40 歳代
安城市は現状でも十分住みやすいまちで大変満足している。1 人暮らしや高齢者の家族への支援のより充実を望む。	女性	40 歳代
今後、超高齢化を迎える。高齢者にやさしい安城をこれからも目指してくださるとありがたい。	男性	50 歳代
認知症の高齢者を自宅介護する場合、精神的な負担を軽減する策をお願いしたい。	男性	60 歳～64 歳
1 人暮らし、高齢者 2 人暮らしの生活支援など。	女性	65 歳～74 歳
今後高齢者が急増する。それに応じて、要介護者が増える。ワークアンドライフ上、若い人が介護者となり、仕事との両立が困難となる。自己介護が増える。ぜひ施設の充実を。	女性	75 歳以上

自由意見	性別	年齢
4. 子育て支援・保育		
放課後の児童クラブ、託児サービスなど、低学年の児童を預かってもらえる場所が増えてほしい。	女性	30 歳代
個人的には高齢者よりも子どもへの福祉のあり方に興味がある。安心して子育てができる環境づくりにより予算を回していただきたい。(教育施設も含めて)	男性	30 歳代
私の町内は子育て支援よりも高齢者支援の方が活発のように感じる。低所得の若い世帯は働きながら子育てでとても大変。もっと分かってあげてほしい。	女性	40 歳代
共働き世帯はきっちり納税しているのに子どもに対する行政サービスは悪すぎる。	女性	40 歳代
元気な高齢者が児童の福祉等に関わる仕組みをつくればお互いによい結果になると思う。	男性	50 歳代
未来の子どもたちが貧富の差なく平等に教育が受けられるよう、老人重視でなく未来の子どもたちに重きを。	女性	65 歳～74 歳
5. ボランティアやNPO活動		
若年層に分かりやすく活動、成果、目標など説明し、興味を持たせる活動を進めていただきたい。36 年安城市に住んできたが、いまいち活動を理解できていない。	男性	30 歳代
無償のボランティアが担っているものが多いと感じる。ある程度の責任と権限を持たせて機能させていくためには、有償にすべきだと思う。無償のボランティアに時間を使える市民がどれほどいるのか疑問に感じる。	女性	40 歳代
ボランティア活動は無償だからボランティアだと思う。対価を求めるのであれば NPO 法人としてしっかりとした活動に参加すべきだと思う。市主導で地域福祉施策をするにあたり、明るいイメージを持ってもらえる広報活動をしたらよいのではと感じている。福祉という言葉でグレーのような暗いイメージが持たれているし、若い人ほど参加してほしいのに参加しない現状を考えるならイメージ戦略が大切だと思う。	女性	40 歳代
配偶者の祖父母の介護、PTA、子ども会、町内会の役員など、いろいろ経験してきた。ボランティアといえば聞こえはいいが、活動自体は知人が増え、楽しくやってきたつもり。しかしかかる時間や持ち出しが多いこと、また地域でやらない人とやる人の不公平さはいつも気になる。やればやるほど損をしているなと思ってしまう。共働き世帯が増え、介護や育児を外へお金を出して依頼する機会が増えているので、ボランティアとはいえ対価にあたるものが欲しいと思うこともある。	女性	40 歳代
福祉施策の参加を小中高生に呼びかけてほしい。将来の人材育成は必須だ。	男性	65 歳～74 歳
1 人よりみんなが楽しい、毎日楽しく満足のいく生活ができるよう、自分のできることでまずやってみよう。そうすれば考え方、活動が広がり、毎日が楽しくて仕方がないと思う。	女性	65 歳～74 歳

自由意見	性別	年齢
6. 健康・生きがい		
予防医療が推し進められているのに、健康診断が40歳からなのは少し不満だ。内容の充実も含め、対象年齢を下げることを考えてほしい。	女性	30歳代
市民大学だけではなく知識、技術を持った高齢者の人たちが、子どもや若者、余暇を楽しむ人々の先生となり、地域全体が学校のような組織となり、生涯教育の充実や高齢者の生きがい、また子ども、家族が安心、安全に暮らせるまちになるよう、福祉活動が充実してくると思う。	男性	50歳代
近所は高齢者ばかり。今はみんな元気に暮らしているが、10年後のことを考えると不安になる。人の世話にならなくて元気に最後までいられるよう健康増進ができる指導が欲しい。	女性	75歳以上
そのときが来るまで、とにかく元気でいたい。そのために今自分には何ができるか考えている。行政には何が？	女性	75歳以上
7. アンケートについて		
今まで福祉について考える機会がなかったため、今回のアンケートでよいきっかけとなった。現在福祉に関して縁の少ない世代にも考える場があるとよいと思う。	男性	30歳代
アンケートがとても長いので困る。集計がしやすいようにスマホやパソコンにしたらよいのではないかな。	女性	30歳代
今まで福祉について考える機会がなかったため、今回のアンケートでよいきっかけとなった。現在福祉に関して縁の少ない世代にも考える場があるとよいと思う。	男性	30歳代
8. 移動手段・公共交通		
公共交通機関の充実。高齢者が車を運転しなくてもよい程度まで。	男性	40歳代
免許返納者に買い物代行、または移動スーパー等の充実。	女性	60歳～64歳
スーパーへの買い物ができるよう、巡回バスを考えてほしい。老人のほとんどが困っていると思う。	男性	75歳以上
9. 障害福祉・障害者支援		
同じ障害を持った人たち同士で触れ合えるような機会があればよいと思う。自分は生まれつき耳が聞こえにくく、大学に入ってから手話を勉強しているが、個人的にそれを活かして聴覚障害の人たちと仲良くなれたらよいと思っている。	男性	20歳代以下
家族に重度の障害者があり、災害時に避難所では一般の人たちととてもいられないので、どのようにすればよいか不安だ。過去の日本での大きな災害時に要支援者はどのような様子だったのか、またこの地域ではそのようなときにどのようにすればよいのか知る機会がほしい。	男性	50歳代
高齢者のサービスはたくさんあるけれど、障害者に対しての支援(施設、サービス)が少ない気がする。	男性	60歳～64歳

自由意見	性別	年齢
10. 自身や家族の生活不安		
現在私は息子家族とは別で居住している。歳を重ねるごとに障害も重なって、高齢者の福祉に関する面で心細くなっている。居住地域での福祉が受けられるとよいと思う。	女性	65歳～74歳
年金で入所可能な施設の充実を願うばかり。	男性	65歳～74歳
現在夫婦とも要介護で認定されていないが、夫は補聴器なしではほとんど聞こえない。私は肩が痛く家事が十分できない。現在は顔面	女性	75歳以上
11. 生活困窮者対策		
生活保護受給者への就労支援。生活保護制度の見直し。(一度受給すると働く意欲が遠のく現状から)	女性	50歳代
入院などで体が弱いので自分の意志で働けない。	男性	65歳～74歳
12. 民生委員活動・運営		
民生委員などが地域に少なすぎると思う。世代別に相談員がいるとより身近に感じられるため、困っている方も相談しやすいかと思う。	女性	50歳代
13. その他（福祉関連の意見・要望）		
子育ても介護もお金があればできることが多すぎる。	女性	20歳代以下
高齢、障害、保育を別々に考えるのではなく、一体型の取り組みが望ましい。	男性	30歳代
難しいと思うが、支援を本当に必要とする人に適応する支援を判断できるような基準が必要だと思う。	女性	40歳代
あと数年で定年になる。これから徐々に行政がする支援サービスに関心を寄せ、少しずつだが関わりを多くしていきたいと思う。	男性	50歳代
福祉職は給料が低すぎる。民間の平均くらいの所得を保障すべきではないか。保育や福祉の現場職員を大切にしたいものだ。	男性	60歳～64歳
各サービスが充実しても高額出費が避けられない状況では充実していると言えないのではないかな。無償サービスの充実を望む。	男性	65歳～74歳

調査票

安城市地域福祉計画策定のための市民アンケート調査

～アンケート調査ご協力をお願い～

市民のみなさまには、日ごろから市政に関してご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

安城市では、平成 16 年度に「第 1 次 安城市地域福祉計画」を策定し、地域のみなさまが主体となってお互いの助け合いによる福祉のまちづくりをめざし、みんなが進んで参加できる地域活動を進めてきました。その後、既存の取り組みに加え、地域における新たな課題に対する取り組みを進めるため、平成 20 年度に「第 2 次 安城市地域福祉計画」そして、平成 25 年度に「第 3 次 安城市地域福祉計画」を策定しました。

計画策定後、地域を取り巻く社会状況や市民のみなさまの日常生活における課題も変化しており、また、第 3 次計画が期間満了となることに伴い、計画の見直しを進めているところです。

この「市民アンケート調査」は、計画の見直しにあたり、市民のみなさまにご意見をいただき、計画策定のための貴重な資料として使わせていただくために実施するものです。

調査対象は 18 歳以上の市民を対象とし、実際の年齢構成を勘案しつつ 3,000 人の方を無作為に選ばせていただき、実施することにいたしました。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、上記趣旨をご理解の上、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

このアンケートの調査結果は、すべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されたりすることは決してありません。また、アンケート目的以外には使用しませんので、安心して率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

平成 29 年 1 1 月

安城市長 神 谷 学

ご記入にあたってのお願い

□ご回答は、あて名のご本人にお願いしますが、ご本人が健康等の理由からご記入するのが難しい場合は、ご家族の方や一緒にお住まいの方がご本人と相談して記入していただいても構いません。

□ご回答は、あてはまる番号を、指定の数だけ○で囲んでください。また、記入するものについては、() 内に記入してください。

□記入がお済みになりましたら、同封の返信用封筒に入れ、1 2 月 6 日（水）までにポストに投函してください。（切手は不要です。）

□このアンケートについてご不明な点やご質問などがございましたら、以下までお問い合わせください。

安城市役所 福祉部 社会福祉課 社会福祉係
電話：0566-71-2262（直通）

あなた自身やご家族のことについて

問 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 2 あなたの年齢についてお答えください。(平成29年10月1日現在の満年齢)
(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 18歳から29歳まで | 2. 30歳から39歳まで |
| 3. 40歳から49歳まで | 4. 50歳から59歳まで |
| 5. 60歳から64歳まで | 6. 65歳から69歳まで |
| 7. 70歳から74歳まで | 8. 75歳から79歳まで |
| 9. 80歳以上 | |

問 3 あなたのお仕事についてお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 自営業 | 2. 会社員・団体職員(常勤) |
| 3. 公務員(常勤) | 4. パート・アルバイト(学生を除く) |
| 5. 派遣従業員 | 6. 家事専業 |
| 7. 無職 | 8. 学生 |
| 9. その他() | |

問 4 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していたが、離別・死別した |
| 3. 結婚していないがパートナーと暮らしている | 4. 結婚したことがない |

問 5 現在のあなたの世帯に関する以下の(1)～(3)の事項についてお答えください。

(1) あなたと同居している人は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ)

●あなた自身を含めた同居人の人数

人

※あなたお1人だけの場合は、「1」を記入してください。

(2) あなたの世帯では、どのような方が同居されていますか、(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 小学校入学前の子ども | 2. 小学生 |
| 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 大学生・大学院生・専門学校生 | 6. 65～74歳の高齢者 |
| 7. 75歳以上の高齢者 | 8. 1～7のような同居人はいない(単身世帯を含む) |

(3) あなたの世帯のタイプは次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らしの世帯 | 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 二世帯世帯(親と子) | 4. 三世帯世帯(親と子と孫) |
| 5. 兄弟や親戚と同居 | 6. 友人や知人と同居 |
| 7. その他() | |

問6 あなたの世帯全体の年収（年金を含む。税金や社保税金などを引く前の総支給額。）はどのくらいですか。（現在お住まいの世帯でお答えください。）（○は1つだけ）

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100万円以上～200万円未満 |
| 3. 200万円以上～300万円未満 | 4. 300万円以上～500万円未満 |
| 5. 500万円以上～700万円未満 | 6. 700万円以上～1,000万円未満 |
| 7. 1,000万円以上 | |

問7 あなたの住まいについてお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 持ち家（一戸建て） | 2. 持ち家（マンションなど集合住宅） |
| 3. 借家・賃貸住宅（一戸建て） | 4. 借家・賃貸住宅（マンションなど集合住宅） |
| 5. 社宅・官舎・寮 | 6. その他（ ） |

問8 あなたは安城市にどのくらいお住まいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上～3年未満 | 3. 3年以上～5年未満 |
| 4. 5年以上～10年未満 | 5. 10年以上～20年未満 | 6. 20年以上～30年未満 |
| 7. 30年以上 | | |

問9 あなたのお住まいの中学校区をお答えください。（○は1つだけ）
わからない方は、町名を記入してください。

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. 安城南中学校区 | 2. 安城北中学校区 | 3. 明祥中学校区 |
| 4. 安城西中学校区 | 5. 桜井中学校区 | 6. 東山中学校区 |
| 7. 安祥中学校区 | 8. 篠目中学校区 | 9. わからない（町名： ） |

福祉に関する意識について

問10 現在のあなたと福祉との主な関わりは次のどれですか。（○は1つだけ）

- | | |
|--|-----------|
| 1. 福祉関係の事業所で仕事をしている | |
| 2. ボランティアまたはNPO（特定非営利活動法人）活動をしている | |
| 3. 地域で福祉活動をしている（町内会の役員や町内福祉委員会委員、子ども会等も含む） | |
| 4. 福祉サービスを利用している | |
| 5. 家族の介護等をしている | 6. 関わりはない |
| 7. その他（ ） | |

問11 あなたは福祉に関してどのような情報を知りたいですか。
（あてはまるものすべてに○・ない場合は8に○）

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 健康づくりについての情報 | 2. 子育てについての情報 |
| 3. 高齢者についてのサービス情報 | 4. 障害者（児）についてのサービス情報 |
| 5. ボランティアやNPOなどの市民活動、企業の社会貢献活動についての情報 | |
| 6. 生きがいづくり（講座、教室、サークル活動など）についての情報 | |
| 7. その他（ ） | |
| 8. 今は特にない | |

問12 あなたは、現在、福祉に関する情報（問11の選択肢参照）がどの程度入ってきているとお考えですか。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分入ってきている | 2. まあまあ入ってきている |
| 3. あまり入ってこない | 4. 全く入ってこない |
| 5. わからない | |

問13 あなたは、福祉に関する必要な情報（問11の選択肢参照）をどこから得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト | |
| 2. 社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト | |
| 3. 地区社会福祉協議会の広報紙 | 4. 市役所（支所）の窓口 |
| 5. 社会福祉協議会の窓口 | 6. 地域包括支援センター |
| 7. 福祉施設 | 8. 福祉サービス事業所 |
| 9. 町内会の回覧板 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 11. 新聞・雑誌 | 12. テレビ・ラジオ |
| 13. 友人や近所の方 | 14. インターネット（ネット検索情報） |
| 15. パソコンやスマホのメール | 16. SNS（フェイスブックやLINE など） |
| 17. その他（ | ） |
| 18. 特に福祉に関する情報を得ていない | |

問14 あなたにとって、福祉に関する情報（問11の選択肢参照）をより得やすくするためには、どの情報発信を充実してほしいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 市の広報紙「広報あんじょう」・ウェブサイト | |
| 2. 社会福祉協議会の広報紙「社協だより」・ウェブサイト | |
| 3. 地区社会福祉協議会の広報紙 | 4. 市役所（支所）の窓口 |
| 5. 社会福祉協議会の窓口 | 6. 地域包括支援センター |
| 7. 福祉施設 | 8. 福祉サービス事業所 |
| 9. 町内会の回覧板 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 11. 新聞・雑誌 | 12. テレビ・ラジオ |
| 13. 友人や近所の方 | 14. インターネット（ネット検索情報） |
| 15. パソコンやスマホのメール | 16. SNS（フェイスブックやLINE など） |
| 17. その他（ | ） |
| 18. 特に福祉に関する情報を得ていない | |

あなたの日常生活、将来の暮らしについて

問15 あなたは、地域での付き合い（近所づきあい）をどの程度していますか。

（○は1つだけ）

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. よく付き合っている | 2. ある程度付き合っている | 3. あまり付き合っていない |
| 4. 全く付き合っていない | 5. わからない | |

問16 地域での付き合い（近所づきあい）に満足していますか。（○は1つだけ）

- | | | | | |
|-------|---------|--------------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. どちらともいえない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|-------|---------|--------------|---------|-------|

問17 地域での付き合い（近所づきあい）は、どの程度が望ましいと思いますか。

（○は1つだけ）

- | |
|---|
| 1. 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う |
| 2. 気の合う住民の間で困ったときに助け合う |
| 3. 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する |
| 4. 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする |
| 5. 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす |
| 6. 地域での付き合いは必要ない |
| 7. その他（具体的に： _____） |
| 8. わからない |

問18 あなたは、近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることがありますか。

（○は1つだけ）

1. ある

2. ない

→ 【問19】へ

問18-1 問18で「1 ある」を選んだ人におたずねします。

①それは、どのような手伝いですか。（あてはまるものすべてに○・ない場合12に○）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 日頃の声かけ・見守り | 2. 話し相手 |
| 3. 買い物 | 4. ゴミ出しや掃除などの家事 |
| 5. 病院・学校などへの送り迎え | 6. 短時間の子どもの預かり |
| 7. 子育ての相談 | 8. 介護の相談 |
| 9. 関係機関の紹介（情報提供） | 10. 災害時などの緊急時の支援 |
| 11. その他（ _____ ） | |
| 12. 特にない | |

問19 近所の人とは、今後どの程度の付き合いをしていきたいと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. もっと付き合いを広げたい | 2. 今のままでよい |
| 3. できるなら付き合いは控えたい | |

問20 毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていますか。

(○は3つまで・ない場合は10に○)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 自分や家族の健康に関する事 | 2. 子育てに関する事 |
| 3. 介護に関する事 | 4. 自分や家族の仕事に関する事 |
| 5. お金(収入や家計)に関する事 | 6. 生きがいや将来に関する事 |
| 7. 近所付き合いに関する事 | 8. 災害に関する事 |
| 9. 地域の治安に関する事 | 10. 特にな |
| 11. その他() | |

問21 10年後のあなたご自身やあなたの家族の状況を考えた場合、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていると思われますか。

(○は3つまで・ない場合は10に○)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 自分や家族の健康に関する事 | 2. 子育てに関する事 |
| 3. 介護に関する事 | 4. 自分や家族の仕事に関する事 |
| 5. お金(収入や家計)に関する事 | 6. 生きがいや将来に関する事 |
| 7. 近所付き合いに関する事 | 8. 災害に関する事 |
| 9. 地域の治安に関する事 | 10. 特にな |
| 11. その他() | |

問22 毎日の暮らしの中で困ったり不安を感じたときに、家族や親族以外では、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○・不明の場合は14に○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 民生委員・児童委員 | 2. 町内会の役員 |
| 3. 近所の人 | 4. 知人・友人 |
| 5. 職場の同僚・上司 | 6. 行政(市役所など) |
| 7. 学校や保育所など | 8. 医療機関 |
| 9. 警察 | 10. 社会福祉協議会 |
| 11. 福祉サービス事業所 | 12. ボランティア・NPOなど |
| 13. その他() | |
| 14. どこに相談したらよいかわからない | |

問23 地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたにできることは何ですか。(○は3つまで・ない場合は12に○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 日頃の声かけ・見守り | 2. 話し相手 |
| 3. 買い物 | 4. ゴミ出しや掃除などの家事 |
| 5. 病院・学校などへの送り迎え | 6. 短時間の子どもの預かり |
| 7. 子育ての相談 | 8. 介護の相談 |
| 9. 関係機関の紹介(情報提供) | 10. 災害時などの緊急時の支援 |
| 11. その他() | |
| 12. 特にな | |

問24 あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、A欄に示したようなことを、地域の人たちに支援してほしいですか。

(○は3つまで・ない場合は12.に○)

また、A欄で○をつけた事項は、地域のどのような範囲で支援してもらうことがあなたにとって気兼ね等がないですか(B欄に回答)。

A欄: あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、地域の人たちに支援してほしい事項(○は3つまで)	※○をつけた項目については、B欄も回答	B欄: 地域のどのような範囲で支援してもらうことがあなたにとって気兼ね等がないか。(下の選択肢から1つ選んでその番号を記入)
1. 日頃の声かけ・見守り	⇒	
2. 話し相手	⇒	
3. 買い物	⇒	
4. ゴミ出しや掃除などの家事	⇒	
5. 病院・学校などへの送り迎え	⇒	
6. 短時間の子どもの預かり	⇒	
7. 子育ての相談	⇒	
8. 介護の相談	⇒	
9. 関係機関の紹介(情報提供)	⇒	
10. 災害時などの緊急時の支援	⇒	
11. その他()	⇒	
12. 特になし		



選択肢
1. 向こう三軒両隣の範囲
2. 町内会の班・組の範囲
3. 町内会の範囲
4. 地区社協(概ね中学校区)の範囲
5. 安城市域全体の範囲

問25 困ったときに頼りになる(悩みを相談したり助けてと言ったりできる)知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つ)

(1) お住まいの地域・ご近所

1. いる	2. まあいる	3. どちらとも言えない	4. あまりいない	5. いない
-------	---------	--------------	-----------	--------

(2) 市内

1. いる	2. まあいる	3. どちらとも言えない	4. あまりいない	5. いない
-------	---------	--------------	-----------	--------

(3) 市外

1. いる	2. まあいる	3. どちらとも言えない	4. あまりいない	5. いない
-------	---------	--------------	-----------	--------

地域活動、ボランティア活動について

問26 この1年間で、あなたは、防犯や防災、お祭りなど地域の行事等に参加しましたか。
(○は1つだけ)

1. ほとんど参加してきた 2. たまに参加してきた 3. あまり参加していない

4. 参加したことがない → 【問27】へ

問26-1 問26で「1 必ず参加する」「2 ほとんど参加する」「3 たまに参加する」のいずれかを選んだ人におたずねします。

●どの活動団体の行事などに参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 町内会 | 2. 町内福祉委員会 |
| 3. 子ども会 | 4. 学校・PTA |
| 5. 青年団 | 6. 消防団 |
| 7. 老人クラブ | 8. ボランティアグループ |
| 9. 地区社会福祉協議会・福祉センター | |
| 10. 公民館の行事 | 11. 福祉サービス事業所 |
| 12. JA、企業 | |
| 13. その他 () | |

問27 現在、あなたは、次の(ア)～(サ)のような地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に関わっていますか。また、今後関わっていきたいですか。(ア)～(サ)の項目それぞれについて、1～6の該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	選択肢 (※該当する1～6の番号に○印)					
	現在参加している		これまで参加したことがあるが、今はやめている		これまで参加したことはない。	
	今後もしも続けていきたい	今後はやめたい	今後また関わってみたい	今後もしも関わるつもりはない	今後には関わってみたい	今後もしも関わるつもりはない
(ア) 防火・防災	1	2	3	4	5	6
(イ) 防犯・交通安全	1	2	3	4	5	6
(ウ) 子育ての支援や子どもの見守り活動	1	2	3	4	5	6
(エ) 福祉施設・医療機関でのボランティア活動	1	2	3	4	5	6
(オ) 障害者の支援	1	2	3	4	5	6
(カ) 高齢者介護の支援(見守り・サロン活動等)	1	2	3	4	5	6
(キ) 家族介護をしている人への支援	1	2	3	4	5	6

	選択肢（※該当する1～6の番号に○印）					
	現在参加している		これまで参加したことがあるが、今はやめている		これまで参加したことはない。	
	今後も続けていきたい	今後はやめたい	今後また関わってみたい	今後もうまく関わることがない	今後は関わってみよう	今後もうまく関わることがない
(ク)健康づくり	1	2	3	4	5	6
(ケ)生活困窮者に関する活動	1	2	3	4	5	6
(コ)子どもの貧困に関する活動	1	2	3	4	5	6
(サ)若者のひきこもりの問題	1	2	3	4	5	6

問27-1 （問27の（ア）～（サ）において2、4、6のいずれかを1つでも○をつけた方のみご回答ください）

●今後どのような条件が整えば、町内会等による地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動に参加したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. 時間にゆとりがあること | 2. 収入・家計にゆとりがあること |
| 3. 家族の理解があること | 4. 自分が健康であること |
| 5. 共に活動する仲間や友人がいること | 6. 生きがいや充実感が得られること |
| 7. 趣味や特技が生かされること | 8. 誰にでも簡単にできること |
| 9. 家の近くでできること | 10. わずかな時間（2～3時間）でできること |
| 11. 活動に必要なお金の支援があること（例えば活動グループに対する助成金など） | |
| 12. ボランティア講座など、知識や技術を学べる機会や体験の機会があること | |
| 13. 活動に必要なきっかけや情報が得られること | |
| 14. その他（ ） | |

問28 今後のあなたの暮らしや今後予想される地域社会の状況を踏まえると、今後、どのような地域の福祉活動（町内会等の地域福祉活動やボランティア・NPO等の活動）を充実していくべきと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 防火・防災 | 2. 防犯・交通安全 |
| 3. 子育ての支援や子どもの見守り活動 | |
| 4. 福祉施設・医療機関でのボランティア活動 | 5. 障害者の支援 |
| 6. 高齢者介護の支援（見守り・サロン活動等） | 7. 家族介護をしている人への支援 |
| 8. 健康づくり | |
| 9. 生活困窮者に関する活動 | 10. 子どもの貧困に関する活動 |
| 11. 若者のひきこもりの問題 | 12. わからない |
| 13. その他（具体的に ） | |

問29 あなたが地域で福祉活動をする場合、どれくらいの対価が得られれば活動したいと思いますか。（○は1つだけ）

- | |
|--|
| 1. 生活ができるくらいの十分な報酬が得られれば活動する |
| 2. 最低賃金程度（愛知県の場合、時間額 871 円）の報酬が得られれば活動する |
| 3. ワンコイン（500円）程度の報酬が得られれば活動する |
| 4. 野菜やおすそ分け程度の“気持ち”があれば活動する |
| 5. 特に対価は求めない |

問30 あなたが地域での福祉活動を依頼する場合、どれくらいの対価であれば依頼したいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 活動者が生活できるくらいの十分な対価を支払ってでも依頼する。
2. 最低賃金程度(愛知県の場合、時間額 871 円)であれば支払って依頼する
3. ワンコイン(500円)程度であれば支払って依頼する
4. 野菜やおすそ分け程度であれば依頼する
5. 対価の支払いがあるのであれば依頼しない

問31 あなたは、定年退職後などの高齢期を主にどのように過ごしたいとお考えですか。(○は3つまで) ※既に高齢期を迎えておられる方もご回答ください。

1. 経済的に自立するために、現役同様に働きたい
2. 収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい
3. 趣味や余暇を楽しみたい
4. 知識や教養を高め自分自身の向上に努めたい
5. 地域に貢献できるようなボランティア活動などをしたい
6. 特に何もしないでのんびりと過ごしたい
7. その他()
8. わからない

町内福祉委員会について

◆町内福祉委員会◆

安城市では、町内会を単位として町内福祉委員会という組織が立ち上げられ、住民の皆さんによる福祉活動が進められています。

(活動例)

- ・ふれあいいきいきサロン、世代間交流事業の実施
- ・福祉だよりの発行
- ・要援護者への支援
- ・福祉や介護などに関する勉強会などの開催
- ・見守り活動

など

問32 町内福祉委員会についてどの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

1. 町内福祉委員会の活動内容を知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない
3. 町内福祉委員会について知らない

問 32-1 問 32 で「1 町内福祉委員会の活動内容を知っている」を選んだ人におたずねします。

①町内福祉委員会の活動についてどのくらいかかわっていますか。(○は1つだけ)

1. 積極的に活動している
2. 依頼があれば活動している
3. 行事などには参加している
4. ほとんどかかわっていない

問33 今後、町内福祉委員会による活動に参加する機会があれば、参加したいと思いますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 参加したい | 2. できれば参加したい |
| 3. 参加したくない | 4. わからない |

問 33-1 問 33 で「3 参加したくない」を選んだ人におたずねします。

①参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 興味や関心がないから | 2. 機会がないから |
| 3. 自分の生活で精一杯だから | 4. 仕事が忙しくて余裕がないから |
| 5. やりたい活動がないから | 6. 自分の趣味や余暇活動を優先したいから |
| 7. 現在の活動内容に不満だから | 8. 活動の内容や方法がわからないから |
| 9. その他 () | |

社会福祉協議会、地区社会福祉協議会（地区社協）について

問34 安城市社会福祉協議会をご存知ですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. どんな活動をしているか大体知っている |
| 2. どんな活動をしているか少し知っている |
| 3. 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない |
| 4. まったく知らない |

◆社会福祉協議会とは◆

社会福祉法に基づいて地域福祉推進の中核としての役割を担う民間の団体です。

各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、さまざまな場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。

問35 市内8中学校区ごとに、地区社会福祉協議会（地区社協）が地域福祉の推進組織としてありますが、どの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. どんな活動をしているか大体知っている |
| 2. どんな活動をしているか少し知っている |
| 3. 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない |
| 4. まったく知らない |

◆地区社会福祉協議会とは◆

地域住民の福祉活動への参加や福祉のまちづくりを進めるため、安城市においては、概ね中学校区を単位として設立されています。事務局を福祉センターや公民館に置き、地域の福祉活動にかかわる方々を構成員として、町内福祉委員会の活動の支援をはじめ、地区内における福祉に関する事業や講座、相談などを行っています。

問36 市内8中学校区ごとに、地域包括支援センターが高齢者介護の相談機関としてありますが、どの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)

1. どんな活動をしているか大体知っている
2. どんな活動をしているか少し知っている
3. 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない
4. まったく知らない

◆地域包括支援センターとは

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を送るために、介護サービスをはじめ、福祉、医療、権利擁護などさまざまなサービスを、包括的・継続的に提供していく高齢者の生活を支える総合機関です。

今後の行政等による地域福祉施策について

問37 今後、市は、以下のどの地域福祉関連施策を優先して充実すべきだと思いますか。(○は2つまで)

1. 地域活動やNPO・ボランティアなどの参加促進や活動支援
2. 身近なところでの相談窓口の充実
3. 高齢や障害によって介護が必要になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実
4. 保健福祉に関する情報提供や制度案内の充実
5. 健康増進・維持のための相談や訪問指導などサービスの充実
6. 健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実
7. サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取組み
8. 福祉教育の充実
9. 高齢者、障害者の入所施設の充実
10. 保育や居場所づくりなど、子育てに関するサービスや活動の充実
11. 児童福祉施設の充実
12. 低所得者の自立支援
13. 災害時における避難行動要支援者に関わる施策の充実
14. その他()
15. わからない
16. 特に優先して充実すべき施策はない

問38 今後、地域福祉活動を進めていくためのご意見やご要望などがありましたら、自由にお書きください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。